

SUBARU®

V-KS3

V-KS4

V-KV3

V-KV4

**SAMBAR
660**

整備解説書

株式会社 SUBARU

本資料は、2017 年 4 月以降に印刷したものです。

'91. 9

G7281A

SAMBAR

まえがき

本書は、'91年9月のサンバー660の新発売に際し、既販車との相違点に関する整備要領を説明したものです。下記資料と併せて、ご熟読のうえ車両の正確・迅速な整備を実施するための資料としてご活用ください。

本書の他に次の資料を発行しておりますので、併せてご活用くださるようお願い致します。

SAMBAR	新型車解説書	'91-9	U7281A
SAMBAR	電子制御装置		
	トラブルシューティング マニュアル	'91-9	P7281A
SAMBAR	電気配線図集	'91-9	X7281A

なお、本書の内容は1991年9月発売の車両を基に作成してあります。車両の仕様変更等により今後の車両と内容が一致しないことがありますので、あらかじめご承知おきください。今後、仕様変更などあった場合には、テクニカルインフォメーションその他でご連絡いたします。

1991年9月

富士重工業株式会社

目次

総説

1

エンジン

2

動力伝達システム

3

シャシ

4

ボデー

5

空調システム

6

エレクトリカル

7

巻末資料

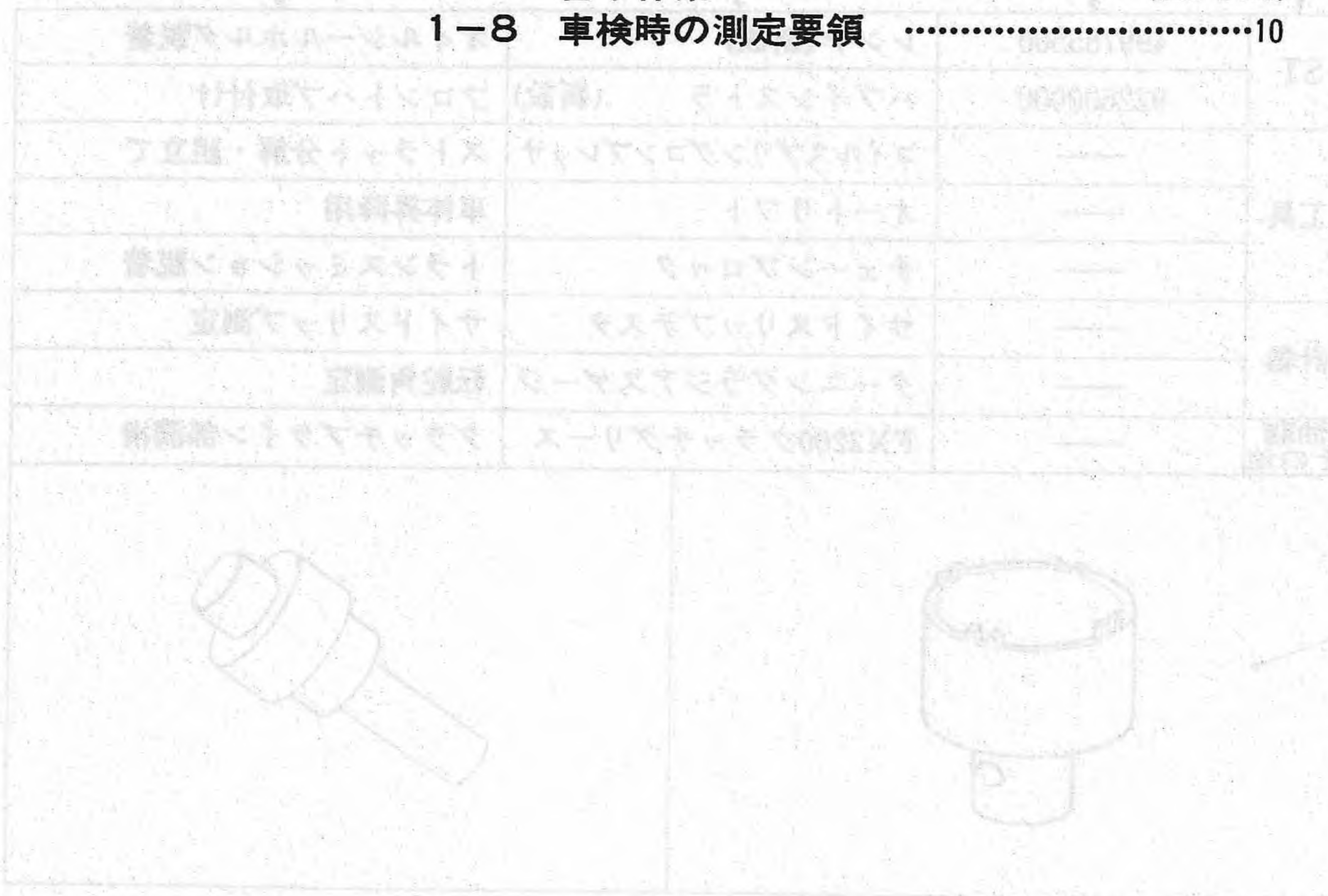
新設特殊工具一覧表
点検整備方式
サービスデータ、給油脂

8

1 総説

1

1-1	本書の見方	2
1-2	車両形式一覧	
	■ 車両型式一覧表	新解参照
	■ 車両型式記号の説明	新解参照
1-3	エンジン・トランスミッション	
	型式一覧	5
	■ エンジン・トランスミッション	
	型式一覧表	5
	■ エンジン型式記号の説明	8
	■ トランスミッション型式記号の説明	8
1-4	各種打刻番号の位置	
	■ 打刻番号の位置	9
	■ 打刻開始No.	9
1-5	リフト& ジャッキアップポイント	
	■ ガレージジャッキ	(注1 P.12)
	■ リジトラック&リフトアップ	(注1 P.13)
1-6	けん引&タイダウン	
	■ けん引&ダイタウンフック	(注1 P.14)
	■ けん引方法	(注1 P.14)
1-7	基本作業	(注1 P.15)
1-8	車検時の測定要領	10



整備作業の説明範囲

整備作業は大別すると「診断」、「修理」、「完成検査」の3工程に区分することができます。「診断」は故障原因を究明するためのトラブルシューティングの要領を、「修理」は脱着、交換、分解、組立て、点検、調整等の作業要領を説明してあります。「完成検査」は納車に当っての機能、作動、建付け、外観塗装等、車としての総合チェックですが、本書では省略してあります。また、ECUを備えた電子制御装置(EMPI、電磁クラッチ、シフトロックシステム)のトラブルシューティングは、別冊の「電子制御装置トラブルシューティングマニュアル」にまとめてありますので、本書では省略してあります。

ECU：エレクトロニック コントロール ユニット

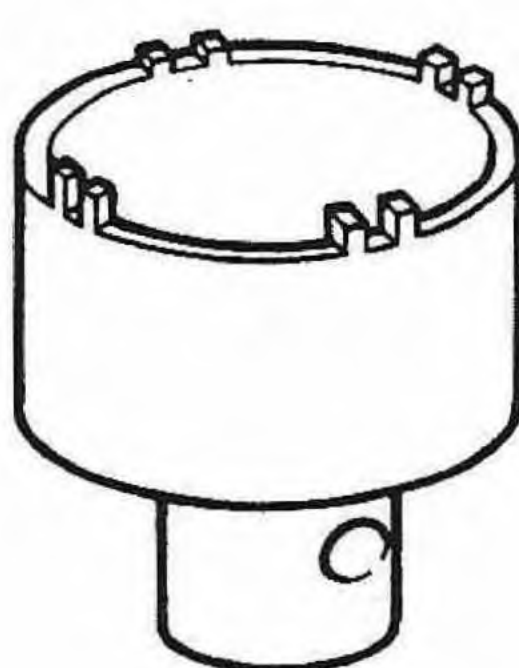
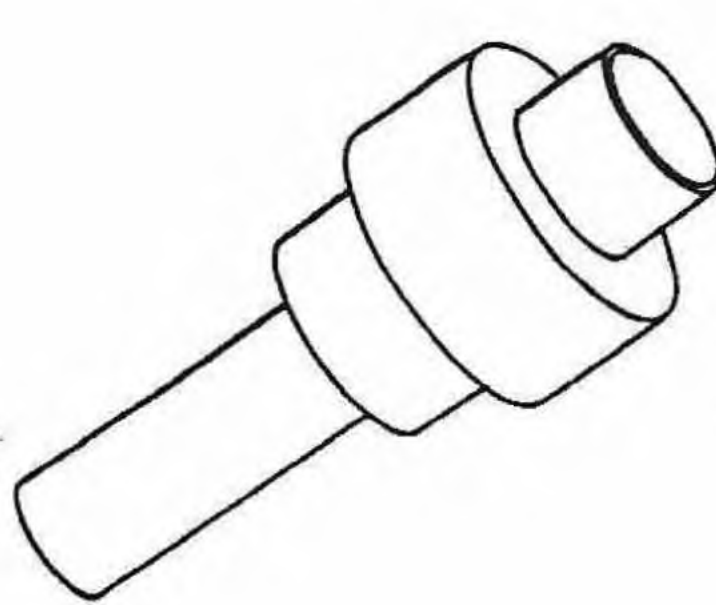
説明内容の見方

各編の細目次は、編毎にまとめてあるので、該当箇所はそれぞれの編別目次によって検索してください。整備要領の説明は各章別に、基本的には「準備品」→「仕様」→「部品配置図」→「構成部品」→「トラブルシューティング」→「整備要領」の順で記載してありますが、章によって必要のない項目の場合は省略してあります。

■ 準備品

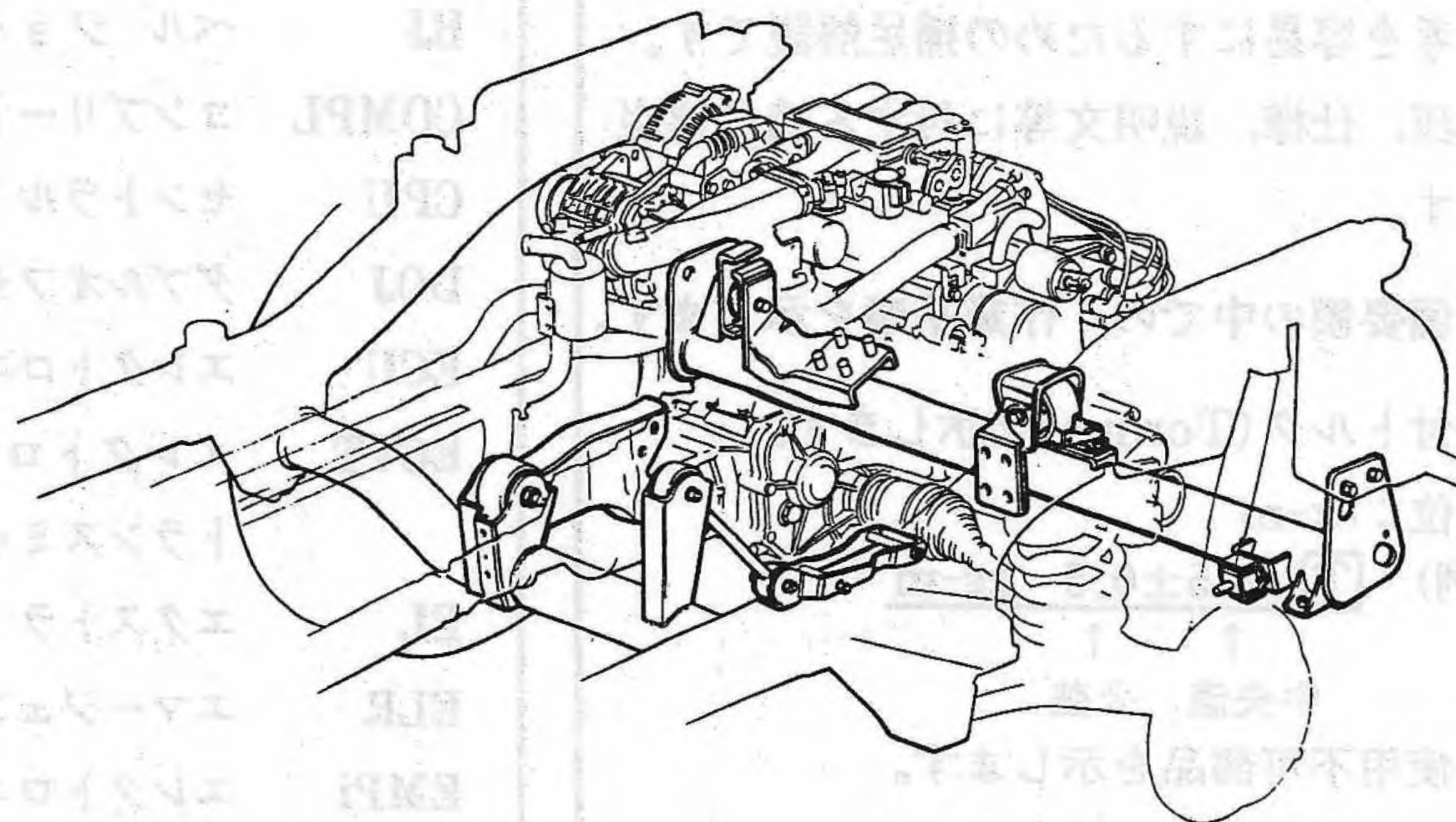
作業前に準備しておくべき専用特殊工具、市販の汎用特殊工具、計器および油脂類などについて表にまとめ、夫々の用途を簡単に説明してあります。ただし、ジャッキ、リジッドラックなど一般整備工場に常備されていると思われる準備品については省略してあります。

〈記載例〉

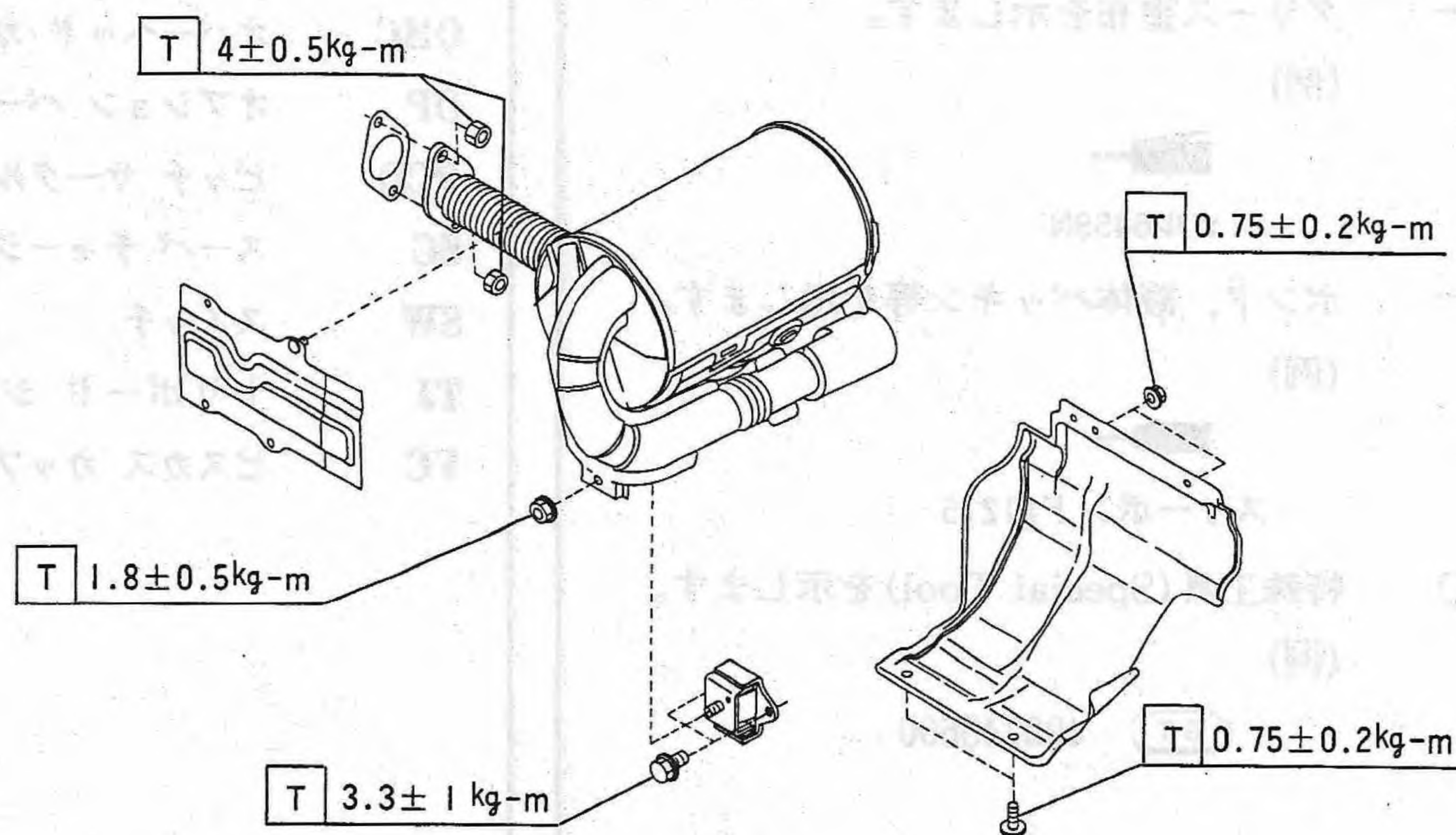
	区分	工具品番または形式	名称	用途
専用特殊工具 (Special Tool)	ST	499785500	レンチ(新設)	オイルシールホルダ脱着
		922600000	ハブインストラ (新設)	フロントハブ取付け
市販の 汎用特殊工具	工具	—	コイルスプリングコンプレッサ	ストラット分解・組立て
		—	オートリフト	車体昇降用
		—	チェーンブロック	トランスミッション脱着
計器	計器	—	サイドスリップテスト	サイドスリップ測定
		—	ターニングラジアスゲージ	転舵角測定
油脂 その他	油脂 その他	—	FX2200クラッチグリース	クラッチプライン部潤滑
サンバー用として新製した専用特殊工具のみ形状を図示してあります。				
				

説明内容の見方

- **仕様** そのシステムの主な仕様，諸元を記載してあります。
- **部品配置図** そのシステムの構成部品の取付位置，状態，部品名称がわかるようにしたものです。
 <記載例>



- **構成部品** そのシステムの部品構成，部品名称，締付トルク，ボルト・ナットサイズ，油脂類，再使用不可部品，整備基準値等を記載してあります。
 <記載例>



- **トラブルシューティング** そのシステムの故障原因を究明するための手順，方法を表またはトラブルチャートで記載してあります。
- **整備要領** 各装置または部品について，基本的には **取外し** → **分解** → **点検** → **組立て** → **取付け** → **調整** の順序に記載してあります。ただし，簡単な装置，部品については，**脱着**，**分解・点検** 等にまとめて記載してあります。また，構成部品の図示だけでわかるような場合は，**整備要領**の項を省略してあります。

用語・シンボルマークの定義

基準値 点検、調整時の許容範囲を表す値または作動状態の判定を示します。

注意 重要作業や危険作業の注意事項を示します。

参考 参考を容易にするための補足解説です。

注記 用語、仕様、説明文等に対する補足解説です。

(1), (2), (3)... 整備要領の中での、作業手順を示します。

①, ②, ③...

T 締付トルク (Torque) を示します。

単位: kg-m

(例) **T** 2.5±0.5 kg-m

↑ ↑
中央値 公差



再使用不可部品を示します。

オイル注入、塗布を示します。

(例)



ECVT



パワステ



ブレーキ



グリース塗布を示します。

(例)



シエル6459N

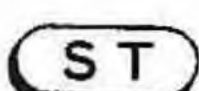


ボンド、液体パッキン等を示します。

(例)



スリーボンド#1215



特殊工具 (Special Tool) を示します。

(例)

ST 498745600

略語説明

A/C エアコンディショナ

ASSY アッセンブリ

ATF オートマチック トランスミッション フルード

BATT バッテリ

BJ ベル ジョイント

COMPL コンプリート

CPU セントラル プロセシング ユニット

DOJ ダブルオフセットジョイント

ECU エレクトロニック コントロール ユニット

ECVT エレクトロ コンティニアスリィ バイアブル
トランスミッション

EL エクストラ ロー

ELR エマージェンシ ロッキング リトラクタ

EMPi エレクトロニック マルチポイント インジェク
ション

IG イグニッション

ISC アイドルスピードコントロール

MT マニュアルトランスミッション

NA ナチュラル アスピレーション (自然吸気)

OHC オーバーヘッド カムシャフト

OP オプション パーツ

PCD ピッチ サークル ダイアメータ (直径)

SC スーパ チャージャ

SW スイッチ

TJ トリポード ジョイント

VC ビスカス カップリング

■ エンジン・トランスミッション型式一覧表

項 目 車 種				車両型式記号	エンジン型式	トランス ミッション型式	駆動方式	備 考 F/Tはフルタイム4WD
ト ラ ッ ク	標 準 ル ー ル	一方開	STD	V-KS3B11M	EN07CVN2AO	TM601AC1AA	5MT 2WD	
		三方開	STD	" 31M	" VN2AO	"	"	
		"	SDX	" 32M	" VN2AO VN2AA	"	"	
		"	スーパ カスタム	" 33M	" VN2AB	"	"	
		"	営農	" 3AM	" VN2BO	"	"	
		"	営農スーパ カスタム	" 3MM	" VN2BB	"	"	
		"	SDX	" 32K	EN07YVN2AO	TM601AB1AA	"	SC-EMPi
		"	SC	" 32L	" VD2AO	TB401NB3AA	ECVT 2WD	"
		"	STD	V-KS4B31N	EN07CVU2AO	TW601BA2AA	EL+5MT 5WD	
		"	SDX	" 32N	" VU2AO	TW601BA2AA BA2BA	EL+5MT 4WD	TW601BA2CA " BA2DA も有り
		"	スーパ カスタム	" 33P	" VV2AB	TY601CA1AA	EL+5MT F/T4WD	
		"	営農	" 3AN	" VU2BO VU2BA	TW601BA2AA BA2BA	EL+5MT 4WD	TW601BA2CA " BA2DA も有り
	フ	"	営農スーパ カスタム	" 3MP	" VV2BB	TY601CA1AA	EL+5MT F/T4WD	
		"	SDX SC	" 32J	EN07YVU2AO	TW601BB2AA BB2BA	EL+5MT 4WD	TW601BB2CA も有り SC・EMPi
		"	営農SC	" 3AS	" VD2BO	TT401PB3AA	ECVT F/T4WD	SC・EMPi
	ハ イ ル ー フ	三方開	SDX	V-KS3J32M	EN07CVN2AO	TM601AC1AA	5MT 2WD	
		"	赤帽	" 3GM	" VN2OO VN2OB	"	"	
		"	赤帽	" 3GK	EN07YVN2OO	TM601AB1AA	"	
		"	SC	" 3GL	" VD2OO	TB401NB3AA	ECVT 2WD	
		"	SDX	V-KS4J32N	EN07CVU2AO	TW601BA2AA BA2BA	EL+5MT 4WD	TW601BA2CA も 有り
		"	赤帽	" 3GN	" VU2OO	TW601BA2AA	"	
パ ネ ル バ ン	ハ イ ル ー フ 両 側 開	STD	V-KV3J81M	" VN2AO	TM601AC1AA	5MT 2WD		
		郵政	" 8CM	" VN2AO	"	"	"	
		赤帽	" 8GM	" VN2OO VN2OB	"	"	"	

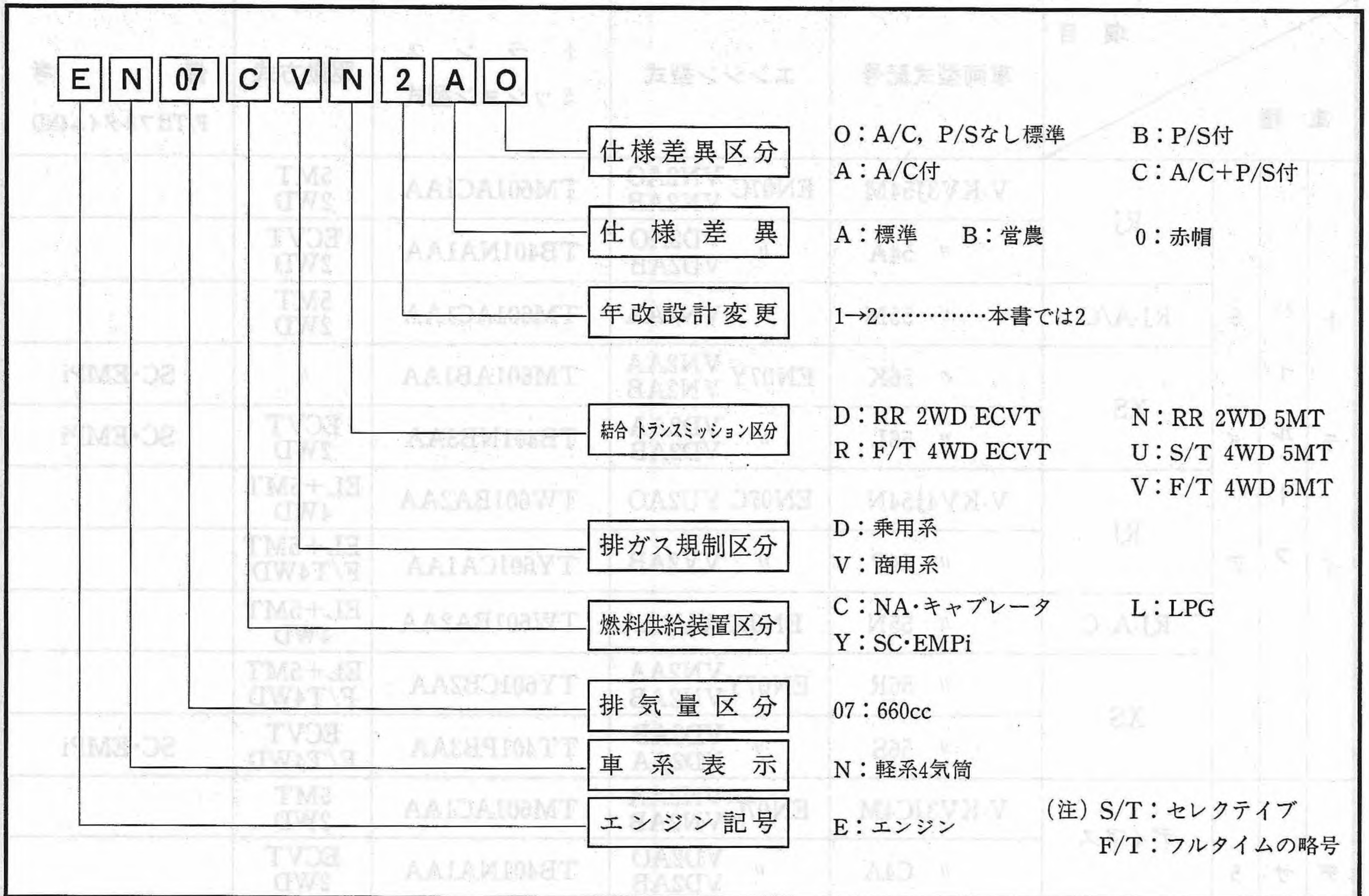
エンジン・トランスミッション型式一覧

車 種			項 目	車両型式記号	エンジン型式	ト ラ ン ス ミッション型式	駆動方式	備 考 F/Tはフルタイム4WD
パ ネ ル バ ン ハイルーフ両側開			STD	V-KV4J8IN	EN07CVU2AO	TW601BA2AA	EL+5MT 4WD	
			郵政	" 8CN	" VU2AO	"	"	
			赤帽	" 8GN	" VU200	"	"	
2 シ ー タ バ ン	標準 ルーフ	2シート	STD	V-KV3B5JM	" VN2AO	TM601AC1AA	5MT 2WD	
			郵政	" 5KM	" VN2AO	"	"	
			郵政	V-KV4B5KN	" VU2AO	TW601BA2AA	EL-5MT 4WD	
	ハイルーフ		STD	V-KV3J5JM	" VN2AO	TM601AC1AA	5MT 2WD	
			赤帽	" 5LM	" VN200	"	"	
			郵政	" 5KM	" VN2AO	"	"	
			赤帽	V-KV4J5LN	" VU200	TW601BA2AA	EL+5MT 4WD	
			郵政	" 5KN	" VU2AO	"	"	
4 シ ー タ バ ン	標準 ルーフ	4シート	STD	V-KV3B51M	" VN2AO VN2AA	TM601AC1AA	5MT 2WD	
			SDX	" 52M	" VN2AO	"	"	
			NTT	" 5BM	" VN2AO VN2AA	"	"	
			STD	V-KV4B51N	" VU2AO VU2AA	TW601BA2AA	EL+5MT 4WD	
			NTT	" 5BN	" VU2AO	"	"	
	ハ イ ル ー フ		SDX	V-KV3J52M	" VN2AO VN2AA	TM601AC1AA	5MT 2WD	
				" 52A	" VD2AO	TB401NA1AA	ECVT 2WD	
			SDX SC	" 52K	EN07YVN2AO	TM601AB1AA	5MT 2WD	SC・EMPi
				" 52L	" VD2AO	TB401NB3AA	ECVT 2WD	SC・EMPi
			SDX	V-KV4J52N	EN07CVU2AO VU2AA	TW601BA2AA	EL+5MT 4WD	
			SDX SC	" 52J	EN07YVU2AO	TW601BB2AA	EL+5MT 4WD	SC・EMPi
				" 52S	" VD2AO	TT401PB3AA	ECVT F/T4WD	SC・EMPi
			ハイ カスタム	" 53N	EN07CVU2AO	TW601BA2AA	EL+5MT 4WD	

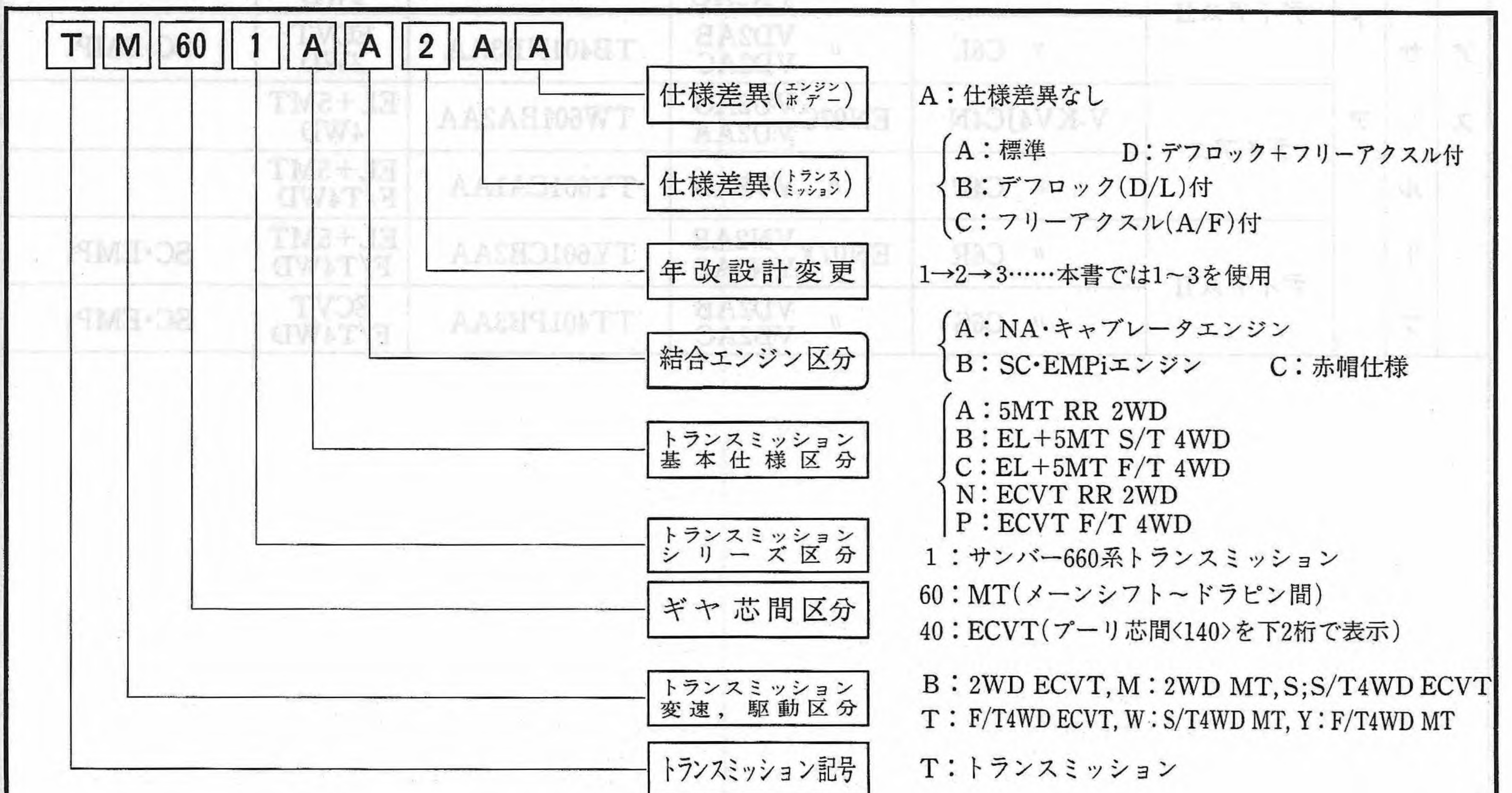
エンジン・トランスミッション型式一覧

車 種				項 目	車両型式記号	エンジン型式	ト ラ ン ス ミッション型式	駆動方式	備 考 F/Tはフルタイム4ND
ト ラ イ フ イ	ハ イ ル ド ー ア	5	RJ	V-KV3J54M	EN07C VN2AO VN2AB	TM601AC1AA	5MT 2WD		
				" 54A	" VD2AO VD2AB	TB401NA1AA	ECVT 2WD		
			RJ-A/C	" 55M	" VN2AA	TM601AC1AA	5MT 2WD		
			XS	" 56K	EN07Y VN2AA VN2AB	TM601AB1AA	"	SC・EMPi	
				" 56L	" VD2AA VD2AB	TB401NB3AA	ECVT 2WD	SC・EMPi	
			RJ	V-KV4J54N	EN07C VU2AO	TW601BA2AA	EL+5MT 4WD		
				" 54P	" VV2AB	TY601CA1AA	EL+5MT F/T4WD		
			RJ-A/C	" 55N	EN07C VU2AA	TW601BA2AA	EL+5MT 4WD		
			XS	" 56R	EN07Y VN2AA VN2AB	TY601CB2AA	EL+5MT F/T4WD		
				" 56S	" VD2AB VD2AA	TT401PB3AA	ECVT F/T4WD	SC・EMPi	
デ イ ア ス ン ル ー フ	サ イ ン ド ー ア	5	ディアス	V-KV3JC4M	EN07C VN2AA VN2AB	TM601AC1AA	5MT 2WD		
				" C4A	" VD2AO VD2AB	TB401NA1AA	ECVT 2WD		
			ディアスII	" C6K	EN07Y VN2AB VN2AC	TM601AB1AA	5MT 2WD	SC・EMPi	
				" C6L	" VD2AB VD2AC	TB401NB3AA	ECVT 2WD	SC・EMPi	
			ディアス	V-KV4JC4N	EN07C VU2AO VU2AA	TW601BA2AA	EL+5MT 4WD		
				" C4P	" VV2AB	TY601CA1AA	EL+5MT F/T4WD		
			ディアスII	" C6R	EN07Y VN2AB VN2AC	TY601CB2AA	EL+5MT F/T4WD	SC・EMPi	
				" C6S	" VD2AB VD2AC	TT401PB3AA	ECVT F/T4WD	SC・EMPi	

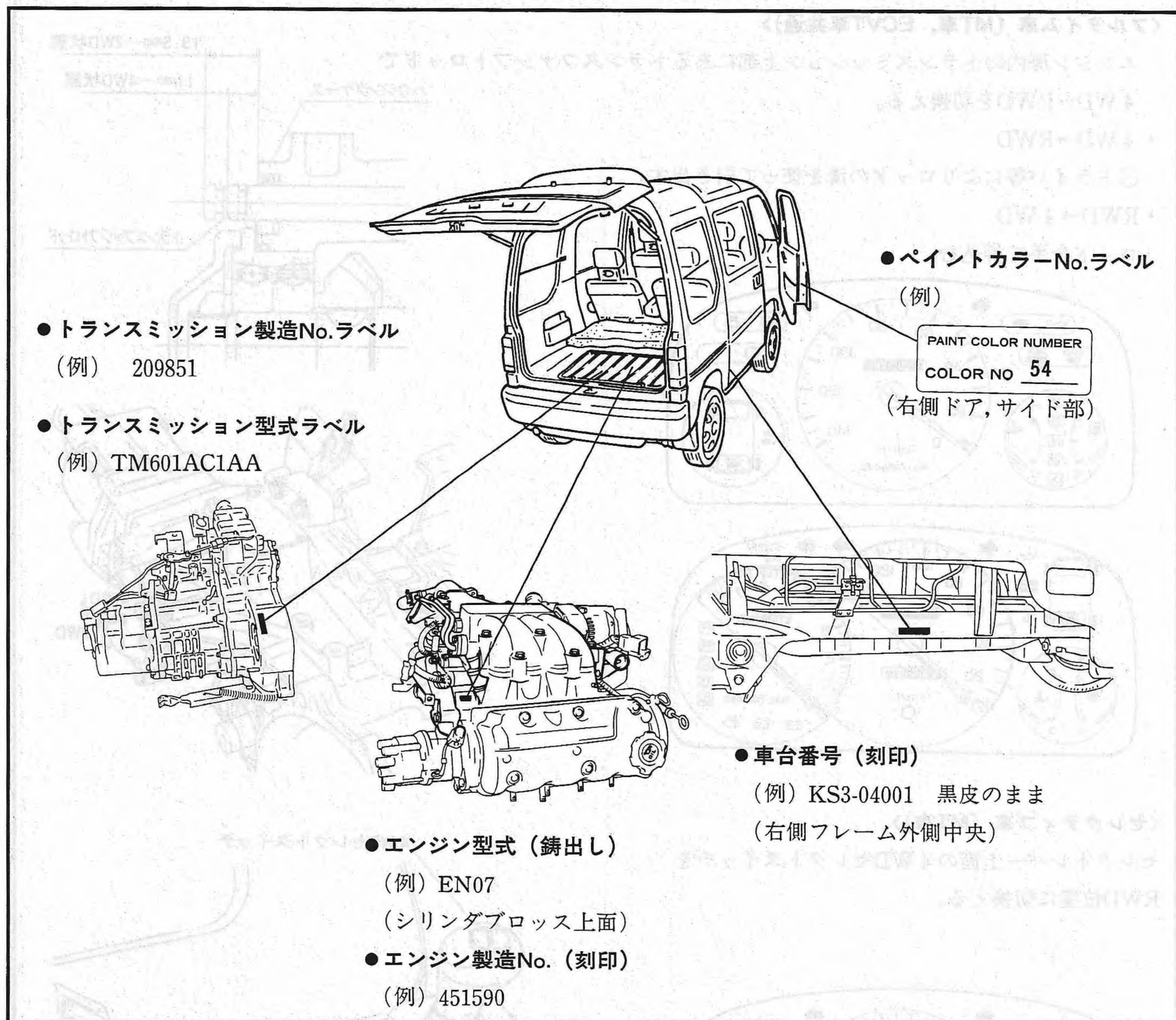
■ エンジン型式記号の説明



■ トランスミッション型式記号の説明



■ 打刻番号の位置



■ 打刻開始NO.

〈 車 両 〉

KS 3 040001
KS 4 078001
KV3 056001
KV4 051001

〈 エンジン 〉

EN07 451590
〈注記〉
EN07C(キャブ), EN07Y
(スーパチャージャ)の区
分なく混合連番で採番し
ている。

〈 トランスミッション 〉

TM60 209851～
TW60 209144～
TY 60 209795～
TB 40 291131～
TT 40 291457～

(注記) マニュアルトランスミッションは, TM60, TW60
TY60は, 混合連番, ECVT系は, TB40, TT40を
混合連番で採番している。

4WD回路のしや断

＜フルタイム車 (MT車, ECVT車共通)＞

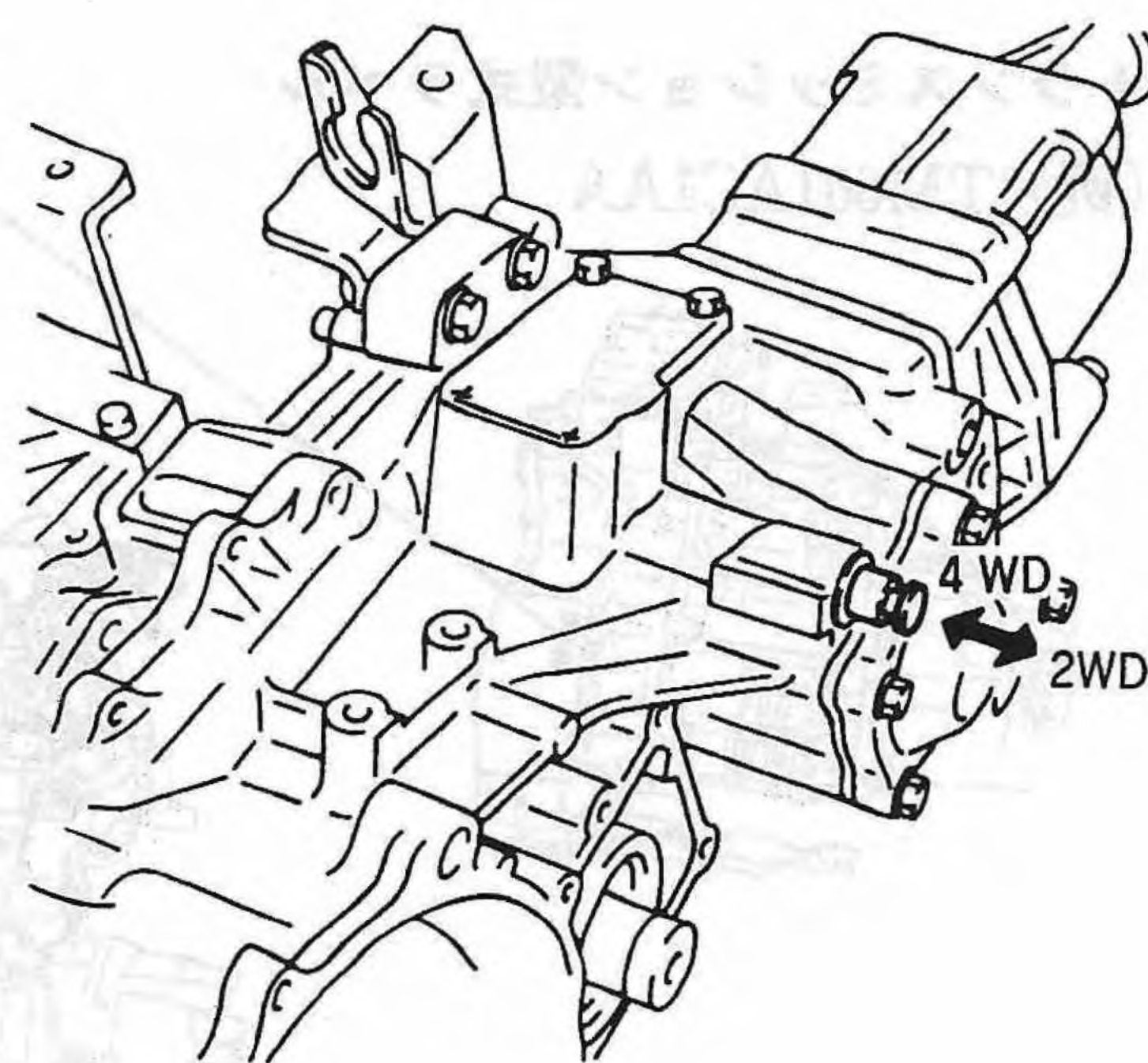
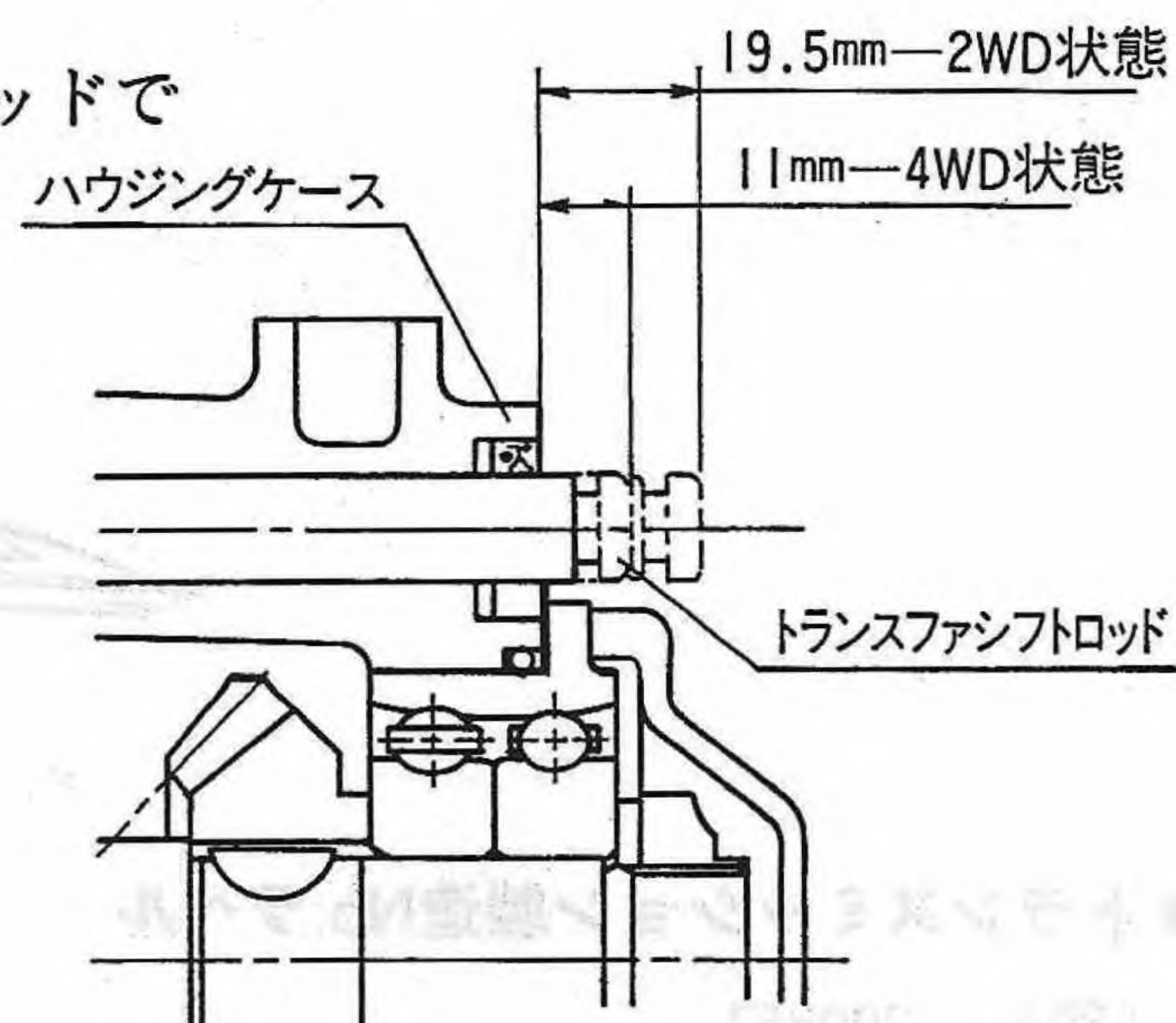
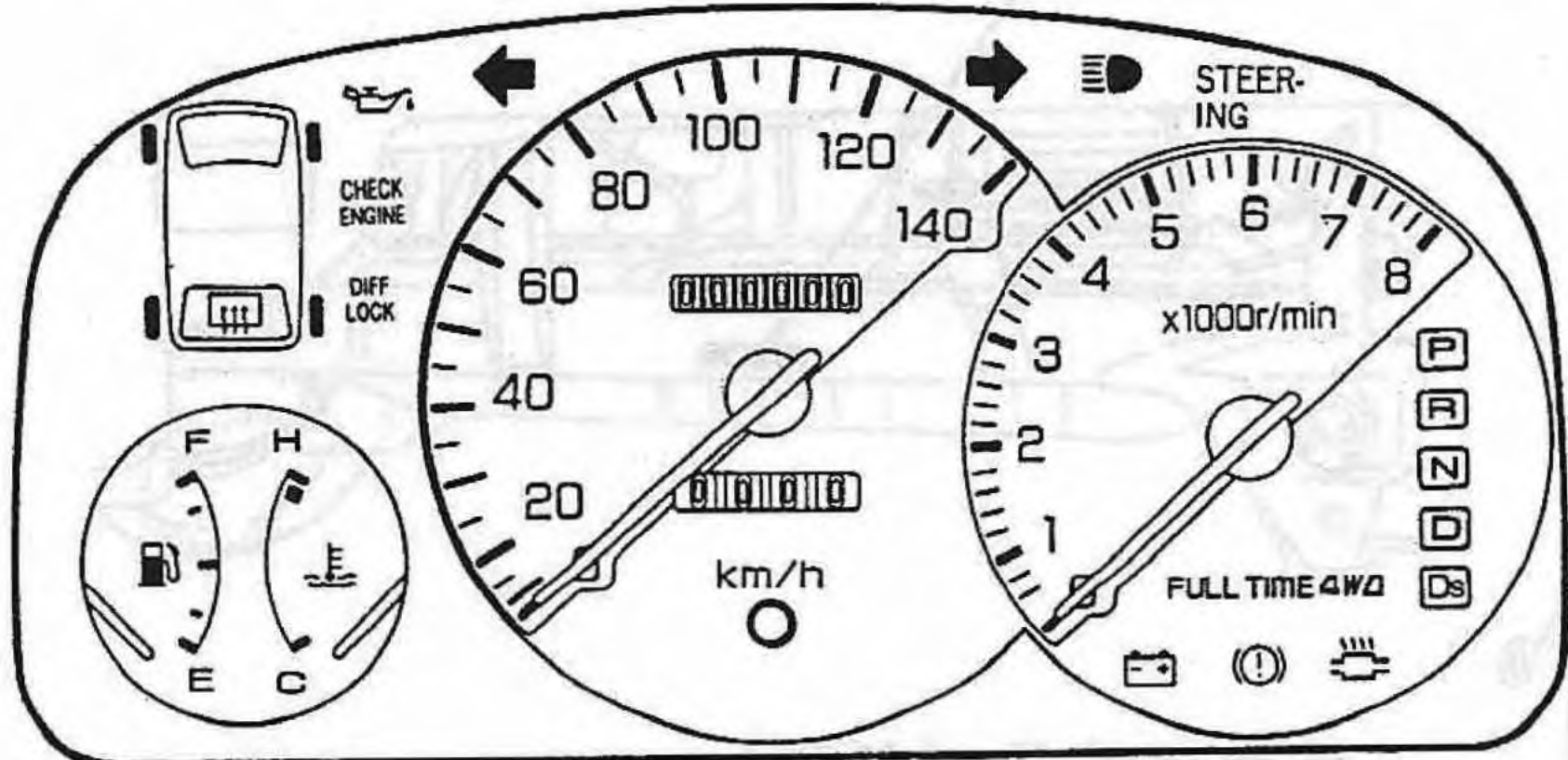
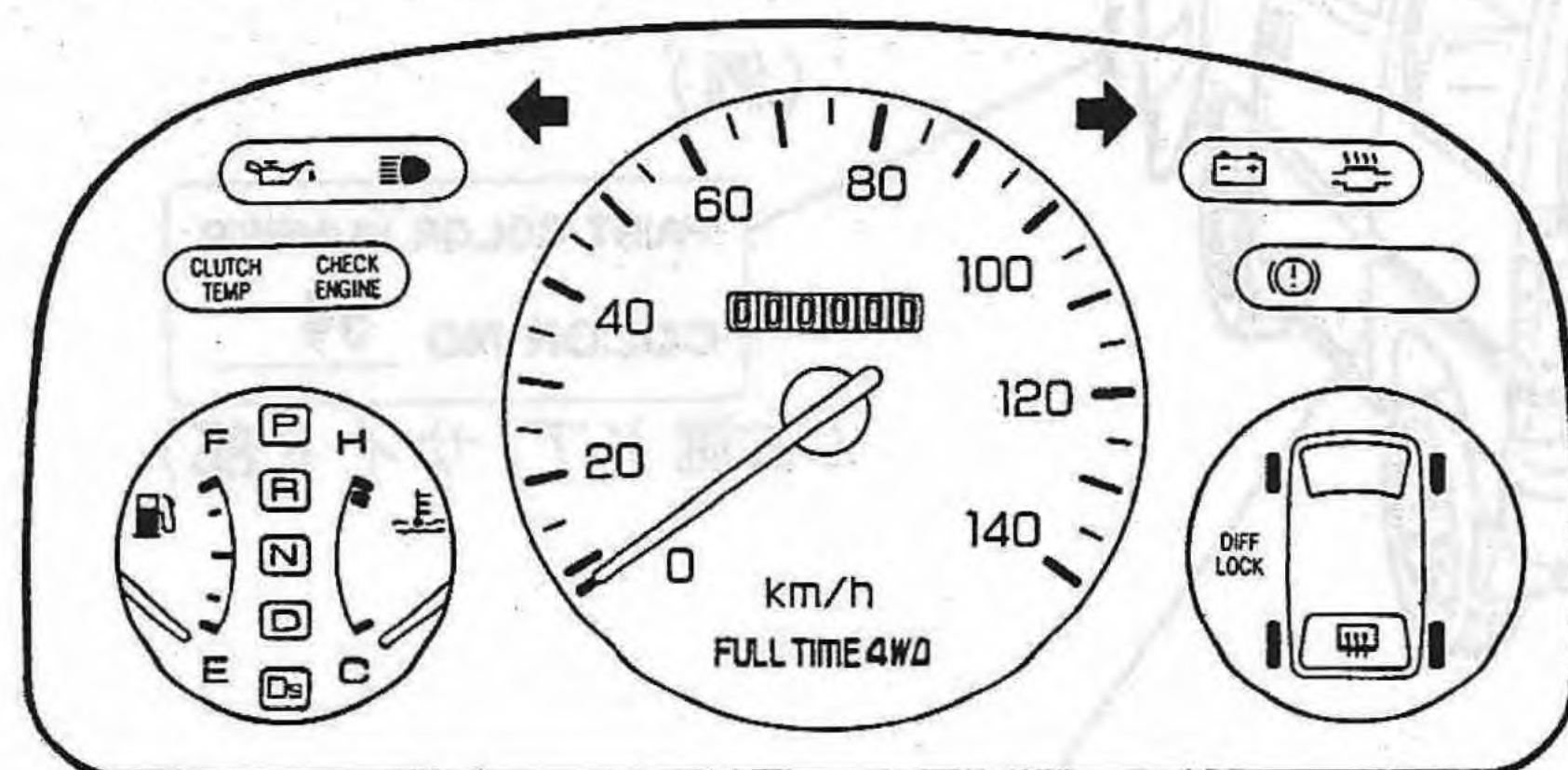
エンジン房内のトランスミッション上部にあるトランスファシフトロッドで
4WD→RWDを切替える。

・4WD→RWD

⊖ドライバー等によりロッドの溝を使って引き出す。

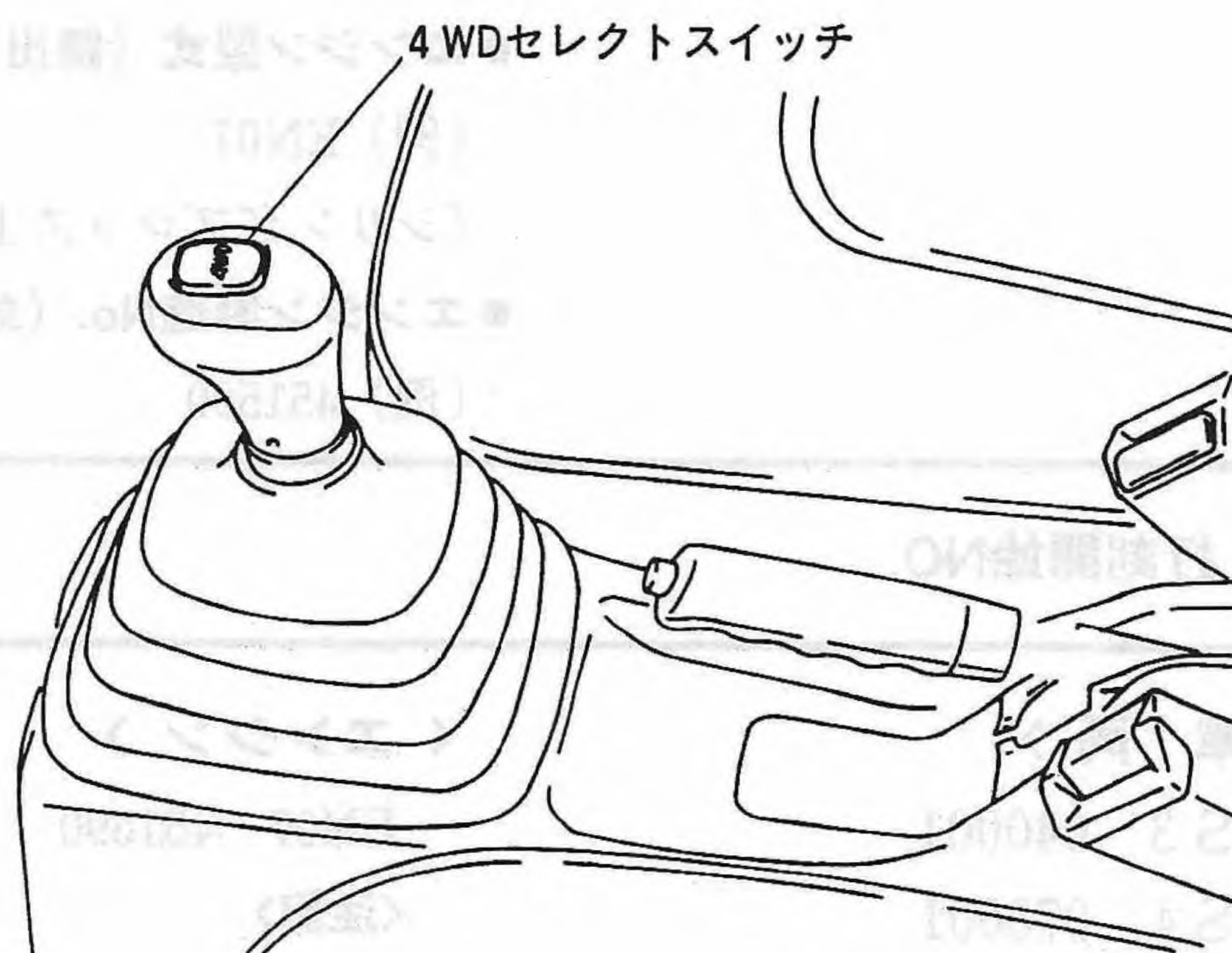
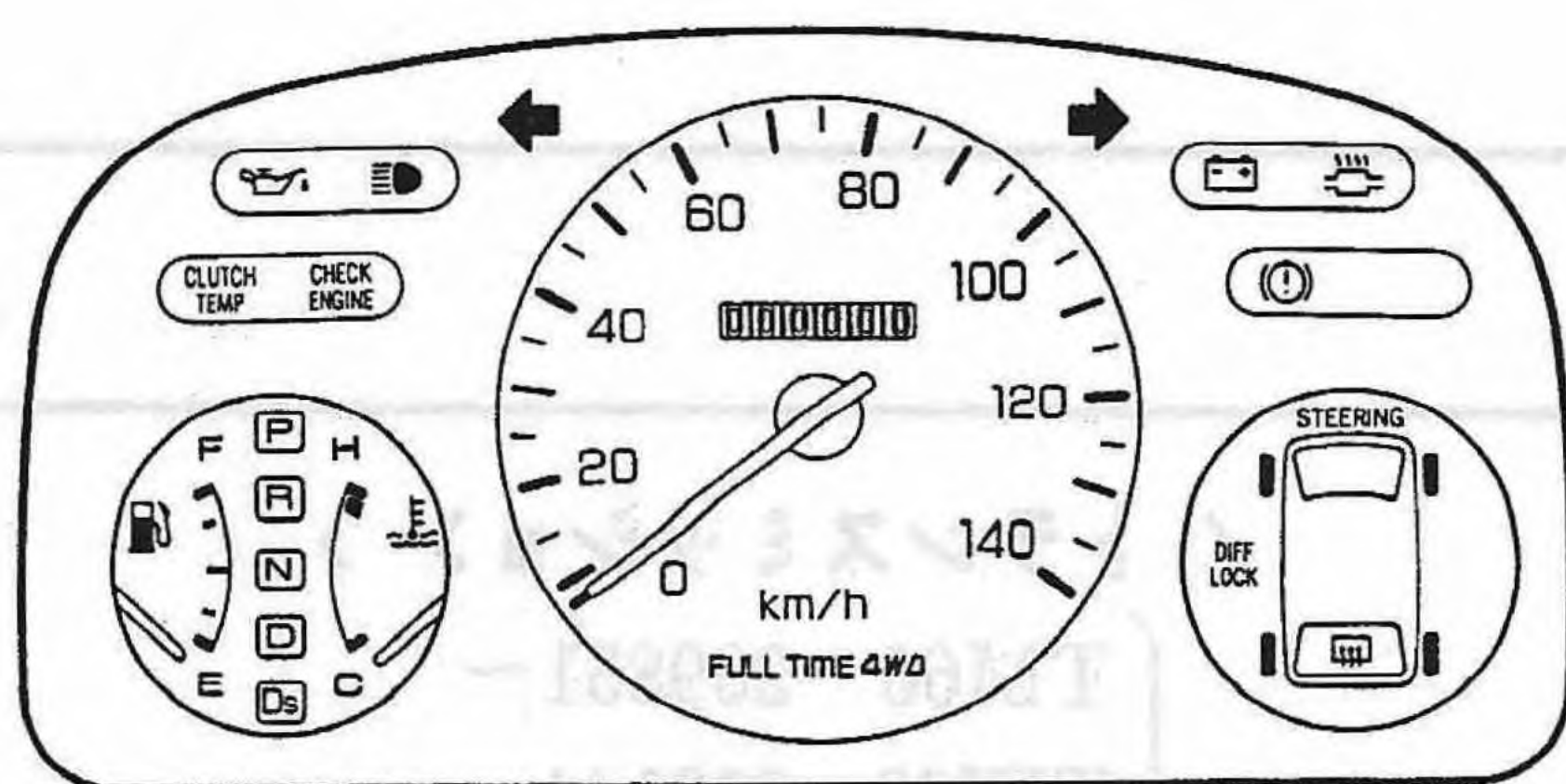
・RWD→4WD

ロッドを手で押込む。



＜セレクトタイプ車 (MT車)＞

セレクトレバー上面の4WDセレクトスイッチを
RWD位置に切替える。



注意

- ・4WD→RWDの切替えが重い場合は、噛合クラッチにトルクがかかっており、直進走行後、操作するとスムーズに切替わる。
- ・ジャッキアップあるいはローラー上で点検整備する前には、必ずトランスファシフトロッドがケース端面より規定長さ出ている事を確認すること。(スピードメータテスト、ブレーキテスト、オンザカーバランス等)

ブレーキ テスト

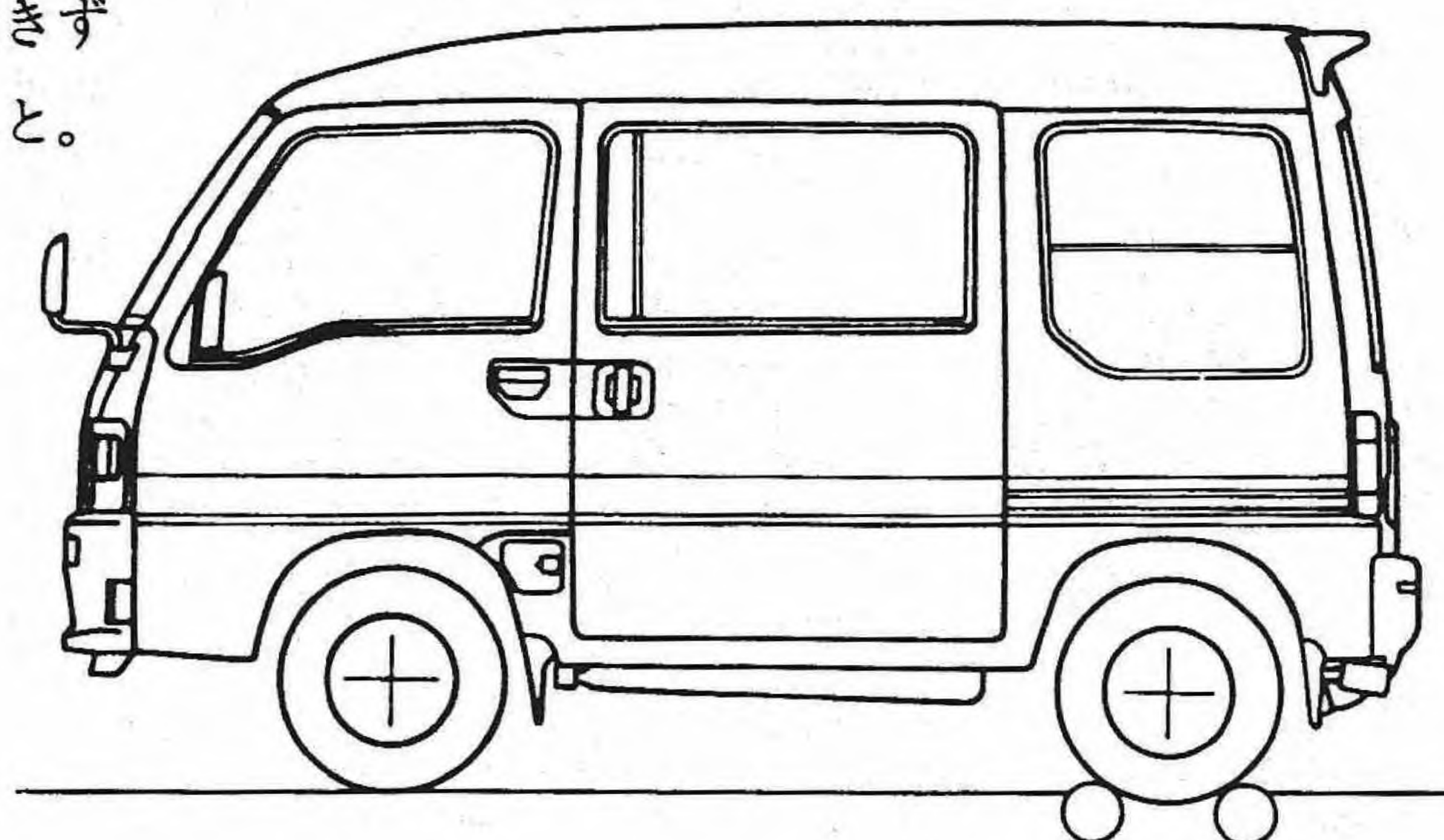
<ECVT車の制動力測定時の注意事項>

ECVT車は、制動力測定においてギアミッション車に比較して初期値が高く出る。これは変速機(CVT)の特性によるもので、エンジン運転中、CVTのプーリにコントロールされた油圧が常に掛かりスチールベルトに張力が掛かった状態となる。この張力の影響で制動力測定時の初期値が高く出る。

したがって、ブレーキテストを使用してブレーキの引きずりの有無を確認する場合には下記の条件で実施すること。

測定条件	エンジン停止, Nレンジ
判定基準	片輪20kg* ¹ 以下

* 1 : 判定基準値を越えた場合は車両をジャッキアップして、各輪ずつ手で回し車輪の回転状態を確認する。



2 エンジン

注1 : 90.3整備解説書(上巻)

注2 : 90.7^{新型車}整備解説書(LPG)

- 主要変更点 15
- 2-1 エンジン仕様
 - 仕様 (注1 P.23)
- 2-2 エンジン点検・調整
 - 準備品 16
 - 整備要領
 - (1) バッテリー (注1 P.25)
 - (2) 冷却水 (注1 P.25)
 - (3) エンジンオイル&オイルフィルタ (注1 P.26)
 - (4) スーパーチャージャオイル (注1 P.26)
 - (5) エアクリーナエレメント (注1 P.27)
 - (6) フェーエルフィルタ (注1 P.27)
 - (7) スパークプラグ 17
 - (8) 圧縮圧力 (注1 P.29)
 - (9) Vリブドベルト 18
 - (10) バルブクリアランス (注1 P.31)
 - (11) タイミングベルト (注1 P.32)
 - (12) エンジン調整 NA車 19
 - (13) エンジン調整 SC車 (注1 P.36)
 - (14) キャブレータ (注1 P.37)
 - (15) アイドルバキューム (注1 P.38)
 - (16) ベーパーライザ (注2 P.38)
 - (17) エンジン調整 (注1 P.40)
 - (18) タール抜き (注2 P.40)
- 2-3 エンジン脱着
 - 準備品 (注1 P.39)
 - 整備要領 (注1 P.39)
- 2-4 エンジン主機
 - 準備品 (注1 P.59)
 - 構成部品 (注1 P.61)
 - トラブルシューティング (注1 P.62)
 - エンジンASSY分解・組立概要 (注1 P.63)
 - 整備要領
 - (1) シリンダヘッド (注1 P.64)
 - (2) シリンダブロック (注1 P.66)
 - (3) ピストン&ピストンピン (注1 P.70)
 - (4) ピストンリング (注1 P.71)
 - (5) コネクティングロッド (注1 P.73)
 - (6) クランクシャフト (注1 P.74)
 - (7) エンジン主機組立て (注1 P.76)
- 2-5 動弁機構
 - 準備品 (注1 P.79)
- 構成部品 (注1 P.81)
- 整備要領
 - (1) タイミングベルト&スプロケット ... (注1 P.82)
 - (2) バルブロッカ ASSY (注1 P.86)
 - (3) カムシャフト (注1 P.87)
 - (4) バルブ&バルブスプリング (注1 P.89)
- 2-6 エンジン潤滑システム
 - 準備品 (注1 P.93)
 - 仕様 (注1 P.93)
 - 構成部品 (注1 P.94)
 - トラブルシューティング (注1 P.94)
 - 整備要領
 - (1) オイルフィルタ (注1 P.95)
 - (2) オイルポンプ (注1 P.95)
 - (3) オイルプレッシャスイッチ ... (注1 P.97)
 - (4) オイルパン&ストレーナ (注1 P.98)
 - (5) オイルクーラ(ECVT車) (注1 P.99)
- 2-7 エンジン クーリング システム
 - 仕様 (注1 P.100)
 - 構成部品 (注1 P.101)
 - トラブルシューティング (注1 P.105)
 - 整備要領
 - (1) ラジエータ電動ファン (注1 P.107)
 - (2) ラジエータ (注1 P.107)
 - (3) 冷却水補充・交換 (注1 P.108)
 - (4) ウォータポンプ (注1 P.110)
 - (5) エンジン ルーム ファン ... (注1 P.111)
- 2-8 エア インテーク システム
 - 構成部品 (注1 P.115)
 - 整備要領
 - (1) エア クリーナ ケース (注1 P.117)
 - (2) インテーク マニホールド .. (注1 P.118)
- 2-9 A フェーエル システム(キャブレータ)
 - 仕様 (注1 P.119)
 - 部品配置図 (注1 P.120)
 - トラブルシューティング (注1 P.121)
 - 整備要領
 - (1) キャブレータ (注1 P.122)
 - (2) フェーエル タンク (注1 P.127)
- 2-9 B フューエル システム(EMPi)
 - 整備要領
 - (1) フューエルポンプ (注1 P.128)

(2) プレッシャ レギュレータ ..(注1 P.128)

(3) ノックセンサ(注1 P.128)

(4) フューエル インジェクション ... (注1 P.129)

(5) 吸気温センサ・水温センサ (注1 P.129)

(6) O₂センサ(注1 P.129)

2-9C フューエルシステム(LPG)

[1] トラブルシューティング (注2 P.41)

[2] LPGボンベ

■ 構成部品 (注2 P.43)

■ トラブルシューティング (注2 P.44)

■ 整備要領 (注2 P.45)

[3] LPGソレノイドバルブ&フィルタ

■ 構成部品 (注2 P.47)

■ 整備要領 (注2 P.48)

[4] 高圧配管

■ 整備要領 (注2 P.50)

[5] ベーパーライザ

■ 準備品 (注2 P.51)

■ 構成部品 (注2 P.52)

■ 整備要領 (注2 P.53)

[6] アダプタ

■ 整備要領 (注2 P.64)

[7] LPGキャブレータ

■ 整備要領 (注2 P.65)

[8] ガソリンタンク, フィルタ&ポンプ

■ 整備要領 (注2 P.67)

2-10 エキゾースト システム

■ 構成部品 24

■ 整備要領 (注1 P.133)

2-11 エミッション コントロール システム

■ 整備要領

(1) キャニスタ (注1 P.135)

(2) チェック バルブ (注1 P.135)

■ 主要変更点

品番

1. スバルセレクトモニタ用カートリッジを新製する。
2. スパークプラグの2極沿面プラグを標準タイプに変更。
3. NA・MTパワステ車、NA・ECVT車のアイドリング回転数を設定。
4. NA・ECVT車用キャブレターにダッシュポット新設により整備要領追加。



セレクトモニタ用カートリッジ



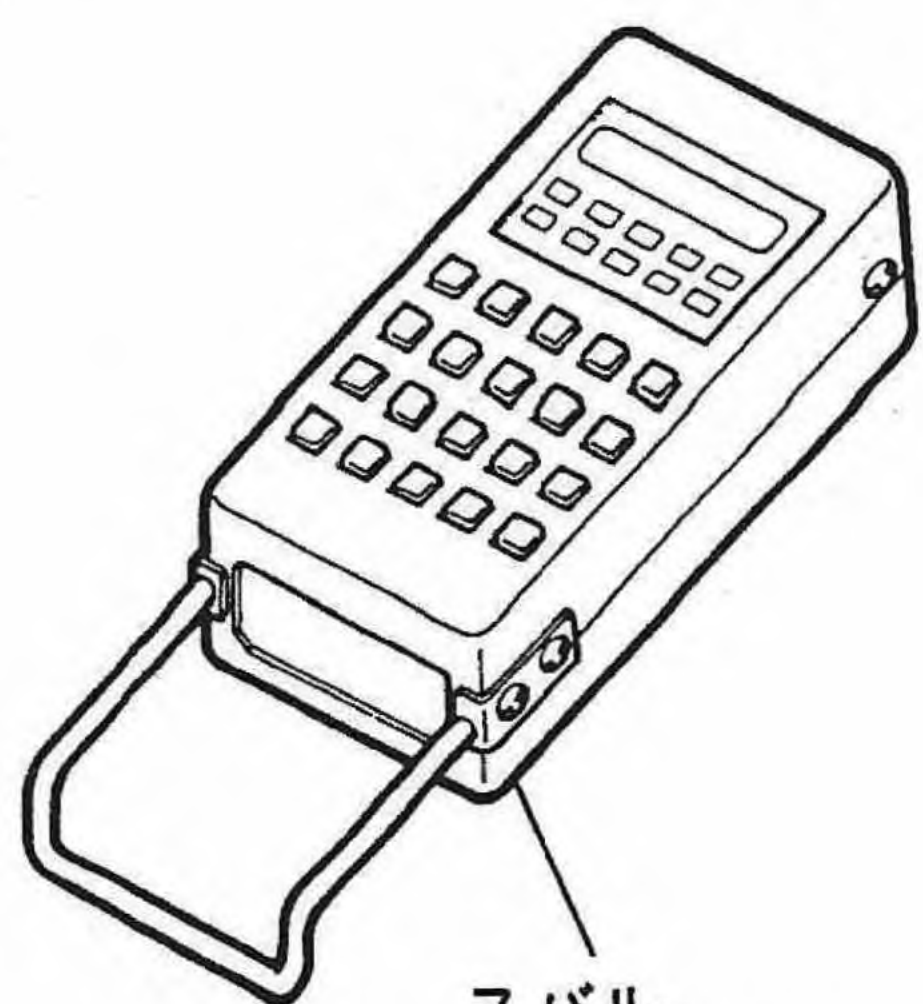
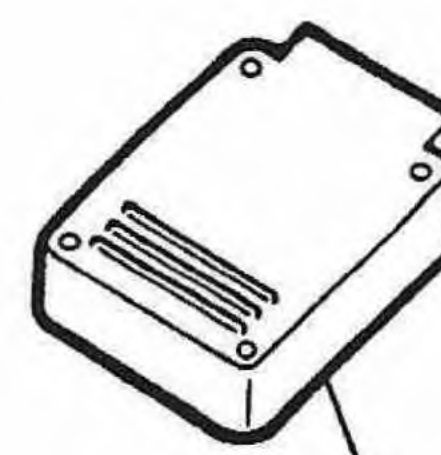
セレクトモニタ用ケーブル
(3m2芯ケーブル)



セレクトモニタ

■ 準備品

ST	498545400	オイルフィルタレンチ	オイルフィルタ脱着
計 器	—	バッテリー比重計	バッテリー比重測定
	トーヨーテックGU-51C	コンプレッションゲージ	コンプレッション測定
	—	タイミングライト	点火時期点検
	498307900	スバルセレクトモニタ	エンジン回転数, 点火時期測定および故障診断
	498348900	カートリッジ	スバルセレクトモニタ用
	—	エンジンチューナ	エンジン回転数, 吸入負圧測定
	—	シックネスゲージ	バルブクリアランス点検, 調整

スバル
セレクトモニタ外部接続コード
(セットに含む)

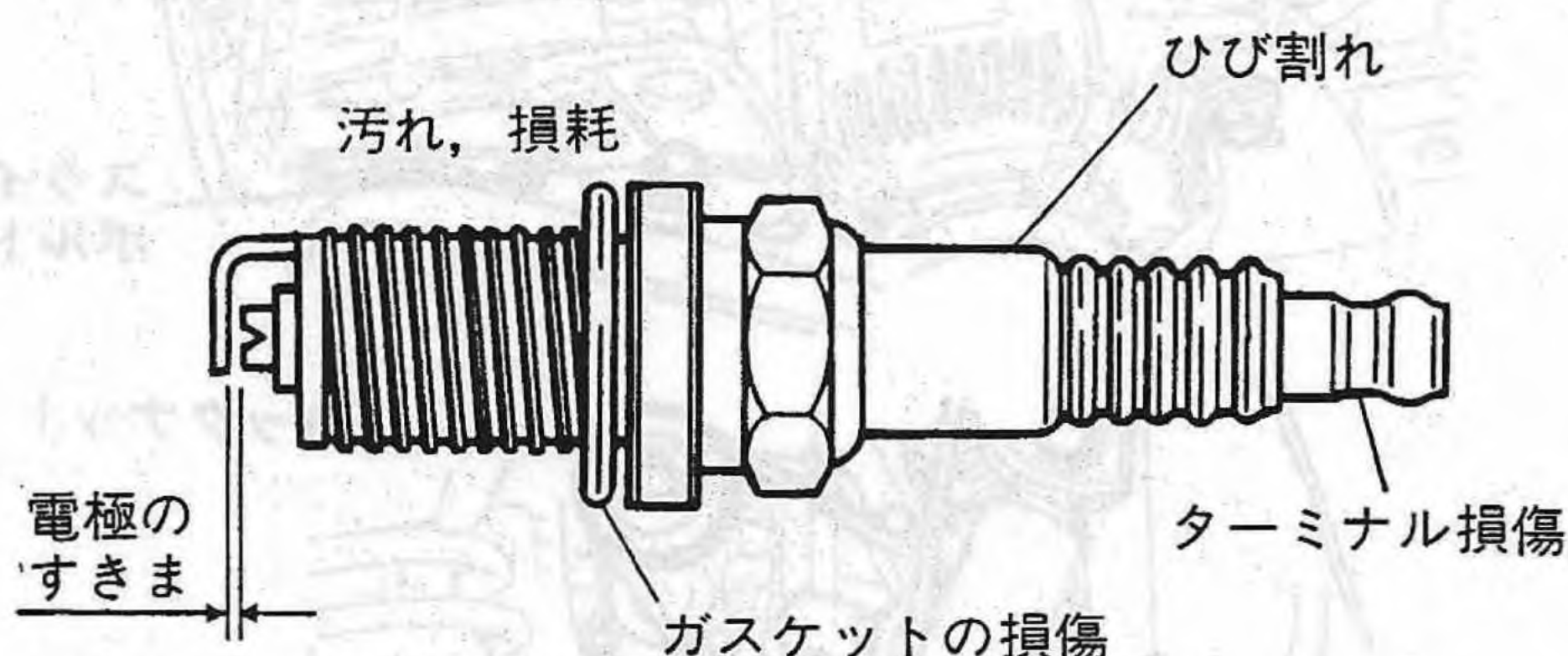
モニタ用カートリッジ

■整備要領 (7) スパークプラグ

点検

(1) スパークプラグは、下記の事項を点検し、必要に応じて、清掃、修正あるいは新品に交換する。

- ・電極部の汚れ
- ・堆積物の有無
- ・電極部のすき間
- ・硝子絶縁体部のひび割れ
- ・ターミナルの損傷
- ・ガスケットの損傷



(2) スパークプラグが焼け過ぎの場合は、下記の原因が考えられる。

- ・燃料混合気のうす過ぎ
- ・点火時期の進み過ぎ
- ・冷却の不足によるエンジン過熱
- ・プラグの締付け不良

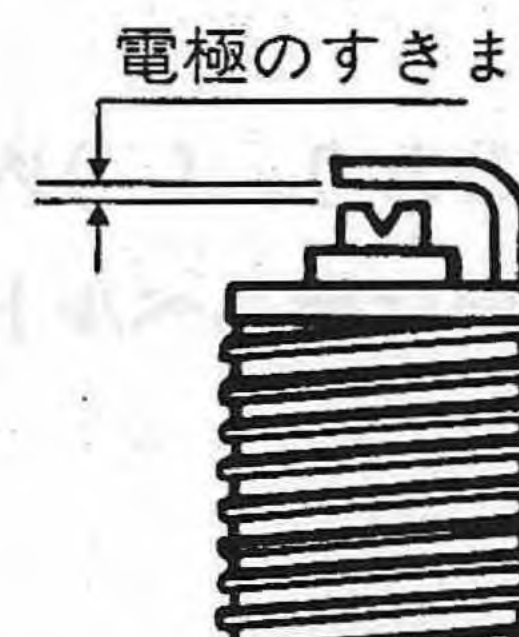
(3) スパークプラグがカーボンでくすぶる場合は、下記の原因が考えられる。

- ・長いアイドリング運転や低速運転
- ・燃料混合気の濃すぎ
- ・点火時期の遅れ
- ・イグニッションコイル、ハイテンションコード等点火系の劣化
- ・ピストンリング、バルブガイドの摩耗

(4) 電極部が汚れている場合は、プラグクリーナ又はワイヤブラシで清掃する。

(5) 電極すきま

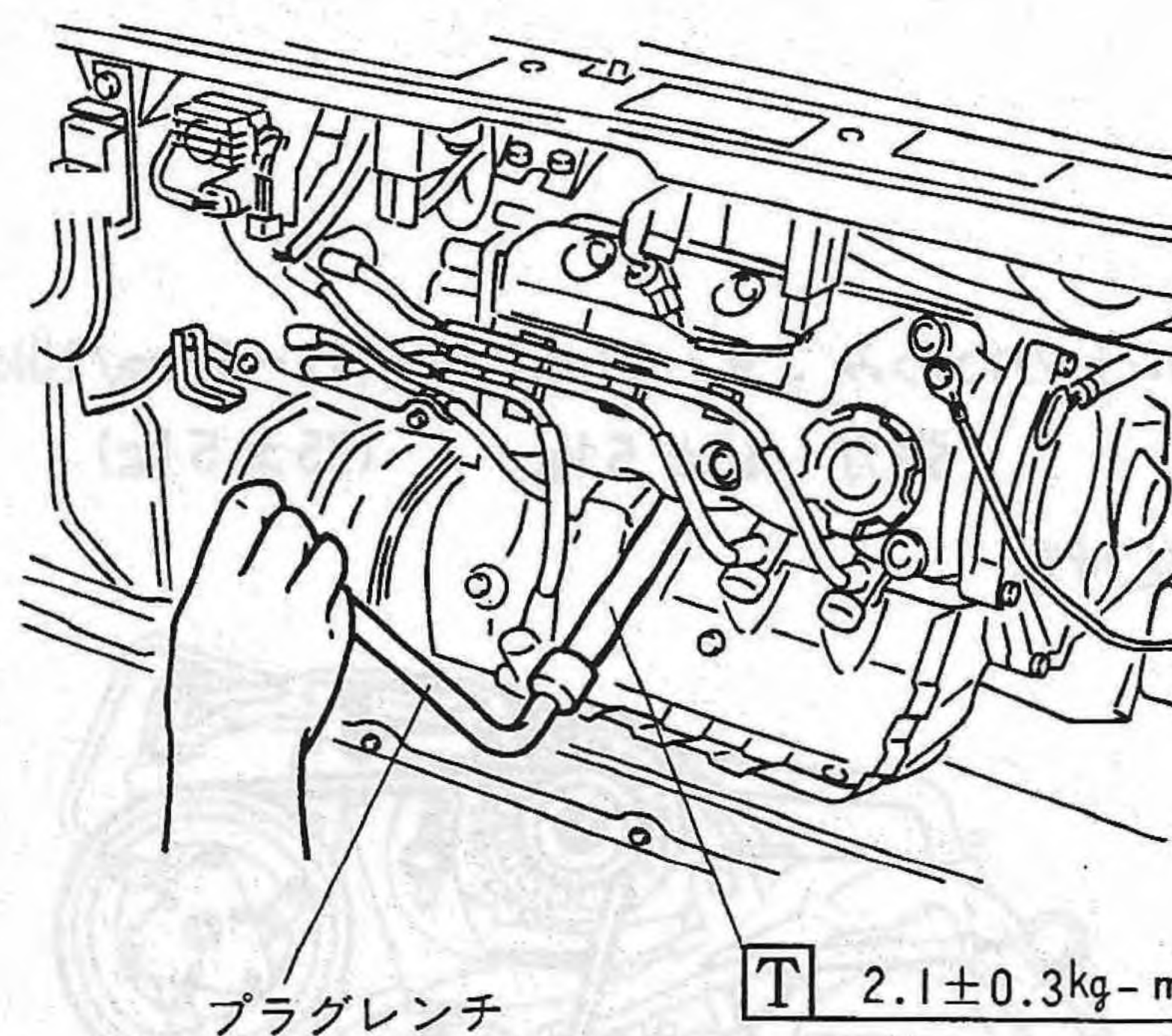
電極すきまをスパークプラグギャップゲージ(ワイヤゲージ)を用いて測定する。基準値以外の場合には、ワイヤゲージを用いて調整する。



(7) スパークプラグ取付け

スパークプラグをプラグレンチに挿入し、プラグ座面に指先で仮締めした後、プラグレンチハンドルで締付ける。

スパークプラグ締付トルク： $2.1 \pm 0.3 \text{ kg-m}$



(8) スパークプラグ適合型番

NGK型番	ND型番	電極すきま(mm)
BKR6E-11	K20PR-U11	1.0~1.1
BKR5E-11	K16PR-U11	1.0~1.1

交換時期	10,000km毎
------	-----------

(9) Vリブドベルト

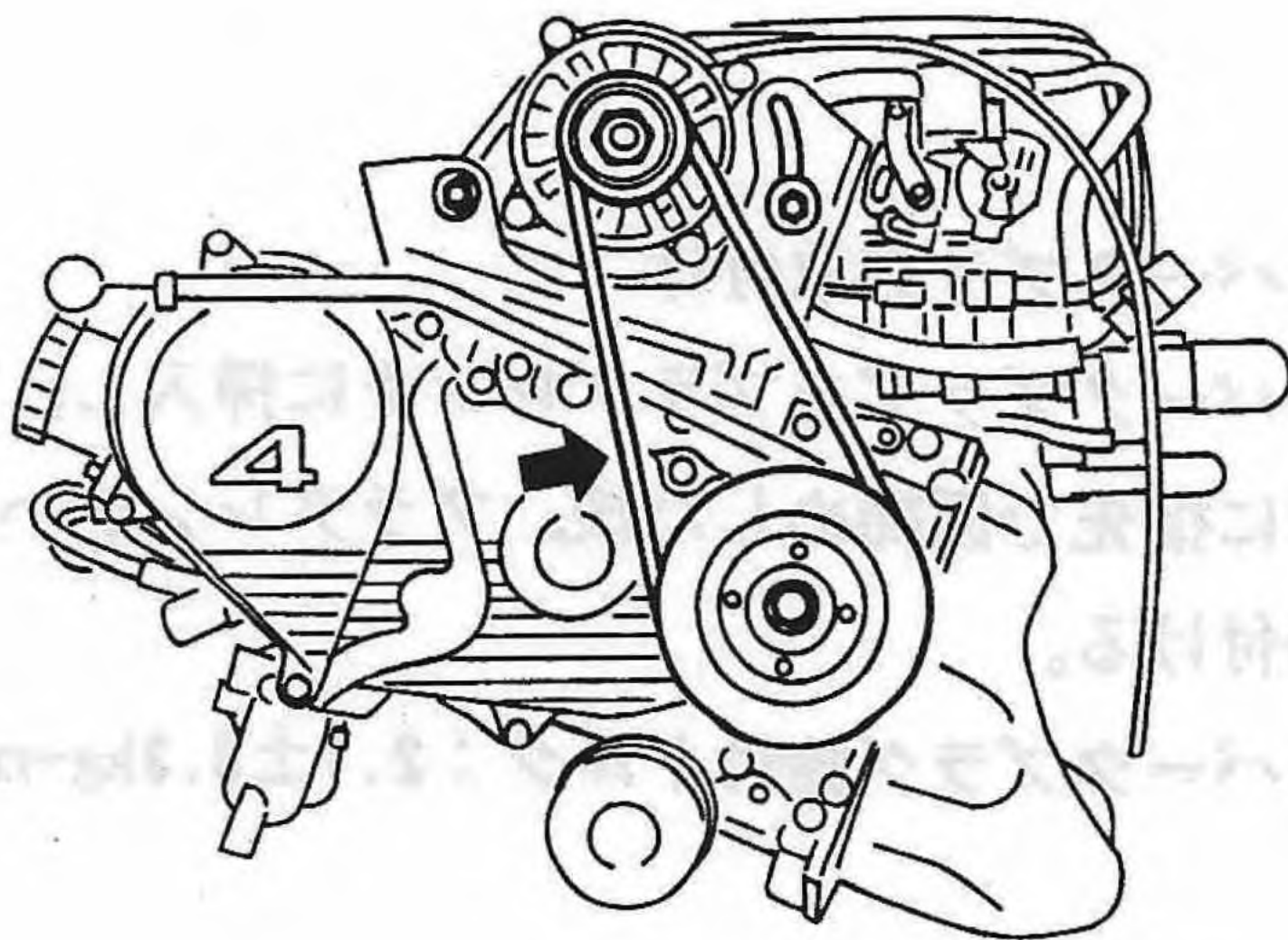
点検・調整

- (1) ベルトは、亀裂、損傷、油の付着がないかを点検し、損傷甚だしいものは交換する。
- (2) エンジン運転時に、ベルトが波打ち又は横ぶれして回転しないか、ベルトのゆるみとアライメントを点検する。

〈NA車〉

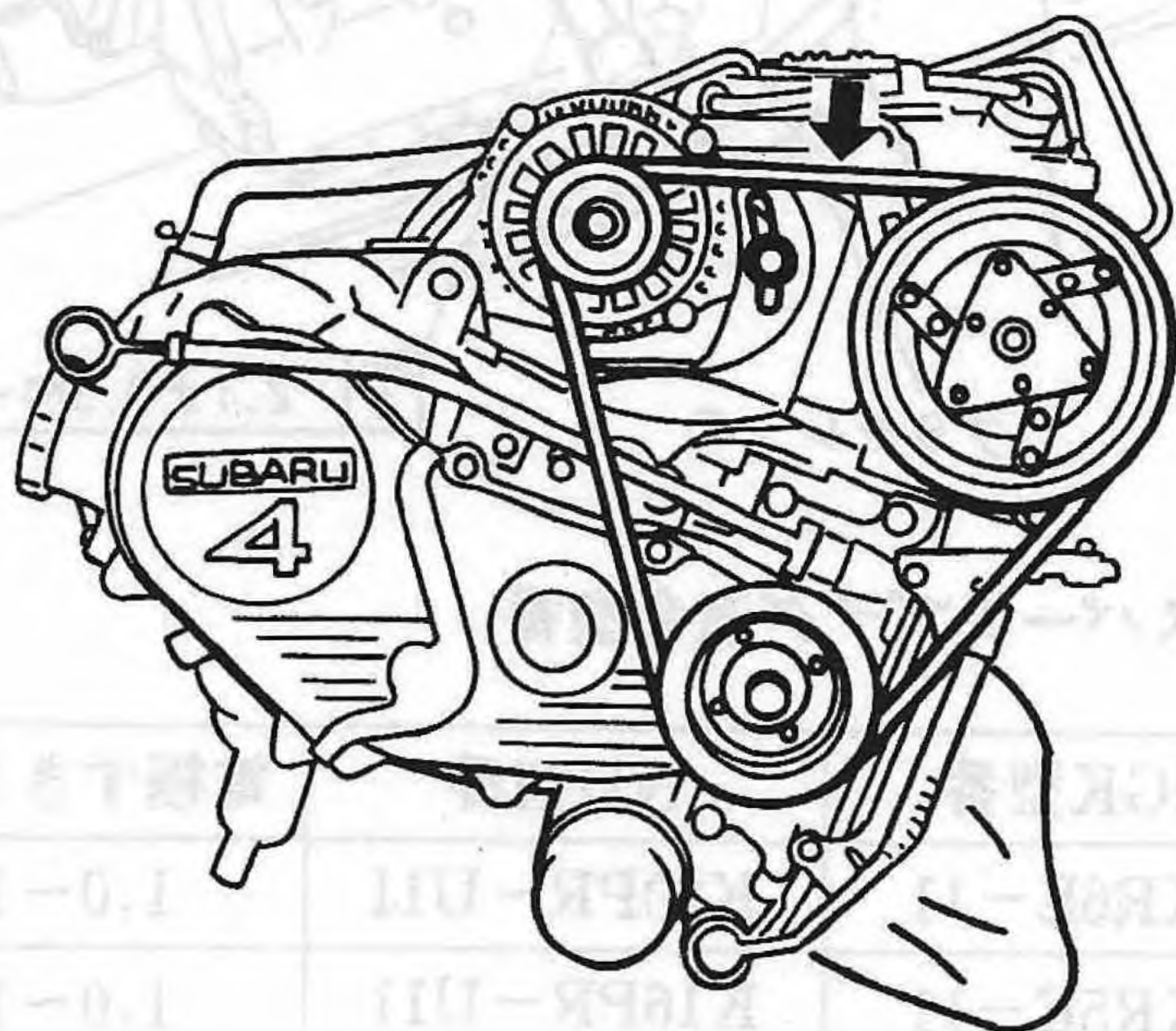
ベルトの張りは下記のとおり。()内の数値はベルトの継続使用の場合。他は新品ベルトの場合。

・一般車



ベルトのたわみ：9～11mm/10kg(11～13mm/10kg)
張力：45±5kg (35±5kg)

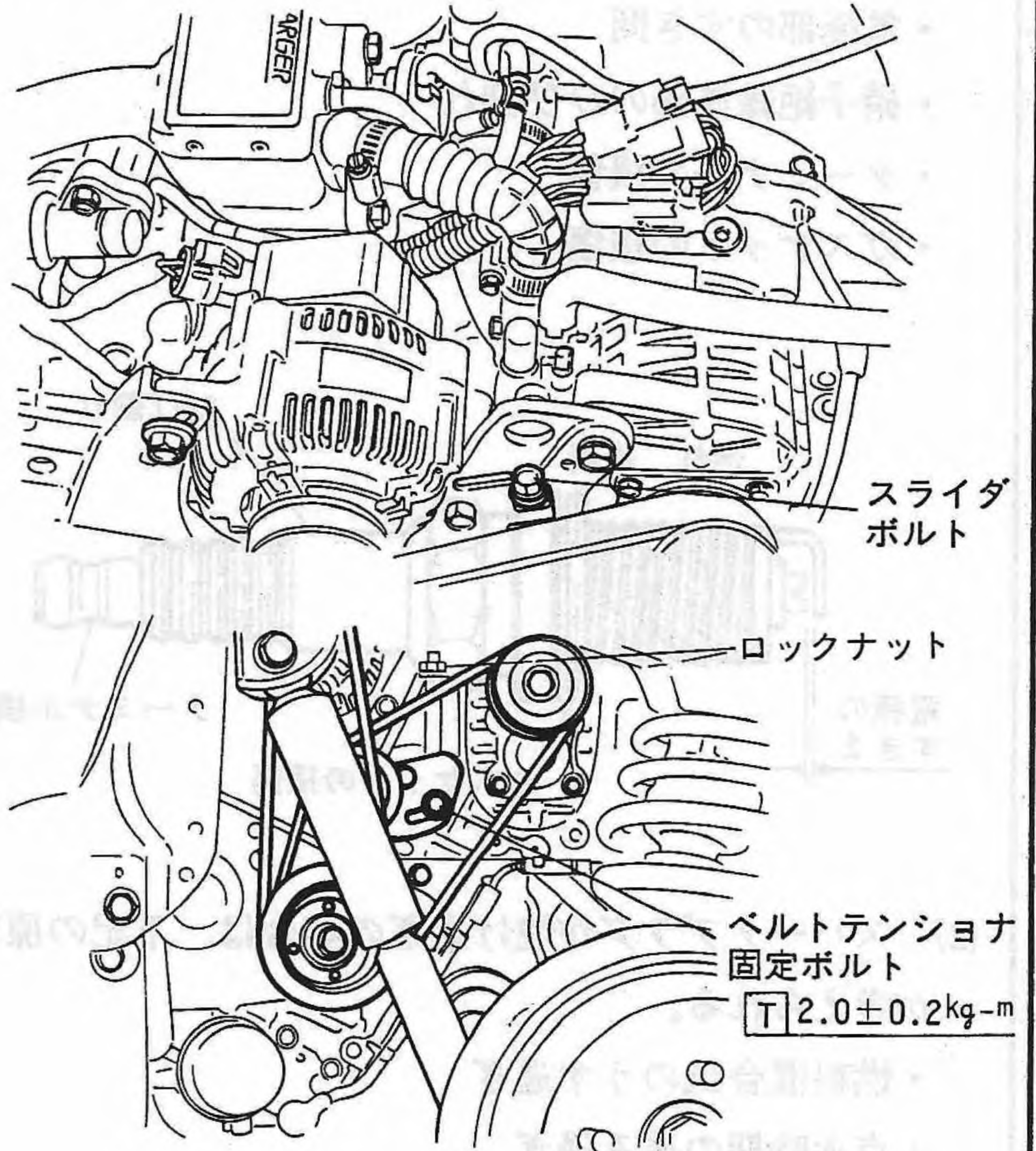
・A/C付車



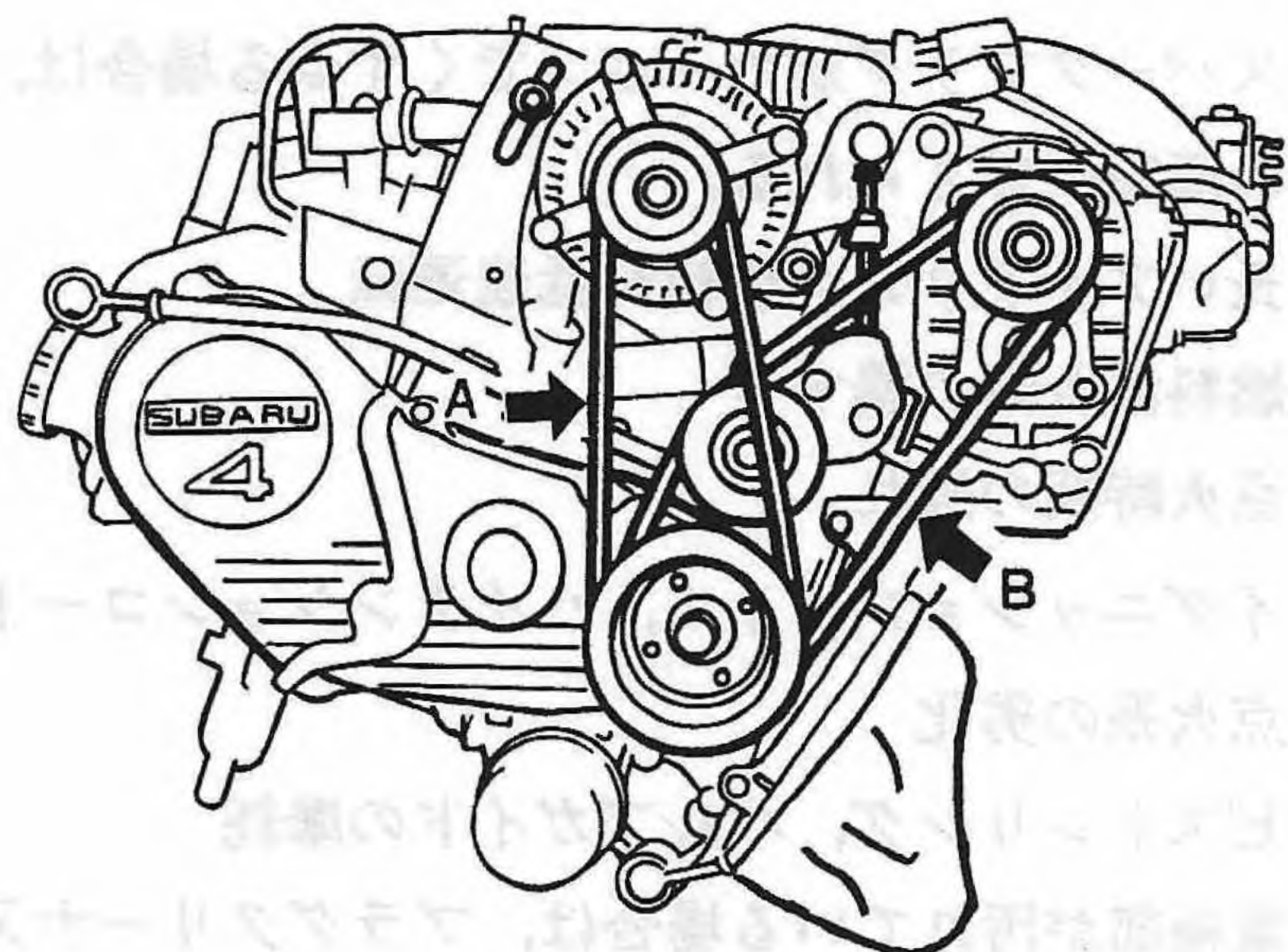
ベルトのたわみ：5～6mm/10kg(5～7mm/10kg)
張力：70±10kg (50±5kg)

〈SC車〉

- (1) 調整を行うときは、スライダボルトのロックナットを一旦ゆるめ、スライダボルトをまわして、ベルトの張りを調整する。



- (2) ベルトの張りは下記のとおり。()内の数値はベルト継続使用の場合。他は新品ベルトの場合。



()A/C無, []A/C有
Aベルトのたわみ：7～8mm/10kg(7～9mm/10kg)
[4～6mm/10kg]
張力：55±10kg (45±10kg)
Bベルトのたわみ：6～8mm/10kg(7～9mm/10kg)
張力：70±10kg (60±10kg)

(12) エンジン調整 NA車(NA, SC調整表)

エンジン点検・調整表

〈回転計による場合〉

項目		車 種		NA車		SC車		備 考
				MT	ECVT	MT	ECVT	
点火時期	無負荷			BTDC $6^{\circ}\pm 3^{\circ}$	BTDC $6^{\circ}\pm 3^{\circ}$	BTDC $10^{\circ}\pm 3^{\circ}$ (テスト端子給合)	←	ヘッドランプ ラジエータファン リアデフォッガ 等の電気負荷のない状態で行なう。
						BTDC $4^{\circ}\pm 3^{\circ}$ (テスト端子分離)	←	
アイドリング回転数	無負荷			800 $\pm$ 50rpm (パワステ無車) 850 $\pm$ 50rpm (パワステ有車)	900 $\pm$ 50rpm (パワステ有無共)	800 $\pm$ 50rpm (パワステ有無共)	←	
	A/C ON			1100 $\pm$ 50rpm	1100 $\pm$ 50rpm	1100 $\pm$ 50rpm	1100 $\pm$ 50rpm	
CO, HC	無負荷			CO 1.5%以下 HC 1000ppm以下	←	←	←	

〈セレクトモニタによる場合〉

項目	車 種 調 整 要 領	SC車	
		MT	ECVT
点火時期	テスト端子分離	BTDC 4±3°	←
	テスト端子結合	BTDC 10±3°	
アイドリング回転数	テストモードコネクタ，リードメモリコネクタ共に分離した状態であること。	EREV (F04) 800rpm 基準値 タコメータと同様な数値である。	

点火時期とアイドル回転数が正規の状態において、ISCデューティ比が $25\pm 5\%$ になっている事を確認する。

エンジン調整 NA車(バキュームホース, ディストリビュータ)

(1) バキュームホースの点検

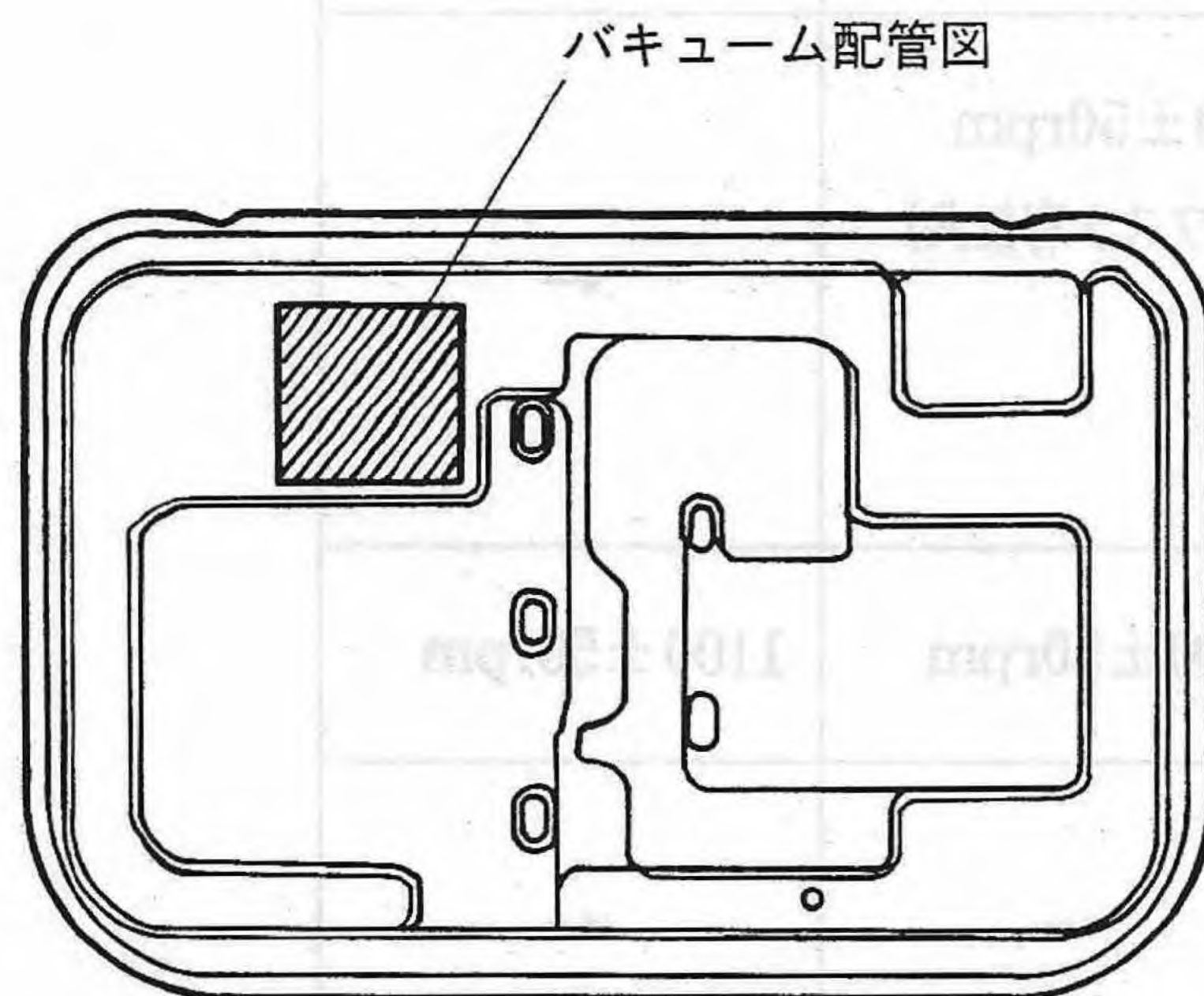
(1) バキュームホースを点検する。

次の点を点検し, 不良の場合は交換または修正する。

- ① 誤配管の有無
- ② ホース抜けの有無
- ③ ホースの亀裂の有無

注意

荷台トラップドア裏面に貼りつけてあるバキューム配管図を参照する。



(2) ディストリビュータの点検・調整

(1) ディストリビュータブレーカポイントを点検する。

- ① 内部オイル漏れ
- ② 内部の汚れ
- ③ カムクロージングアングル

調整値	三菱製	49°~55° (ポイントギャップ0.5mmのとき)
	日本電装製	49°~55° (ポイントギャップ0.45mmのとき)

④ ポイントギャップ

調整値	三菱製	0.45~0.55mm
	日本電装製	0.4~0.5mm

注意

接触不良(ポイント面の焼損, 荒れ, 汚れ)があるときはポイントを磨くこと。

⑤ ポイント接点圧

基準値	三菱製	450~600g
	日本電装製	400~550g

⑥ コンデンサ容量

基準値	三菱製	0.243~0.297 μ F
	日本電装製	0.225~0.275 μ F

⑦ ガバナおよびバキューム進角装置の作動状態

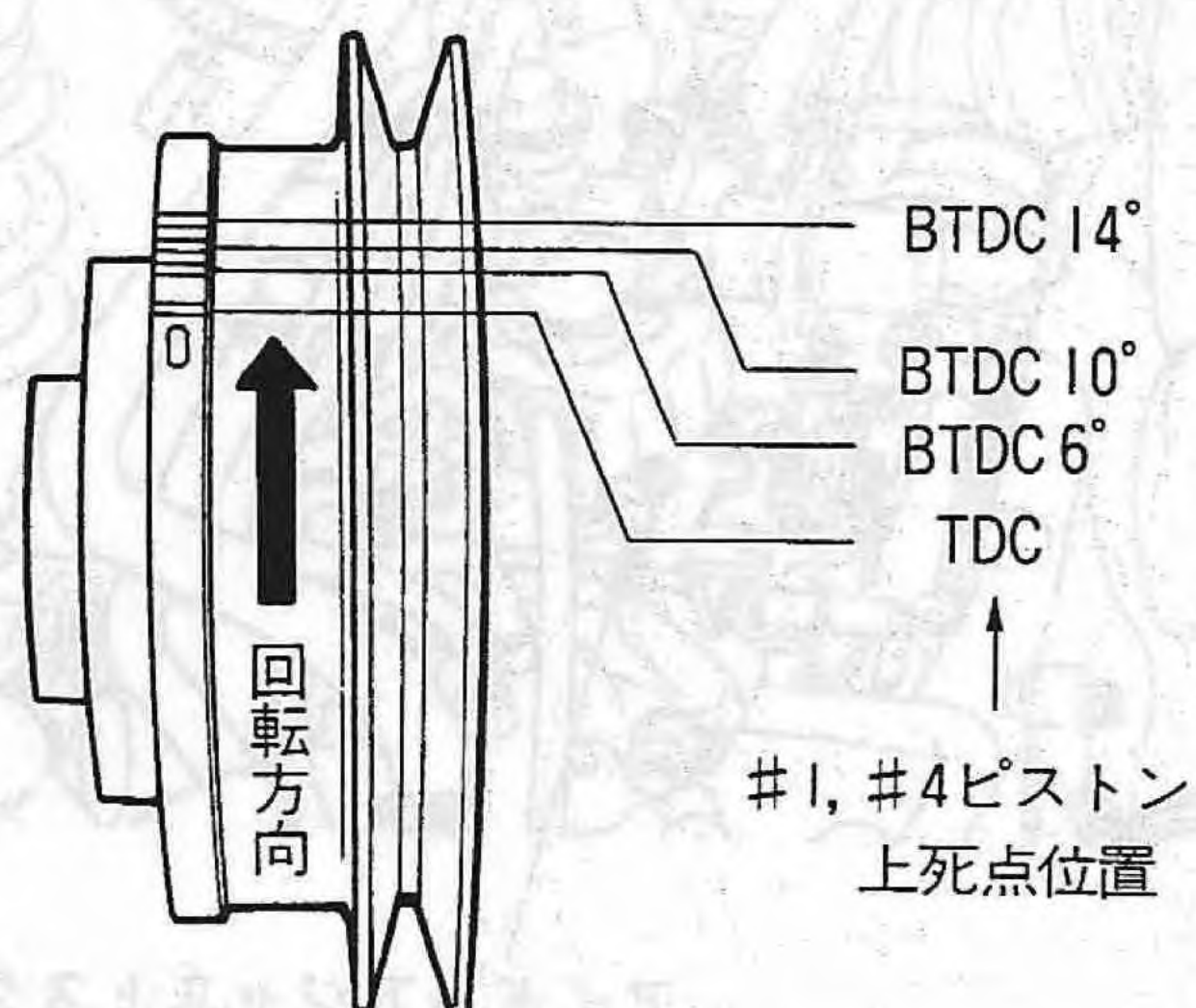
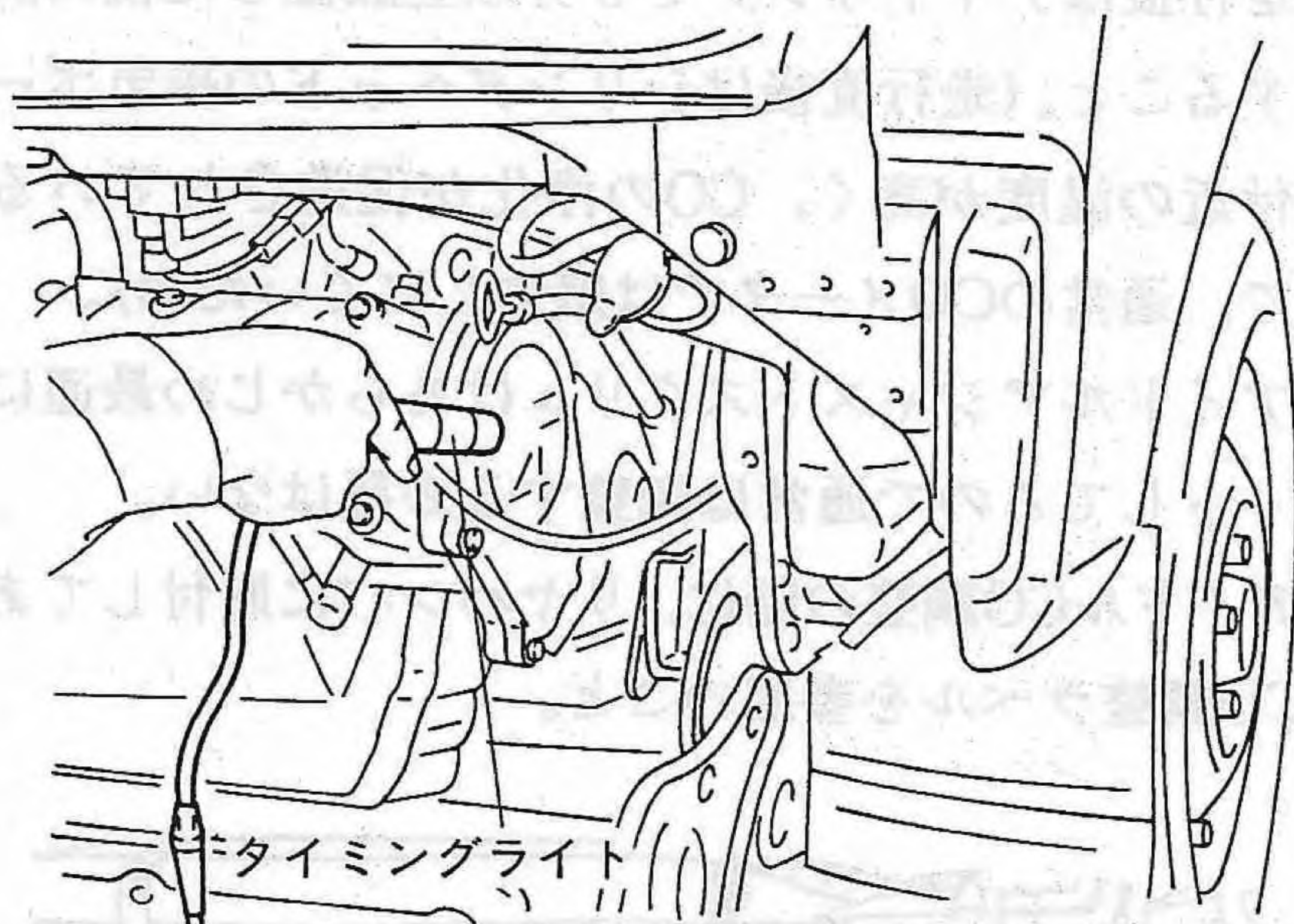
⑧ カム表面および頭部, ポイントアームヒールのグリースの有無(少量ついていれば可)

⑨ 各コードキャップ差込部のゆるみおよびリーク点検

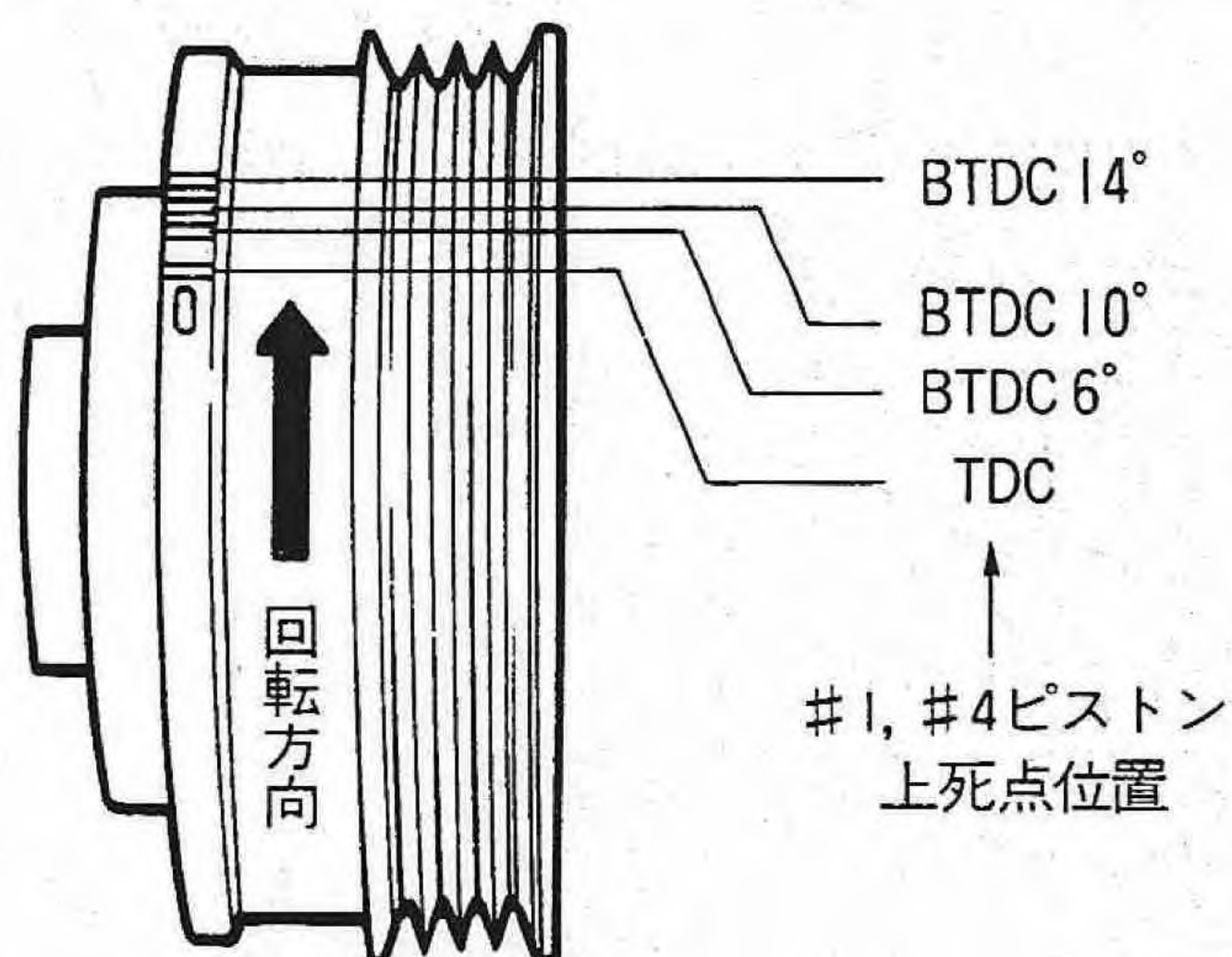
エンジン調整 NA車（点火時期）

（3）点火時期の点検・調整

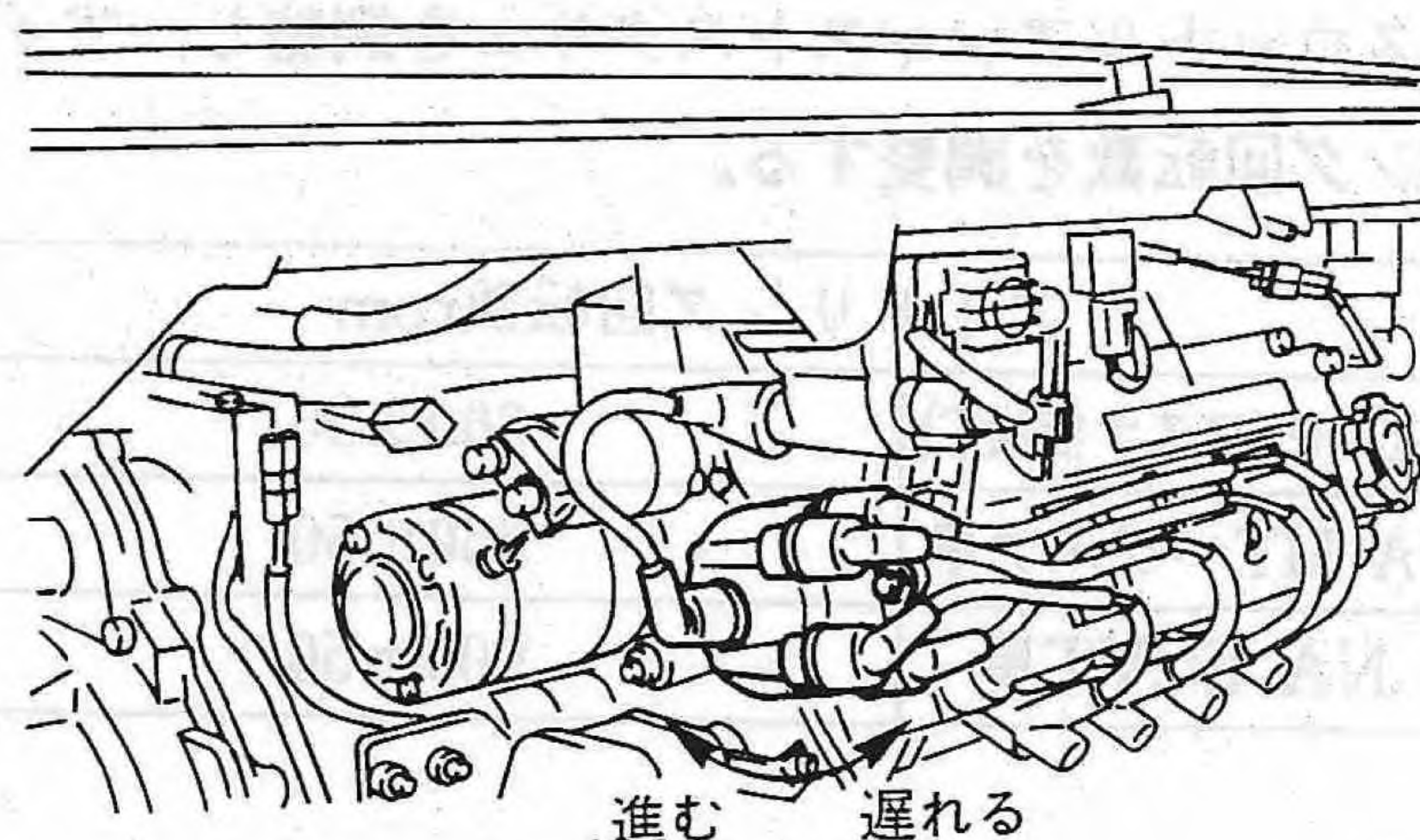
- (1) バキュームホースの配管を確認する。
- (2) ポイントギャップを点検し、必要により調整する。
- (3) ラジエータファンが回るまでエンジンを充分暖気する。
- (4) タイミングライトを#1コードに接続し、タイミングマークが一致しているか点検する。クランクプーリの溝とタイミングベルトカバーの爪の位置が一致すること。



A/C付車



- (5) ディストリビュータの取付けボルトをゆるめる。
- (6) ディストリビュータをキャップ側から見て、右へ回すと点火時期は進み、左へ回すと遅れる。



- (7) 次の表のように点火時期を調整する。

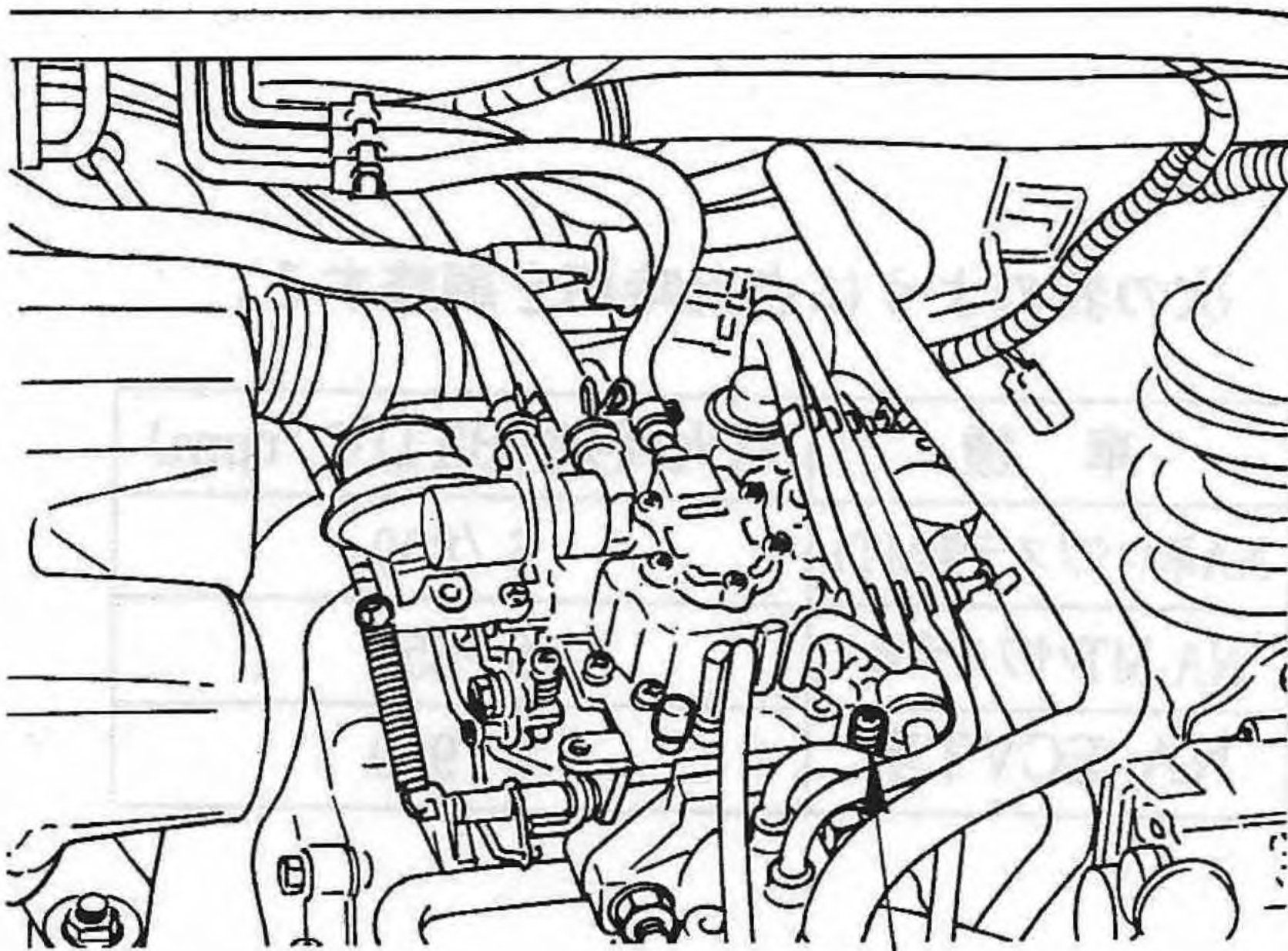
車 種	点火時期(BTDC°/rpm)
NA車(パワステ無MT)	6 / 800
NA MTパワステ車	6 / 850
NA ECVT車	6 / 900

エンジン調整 NA車 (アイドル回転数, CO, HC濃度)

(4) アイドリング回転数の点検・調整

- (1) ラジエータファンが回るまでエンジンを充分暖気する。
- (2) 点火時期が正しく調整されているか点検する。
- (3) 回転計を接続する。
- (4) スロットルアジャストスクリュを調整し、アイドルリング回転数を調整する。

アイドルリング回転数rpm	
NA車(パワステ無MT)	800±50
NA MTパワステ車	850±50
NA ECVT車	900±50



スロットルアジャストスクリュ

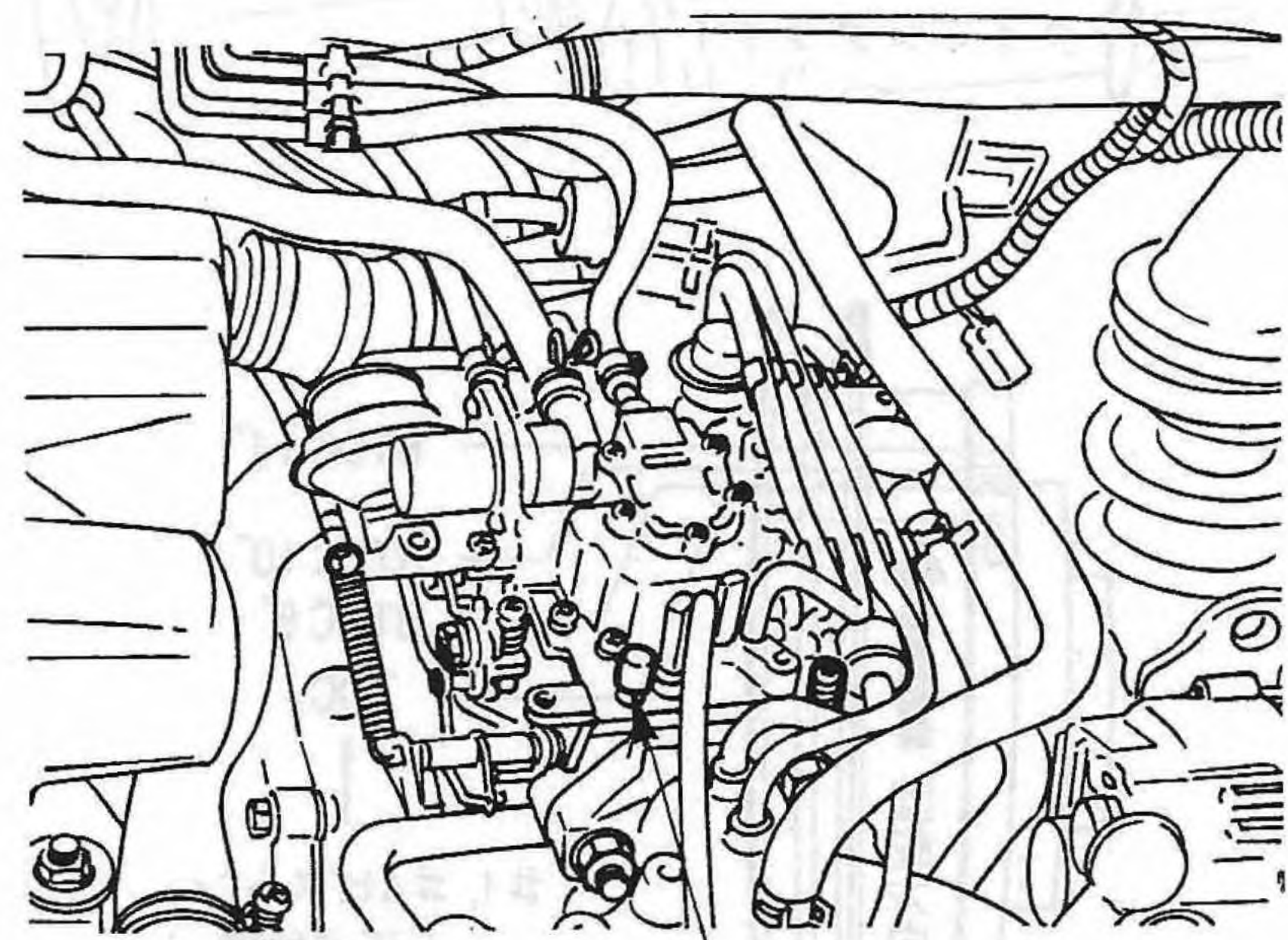
(5) CO,HC濃度の点検・調整

- (1) 点火時期が正しく調整されているか点検する。
- (2) アイドリング回転数が正しく調整されているか点検する。
- (3) CO, HC濃度を点検する。

CO(%)	1.5±0.5
HC(ppm)	1,000以下

注意

- ・走行後はアイドルリングで5分以上放置した後に調整すること。(走行直後はシリンダヘッドの排気ポート付近の温度が高く、COの浄化が促進されているので、通常のCOメータでは感知しにくい。)。
- ・アイドルアジャストスクリュはあらかじめ最適にセットしてるので通常は調整する必要はない。
- ・アイドルCO調整の際は、リヤバンパに貼付してあるCO調整ラベルを参照のこと。



アイドルアジャストスクリュ

エンジン調整 NA車(CO,HC濃度,A/Cアイドルアップ)

CO,HC濃度の点検・調整

- (4) 基準値をこえている時は、以下の順序で調整する。
- ① リミッタキャップの上からアイドルアジャストスクリュを一杯にねじ込んだ位置より4回戻し、スロットルアジャストスクリュを2～3回ねじ込んでおいて始動する。
 - ② スロットルアジャストスクリュでアイドル回転数を基準値に合わせる。
 - ③ アイドルアジャストスクリュでCOが 1.5 ± 0.5 %以下になるように調整する。

注意

アイドルアジャストスクリュの調整は特殊工具：498297100アイドルアジャストドライバを使用し、リミッタキャップは外さないこと。

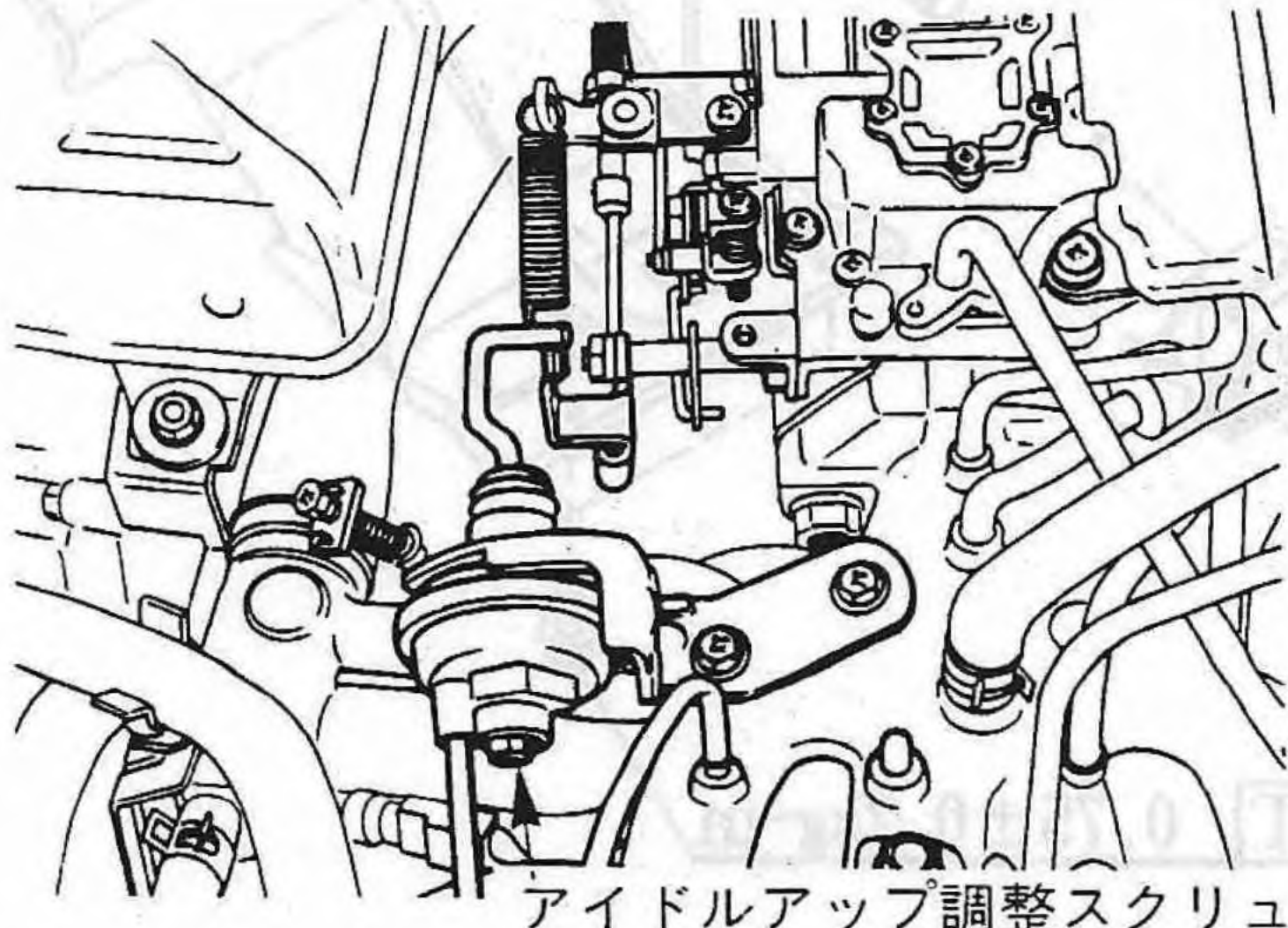
名 称	回転方向	CO値
アイドルアジャストスクリュ	右へ回す	小さくなる
	左へ回す	大きくなる

(6) A/Cアイドルアップの点検

- (1) A/Cアイドルアップの点検・調整
- ① A/CのSWを入れる。
 - ② エンジン回転数を読み取る。
 - ③ 調整スクリュで調整し、エンジン回転数を基準値に合わせる。

基準値：1100rpm

調整スクリュ	回転方向	エンジン回転数
	右へ回す	高くなる
	左へ回す	低くなる



アイドルアップ調整スクリュ

Fig.30

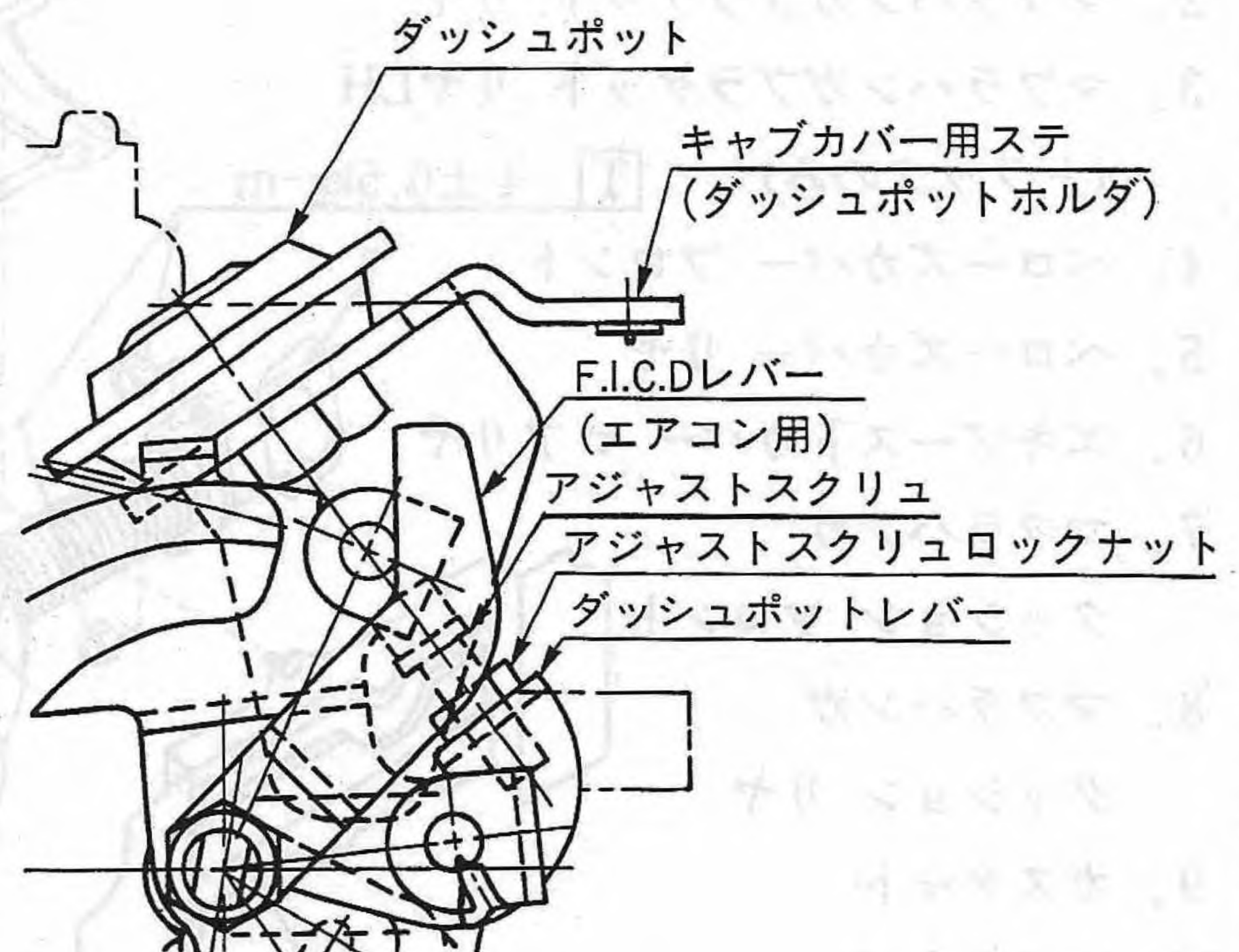
S2-339

エンジン調整 NA車(ダッシュポット)

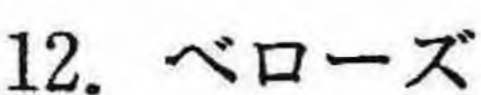
ダッシュポットの点検・調整

- (1) エンジンを十分に暖機する。(ラジエータファンが回って停止した状態)
- (2) アジャストスクリュの先端六角部をスパナで固定してロックナットを弛める。
- (3) ダッシュポットレバーをまわしてエンジン回転数を 3000 ± 300 rpmに保った状態で、アジャストスクリュをまわしてダッシュポットに接触させる。
- (4) アジャストスクリュの先端六角部をスパナで固定して、ロックナットを締付ける。

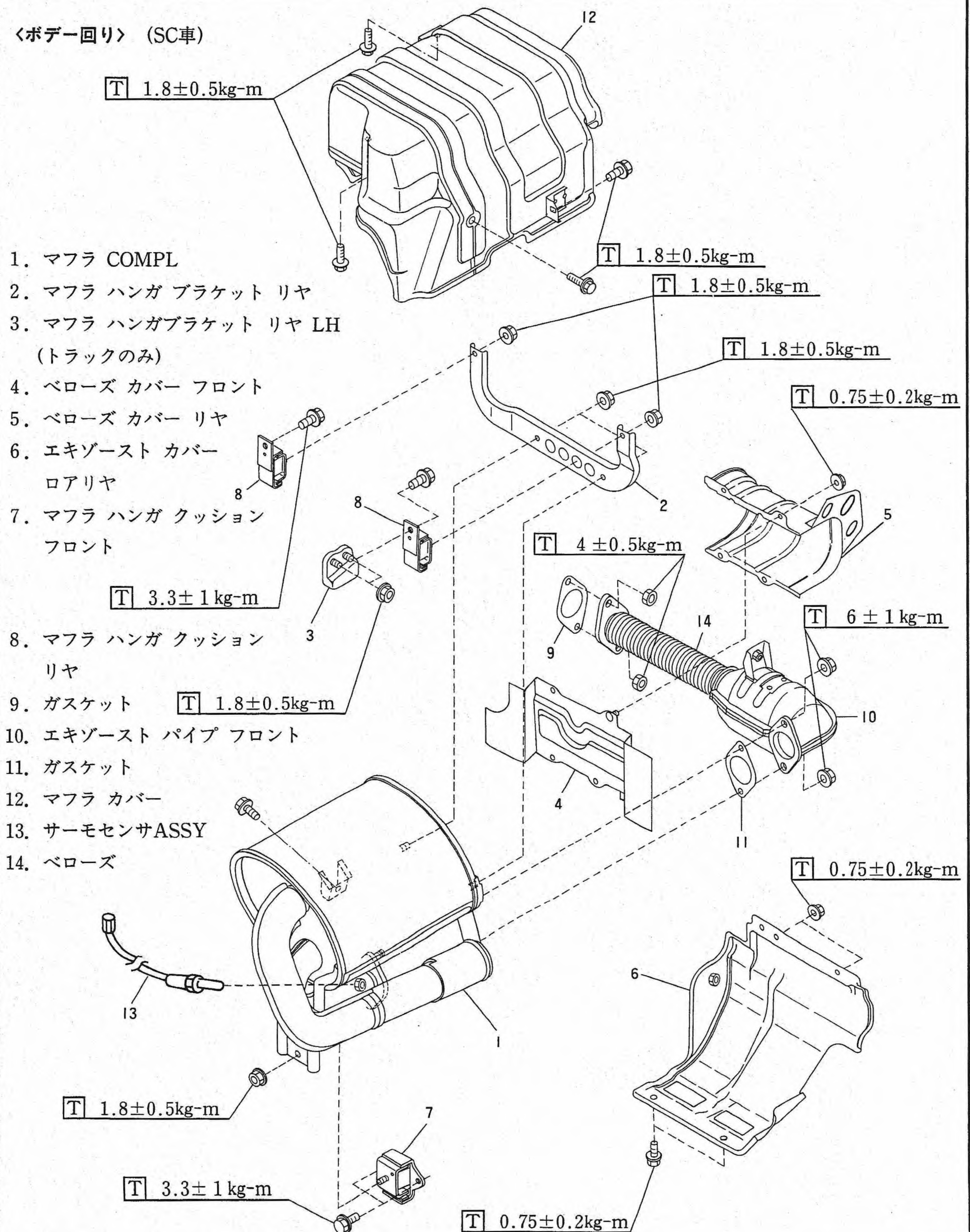
締付トルク	$0.1 \pm 0.02 \text{ kg-m}$
基準値	エンジン回転数 $3000 \pm 300 \text{ rpm}$

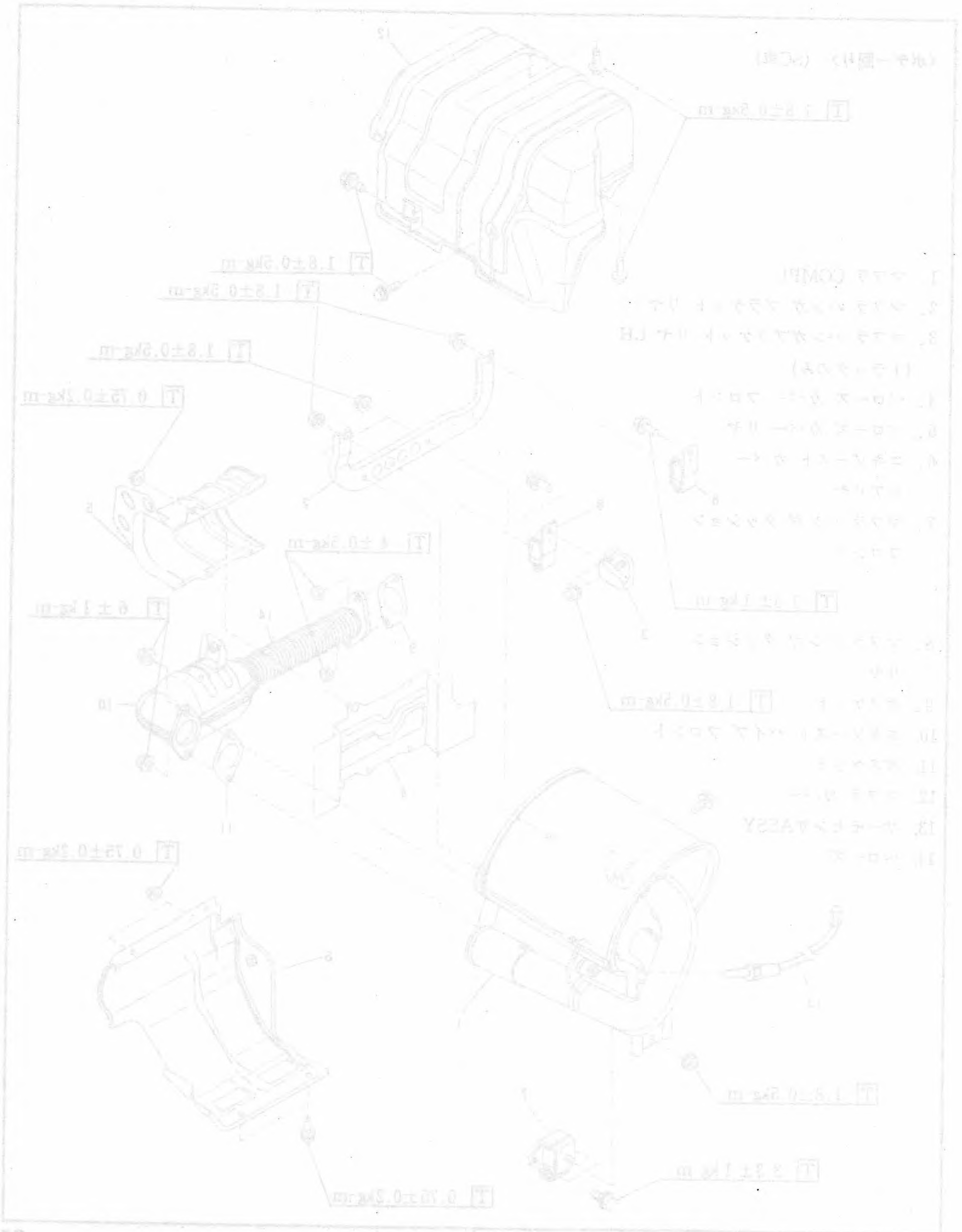


〈ボデー回り〉 (NAキャブレート車)



〈ボデー回り〉 (SC車)





3 動力伝達システム

注1 90.3整備解説書(上巻)

3

■ 主要変更点	28
3-1 クラッチ	
■ 準備品	29
■ 仕様	29
■ 構成部品	(注1 P.139)
■ 整備要領	(注1 P.140)
■ トラブルシューティング	(注1 P.146)
3-2 マニュアルトランスミッション	
[1] 仕様	30
[2] 車上点検	(注1 P.150)
[3] トラブルシューティング	(注1 P.151)
[4] トランスミッション脱着	
■ 準備品	(注1 P.152)
■ 整備要領	(注1 P.153)
[5] ギヤシフトシステム	
■ 構成部品	(注1 P.165)
■ 整備要領	(注1 P.166)
[6] TM60型(2WD用)	
■ 準備品	(注1 P.170)
■ 構成部品	(注1 P.171)
■ 整備要領	(注1 P.175)
[7] TW60型(セレクトイブ4WD用)	
■ 準備品	(注1 P.195)
■ 構成部品	31
■ 整備要領	32
[8] TY60型(フルタイム4WD用)	
■ 準備品	(注1 P.238)
■ 構成部品	33
■ 整備要領	34
3-3 ECVT	
[1] 仕様	
■ 主要諸元	35
[2] 車上点検	36
[3] 電磁クラッチ	
■ 準備品	(注1 P.255)
■ 構成部品	(注1 P.255)
[4] ギヤセレクトシステム	
■ 構成部品	(注1 P.258)
■ 整備要領	(注1 P.260)
[5] TB401NB(2WD用ECVT)・TT401PB (フルタイム4WD用ECVT) (但し、TT401PB型のトランスファ&エクステ ンションを除く。)	
■ 準備品	(注1 P.266)
■ 構成部品	(注1 P.267)
■ 整備要領	(注1 P.281)
[6] TT401PB型フルタイム4WD用ECVT	
■ 構成部品	(注1 P.315)
■ 整備要領	(注1 P.315)
3-4 ドライブシステム&アクスル	
[1] フロントアクスル(2WD)	
■ 準備品	41
■ 構成部品	41
■ 整備要領	(注1 P.317)
[2] フロントアクスル(4WD)	
■ 準備品	(注1 P.322)
■ 構成部品	(注1 P.323)
■ 整備要領	(注1 P.324)
[3] リアアクスル	
■ 準備品	(注1 P.331)
■ 構成部品	(注1 P.331)
■ 整備要領	(注1 P.332)
[4] フロント&リアアクスルシャフト	
■ 準備品	(注1 P.337)
■ 構成部品	(注1 P.337)
■ 整備要領	42
[5] プロペラシャフト(4WD)	
■ 準備品	(注1 P.347)
■ 整備要領	(注1 P.347)
[6] フロントディファレンシャル(4WD)	
■ 準備品	(注1 P.348)
■ 構成部品	(注1 P.349)
■ 整備要領	(注1 P.350)

■ 主要変更点

1. NA・フルタイム4WD車の新設により、クラッチの仕様一覧表訂正。
2. NA・フルタイム4WD車の新設により、マニュアルトランスミッションの仕様一覧表訂正。
3. TW60型(セレクトイブ4WD車)の構成部品図に於いて、デフベベルピニオン4個を2個に変更。
4. TY60型(フルタイム4WD車)の構成部品図に於いて、強制2WDスイッチ廃止により訂正。
5. 強制2WDスイッチ廃止に伴い、整備要領に於いて、強制2WDスイッチの行を削除。
6. NA・ECVT(2WD車)の新設に伴い、仕様一覧表変更。
7. ECVTのアクセルスイッチ&アクセル開度スイッチの点検・調整要領一部追記。
8. セレクタケーブル調整要領新製。
9. ECVTの変速特性図NA車新製追加。
10. ECVT油圧特性図NA車新製追加。
11. ドライブシステム&アクスルの構成部品図中ワッシャ廃止。
12. ピッチングストッパ全車廃止。

■ 準備品

S T	49827 5800	フライホイール ストップ	フライホイール回り止め
	89975 4112	スナップリング プレス	パイロット ベアリング圧入
	49974 5400	クラッチディスク ガイド	NA車/TM60SC車のクラッチディスク芯出し
	49974 5500	クラッチディスク ガイド	TW/TY60 SC車のクラッチディスク芯出し
	39879 1700	ストレートピン リムーバ2	クラッチレリーズレバーCPの脱着
計 器	—	ダイヤル ゲージ	クラッチディスクの振れ測定
油 脂 その他	—	FX2200クラッチグリース	メーンシャフト スプライン部塗付
	—	ユニループ#2 相当品	その他の指定個所塗布

■ 仕様

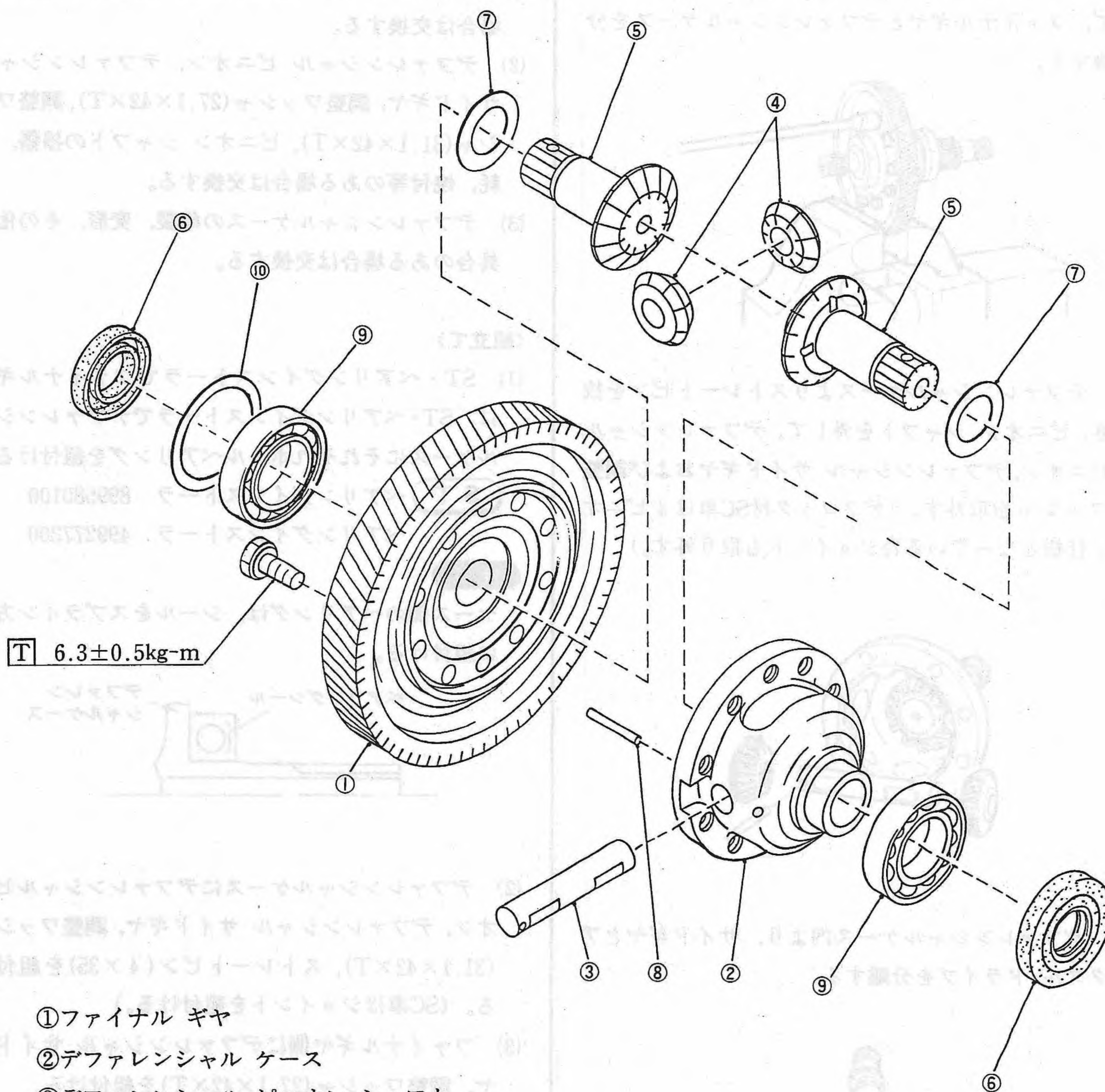
エンジン形式		EN07			
トランスミッション型式		2WD車 (NA車)	← (SC車)	4WD車 (NA車)	← (SC車)
		TM601AC	TM601AB	TW601BA TY601CA	TW601BB TY601CB
クラッチ	タイプ	乾式, 単板, ダイアフラム式	←	←	←
	コントロール	機械操作式	←	←	←
クラッチ・ペダル	タイプ	吊り下げ式	←	←	←
	ペダル比	4.5	←	←	←
	全ストローク (mm)	115~120	130~135	115~120	130~135
クラッチ・カバー	タイプ	プッシュ方式	←	←	←
	取付け荷重 (kg)	190	210	←	←
クラッチ・ディスク	フェーシング寸法 [外径×内径×厚さ (mm)]	160×125×3.5	180×125×3.5	←	←
	全摩擦面積 (cm ²)	106	131	←	←
	スプライン歯数	23	←	←	←
	自由時厚さ (mm)	8.35±0.4	←	←	←
	材質	ウーブン(非石綿材)	←	←	←

〔1〕 仕様

		2WD車(TM60系)		セレクトティブ4WD車(TW60系)				フルタイム4WD車(TY60系)	
トランスミッション方式		NA車	SC車	NA車	SC車	NA車	SC車	NA車	SC車
		—	—	— フリーホイール アクスル装着車	— ←	デフロック装着車 デフロック及びフリー ホイールアクスル	デフロック 装着車	ビスカス 装着車	←
トランスミッション型式		TM601AC1AA	TM601AB1AA	TW601BA2AA TW601BA2CA	TW601BB2AA TW601BB2CA	TW601BA2BA TW601BA2DA	TW601BB2BA	TY601CA1AA	TY601CB2AA
コントロール方式		フロア・シフト	←	←	←	←	←	←	←
操 作 方 式		ケーブル式	←	←	←	←	←	←	←
ギヤシフト方式		常時嚙合式& 選択摺動式	←	←	←	←	←	←	←
変 速 比	EL	—	—	5.888	←	←	←	←	←
	1st	4.090	←	←	←	←	←	←	←
	2nd	2.470	←	←	←	←	←	←	←
	3rd	1.615	←	←	←	←	←	←	←
	4th	1.125	←	←	←	←	←	←	←
	5th	0.861	←	←	←	←	←	←	←
	後退	4.166	←	5.866	←	←	←	←	←
トランスファギヤ比		—	—	0.269	0.270	0.269	0.270	0.269	0.270
ファイナルギヤ比		6.500	6.166	6.500	6.166	6.500	6.166	6.500	6.166
使用ギヤオイル	タイプ	純正ギヤオイル	←	←	←	←	←	←	←
	量(交換時)	1.9ℓ (1.8ℓ)	←	2.2ℓ (2.0ℓ)	←	2.3ℓ (2.1ℓ)	←	2.4ℓ (2.2ℓ)	←
備 考				・ 5thギヤ比SCと共用 (0.914→0.861) ・ Revギヤ比変更 (5.746→5.866)	・ Revギヤ比変更 (5.746→5.866)	・ 5thギヤ比SCと共用 (0.914→0.861) ・ Revギヤ比変更 (5.746→5.866)	・ Revギヤ比変更 (5.746→5.866)	・ 新設	・ Revギヤ比変更 (5.746→5.866)

〔 7 〕 TW60型(セレクトティブ 4 WD用) ■ 構成部品

デファレンシャル



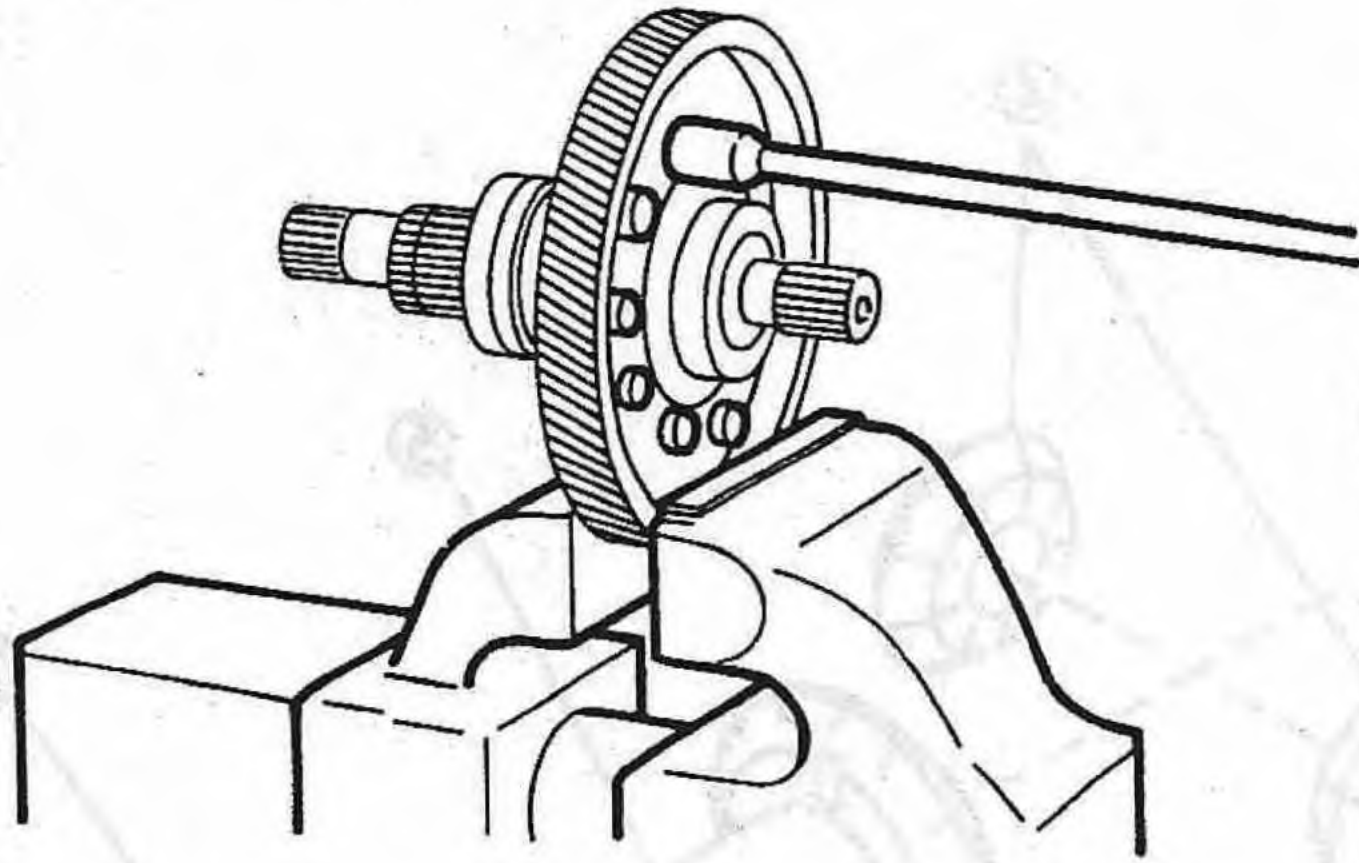
- ①ファイナル ギヤ
- ②デファレンシャル ケース
- ③デファレンシャル ピニオン シャフト
- ④デファレンシャル ベベル ピニオン
- ⑤デファレンシャル サイド ギア
- ⑥オイル シール
- ⑦調整 ワッシャ
- ⑧ストレート ピン
- ⑨ボールベアリング
- ⑩ワッシャ

■整備要領 (3) デファレンシャルASSY(デフロック装着車含む)

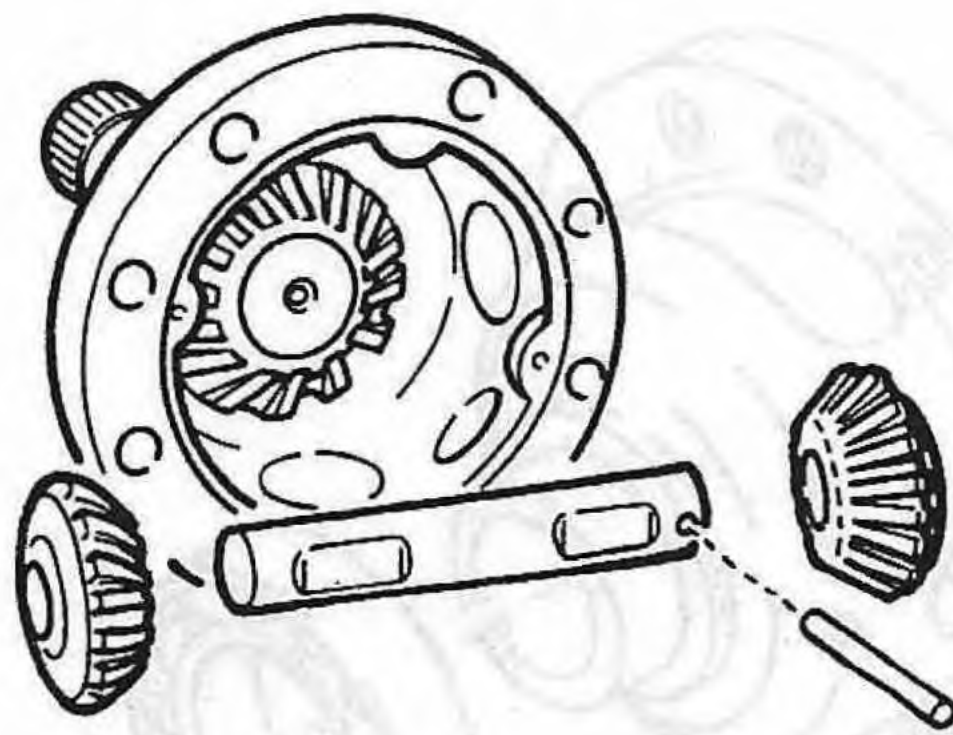
分解・点検・組立て

〈分解〉

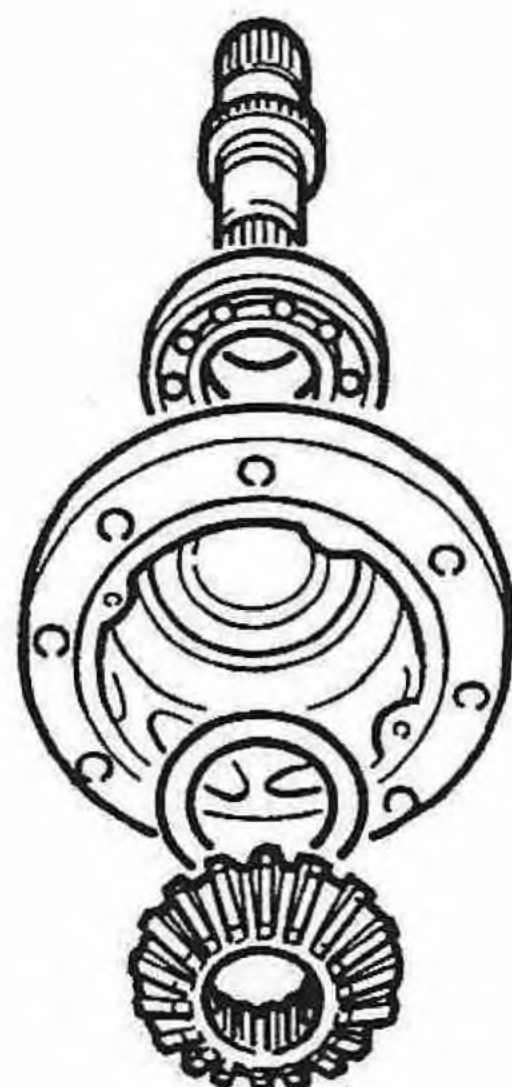
- (1) 万力等で固定し、ボルト 8 本(SC車は10本)を外して、ファイナルギヤとデファレンシャルケースを分離する。



- (2) デファレンシャルケースよりストレートピンを抜き、ピニオン シャフトを外して、デファレンシャル ピニオン、デファレンシャル サイドギヤおよび調整ワッシャを取外す。(デフロック付SC車は4 ピニオン仕様となっている為ジョイントも取り外す。)



- (3) デファレンシャルケース内より、サイドギヤとアクスル ドライブを分離する。



〈点検〉

- (1) ファイナルギヤの歯面に損傷、過度の摩耗がある場合は交換する。
- (2) デファレンシャル ピニオン、デファレンシャル サイドギヤ、調整ワッシャ(27.1×42×T)、調整ワッシャ(31.1×42×T)、ピニオン シャフトの損傷、摩耗、焼付等のある場合は交換する。
- (3) デファレンシャルケースの亀裂、変形、その他不具合のある場合は交換する。

〈組立て〉

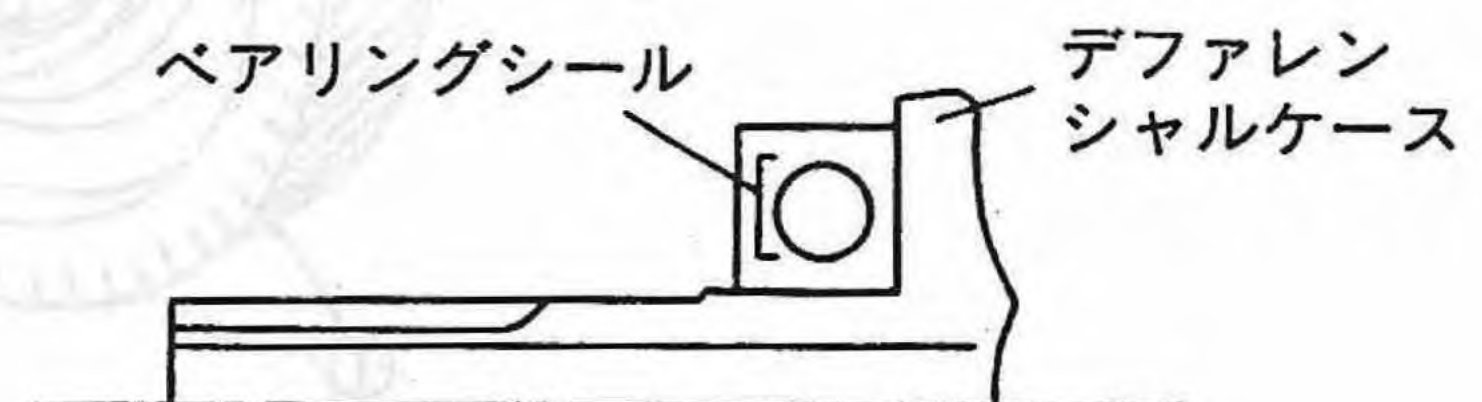
- (1) ST・ベアリングインストーラでファイナルギヤに、ST・ベアリングインストーラでデファレンシャルケースにそれぞれボールベアリングを組付ける。

ST ベアリングインストーラ 899580100

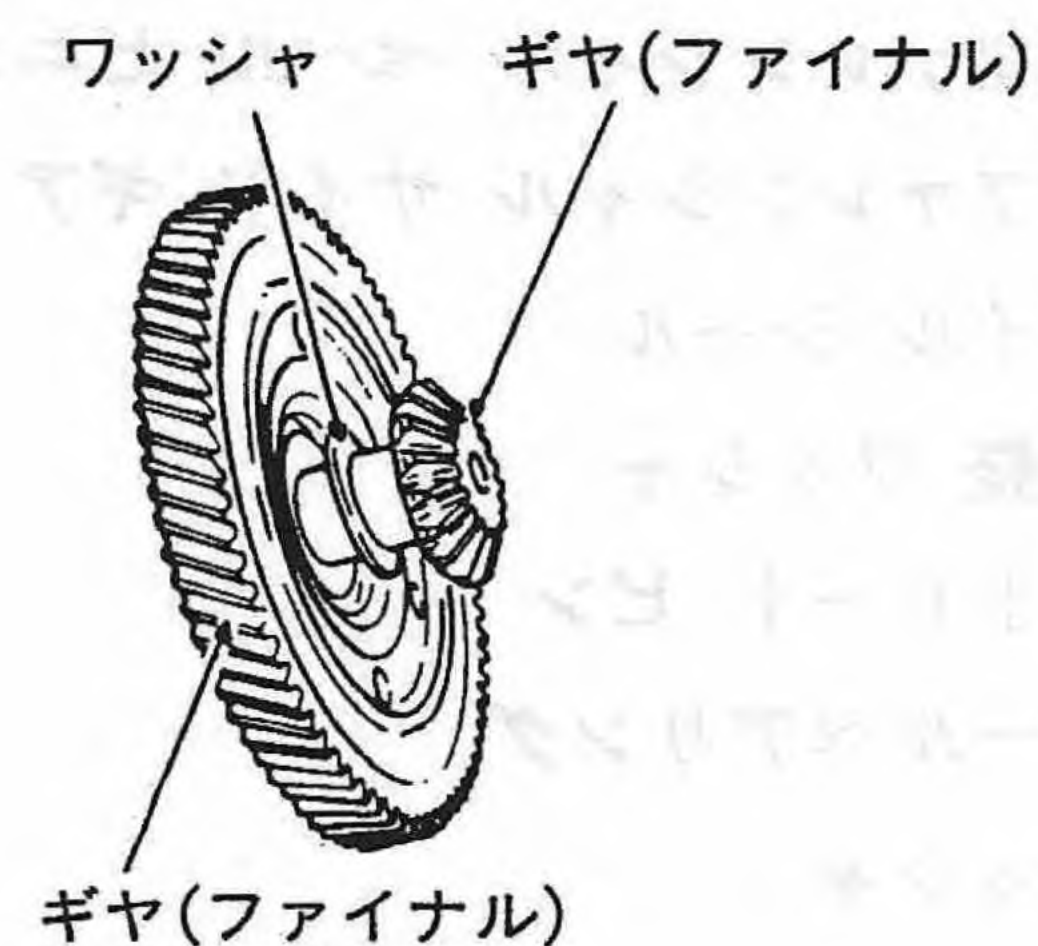
ベアリングインストーラ 499277200

注意

ケース側のベアリングは、シールをスプライン方向に組付ける。



- (2) デファレンシャルケースにデファレンシャルピニオン、デファレンシャル サイドギヤ、調整ワッシャ(31.1×42×T)、ストレートピン(4×35)を組付ける。(SC車はジョイントを組付ける。)
- (3) ファイナルギヤ側にデファレンシャル サイドギヤ、調整ワッシャ(27.1×42×T)を組付ける。



〔 8 〕 TY60型(フルタイム 4 WD用)

■ 構成部品

— トランスファ —

①スリーブ(強制 2 WD 切換クラッチ)

②スナップ リング

③ワッシャ

④トランスファ ドリブン ギヤ

⑤ブッシュ

⑥ハブ

⑦トランスファ シャフト

⑧ウッドラフキー

⑨アンギュラ ベ어링

⑩ロック ワッシャ

⑪ロック ナット

⑫Oリング

⑬ガスケット

⑭トランスファ シフト フォーク

⑮トランスファ シフト ロッド

⑯トランスファ サイド カバー

⑰スプリング ピン

⑱トランスファ カバー-CP

⑲ガスケット

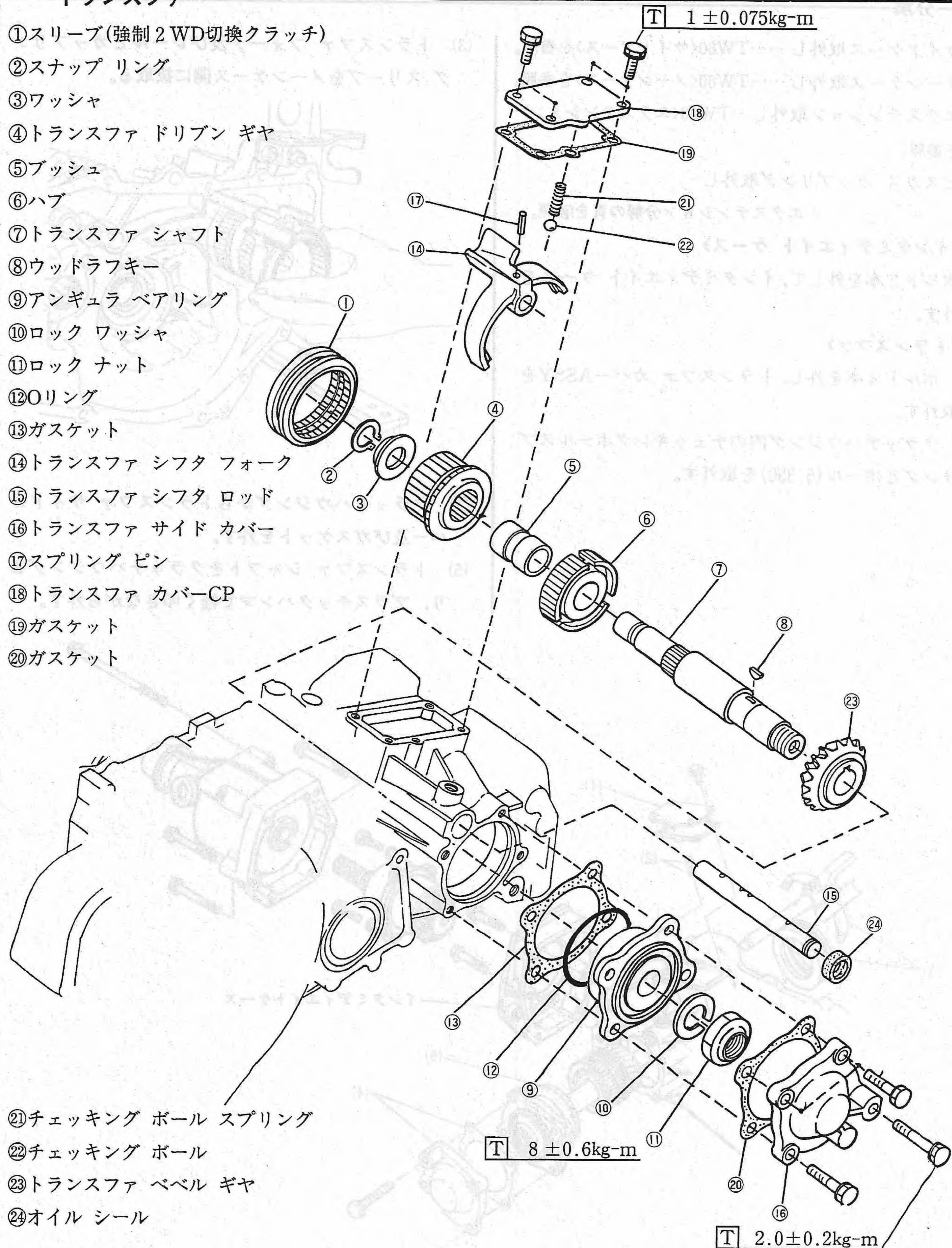
⑳ガスケット

㉑チェック ボール スプリング

㉒チェック ボール

㉓トランスファ ベベル ギヤ

㉔オイル シール



■整備要領 (1) トランスミッション本体

分解

サイドケース取外し……TW60<サイドケース>を参照。
メインケース取外し……TW60<メインケース>を参照。
エクステンション取外し…TW60<エクステンション>
を参照。

ビスカス カップリング取外し

…エクステンション分解の頁を参照。

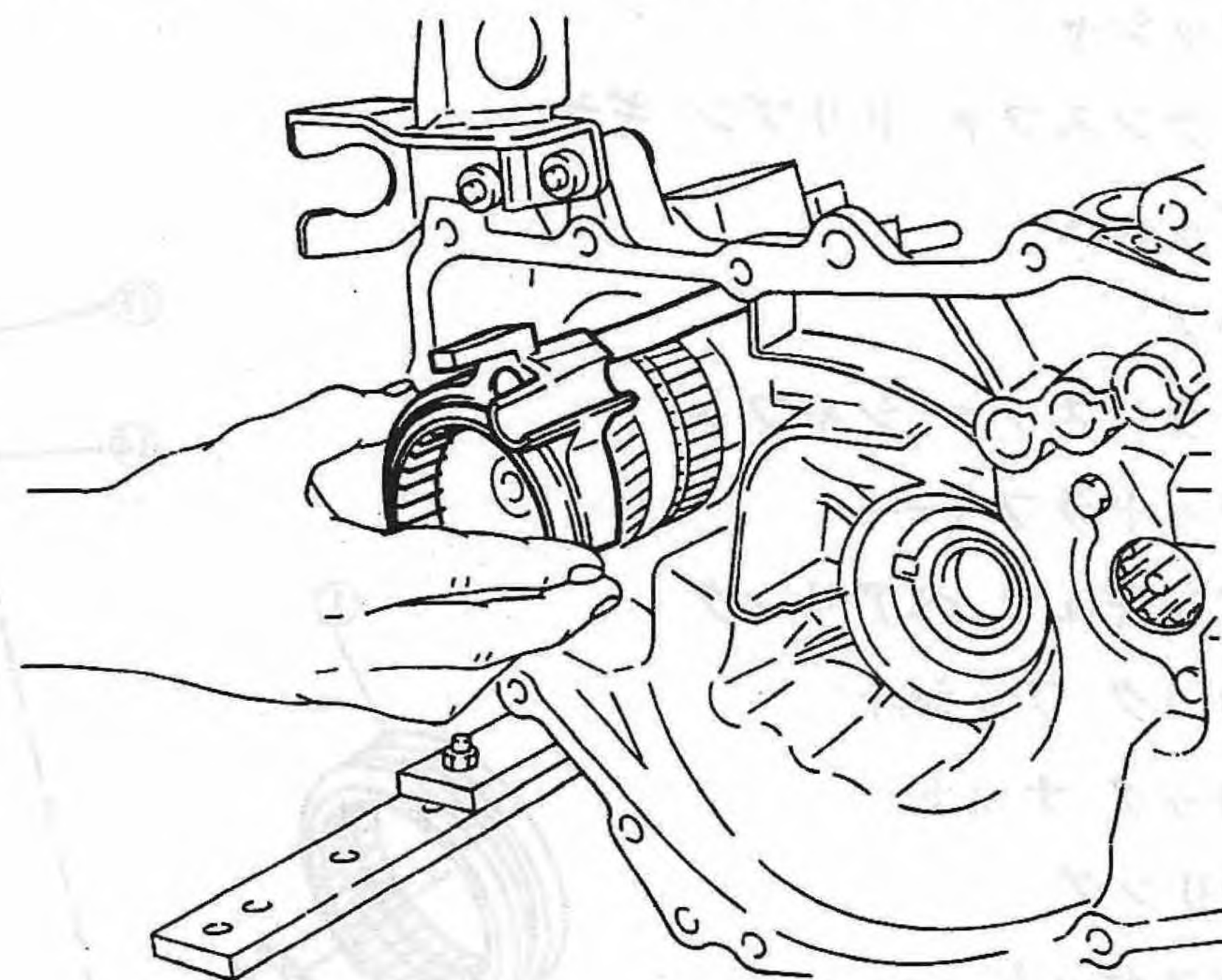
＜インタミディエイト ケース＞

ボルト 2 本を外して、インタミディエイト ケースを
外す。

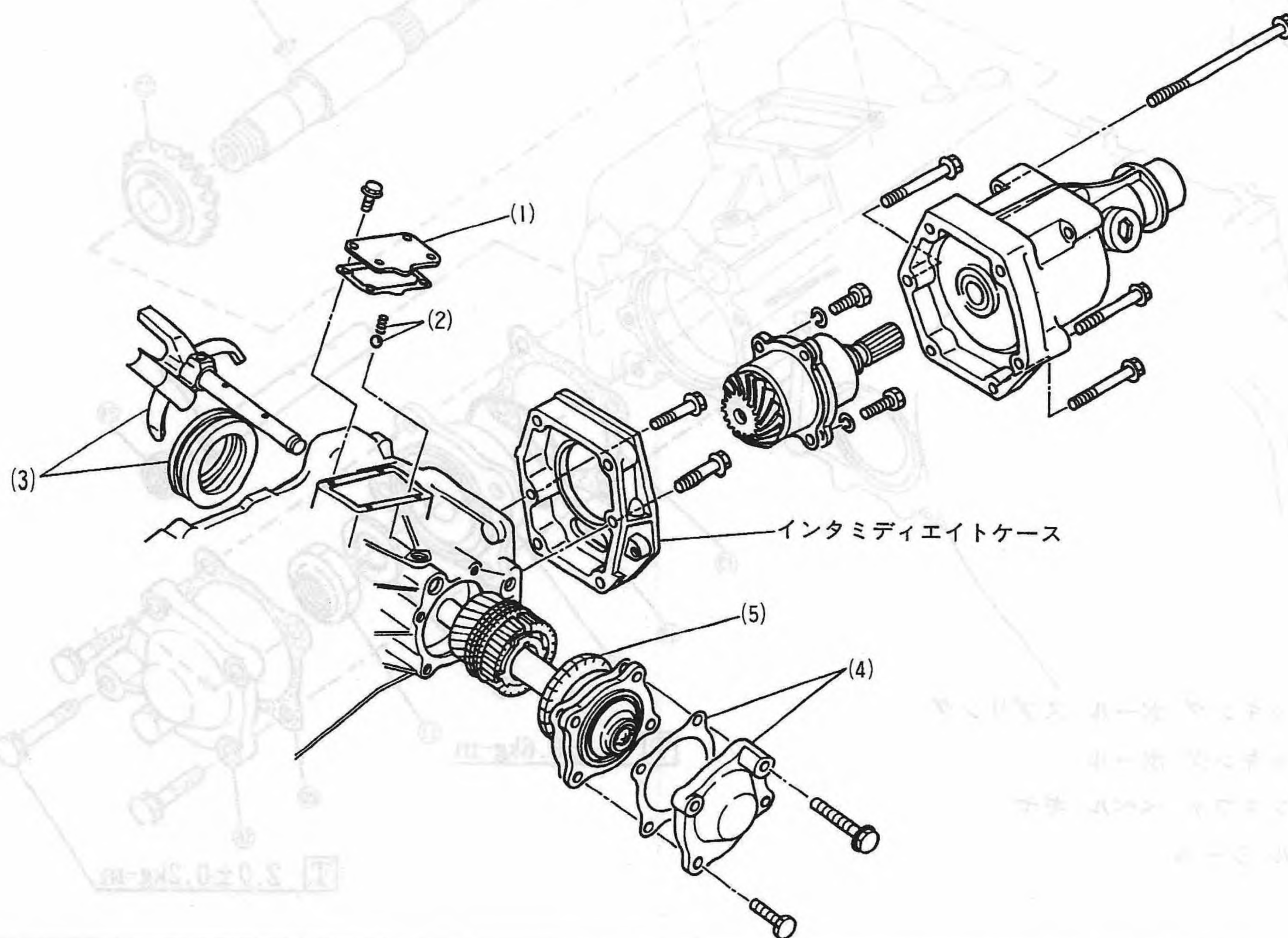
＜トランスファ＞

- (1) ボルト 4 本を外し、トランスファ カバーASSYを
取外す。
- (2) クラッチハウジング内のチェックボールスプ
リングとボール(6.350)を取外す。

- (3) トランスファ フォーク及びレールとカップリン
グ スリーブをメインケース側に抜取る。



- (4) クラッチハウジングからトランスファ サイドカ
バー及びガasketを外す。
- (5) トランスファ シャフトをクラッチハウジングよ
り、プラスチックハンマで軽く叩きながら外す。



〔1〕仕 様 ■ 主要諸元

項 目			車 種		2 WD		4 WD		
					(NA車)	(SC車)	(SC車のみ)		
電 磁 ク ラ ッ チ	型 式			ダンパ内蔵コイル回転式					
	定格トルク／消費電流 (kg-m/A)			7.8/3.0		11.6/3.5			
	消費電力 (W)			26.7		31			
	電磁粉量 (g)			44		52			
	重 量			5.2		6.5			
	制御方法			マイクロコンピュータ制御					
ト ラ ン ス ミ ッ シ ヨ ン	型 式			TB401NA1AA		TB401NB3AA		TT401PB3AA	
	前進・後退切換機構			シンクロメッシュ式ドッグクラッチ					
	オイルポンプ	型 式		外歯式インボリュートギヤポンプ					
		駆動方式		エンジン直結駆動					
	変速比(プーリ比)	前 進		2.503↔0.497					
		後 退		2.503					
	減速比	プライマリ	前進	1.414		1.203			
		リダクション	後進	1.384		1.178			
		セカンダリリダクション		1.615					
		ファイナル		5.384					
	セレクト機構	方 式		ケーブルによるダイレクトシフト					
		位 置		P : 出力軸固定, エンジン始動可能 R : 後退 N : 変速機中立, エンジン始動可能 D : 前進, 無段自動変速 Ds : 前進, 無段自動変速(スポーティレンジ, エンジンブレーキ)					
	スピードメータギヤ比			5.000					
ト ラ ン ス フ ァ	減速比	ヘリカルギヤ		—		0.271			
		ベベルギヤ		—		0.947			
使 用 オ イ ル	潤滑方式			オイルポンプによる強制圧送					
	指定オイル			スバルECVTフルード					
	油 量 (ℓ)			2.7～3.0		3.9～4.2			
	冷却方式			オイルクーラ					

〔2〕 車上点検

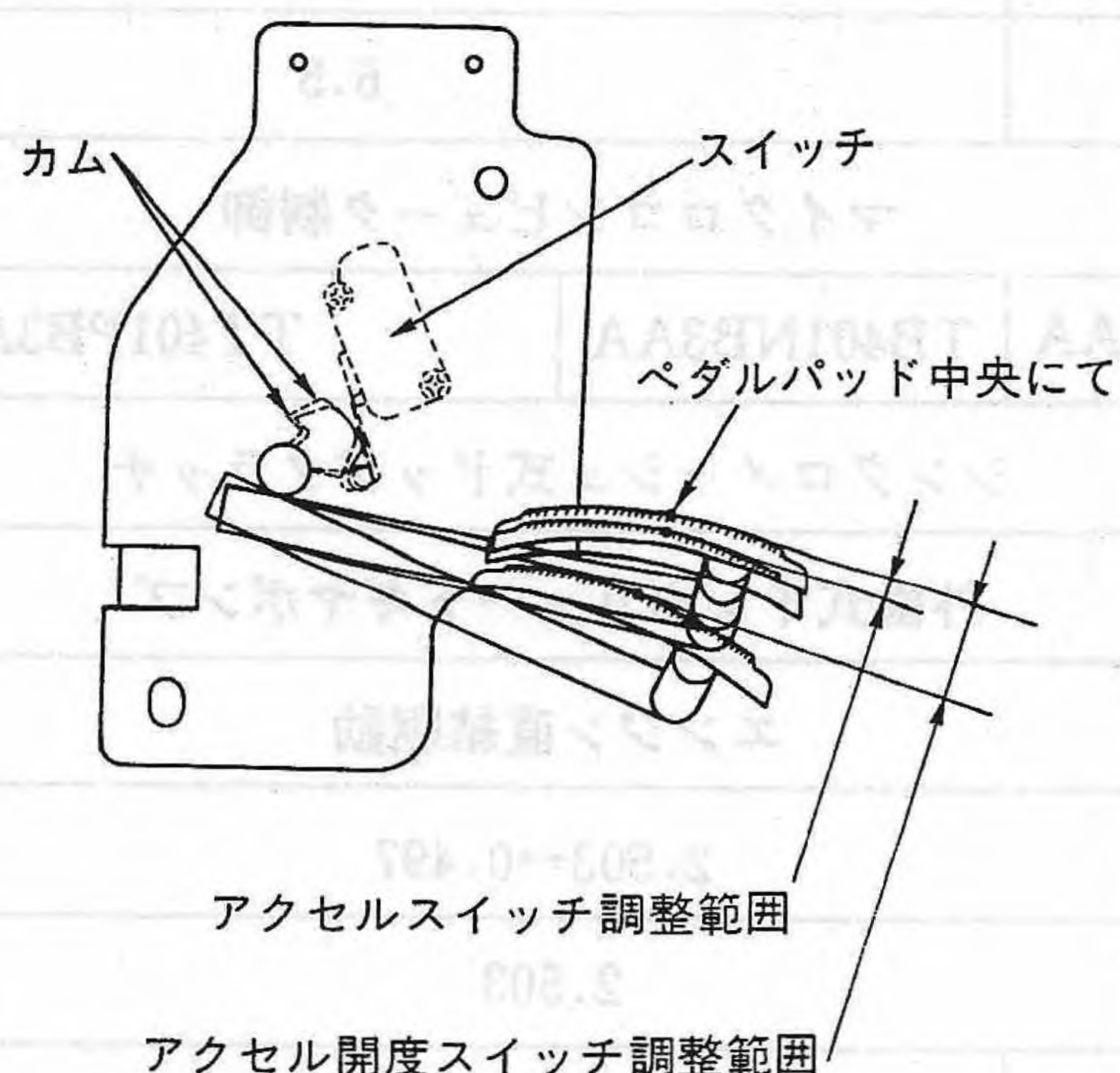
—アクセル スイッチ&アクセル開度スイッチの点検・調整—

- (1) アクセルスイッチがペダルのストローク 4 ± 2 mm でON→OFFになるか点検する。

注意

この時エンジン回数はアイドリング状態であること。

- (2) アクセル開度スイッチがペダルのストローク 16.6 ± 2 mm でON→OFFになるか点検する。

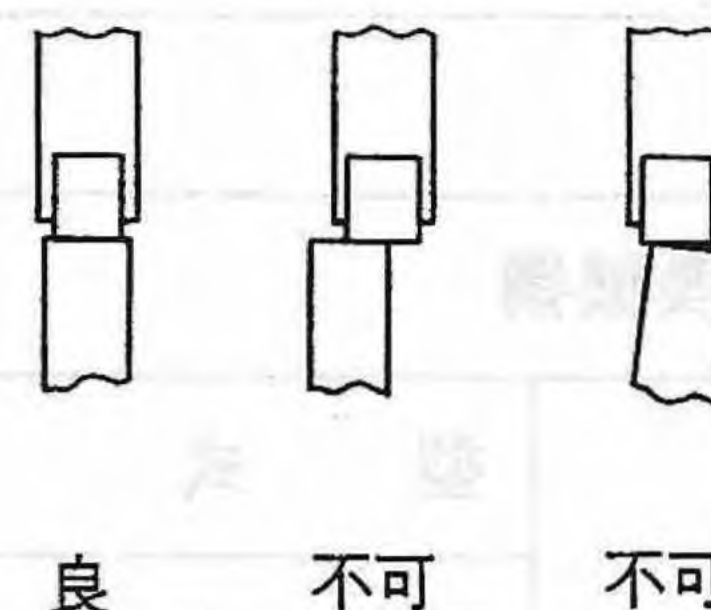


- (3) 作動点がペダルストロークの基準範囲外にある時は、スイッチASSYのカム位置によって調整する。

注意

スイッチ作動時、スイッチのレバーがスイッチ本体と接触しないこと。

- (4) カムとスイッチのローラとが、ローラの全幅で接触していることを確認する。



注意

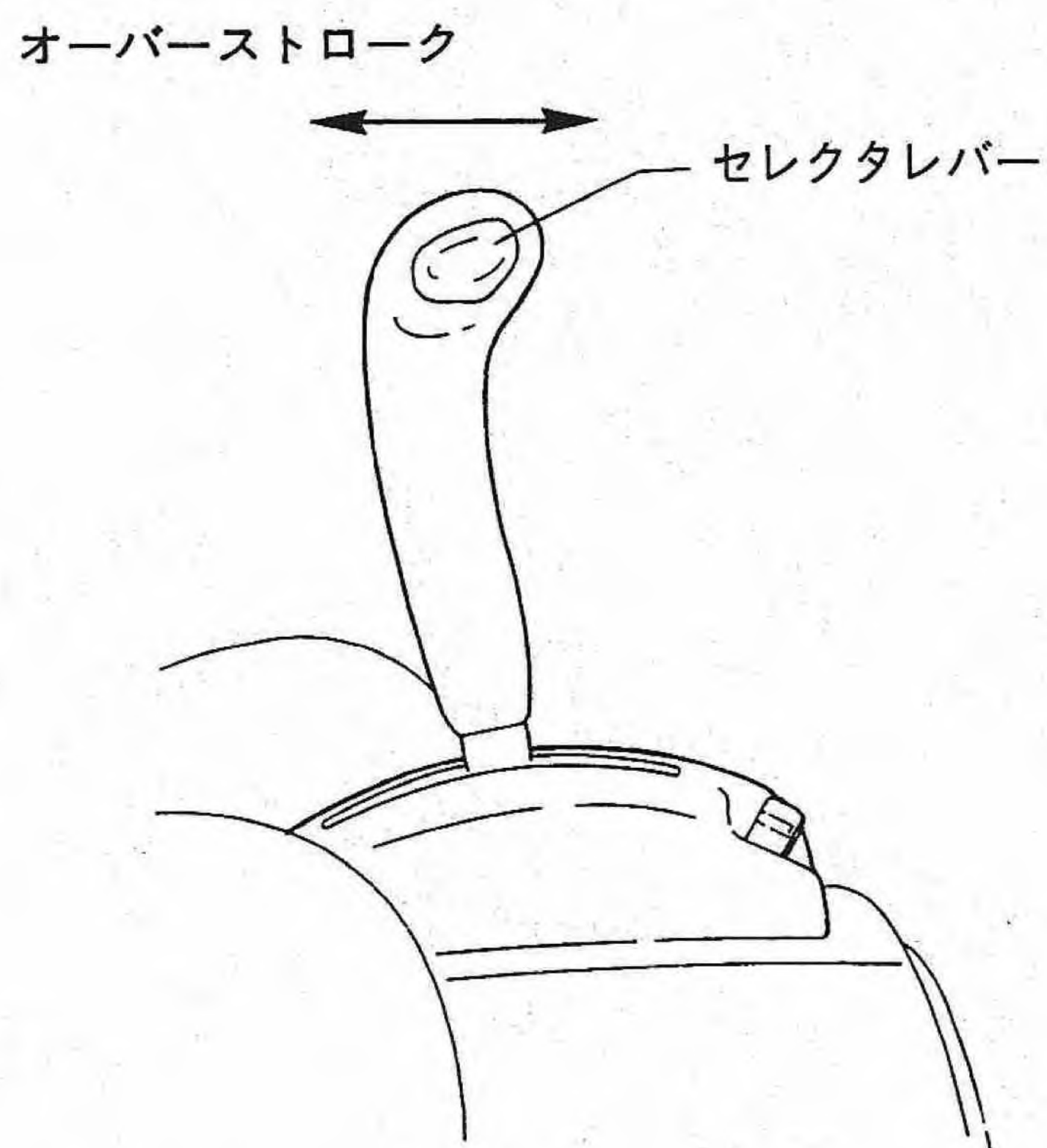
アクセルスイッチの作動点が基準値内に有る時、スロットルバルブが必ず全閉状態になることを確認する。(スロットルが開き始める前にアクセルスイッチが作動すること)

セレクト ケーブル

<点検>

- (1) セレクトレバーをNレンジにセットして、プッシュボタンを押さずにRレンジ側に押した時のグリップ頂上のオーバーストローク量を点検する。

基準値	1 ~ 5 mm
-----	----------



- (2) セレクトレバーをDレンジにセットして、プッシュボタンを押さずにD_sレンジ側に押した時のグリップ頂上のオーバーストローク量を点検する。

基準値	1 ~ 5 mm
-----	----------

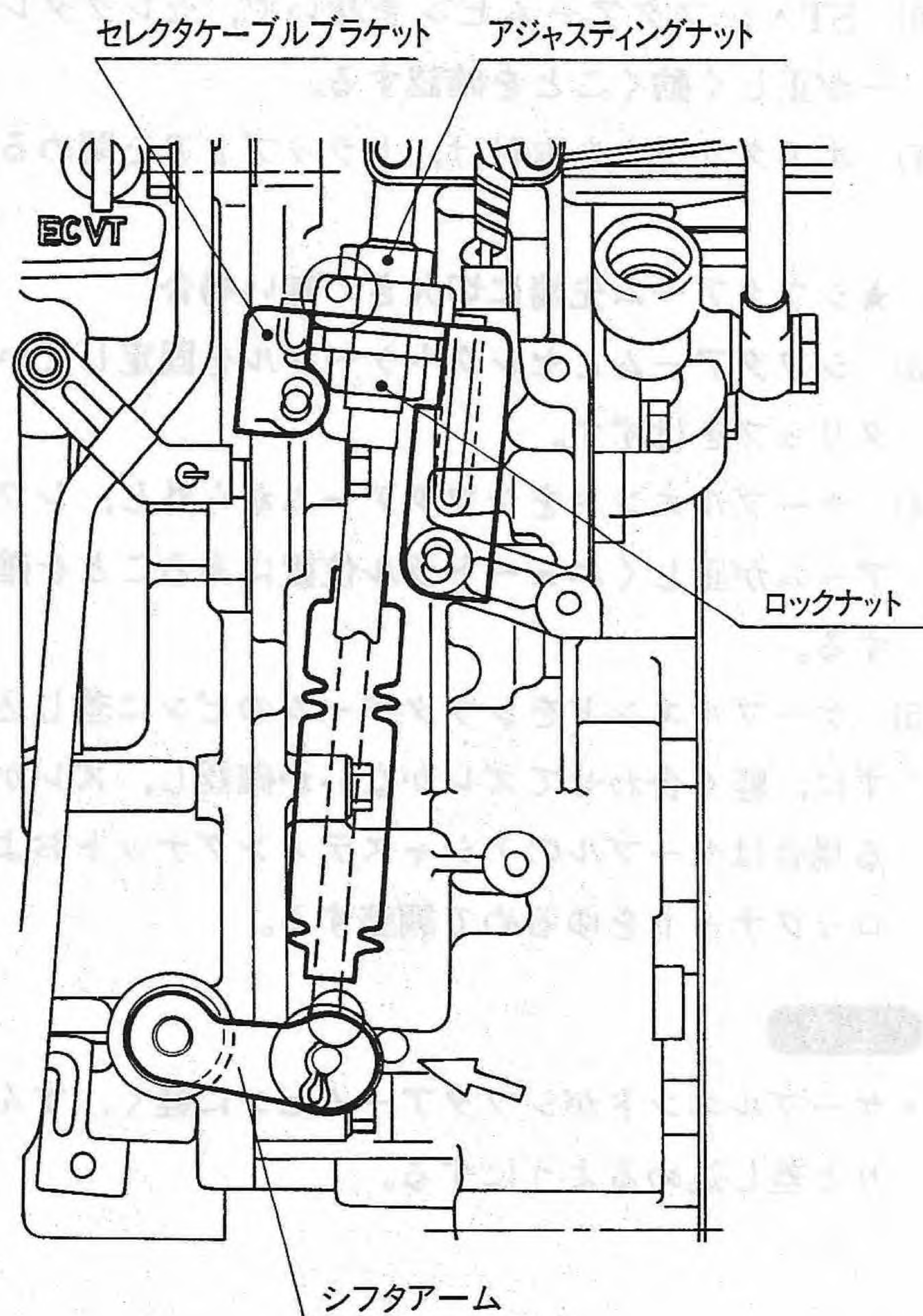
注意

- (1), (2), どちらか一方でも基準値から外れている場合には調整を行うこと。

<調整>

- (1) セレクトレバーをNレンジ位置にしておく。
- (2) トラップドアを開け、エアクリーナを取り外す。
- (3) トランスミッションのシフターム先端切欠き部 (図の≡印部) にST・シフタームピンを立て、ケース側ボス穴に固定する。(シフターム先端に切欠きの無いもの次頁参照)

ST 498085900 シフタームピン



- (4) セレクトケーブルをトランスミッションに取付けているブラケットのボルト2本を取りはずす。
- (5) セレクトケーブルブラケットの取付けボルト穴は、前後方向に長穴になっているので、トランスミッション側のネジ穴がその長穴の範囲内にある場合はその位置でブラケットをボルト2本で固定する。

締付トルク 1.5±0.4kg-m

<注記>

- ①トランスミッション側ネジ穴がブラケットの長穴より前後にずれている場合は、ケーブルのアジャ

スティングナットおよびロックナットをゆるめ、ネジ穴が長穴の範囲内に入るように調整し直し、ブラケットもその位置で締付け固定する。

ロックナット締付トルク 3.0~3.5kg-m

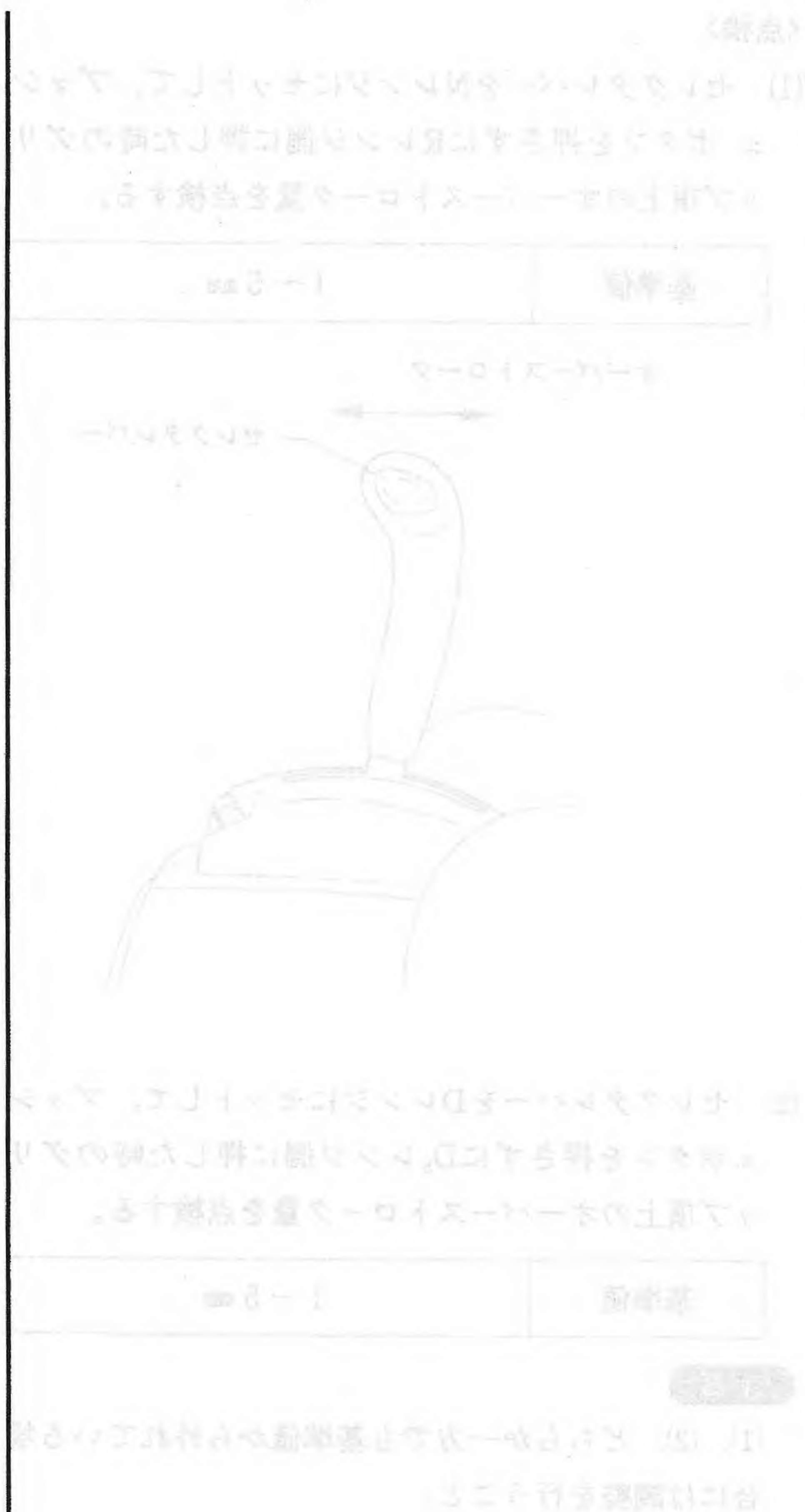
- ②作業中にケーブルを強く押ししたり、引いたりしないこと。
- ③セレクトレバーが正しくNレンジ位置にあることをもう一度確認しておくこと。
- (6) ST・シフタームピンを抜いて、セレクトレバーが正しく動くことを確認する。
- (7) エアクリーナを取付け、トラップドアを閉める。

★シフターム先端に切欠きの無い場合

- (3) シフタームとセレクトケーブルを固定しているクリップをはずす。
- (4) ケーブルエンドをシフタームから外し、シフタームが正しくニュートラル位置にあることを確認する。
- (5) ケーブルエンドをシフタームのピンに差し込まずに、軽く合わせてズレがないか確認し、ズレがある場合はケーブルのアジャスティングナットおよびロックナットをゆるめて調整する。

注意

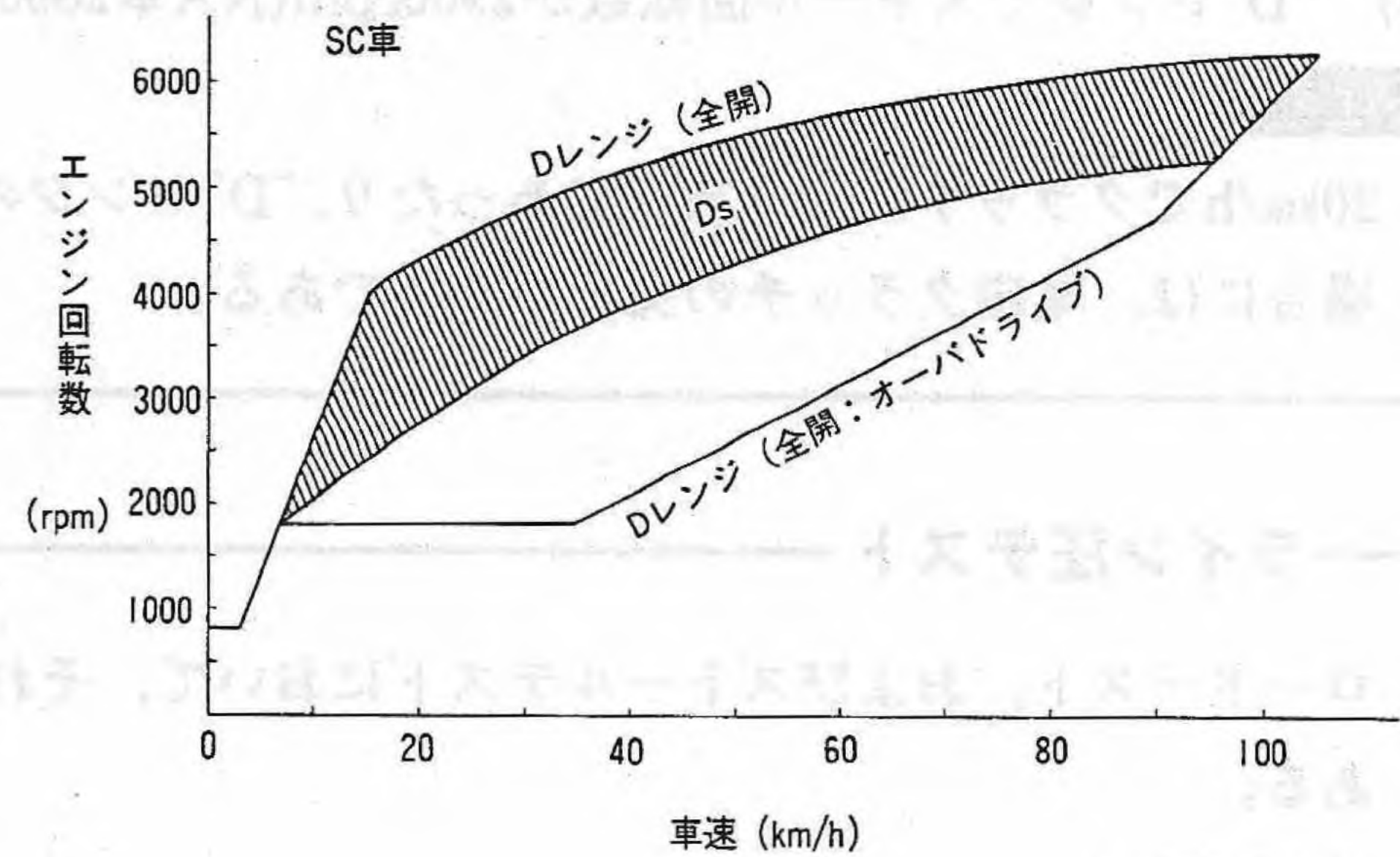
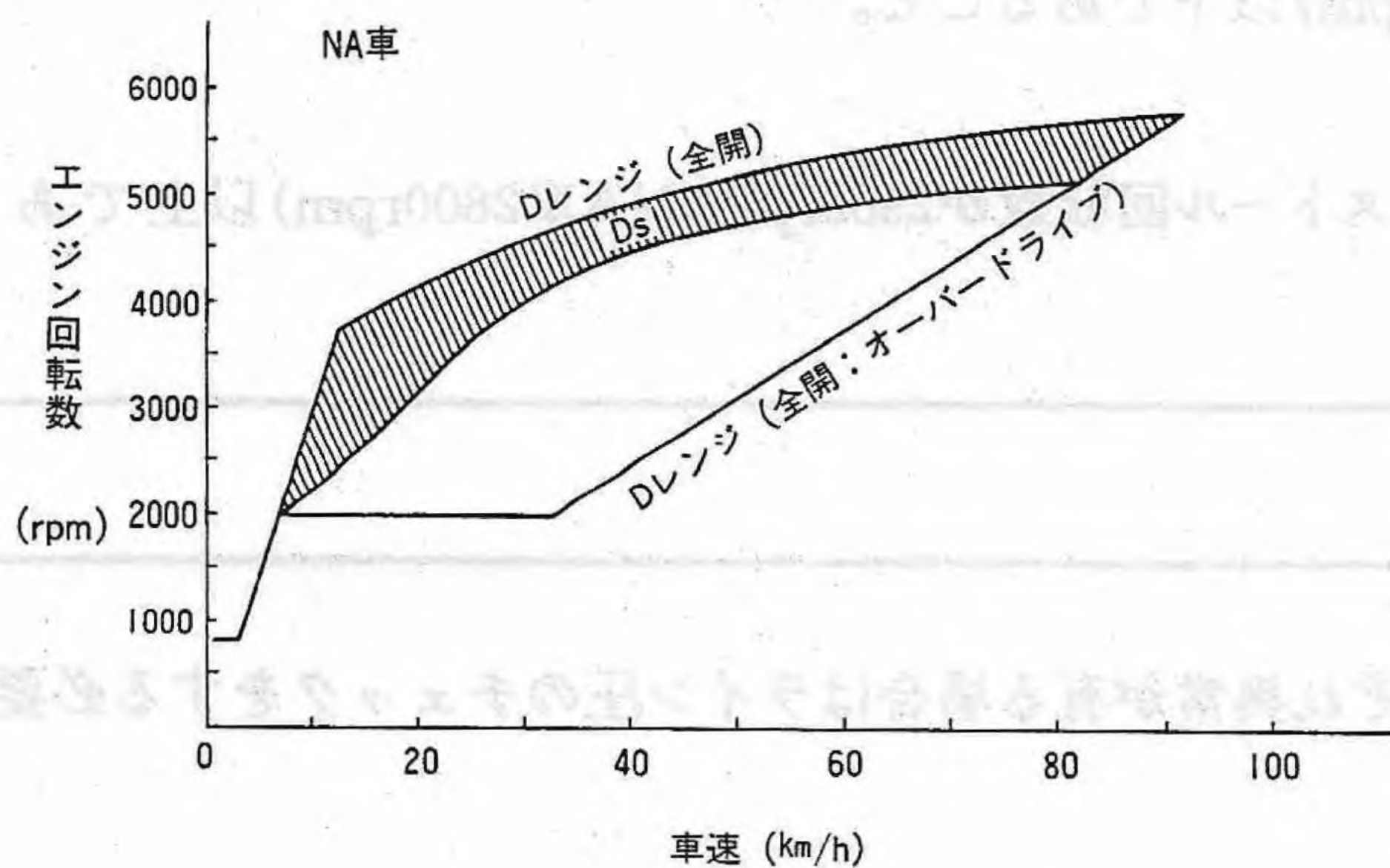
- ケーブルエンドがシフタームピンに軽く、すんなりと差し込めるようにする。



ロード テスト

“D”, および“Ds”レンジでの変速特性を点検し, 電磁クラッチ, またベルト&プーリの作動や滑り等について点検する。

〈変速特性図〉



ストール テスト

“D”レンジにおいて, ストール状態のエンジン回転数を測定することにより, ECVT内部のベルト&プーリ, および電磁クラッチ等の作用, またエンジン出力の良否を診断する方法である。

〈テストの方法〉

〈注意〉

テストは, エンジンオイル, クーラント, ECVTフルードについて点検し, 十分に暖機運転を行った後に開始する。

- (1) コンビネーションメータにタコメータが付いていない車種については, エンジン回転計を運転席から見える所に設置する。
- (2) 全輪に輪止めをして, さらにパーキングブレーキを掛ける。
- (3) エンジンを始動し, セレクタレバーを“D”レンジに入れる。
- (4) 左足でフットブレーキを強く踏んだまま, アクセルペダルをゆっくりと全開まで踏込む。
- (5) エンジンが一定回転で安定したら, その回転数(ストール回転数)を素早く(5秒以内に)読みとり, アクセルペダルから足を離す。
- (6) セレクタレバーを“N”レンジに入れ, アイドリング状態で1分以上エンジンを動かし続ける。

ストール回転数 (rPm)	NA車	2200~2800
	SC車	2300~2900

クラッチの点検

- (1) アイドリング状態で電磁クラッチから異音がしないか点検する。

注意

異音がする場合はクラッチベアリングを点検し、必要によっては交換すること。

- (2) アクセルペダルを軽く踏んで、車両がスムーズに発進するか点検する。
- (3) 車速が20km/h以上の状態で急加速した場合、クラッチが直結になることを確認する。
- (4) “D”レンジでストール回転数が2900rpm(NA車2800rpm)以下であること。

注意

20km/hでクラッチが滑り放しであったり、“D”レンジのストール回転数が2900rpm(NA車2800rpm)以上である場合には、電磁クラッチの交換が必要である。

ライン圧テスト

ロードテスト、およびストールテストにおいて、それぞれ異常が有る場合はライン圧のチェックをする必要がある。

〈測定方法〉

- (1) サイドケースの圧力取出プラグを取外す。
- (2) 圧力取出口にプレッシャゲージアダプタを取付け、オイルプレッシャゲージに結ぐ。

S T

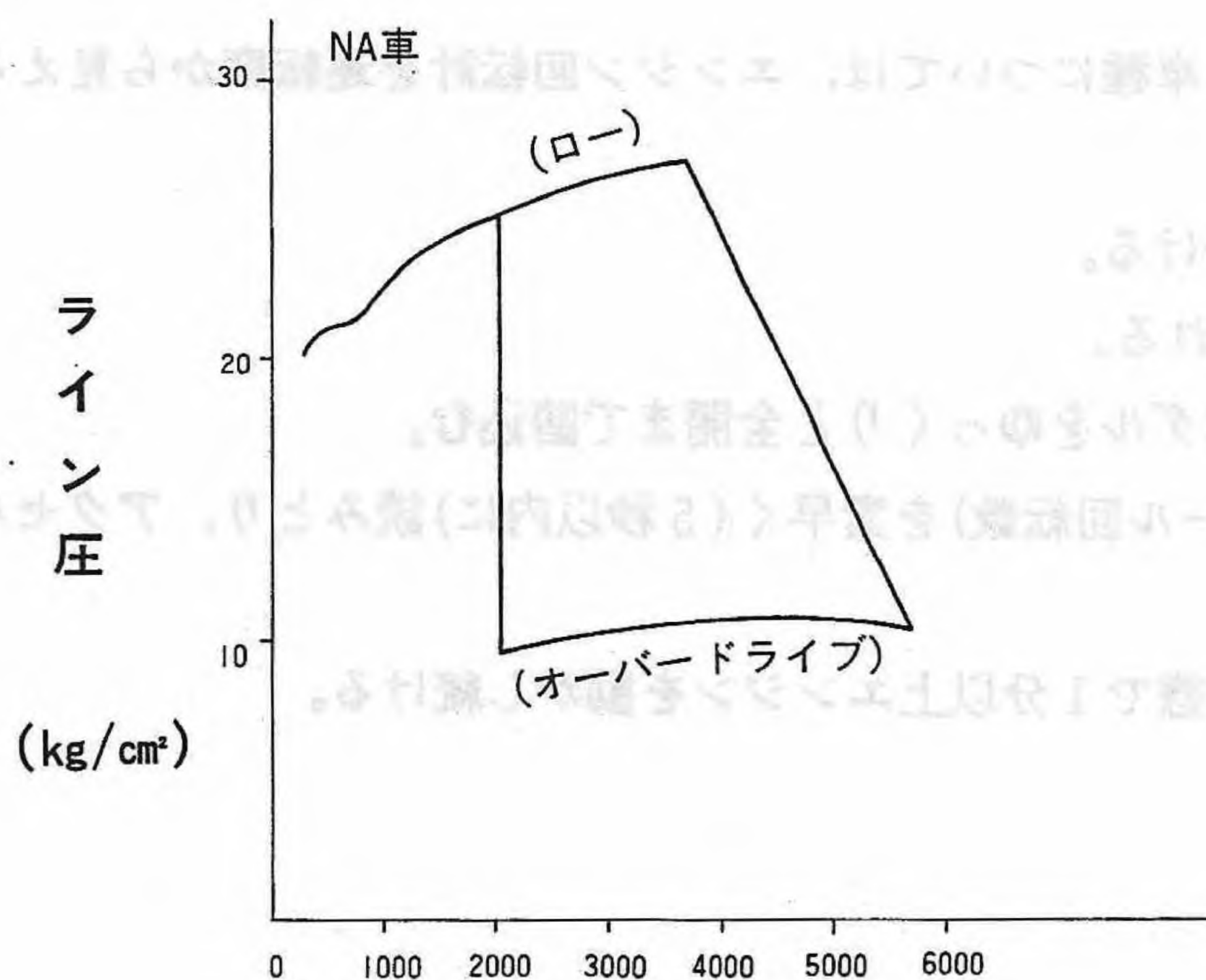
498575400 オイルプレッシャゲージ

498895400 プレッシャゲージアダプタ

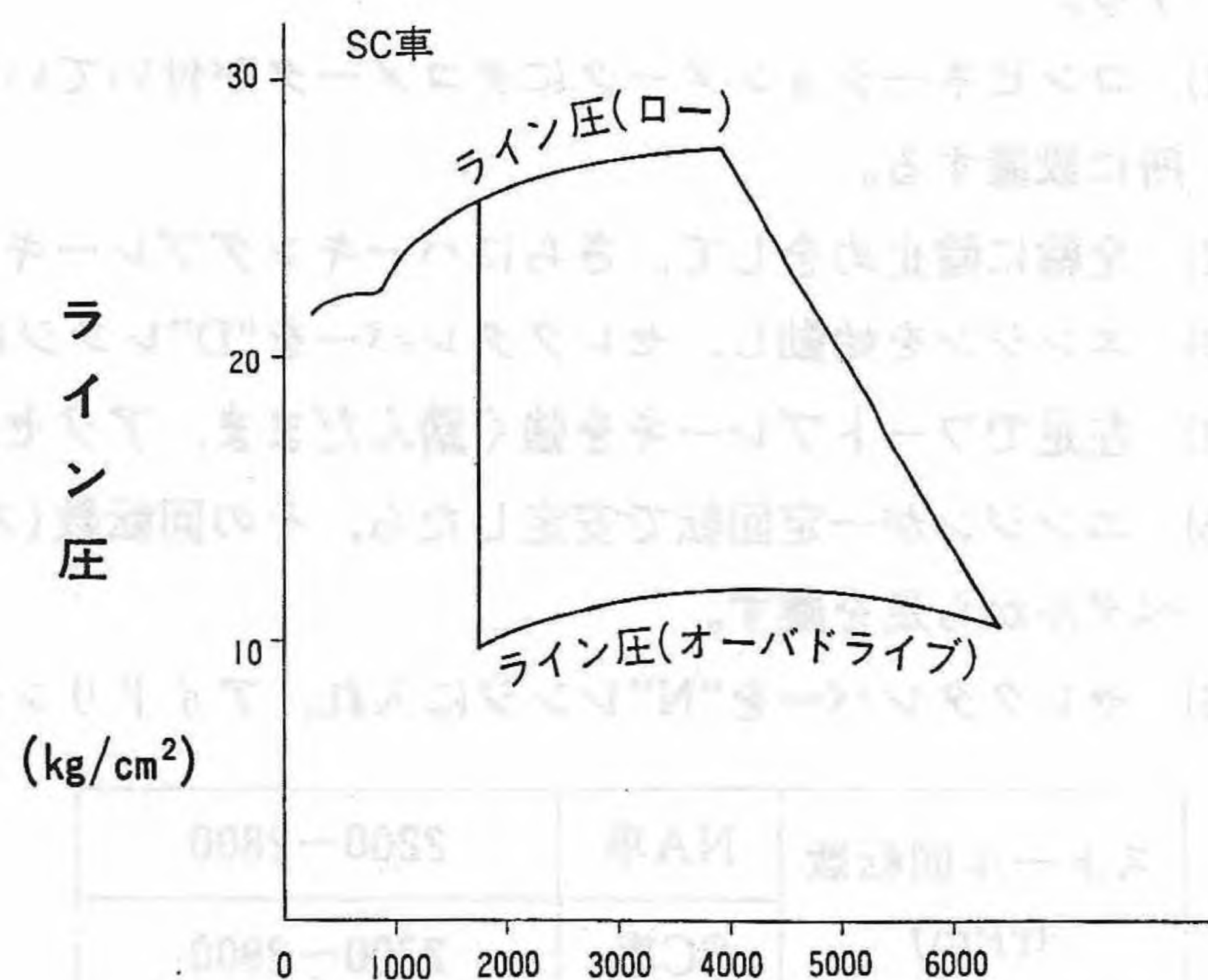
- (3) エンジンを始動し、セレクトレバーを“D”レンジに入れ、アイドリング状態でのライン圧を測定する。

基準値	SC車	22kg/cm ² 以上	NA車	21kg/cm ² 以上
-----	-----	-------------------------	-----	-------------------------

〈油圧特性〉



エンジン回転数 (r.p.m)

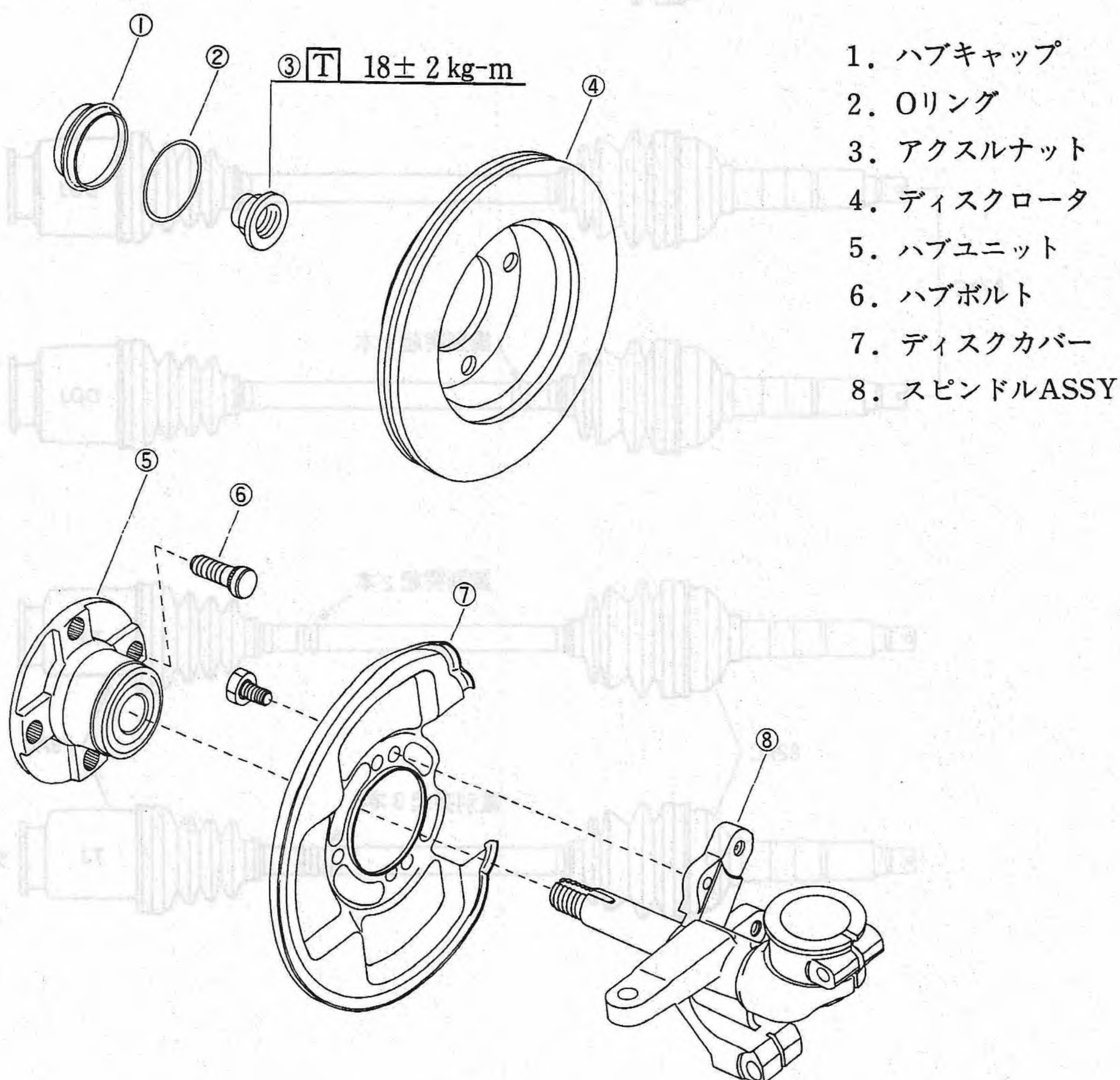


エンジン回転数 (r.p.m)

〔1〕フロント アクスル(2WD) ■ 準備品

ST	927080000	ハブスタンド	ハブボルトの交換
	92263000	スペーサ	ハブボルトの交換
工具	—	ハブキャッププライヤ	ハブキャップ取外し
計器	—	マグネットスタンド, ダイヤルゲージ	ベアリングの軸方向の遊び測定
油脂 その他	—	シェル6459N	ベアリング&オイルシール潤滑

■ 構成部品

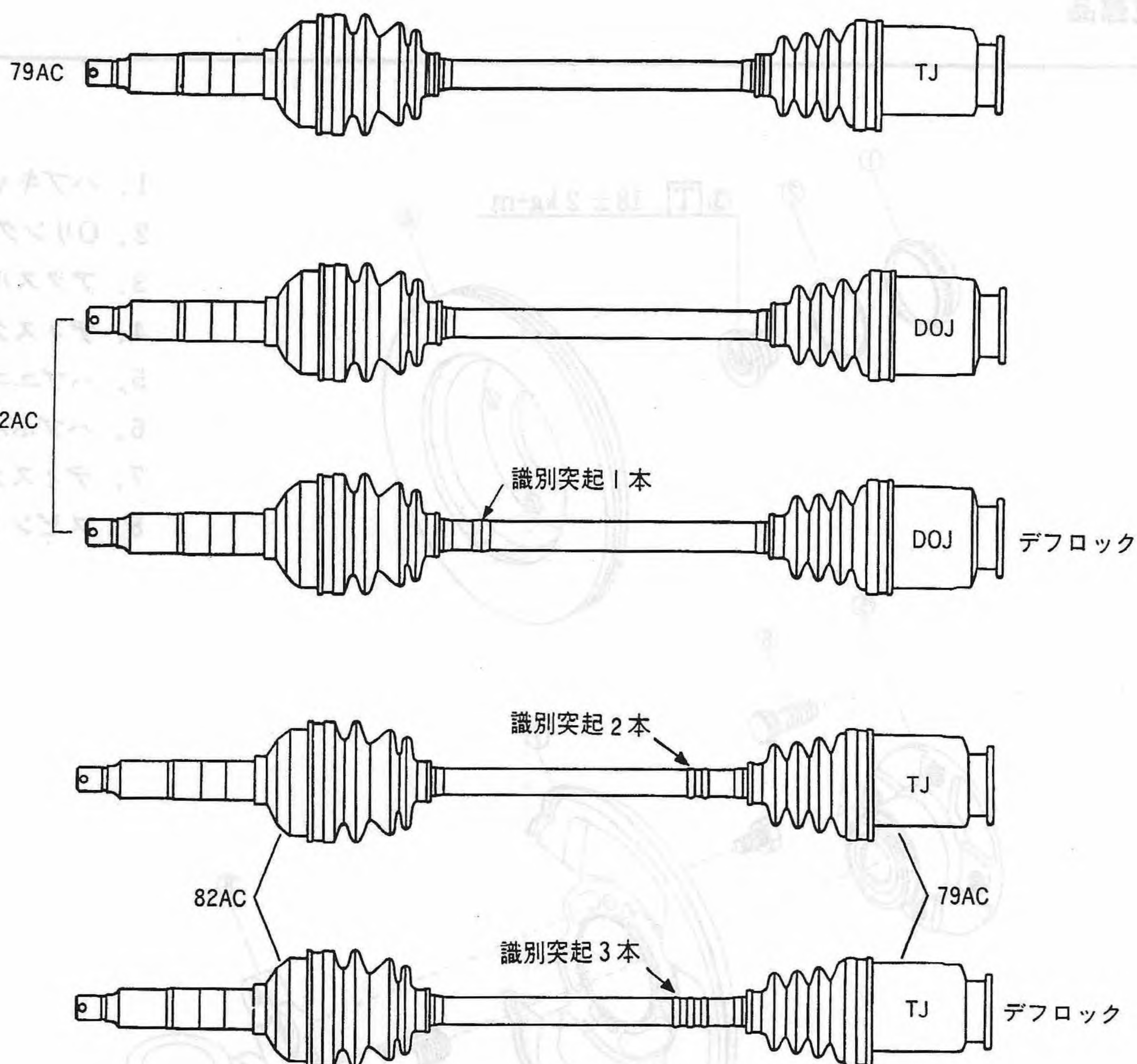


〔4〕フロント&リヤアクスルシャフト ■ 整備要領

点検

取外した部品は摩耗、損傷、はく離等を点検し、異常があれば交換する。

- (1) DOJ……………摩耗、損傷、はく離、過大がた。
- (2) TJ……………摩耗、損傷、はく離、過大がた。
- (3) シャフト……………曲がり、ねじれ、摩耗、損傷。
- (4) BJ……………損傷、はく離、過大がた。
- (5) ブーツ……………摩耗、変形、破れ、傷付き。
- (5) グリース……………変色、液化。



4 シャシ

■ 主要変更点	44	4-4 タイヤ&ホイール	
4-1 サスペンション		[1] タイヤ&ディスクホイール	
■ 仕様	45	■ 仕様	57
■ 準備品	(注3 P.3)	■ 整備要領	
■ 構成部品	46	(1) ホイールASSY	57
■ 車上点検	(注3 P.6)	(2) ホイールバランス	58
■ 整備要領		(3) タイヤ	58
(1) フロント ストラット	(注3 P.9)	[2] 空気圧	58
(2) トランスバースリンク	(注3 P.12)	[3] タイヤチェーン	59
(3) フロントスタビライザ	(注3 P.14)	[4] ホイール キャップ	
(4) フロントクロスメンバ	(注3 P.15)	■ 仕様	59
(5) リア ショック アブソーバ	(注3 P.17)	■ 整備要領	60
(6) コイル スプリングASSY	(注3 P.18)	[5] スペアタイヤ	60
(7) トレーリング アーム	(注3 P.19)	4-5 ペダル&ケーブルシステム	
4-2 ステアリング		[1] ペダル	(注3 P.68)
■ 主要諸元	48	■ 整備要領	
■ トラブルシューティング	(注3 P.22)	(1) ブレーキ&クラッチケーブル	(注3 P.68)
■ 準備品	(注3 P.23)	(2) アクセルペダル	(注3 P.71)
■ 構成部品	49	[2] ケーブル	
■ 整備要領		■ 整備要領	
(1) ステアリング シャフト	51	(1) アクセルケーブル	(注3 P.73)
(2) ステアリング ギヤボックス(VGR)	53	(2) スピード メータ ケーブル	(注3 P.74)
(3) センタ レバー&ドラッグ リンク	(注3 P.36)	4-6 エンジンマウンティング システム	
(4) タイロッド	(注3 P.38)	[1] MT車	61
4-3 ブレーキ		[2] ECVT車	62
■ 仕様	(注3 P.40)		
■ トラブルシューティング	(注3 P.41)		
■ 車上点検	56		
■ 準備品	(注3 P.46)		
■ 整備要領			
(1) マスタ シリンダ	(注3 P.46)		
(2) ブレーキ ブースタ	(注3 P.49)		
(3) フロントディスクブレーキ	(注3 P.51)		
(4) リア ドラム ブレーキ	(注3 P.56)		
(5) パーキング ブレーキ	(注3 P.61)		
(6) イナーシャ プロポーショニング バルブ (Gバルブ)	(注3 P.62)		
(7) ブレーキ ホース&パイプ	(注3 P.63)		

■ 主要変更点

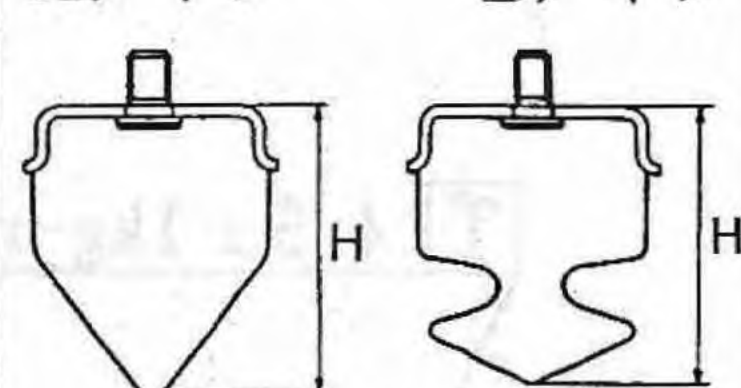
1. サスペンション仕様一部変更。
2. サスペンション構成部品図一部変更。(フロント, リヤ)
3. ステアリングに電動パワステ追加に伴い, 主要諸元, 構成図, 整備要領を追記する。
4. ステアリングギヤボックスの組立て図中, 識別色追記。
5. ステアリングギヤボックスの組立て要領一部変更。
6. タイヤ&ホイール仕様一部変更。
7. タイヤ&ホイールの整備要領一部変更。
8. エンジンマウンティングシステム構成図一部変更。

仕様

項目				車種	トラック				パネルバン		バン				トライ				備考
					2WD		4WD		2WD	4WD	2WD		4WD		2WD		4WD		
					NA	SC	NA	SC	NA		NA	SC	NA	SC	NA	SC	NA	SC	
バネ仕様	フロントサスペンション	コイルスプリング	ばね定数 (kg/mm)	3.5				4.5				2.8							
		ダンパストラット	減衰力	0.1m/s	50/25				75/35				50/25、55/30						
			[伸び/縮み]	0.3m/s	130/40				150/50				130/40、140/45						
		コイルスプリング	ばね定数 (kg/mm)	50								40							
		スタビライザ	形式	中実・トーションパー				—				中実・トーションパー							
			外形 (mm)	φ18				—				φ21							
	リアサスペンション	コイルスプリング	ばね定数 (kg/mm)	6.5				6.0				4.5							
		ショックアブソーバ	最大長 (mm)	444															
			最小長 (mm)	278															
			ばね定数 (kg/mm)																
			減衰力	0.1m/s	48/23				←										
			[伸び/縮み]	0.3m/s	78/38				←										
		ヘルパ	高さ: H (mm)	70								65.5							
			形状	Cタイプ				Aタイプ				Bタイプ							

ヘルパ形状

Aタイプ Bタイプ



Cタイプ

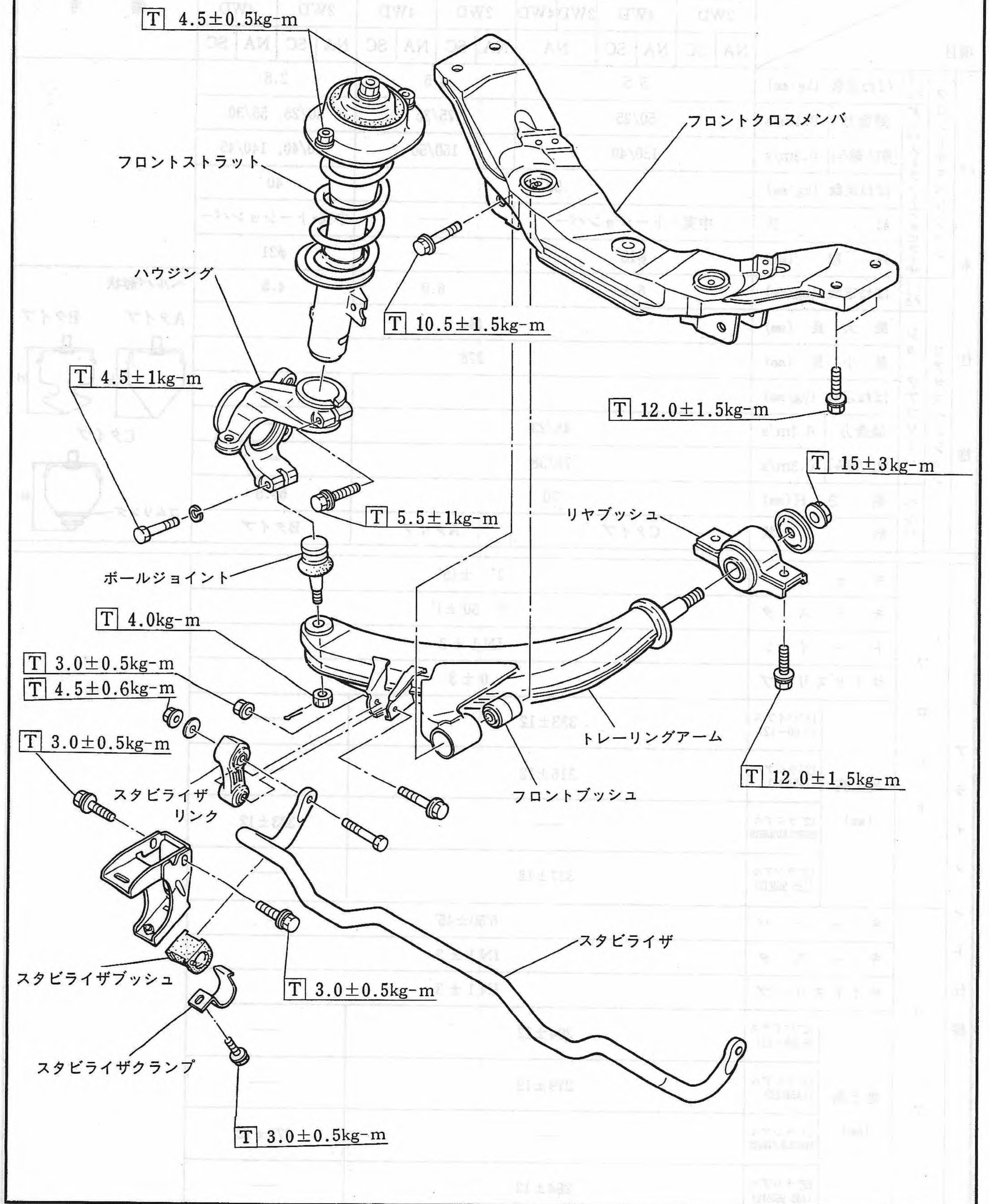


ゴムリング

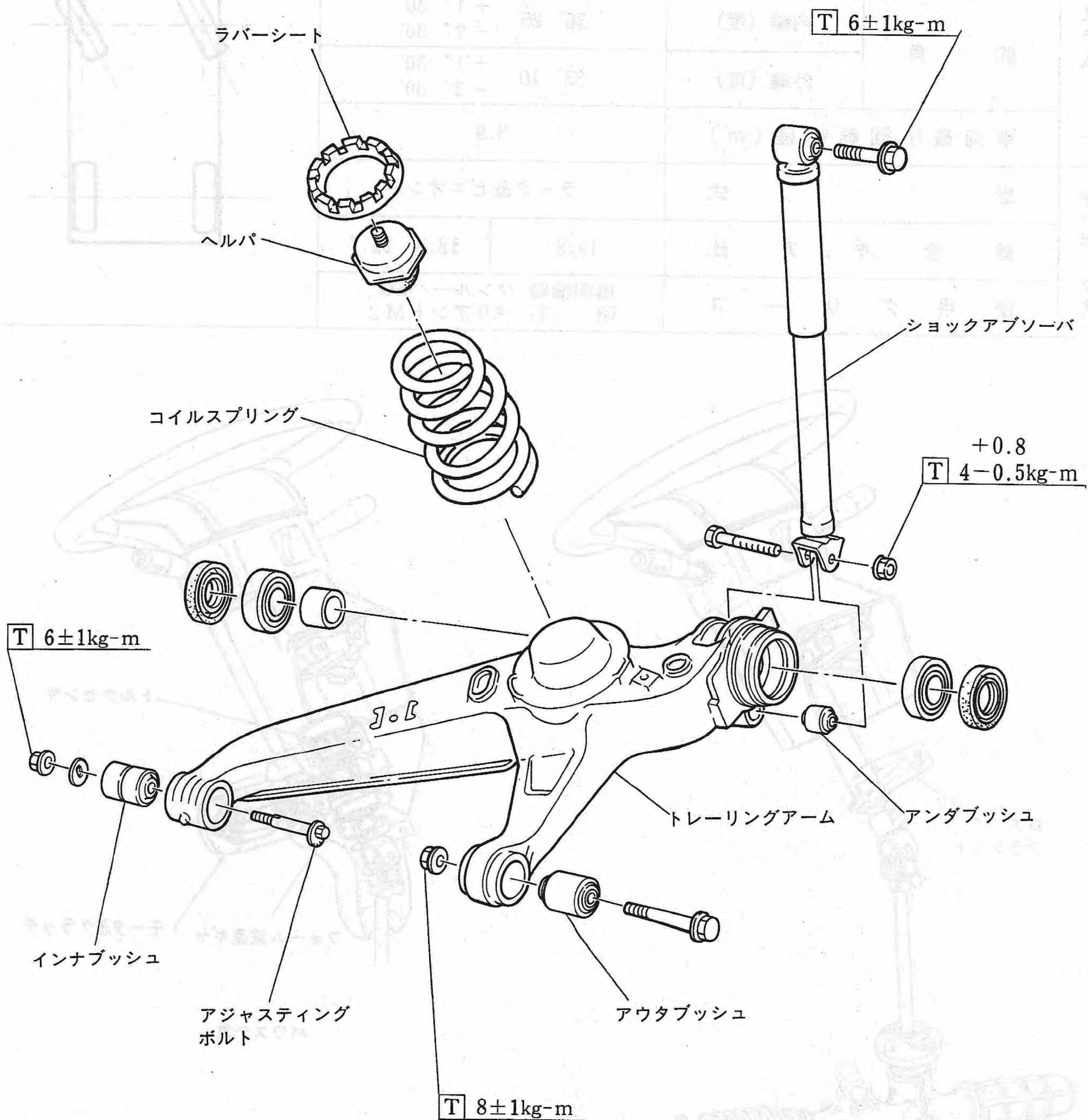
アライトメン仕様	フロント	キャンバ		1° ±45'											
		キャスト		3° 50'±1°											
		トーイン		IN 1 ± 3											
		サイドスリップ		0 ± 3											
		地上高 (mm)	12"バイアス (5.00-12)	333±12								—			
			12"ラジアル (145R12)	316±12								—			
			12"ラジアル (155SR12、及び145SR12)	—								323±12			
			12"ラジアル (135 95R12)	327±12								—			
	リア	キャンバ		0'50±45'											
		キャスト		IN 1 ± 3											
		サイドスリップ		IN 1 ± 3											
		地上高 (mm)	12"バイアス (5.00-12)	294±12								—			
			12"ラジアル (145R12)	279±12								—			
			12"ラジアル (155SR12、及び145SR12)	—								277±12			
12"ラジアル (135 95R12)	294±12								—						

■ 構成部品

フロントサスペンション



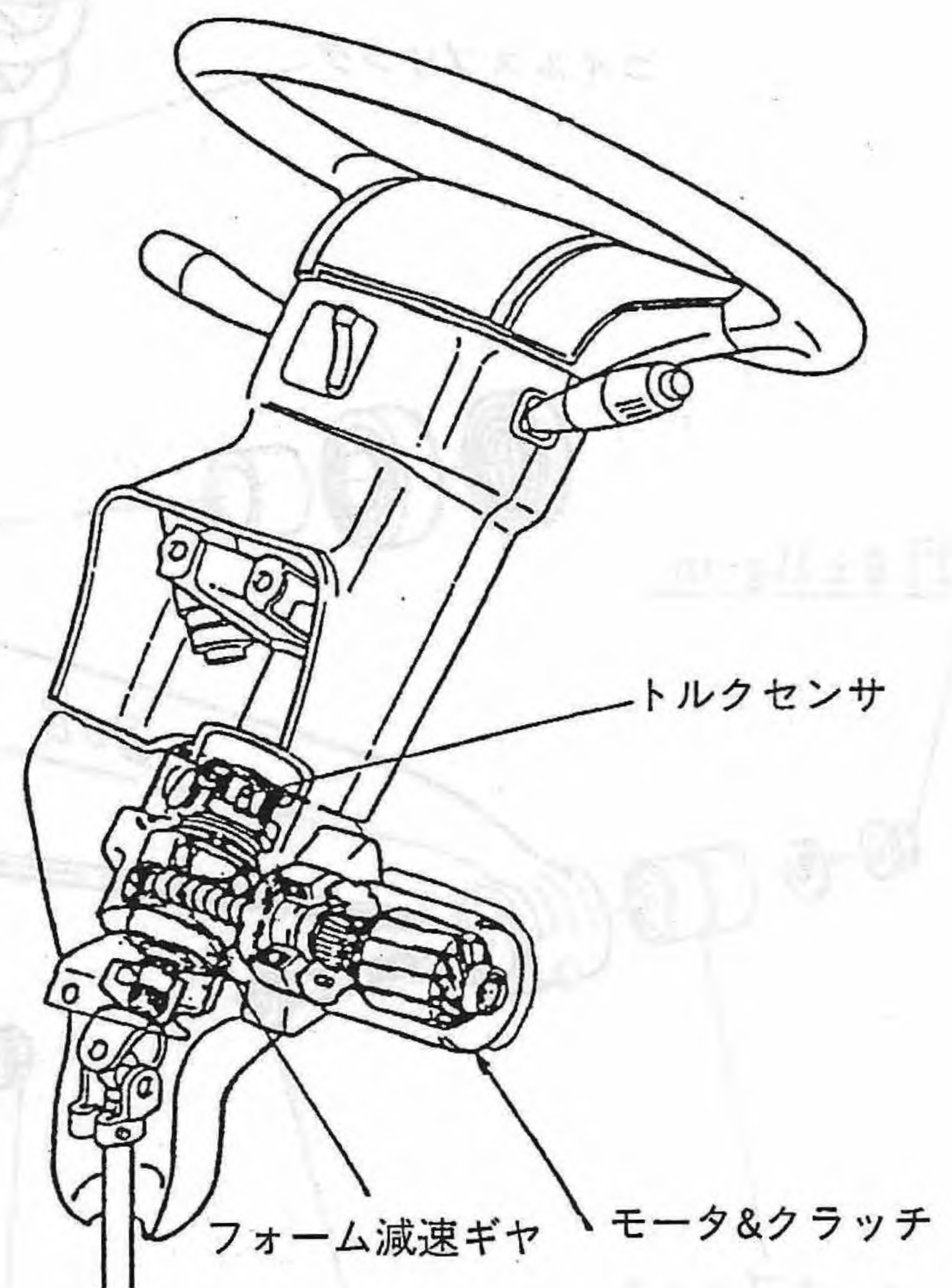
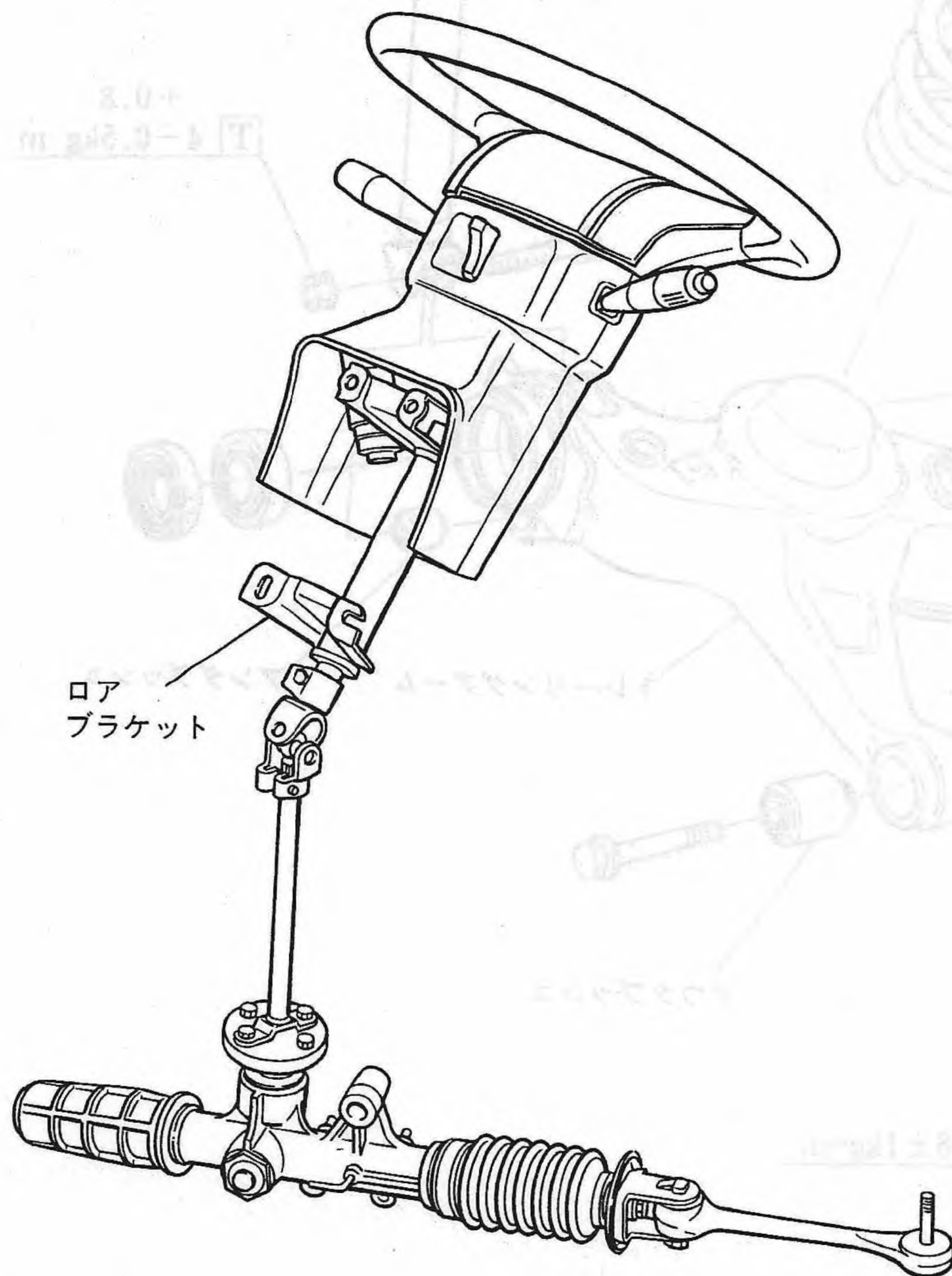
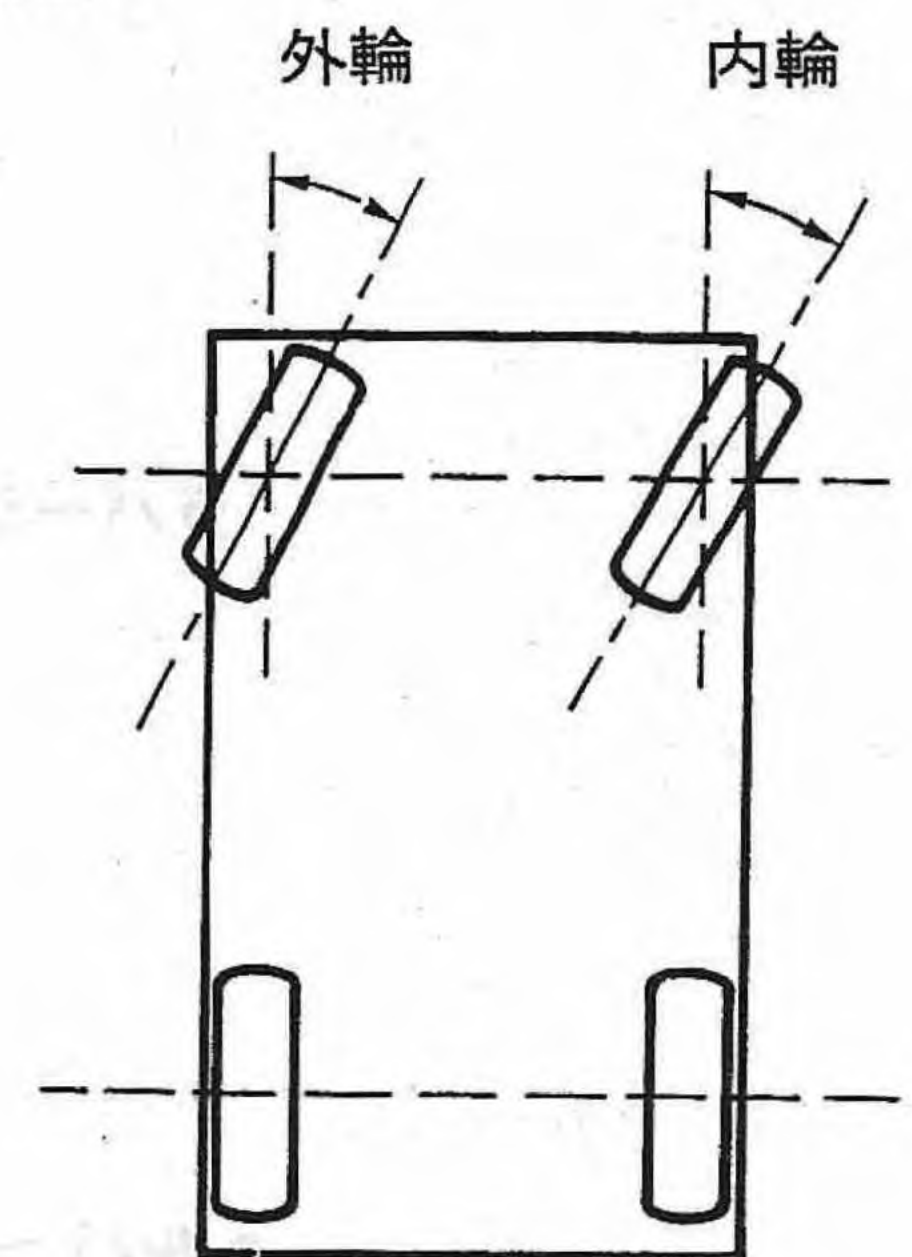
リヤ サスペンション



■ 主要諸元

			マニュアル車	パワステ車
システム	ステアリングホイール	外径 (mm)	$\phi 370$	
		最大回転数	3.8	4.2
	舵角	内輪 (度)	36° 25'	+1° 30' -2° 30'
		外輪 (度)	33° 10'	+1° 30' -2° 30'
	車両最小回転半径 (m)		3.9	
ギアボックス	形	式	ラック&ピニオン	
	総	合ギア比	19.8	18.8 22.7
	使	用グリース	協同油脂 ワンルーバSG 昭 石 バリエーションM2	

転舵角



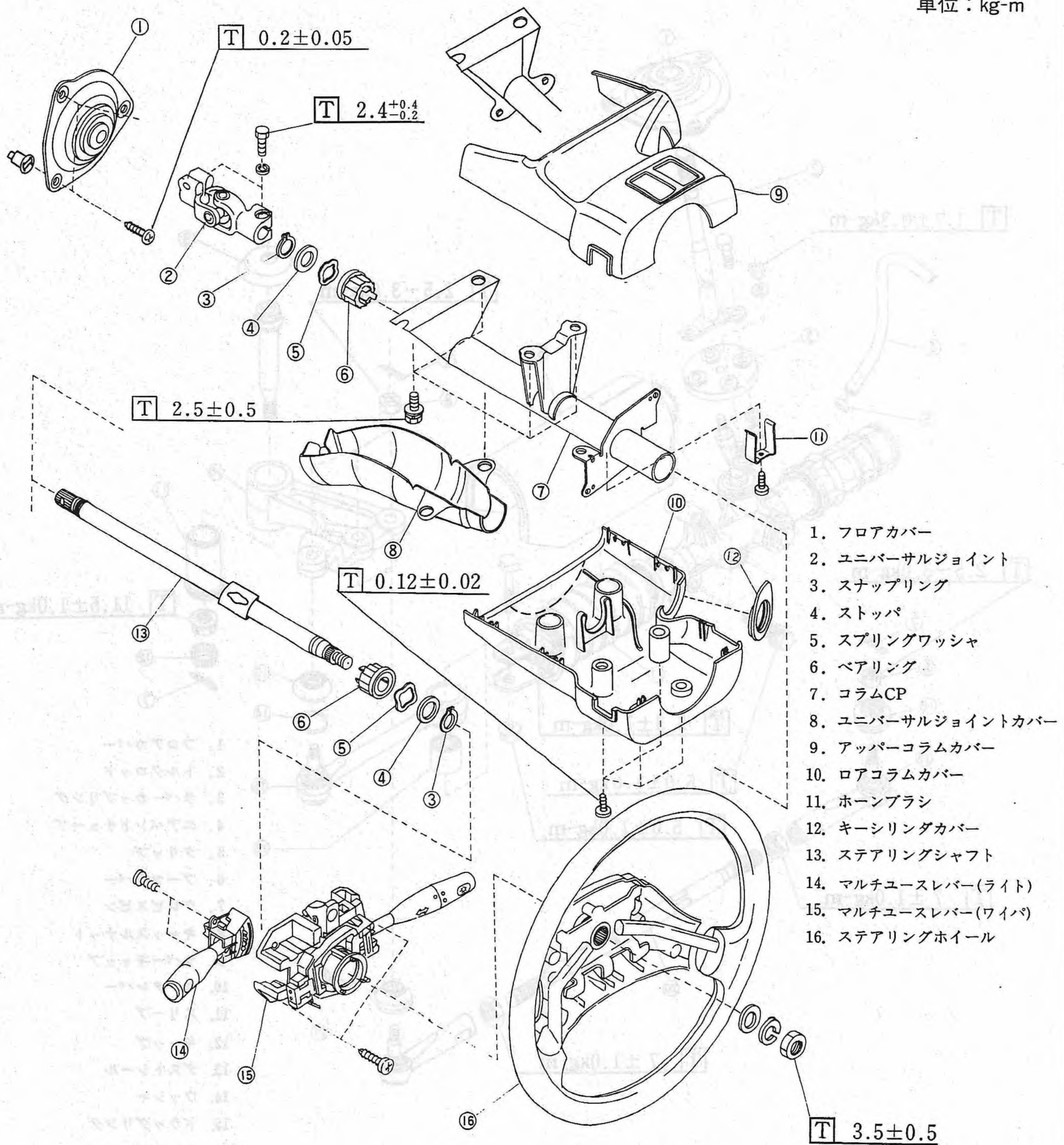
パワステ車

ステアリング

■ 構成部品

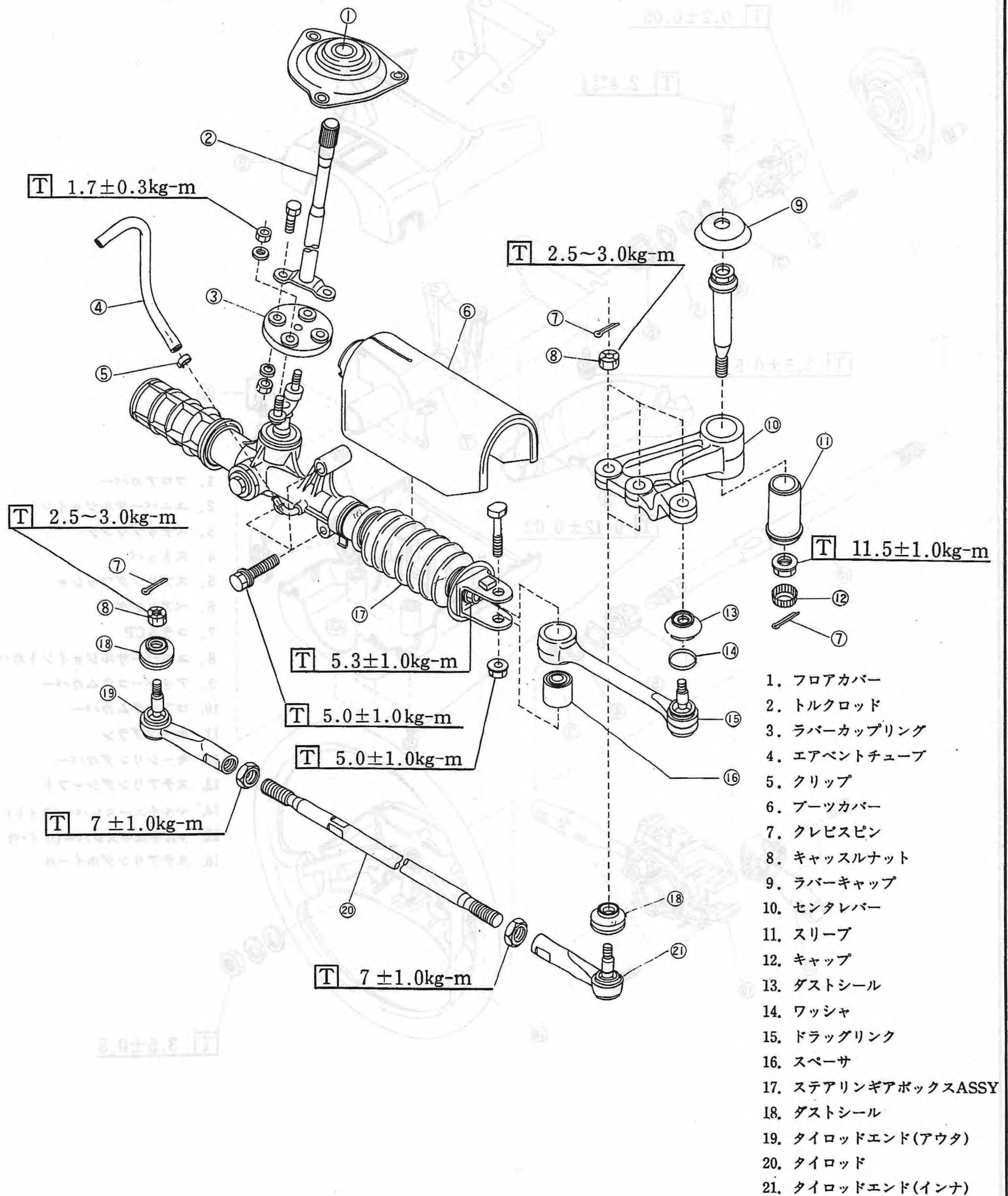
ステアリング シャフト

単位: kg-m



ステアリング

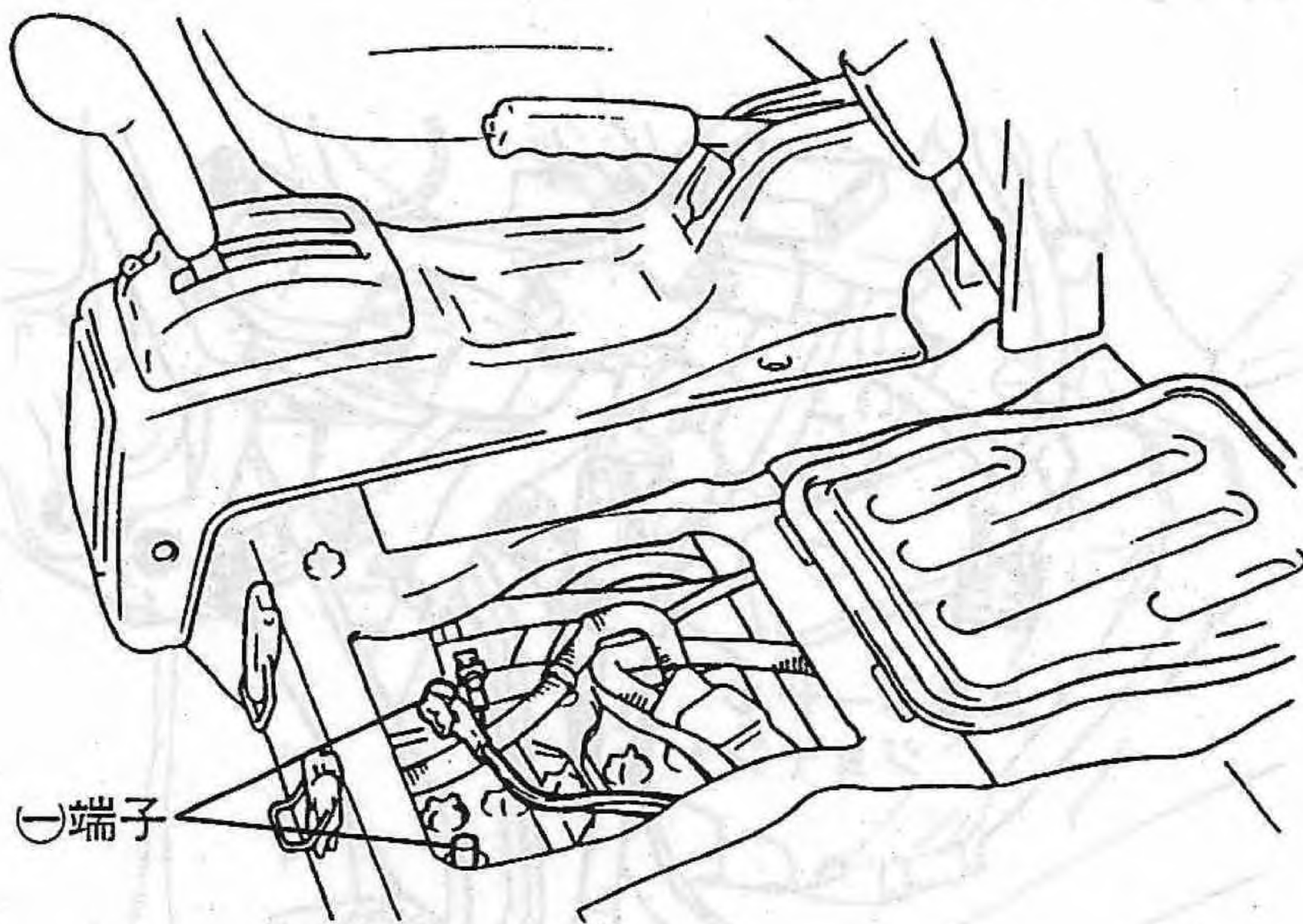
ギアボックス



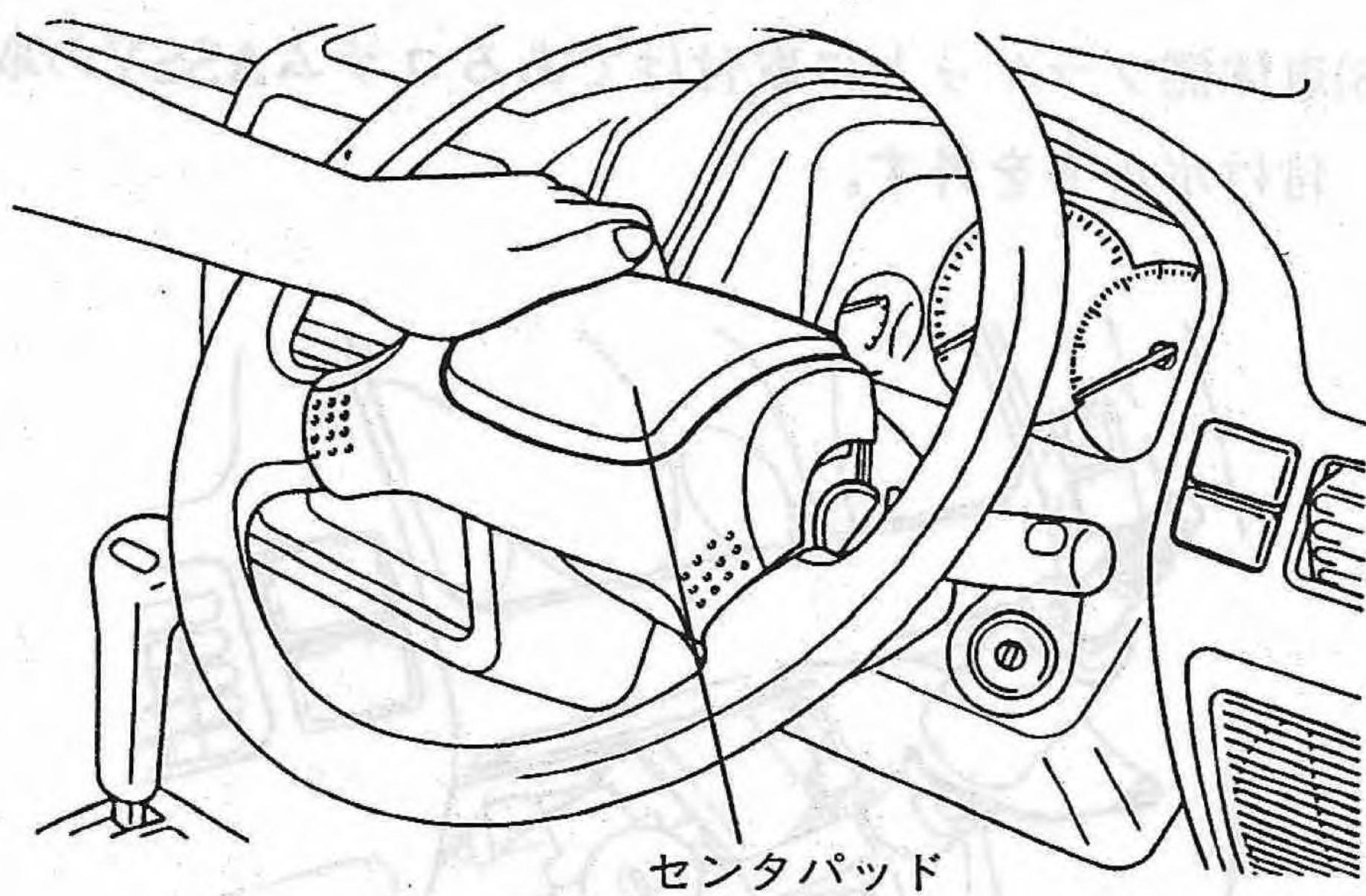
■ 整備要領 (1)ステアリングシャフト (電動パワステ付)

取外し

(1)バッテリーのマイナス⊖端子を外す。



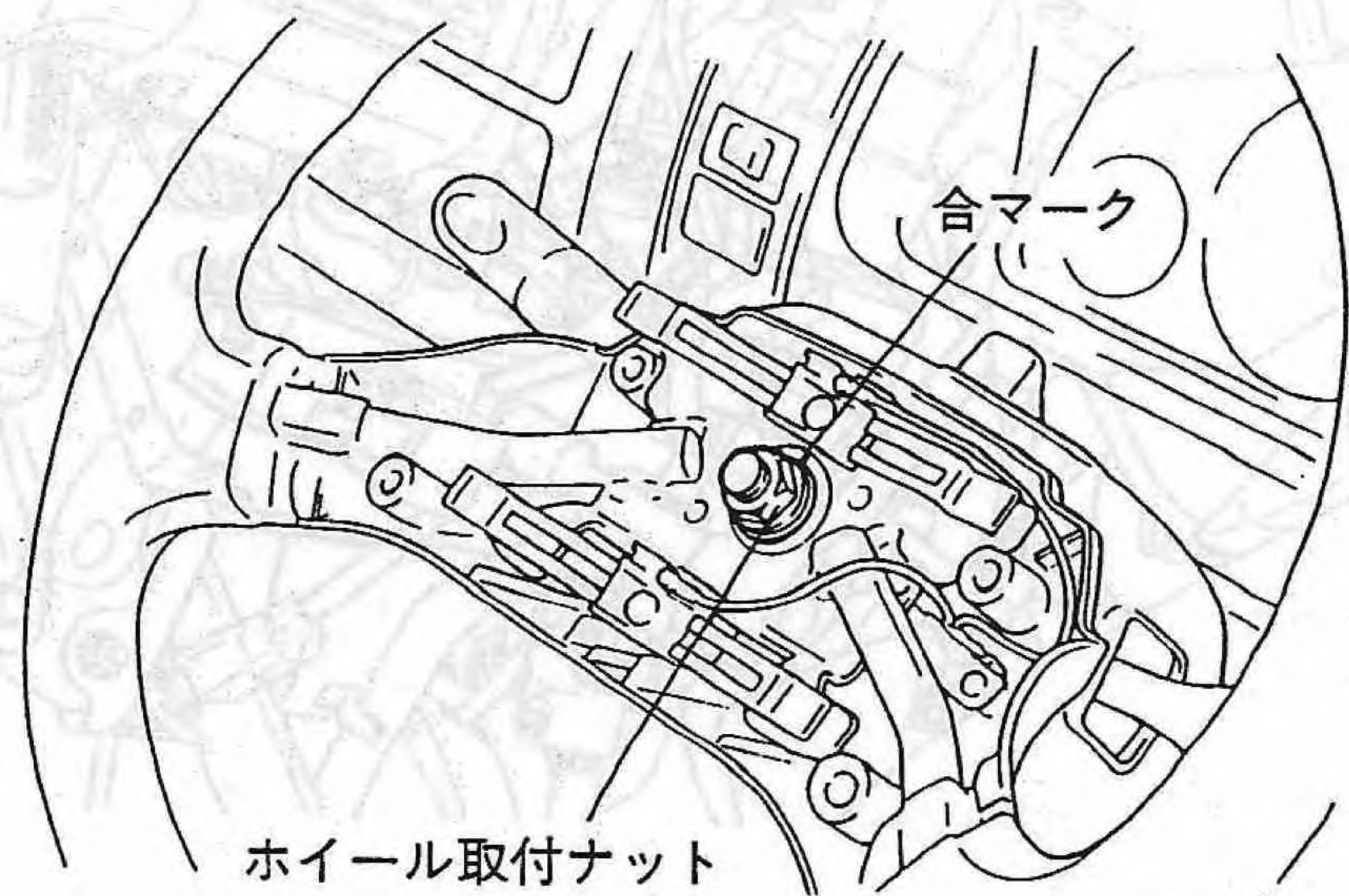
(2)ステアリングホイールのセンタパッドを取外す。



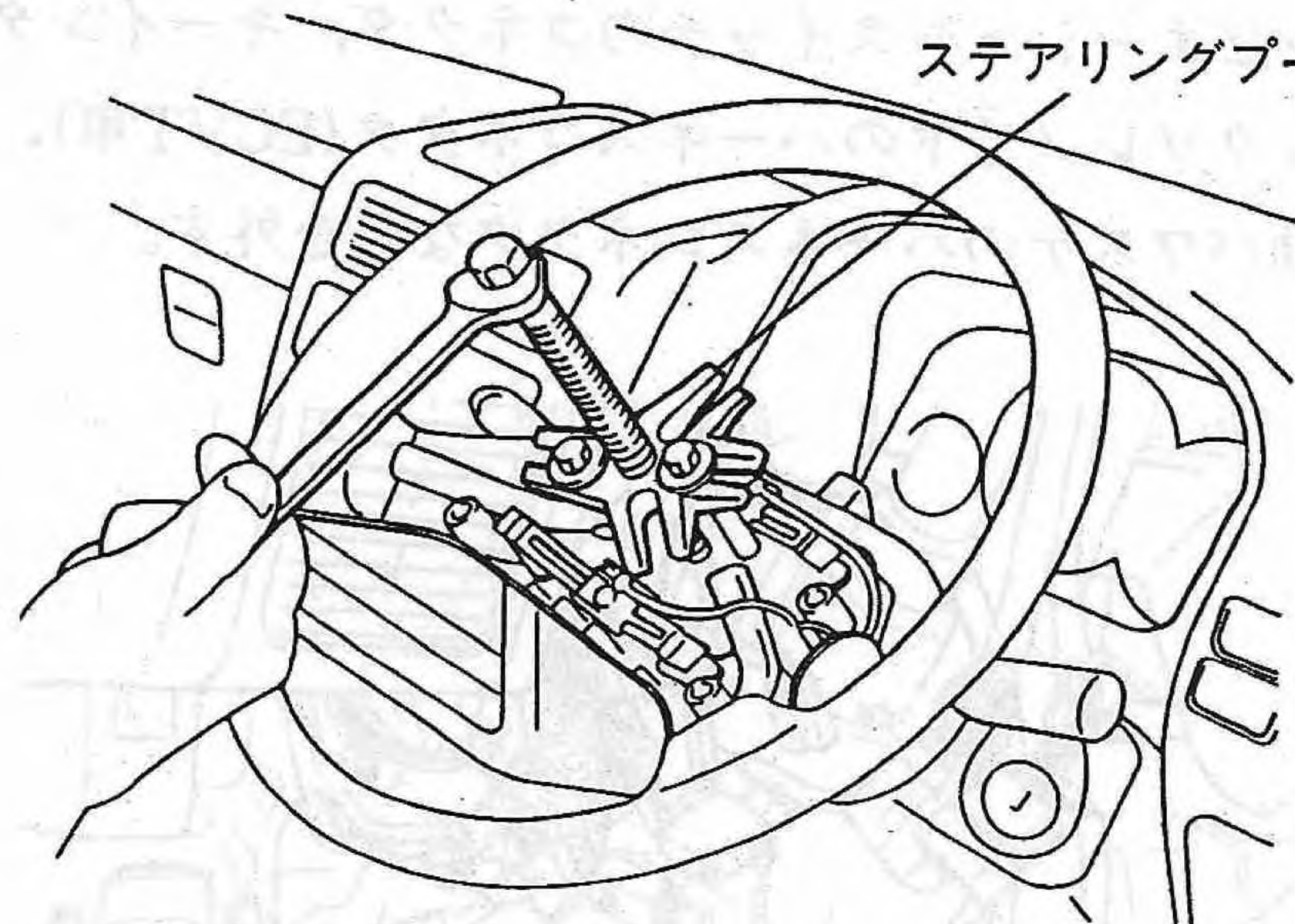
(3)ホイール中央のナットを外し、市販工具ステアリングプーラを使ってステアリングホイールをシャフトから引抜く。

注意

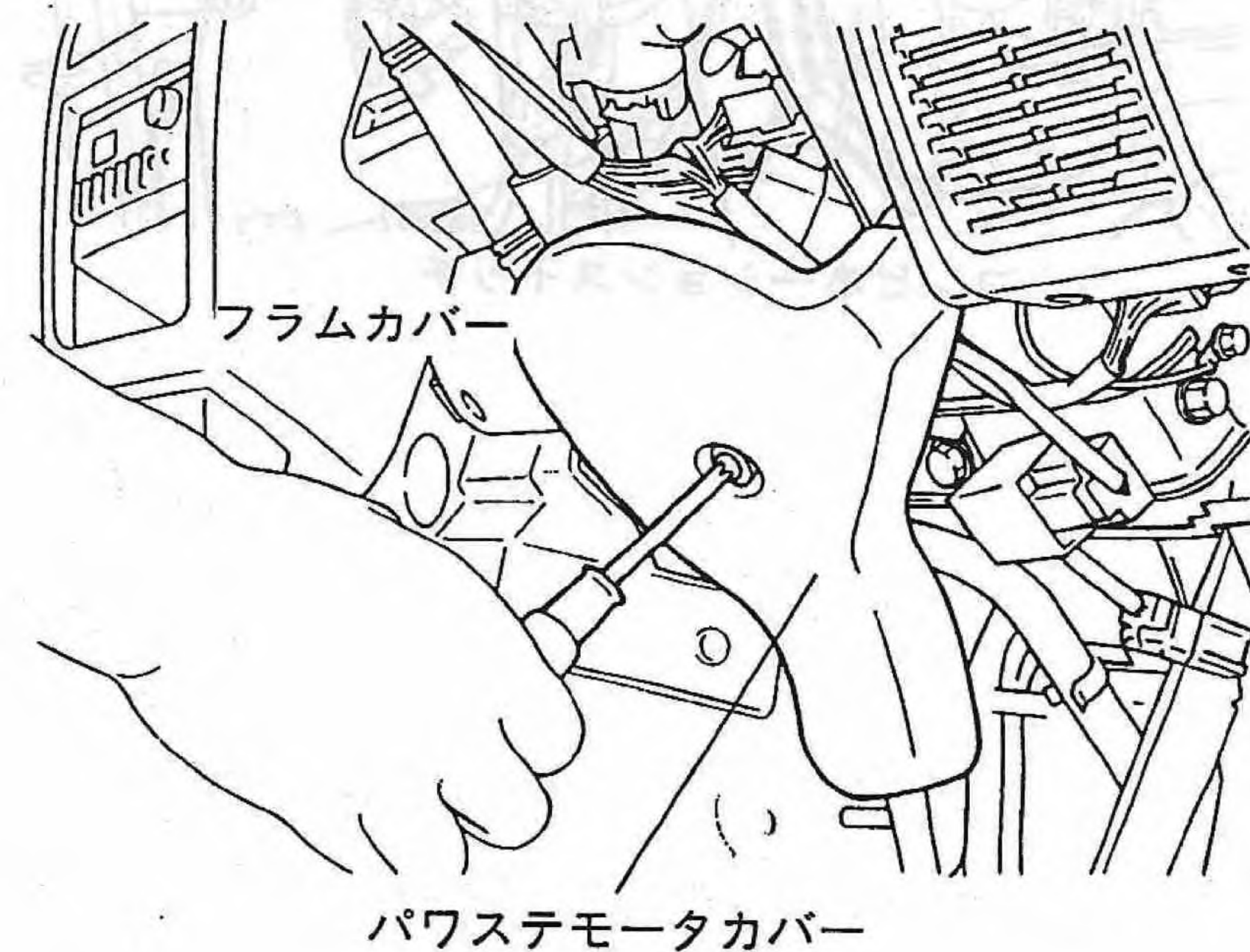
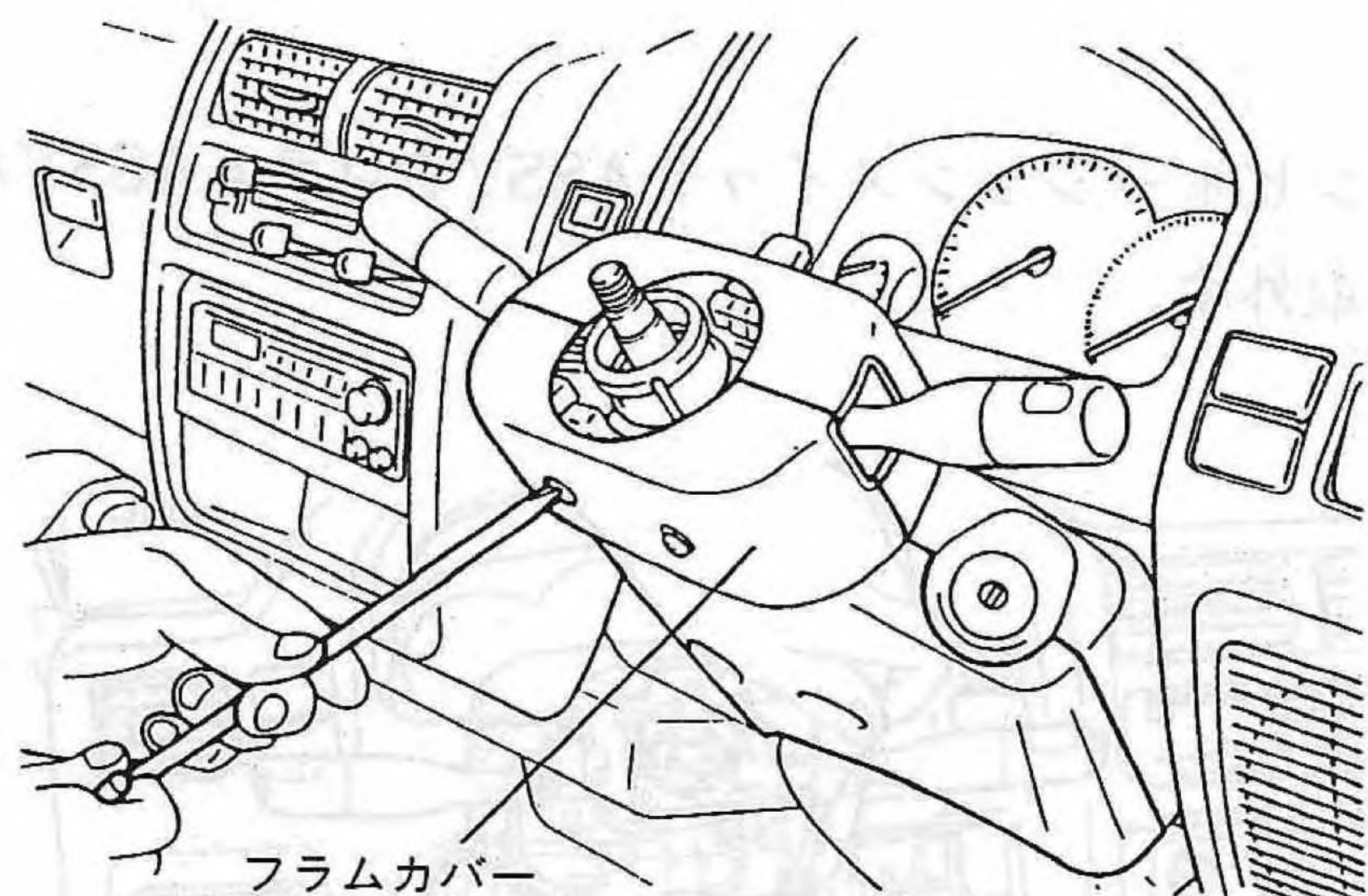
引抜く前にシャフトとステアリングホイールに合せマークをつけておく。



ステアリングプーラ

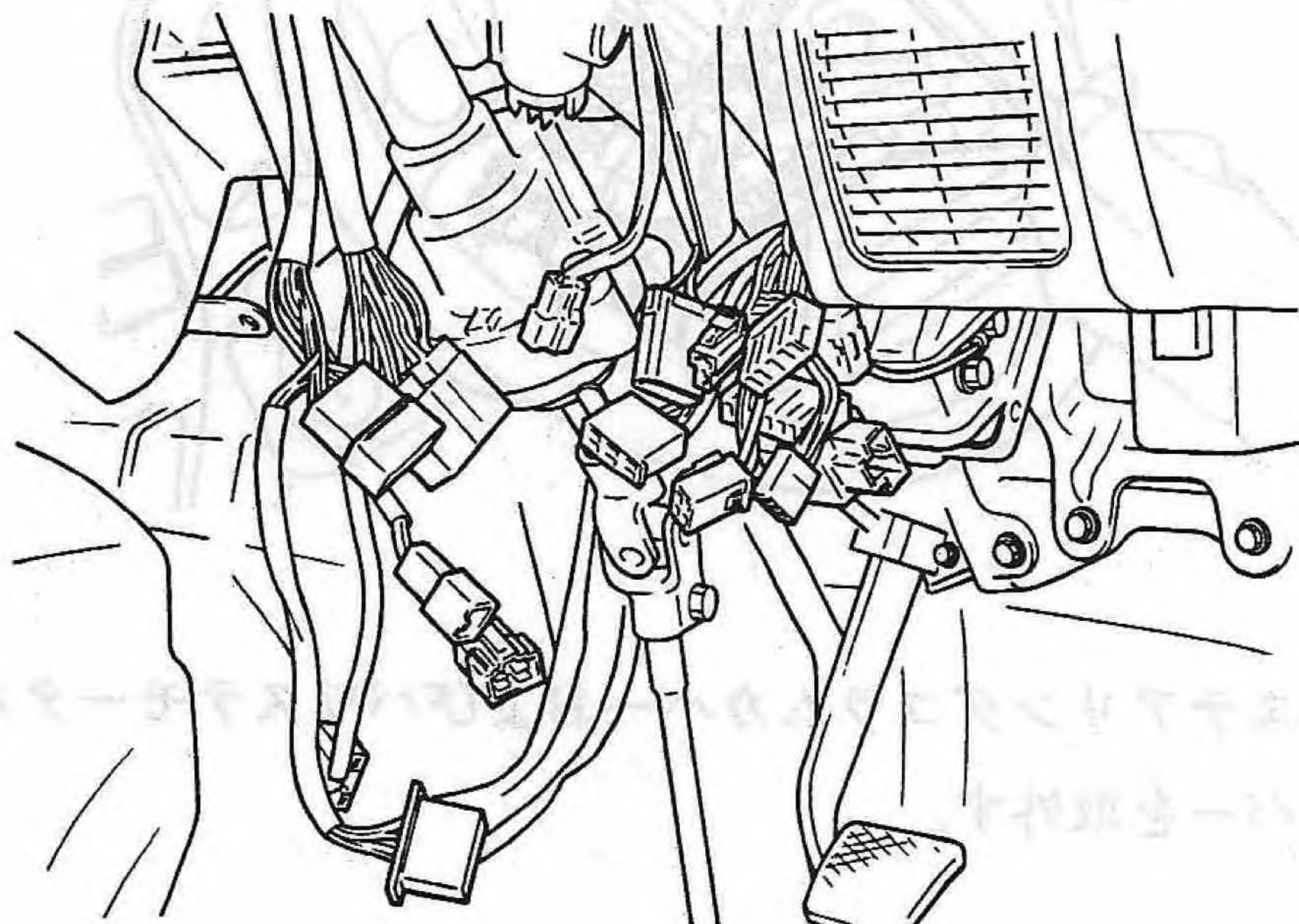


(4)ステアリングコラムカバーおよびパワステモータカバーを取外す。

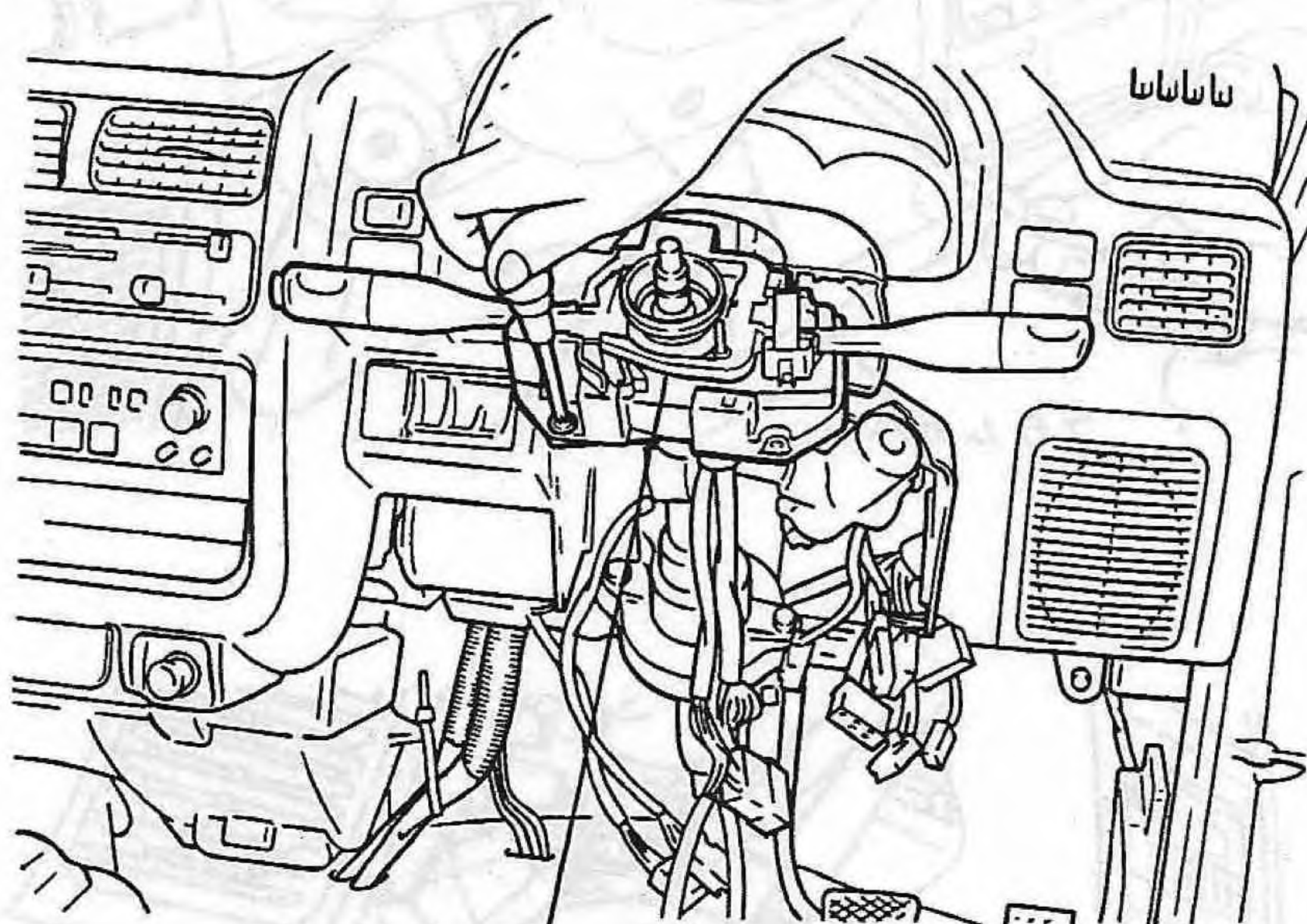


取外し

- (5) コンビネーションスイッチのコネクタ、キーインタロックソレノイドのハーネスコネクタ (ECVT車)、電動パワステのハーネスコネクタなどを外す。

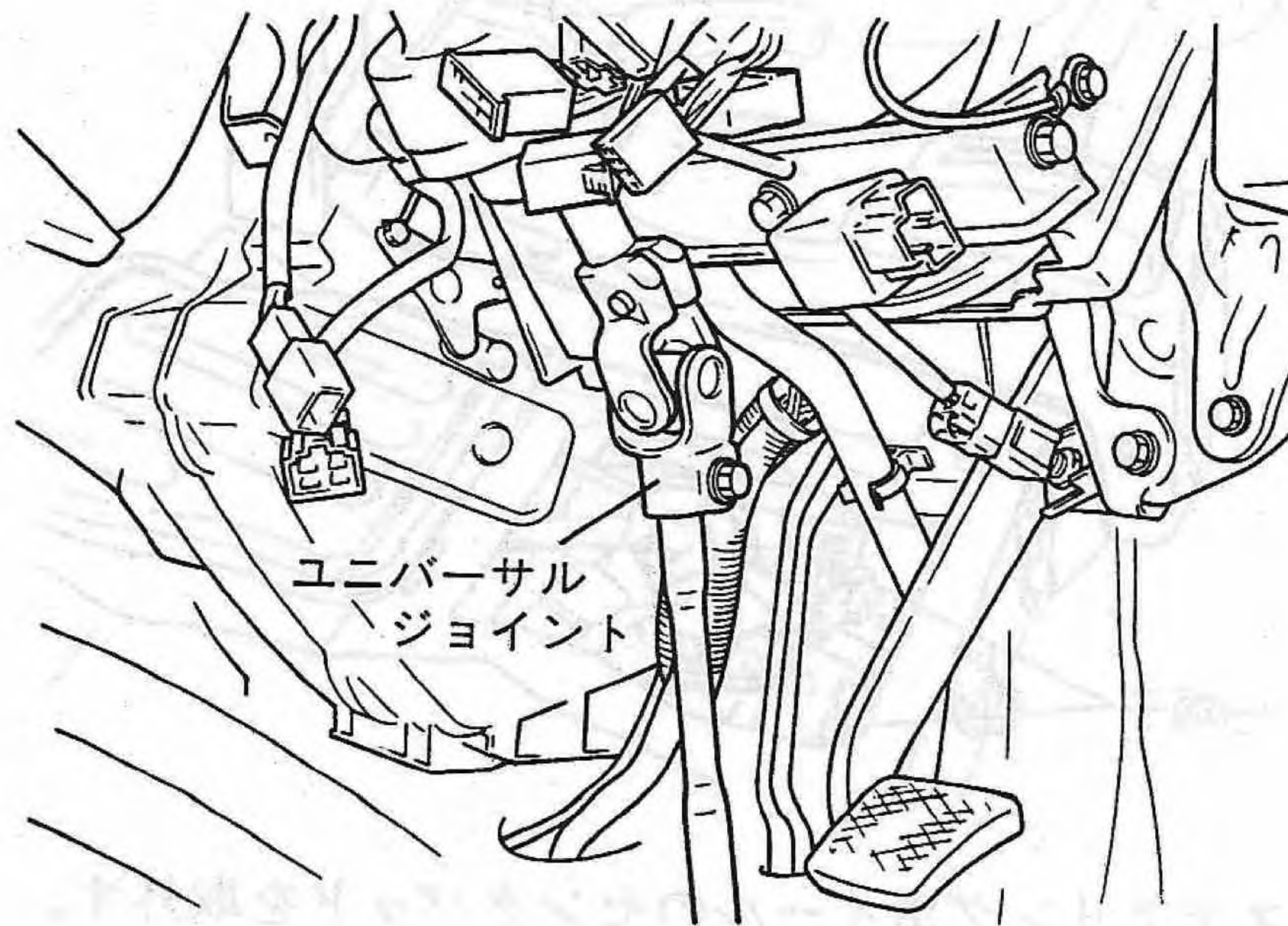


- (6) コンビネーションスイッチASSYをコラムASSYから取外す。

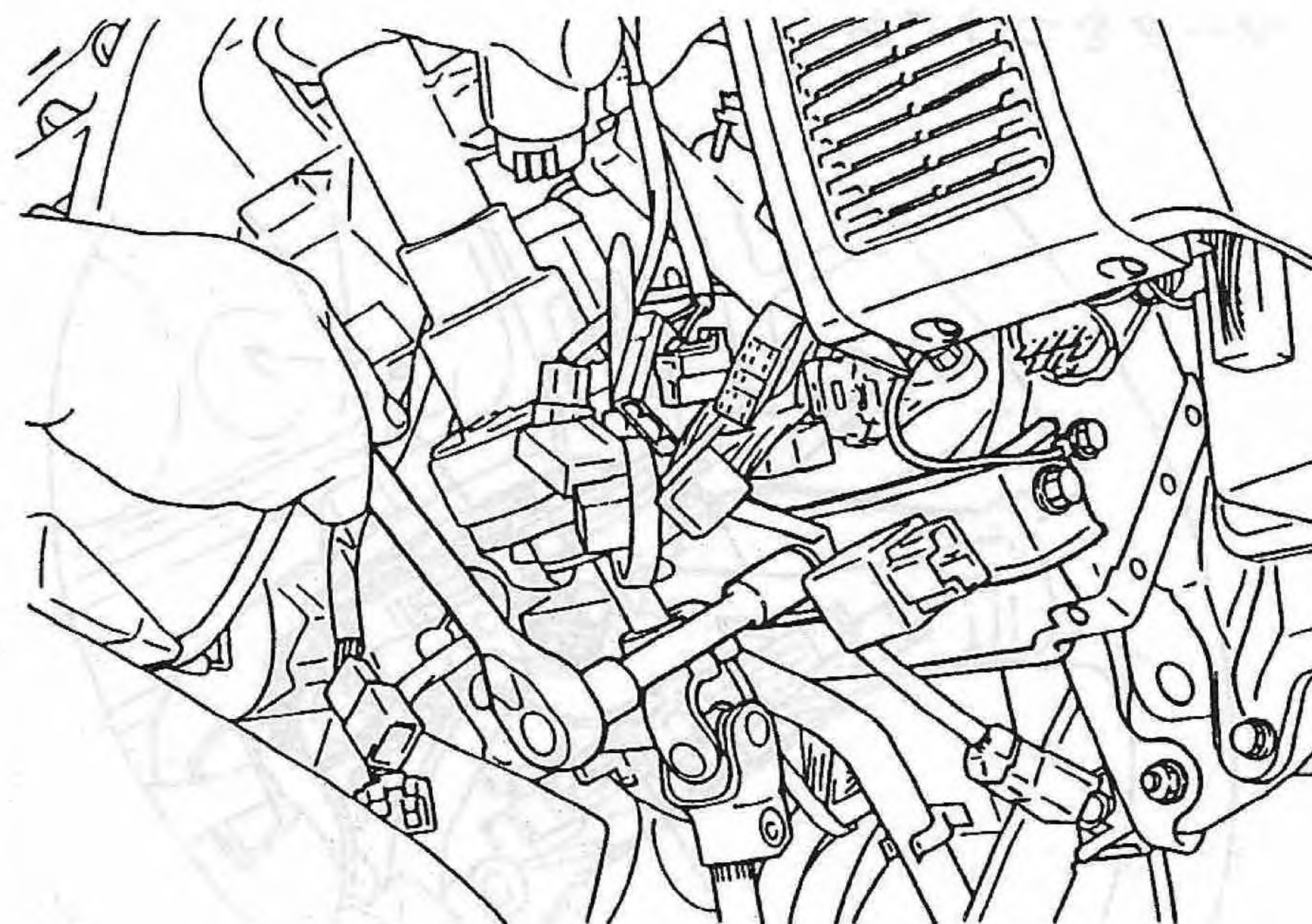
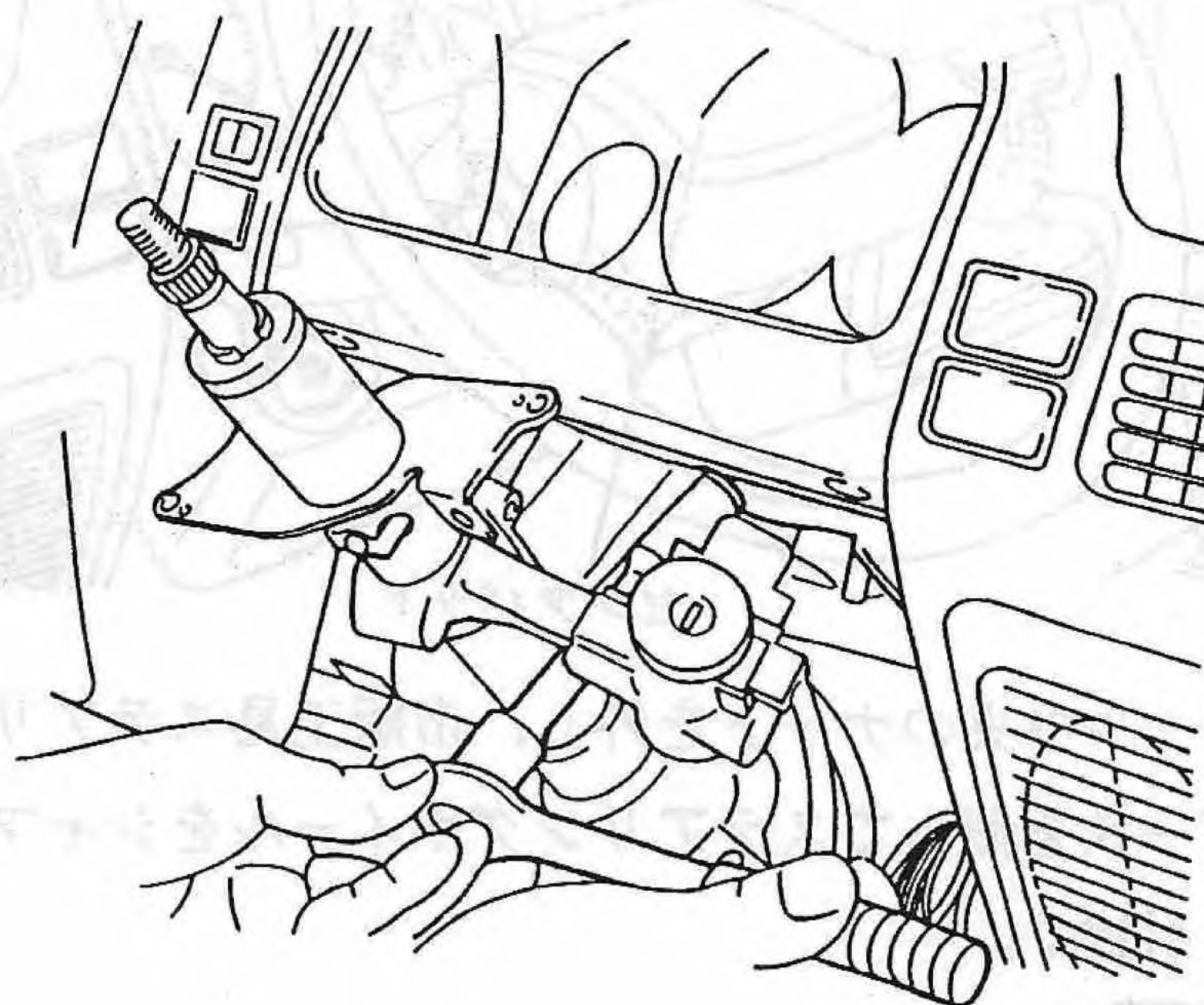


コンビネーションスイッチ

- (7) ユニバーサルジョイントASSY下側の取付けボルトを外す。



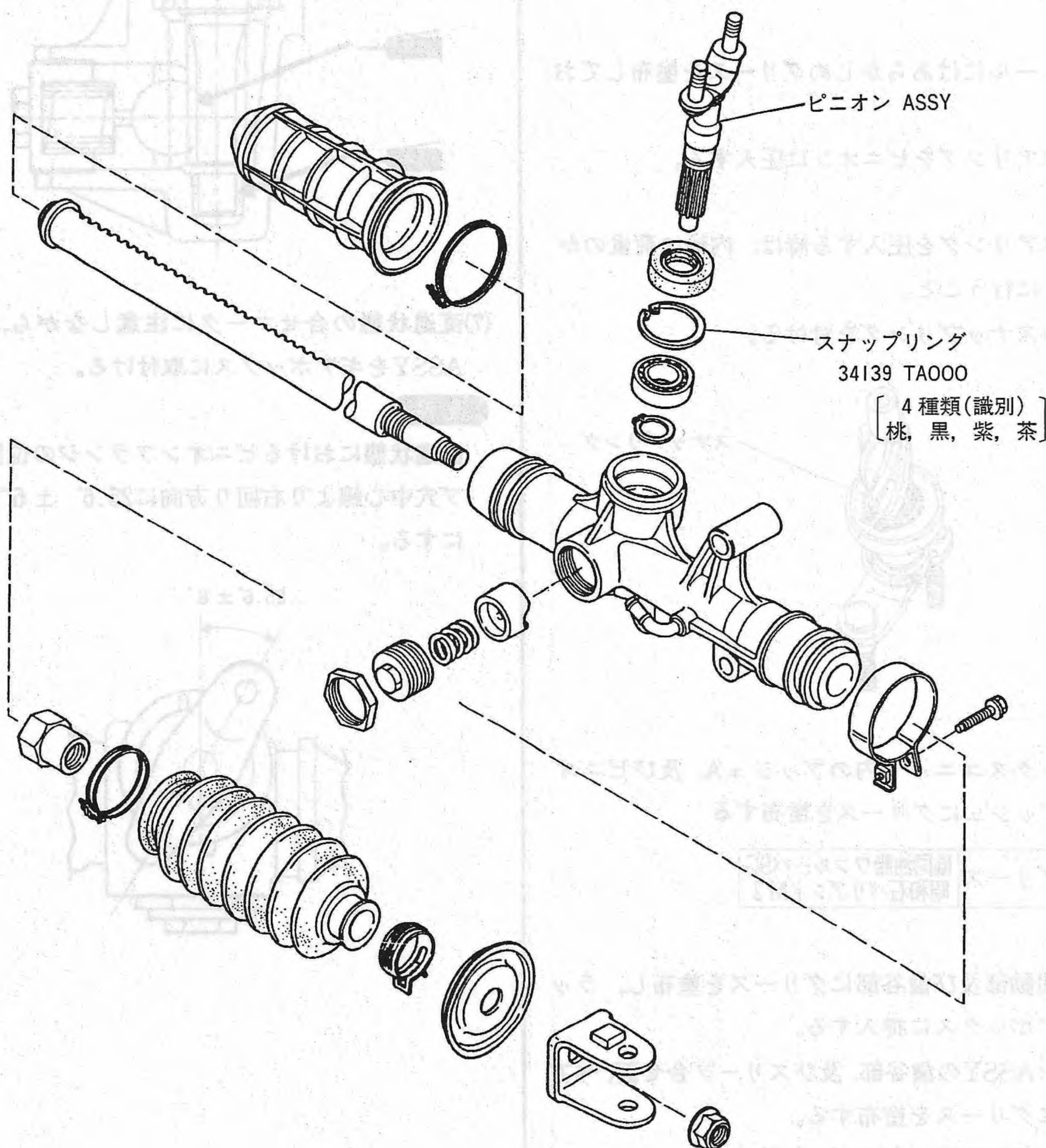
- (8) 車体側ブラケットに取付けてあるコラムASSYの取付けボルトを外す。



(2) ステアリング ギヤボックス (VGR)

組立て

VGRギヤボックス



組立て

- (1) オイルシールとスナップリングをピニオンにセットする。スナップリングは選択使用(4種類)となっているため、交換する際は、旧品と同じ板厚(同色)のものをを使用すること。

注意

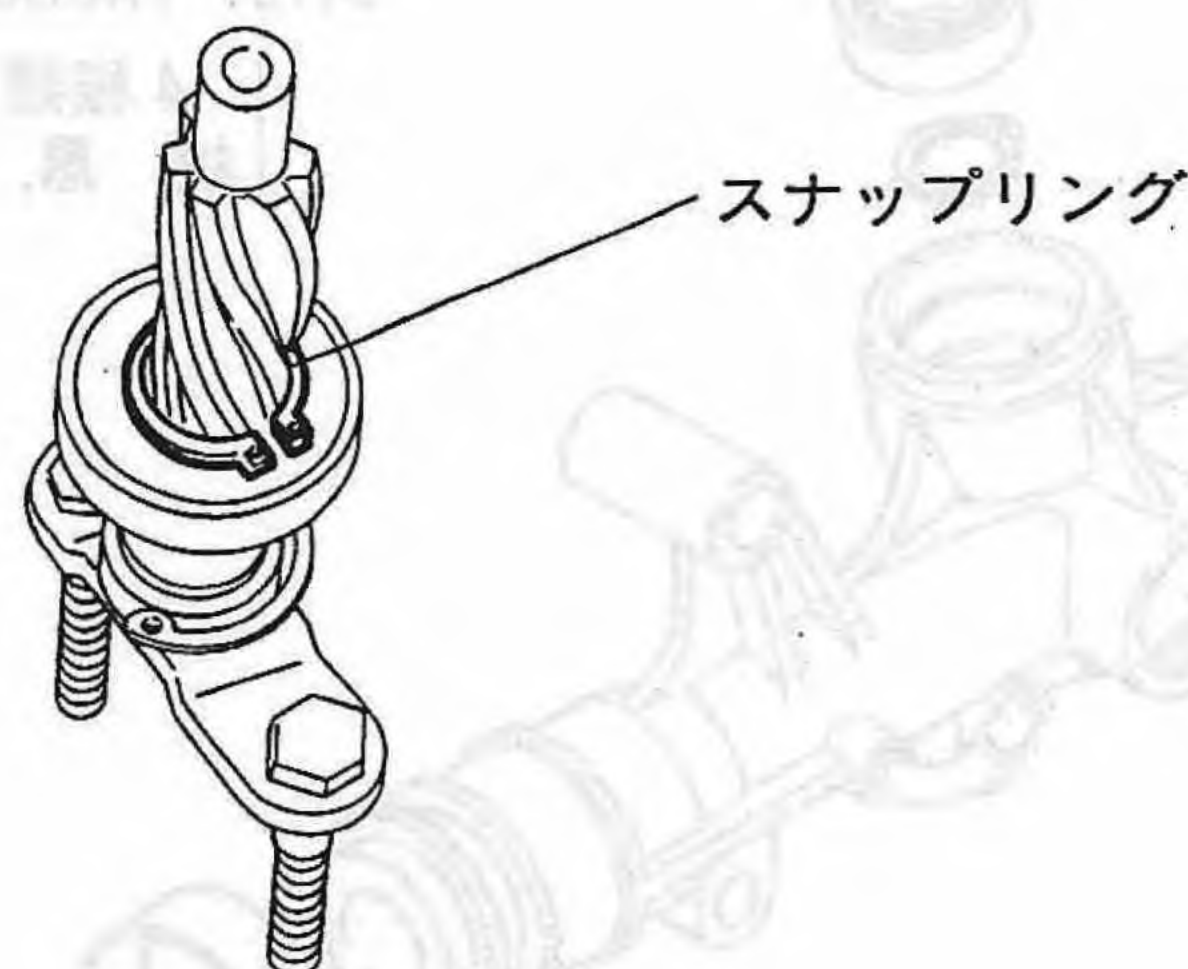
オイルシールにはあらかじめグリースを塗布しておく。

- (2) ボールベアリングをピニオンに圧入する。

注意

ボールベアリングを圧入する時は、内輪に荷重のかかるように行うこと。

- (3) ギア側のスナップリングを付ける。



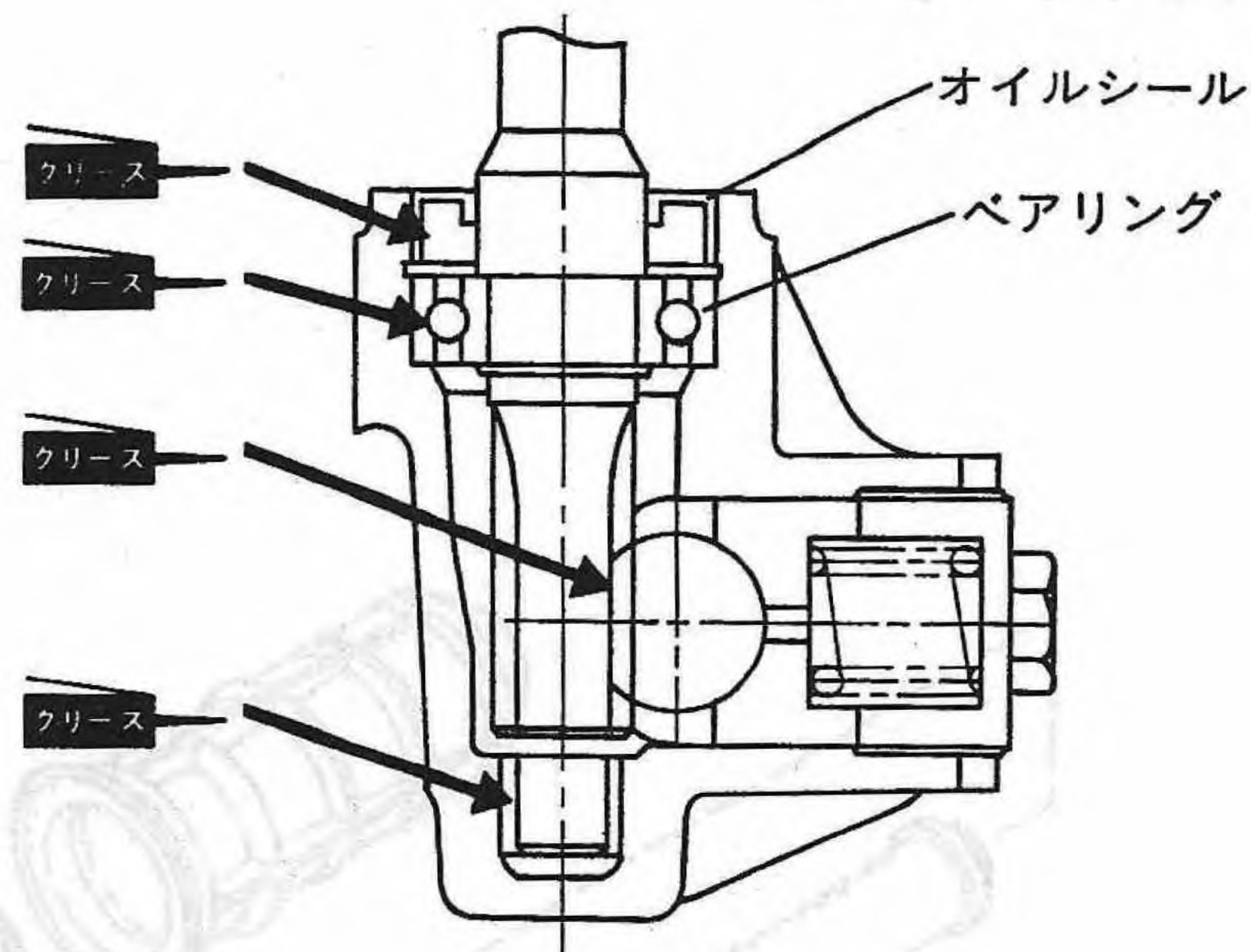
- (4) ギアボックスユニット内のブッシュA、及びピニオン部のブッシュにグリースを塗布する

使用グリース	協同油脂ワnlルーバSG 昭和石バリエントM2
--------	----------------------------

- (5) ラック摺動部及び歯谷部にグリースを塗布し、ラックをギアボックスに挿入する。

- (6) ピニオンASSYの歯谷部、及びスリーブ合せ面、ベアリングにグリースを塗布する。

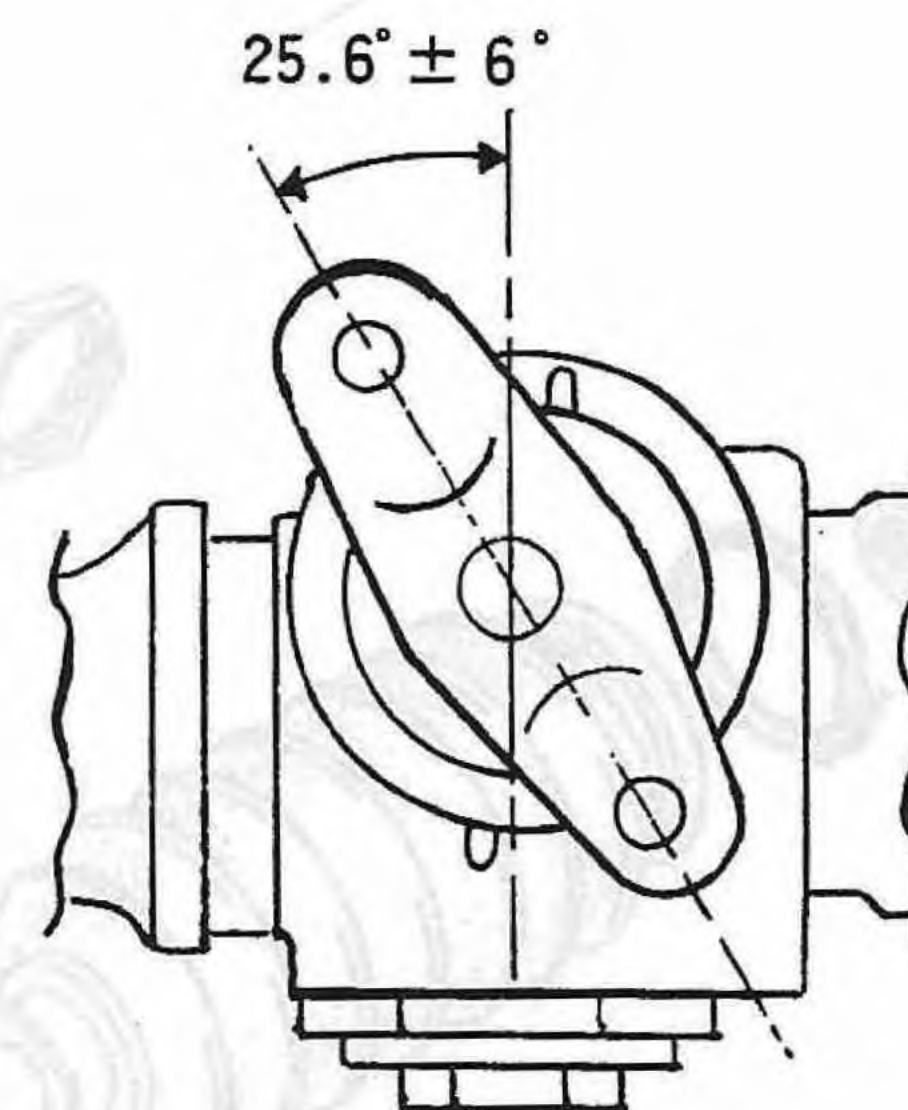
使用グリース	協同油脂ワnlルーバSG 昭和石バリエントM2
--------	----------------------------



- (7) 直進状態の合せマークに注意しながら、ピニオンASSYをギアボックスに取付ける。

注意

直進状態におけるピニオンフランジの位置がスリーブ穴中心線より右回り方向に $25.6^\circ \pm 6^\circ$ になる様にする。

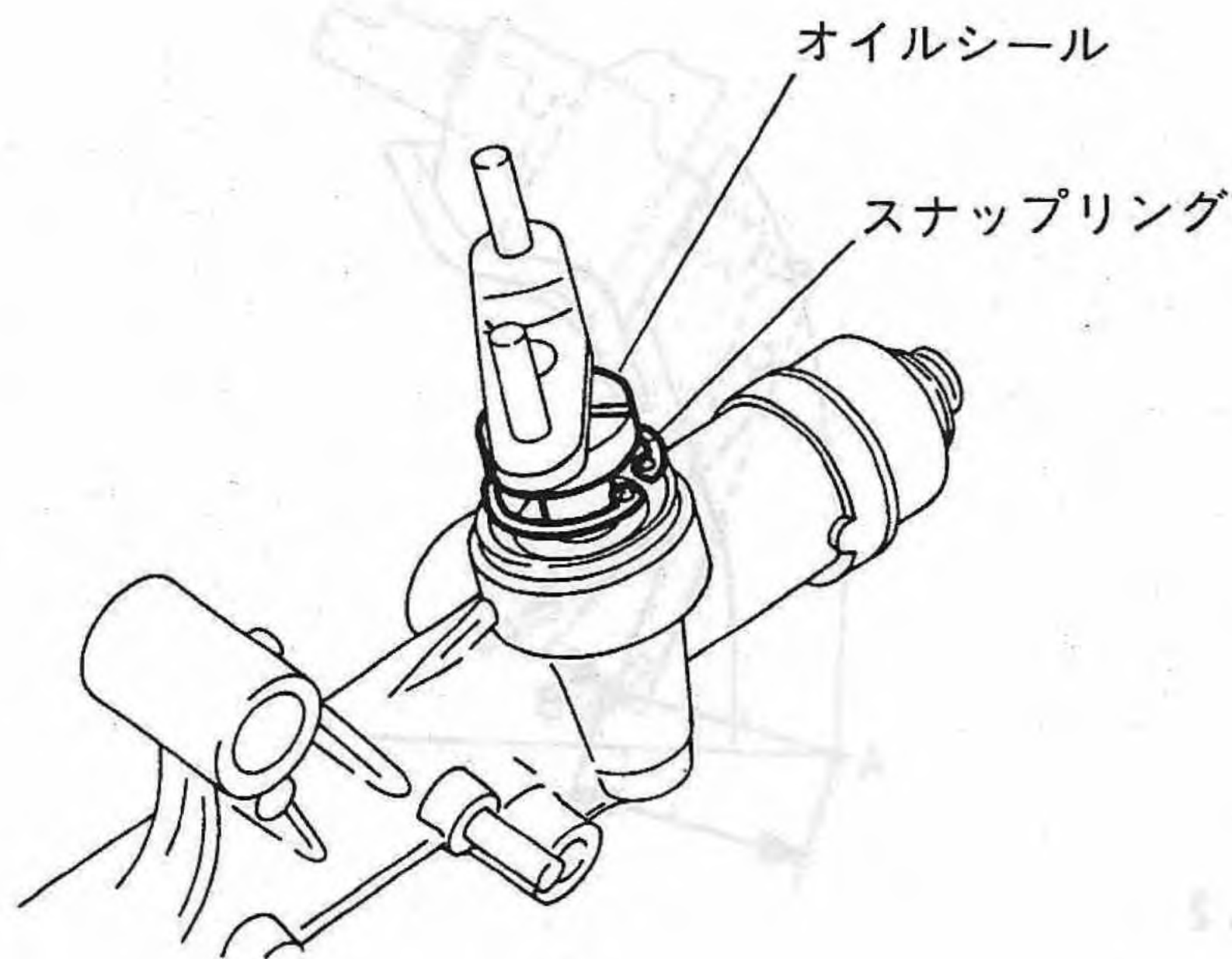


組立て

(8) オイルシール側のスナップリングを取付ける。

注意

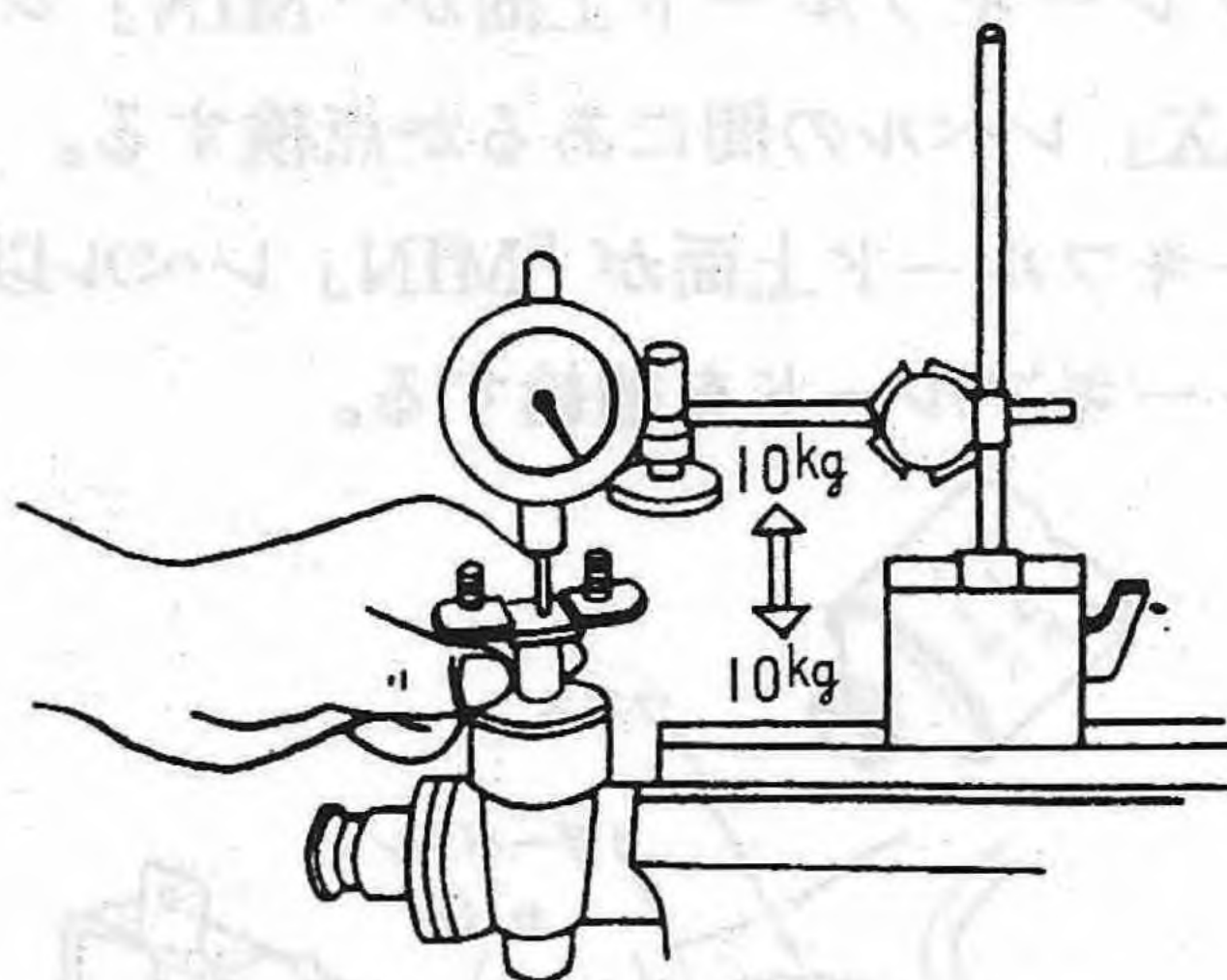
スナップリングが確実に装着されている場合にはスナップリングがスムーズに回転するので点検すること。



(9) オイルシールを圧入する。

(10) ダイヤルゲージを用いて、ピニオン軸方向のすき間を測定する。

すき間限度	0.1mm
-------	-------



(11) ギアボックスにスリーブ、スプリングを組込んだ後、アジャスタスクリュにシール剤を塗布して締め込み、バックラッシュを調整する。

シール剤	スリーボンド#1102
------	-------------

バックラッシュ調整要領

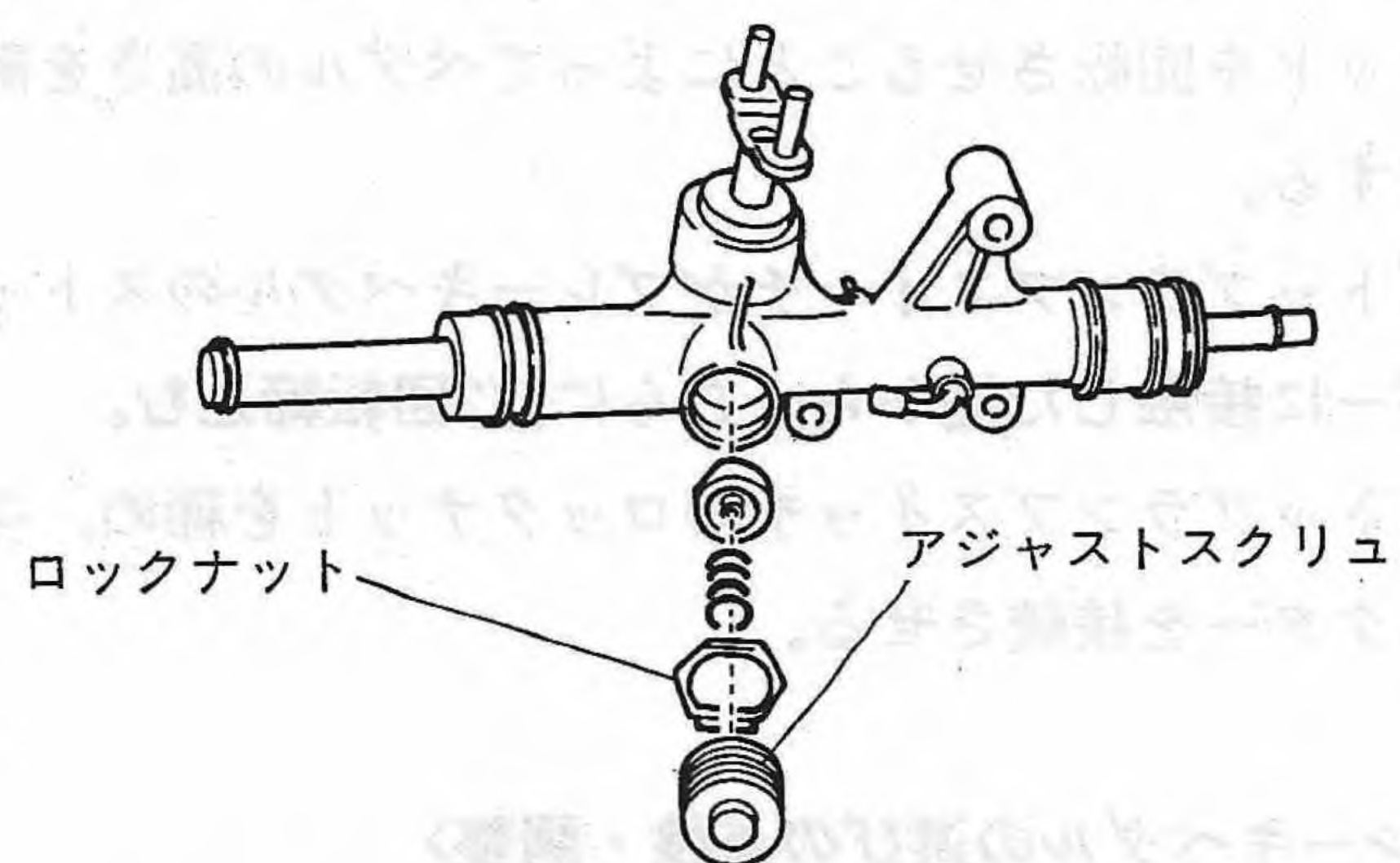
アジャストスクリュを0.5kg-mのトルクで締め込み、次にその位置から15°戻してロックナットでロックする。(このときスクリュとシートのすきまは0.063mmとなる。)

工具番号	工具名称
926230000	ロックナットレンチ

アジャストスクリュ締め付トルク	0.5±0.05kg-m
ロックナット締め付トルク	4.0±0.5kg-m

注意

- ロックナット締め付時、アジャストスクリュが回転しないようスパナ等で固定する。



(12) ラックIN端のM16ねじ部にシール剤を塗布しストッパを締め付ける。

シール剤	スリーボンド#1102
------	-------------

T 7.5±2.0kg-m

■車上点検

ブレーキペダルの点検・調整

〈ブレーキペダル高さの点検・調整〉

- (1)エンジン停止状態で、AB間(Fig. 1より)の寸法を測定する。

標準値	200mm
-----	-------

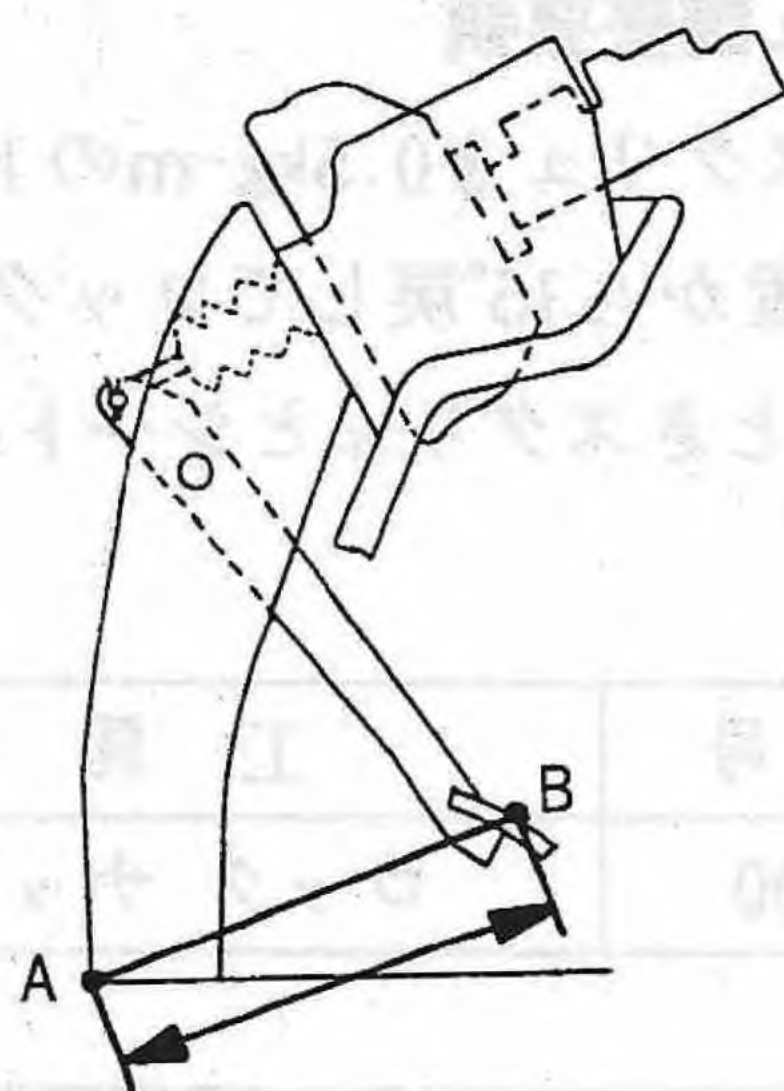


Fig. 1

S4-013

- (2)ストップランプスイッチのコネクターを外し、ロックナットをゆるめて、ランプスイッチがブレーキペダルのストッパーと接触しないようにする。
- (3)オペレーティングロッドのロックナットをゆるめて、ロッドを回転させることによってペダルの高さを調整する。
- (4)ストップランプスイッチがブレーキペダルのストッパーに接触した処から、さらに1/2回転締込む。
- (5)ストップランプスイッチのロックナットを締め、コネクターを接続させる。

〈ブレーキペダルの遊びの点検・調整〉

- (1)エンジン停止状態でブレーキペダルを2～3回踏み込み、ブレーキブースターの負圧をなくした後、ペダルを指で押し、重く感じられるまでの寸法を確認する。

標準値	1～3mm
-----	-------

- (2)オペレーティングロッドのロックナットをゆるめ、ロッドを回転させることによって遊びを調整する。
- (3)ブレーキペダルの高さ及びストップランプの点灯を確認のうえ、ロックナットを締めつける。

〈ペダルの踏みのこりしろの点検・整備〉

- (1)エンジン始動後、ペダル踏力30kgで踏み込んだ時の、AB間(Fig. 2より)の寸法を測定する。

標準値	110mm以上
-----	---------

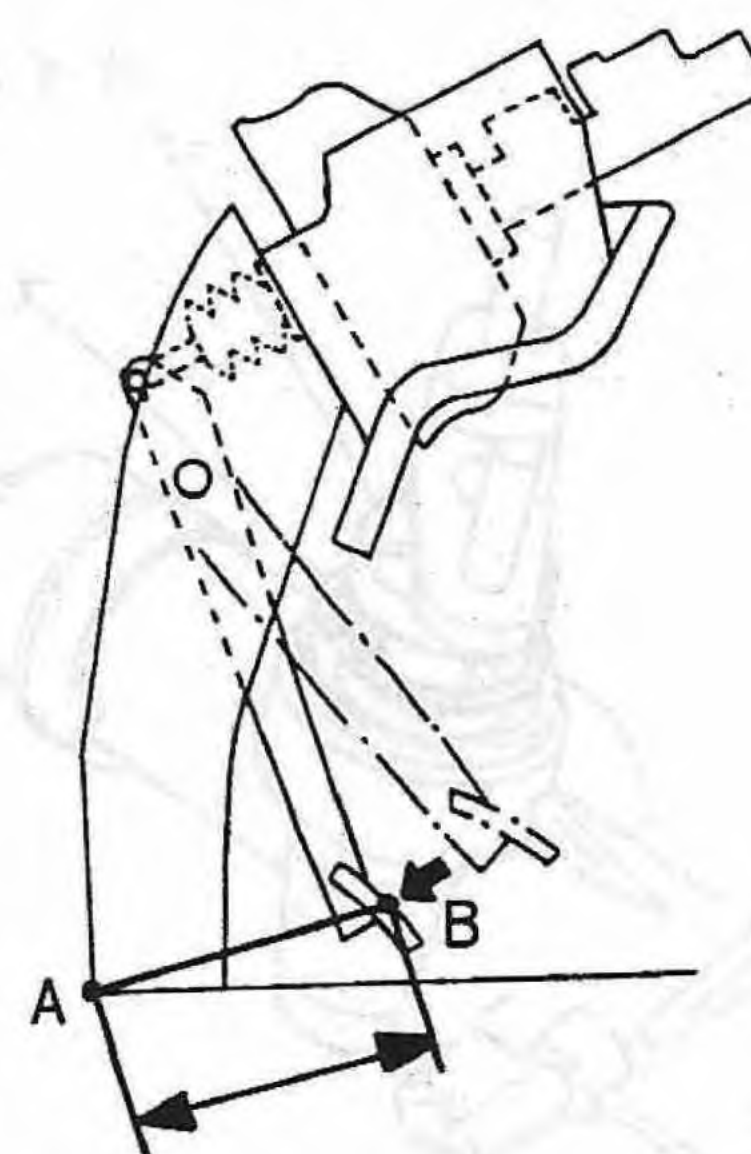


Fig. 2

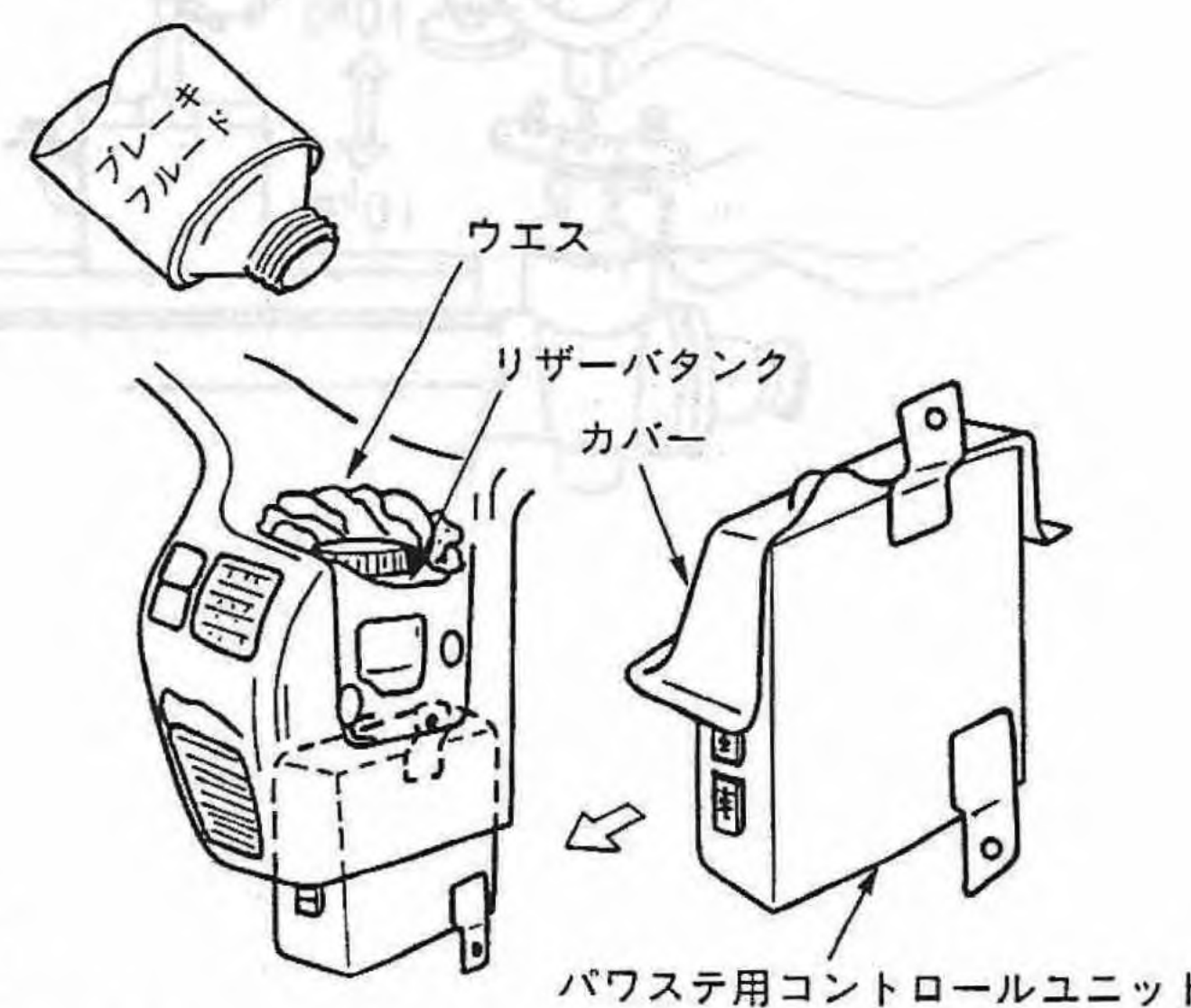
S4-014

- (2)踏みのこり代が基準値以下の場合、次の個所を点検する。

- ・ブレーキ系統へのエア混入
- ・ブレーキのオートアジャスタ機構の作動

〈ブレーキフルードレベルの点検〉

- (1)メータパネル右側のカバーを取って、リザーバタンクのブレーキフルード上面が「MIN」レベルから「MAX」レベルの間にあるか点検する。
- (2)ブレーキフルード上面が「MIN」レベル以下の時にはブレーキフルードを補給する。



注意

- ・補給時は、フルードをタンク周辺にこぼさないよう、図のようにウエスを巻いて行うこと。

(リザーバタンクの下にパワステ用コントロールユニットがある)

〔1〕タイヤ&ディスクホイール ■ 仕様 タイヤとホイールの組合わせ

タイヤ ディスクホイール	車種	トラック		バ ン		トライ	
		350kg積車		350kg積車		200kg積車	
		キャブレータ(NA)車		SC車	キャブレータ(NA)車	SC車	RJ [RJ4WD サンサンルーフ車 除く]
		営農4WD	左記以外				
5.00-12-4PR ULT	12×4.00Bスチール		●				
5.00-12-4PRULT(前輪) 6PRULT(後輪)	12×4.00Bスチール				●		
145R12-6PR LT	12×4.00Bスチール	●		●		●	
145SR12	12×4.00Bスチール						●
155SR12	12×4.00Bスチール						●
135/95R12 79/77L LT	12×4.00Bスチール	● ランバー ステー付車		△ OP		△ OP	

■ 整備要領 (1)ホイールASSY

—脱着 点検・修正—

〈取外し〉

- (1) フル ホイール キャップ装着の場合は、ホイール キャップを取外す。(ホイール キャップの整備要領参照)
- (2) ホイール ナットをゆるめる(外さず)
- (3) 車両をリフト アップする。
- (4) ホイール ナットを外してホイール ASSY取外す。

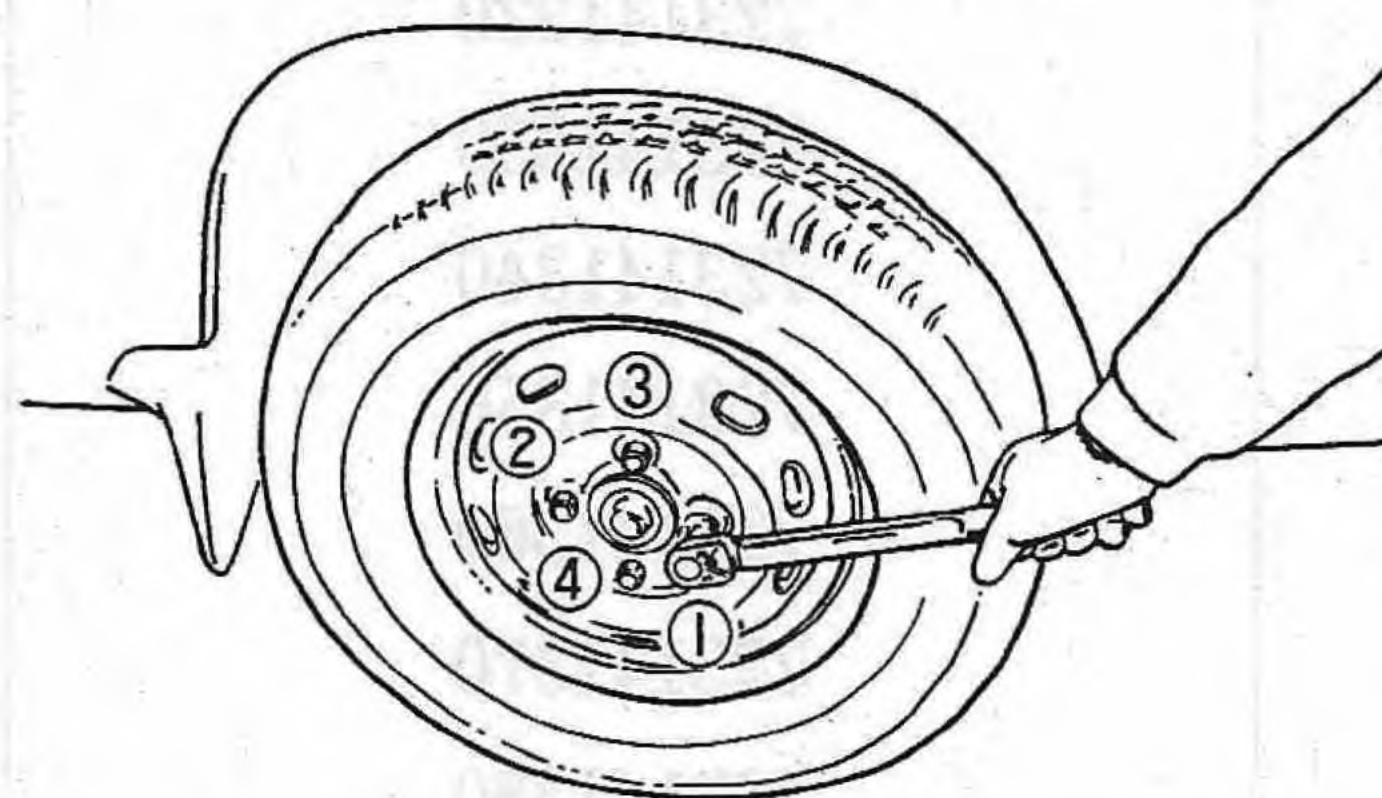
〈取付け〉

注意

ホイールのナット座面,ホイール ナット,ハブボルトに油脂などの付着がないこと。

- (1) ハブ ボルトにホイールのボルト穴を合せる。
- (2) ハブ ボルトにナットを仮組みする。
- (3) ハブのガイド部にホイールのハブ穴を確実に合せ、手でナットを締め付けられるところまで締込む。
- (4) タイヤを回転させ位置を変えながら工具を用いて締め込む。(ホイールにがたがない程度に規定トルク以下のトルクで締め付ける。)
- (5) タイヤを接地させ規定トルクで締め付ける。
(ホイールをひずませないように対角線の順序に2～3回に分けて締め付ける。)

T 9.0±1.0kg-m



- (6) ホイール キャップを取付ける(外した場合)。
- (7) ホイール交換およびパンク修理でホイールを脱着したときは、1000km走行時点で再度、規定トルクで増締めすること。

〈スチール ホイールおよびタイヤの点検, 修正〉

- (1) リムの変形, 損傷の大きいものは空気漏れの原因となるので, リム フランジ部の変形, 亀裂, 損傷を点検し, 修正, または交換する。
- (2) タイヤトレッド部に食い込んだ石, ガラス, 釘, 金属片などは取除く。
- (3) タイヤ サイドウォール部の著しいクラックおよびトレッド部の亀裂, 損傷およびスリップサイン(トレッド ウェア インジケータ)の露出したものは交換する。

(2) ホイール バランス

調整

ホイール バランスはストレート コーン式アタッチメントを使用してホイール バランスで調整をする。

注意

- バランス ウェイト外しは必ずスバル純正部品を使用する。
- バランス ウェイトは再使用しない。
- バランス ウェイトの打ち込みは、必ず樹脂ハンマーを使用する。

許容残留アンバランス量	動的(耳部にて)(片側)10g以下
-------------	-------------------

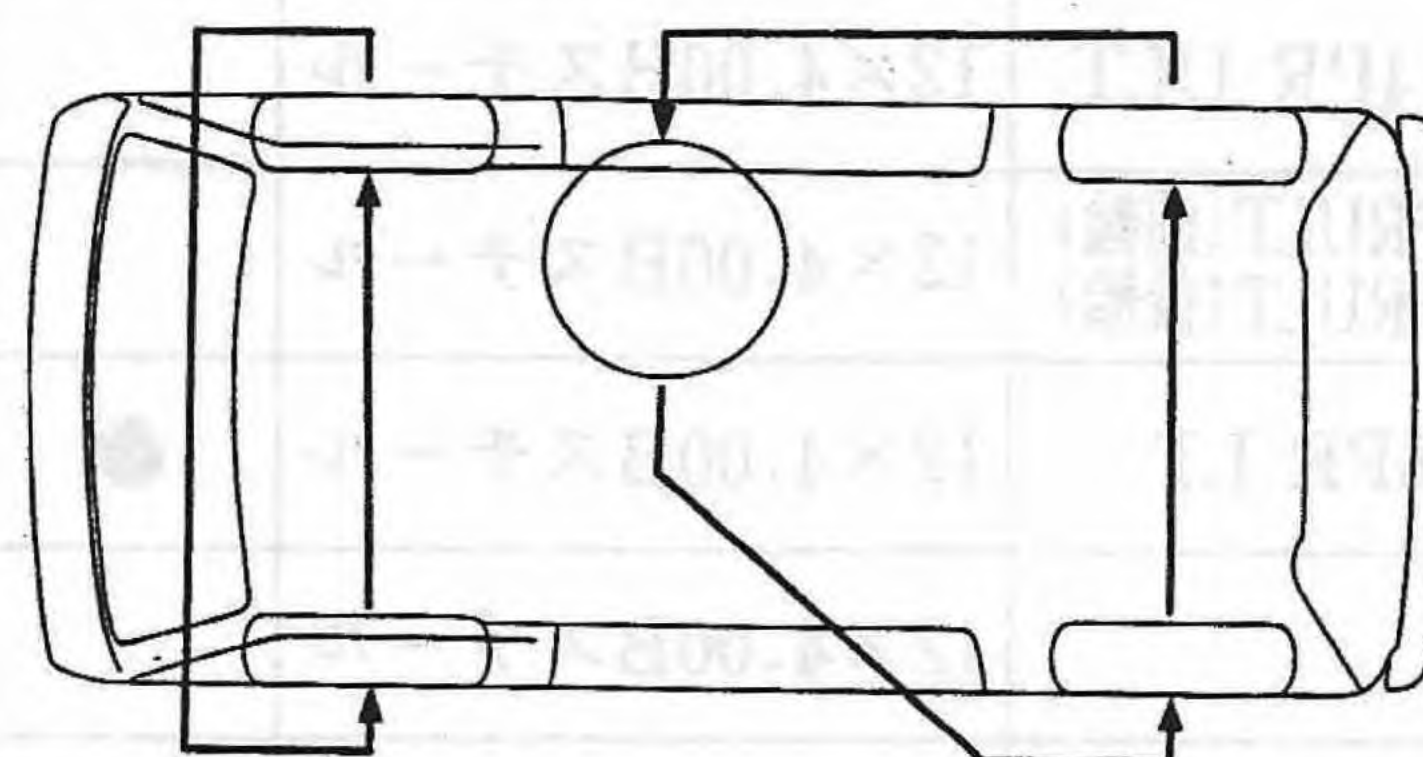
重量(g)	バランス ウェイト 純正部品番号
5	723141290
10	723141300
15	723141310
20	723141320
25	723141330
30	723141340
35	723141350
40	723141360
45	723141370
50	723141380

(3) タイヤ

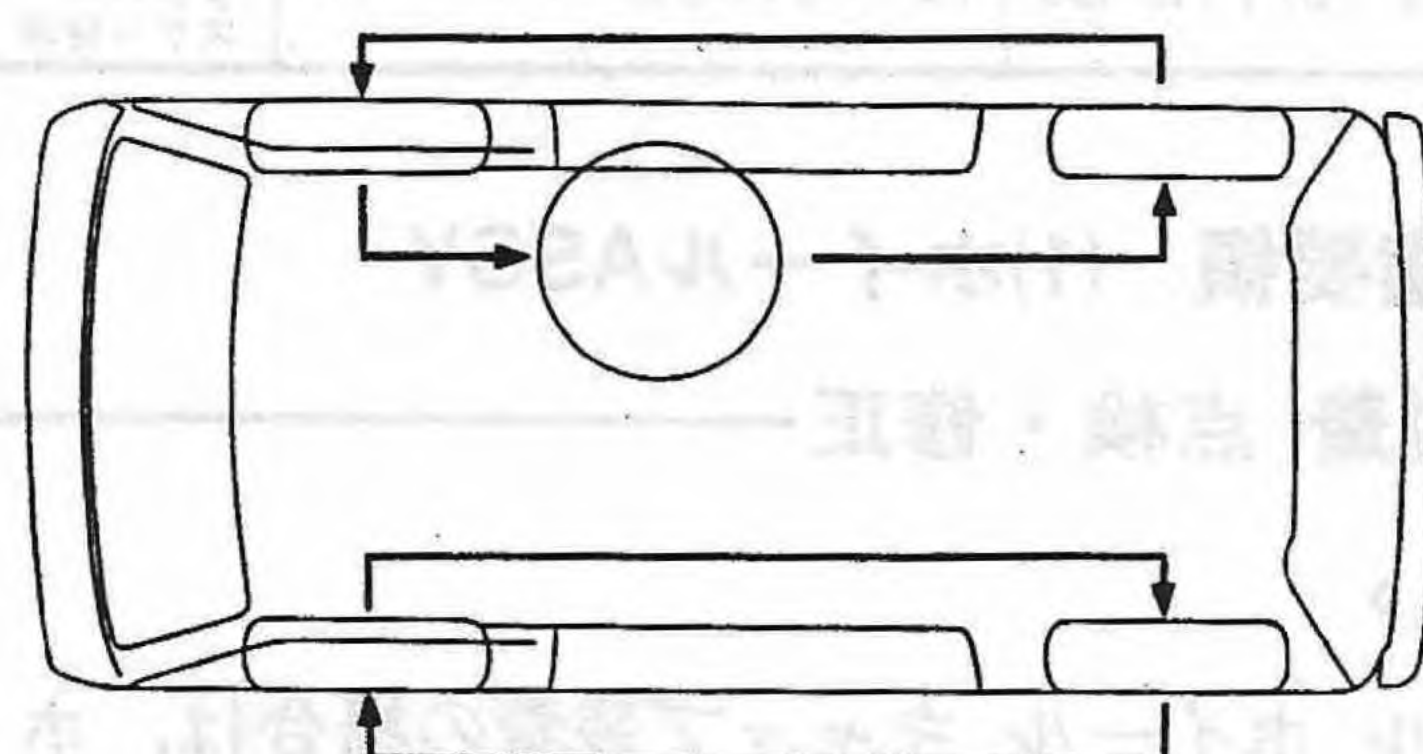
ローテーション

タイヤの偏摩耗を防ぐため、またタイヤの寿命を延ばすため、一定の走行距離ごと(5000km)に図のようにタイヤの位置交換を行う。

〈バイアスタイヤ〉



〈ラジアルタイヤ〉



〔2〕 空気圧

空気圧を軽積載と定積載の2通りに分けて設定した。

(kg/cm²)

車 種			タイヤ サイズ	軽 積 載		定 積 載	
				前 輪	後 輪	前 輪	後 輪
トラック	350kg積車	2WD及び4WD	5.00-12-4PR	1.8	2.2	1.8	2.4
			145R12-6PR 135/95R12 79/77L	1.8	2.2	2.2	3.0
			5.00-12-4PR/6PR	1.8	2.2	2.2	3.0
バン	350kg積車	2WD及び4WD	145R12-6PR 135/95R12 79/77L	1.8	2.2	2.2	3.0
			145SR12	2.0	2.0	2.2	2.2
トライ	200kg積車	2WD及び4WD	155SR12	1.8	2.0	2.0	2.2

〈注記〉 軽積載とは2名+100kg以下の時である。

〔3〕 タイヤチェーン

標準装着タイヤにスバル純正タイヤチェーンを設定したので純正タイヤチェーンを使用する。
JISチェーンを使用する場合は下記型番が表示されているチェーンを装着する。

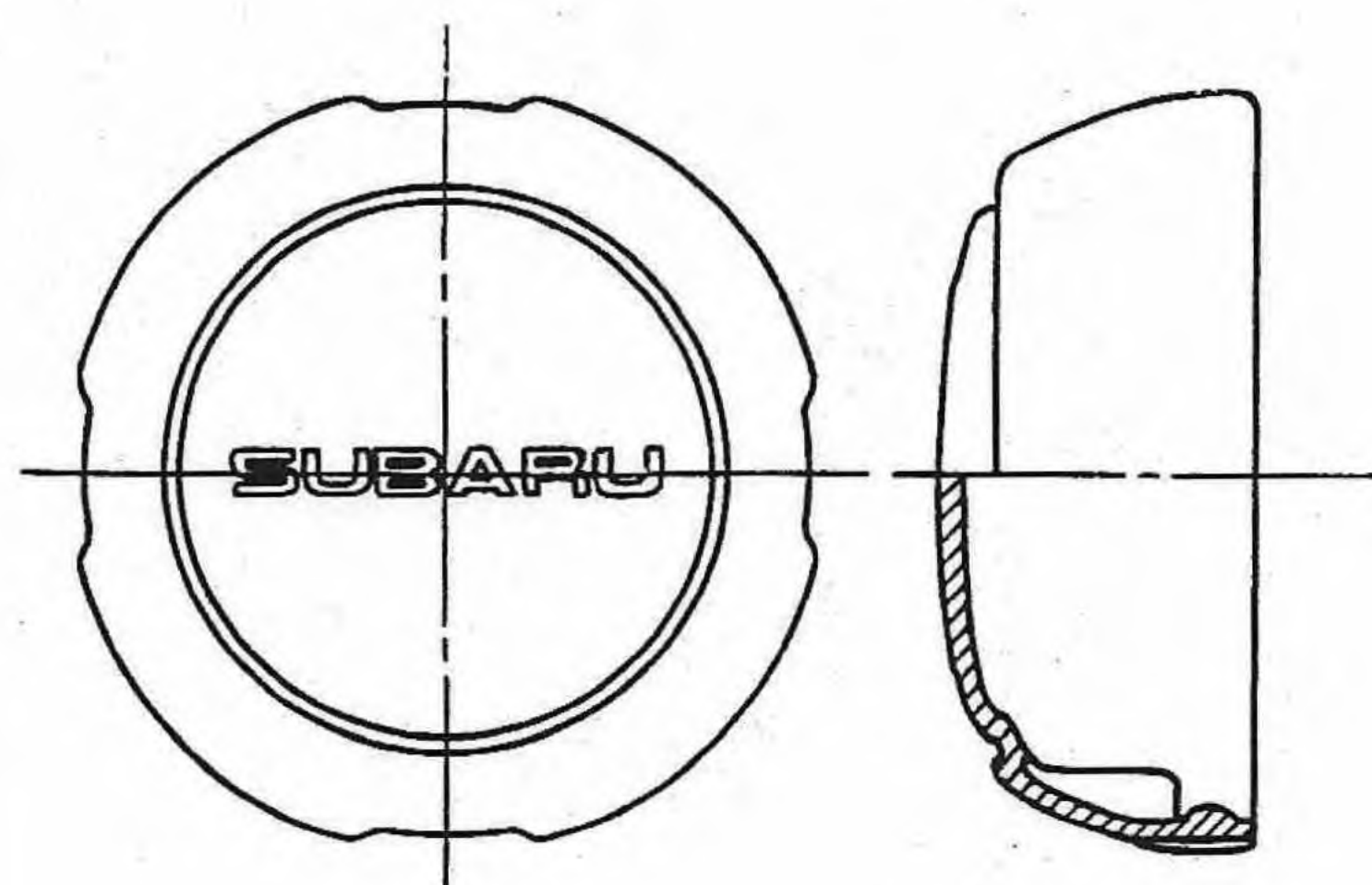
タイヤサイズ	スバル品番		JIS型番
	スチールチェーン	サイルチェーン	
5.00-12-4PR/6PR	004501308	B3176GA005	45161
135/95R12 79/77LLT		B3176GA004	
155SR12			
145R12-6PR 145SR12	004501311	B3176GA003	

〈注記〉

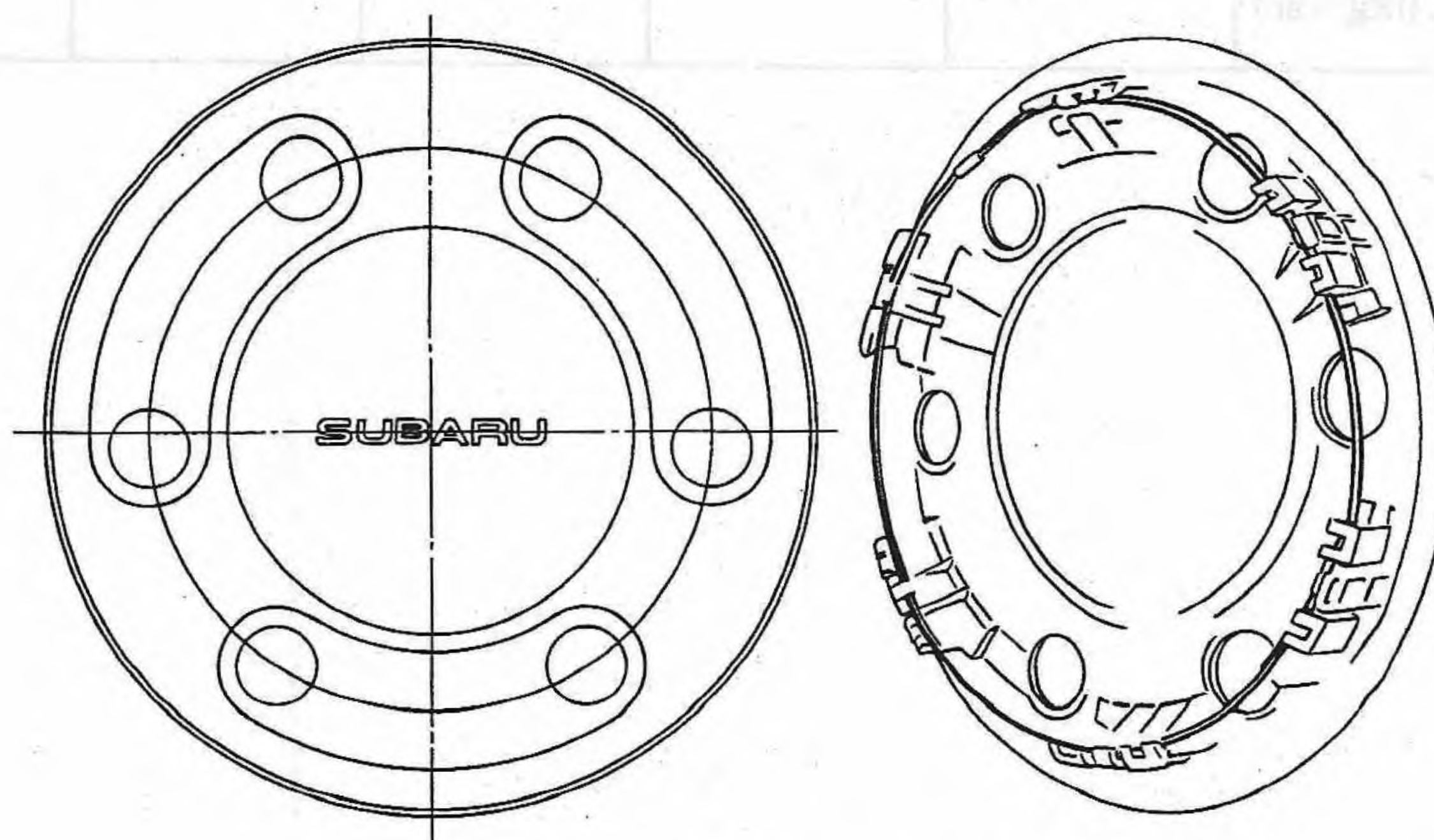
- ・タイヤにチェーンを装着後、余ったチェーンは針金で固定し、走行中ボデーに当たらないようにすること。
- ・上記の純正タイヤチェーン及びJISチェーン以外のチェーンはタイヤ周辺部材に当り、損傷をきたすため使用しないこと。

〔4〕 ホイール キャップ ■仕様

ホイール キャップはセンタ キャップ及びフルホイール キャップの2種類がある。
フルホイール キャップは脱着が容易で、かつスチール ホイールの塗膜を傷付けない方式である。



センターキャップ



フルホイールキャップ

■ 整備要領

フル ホイールキャップ

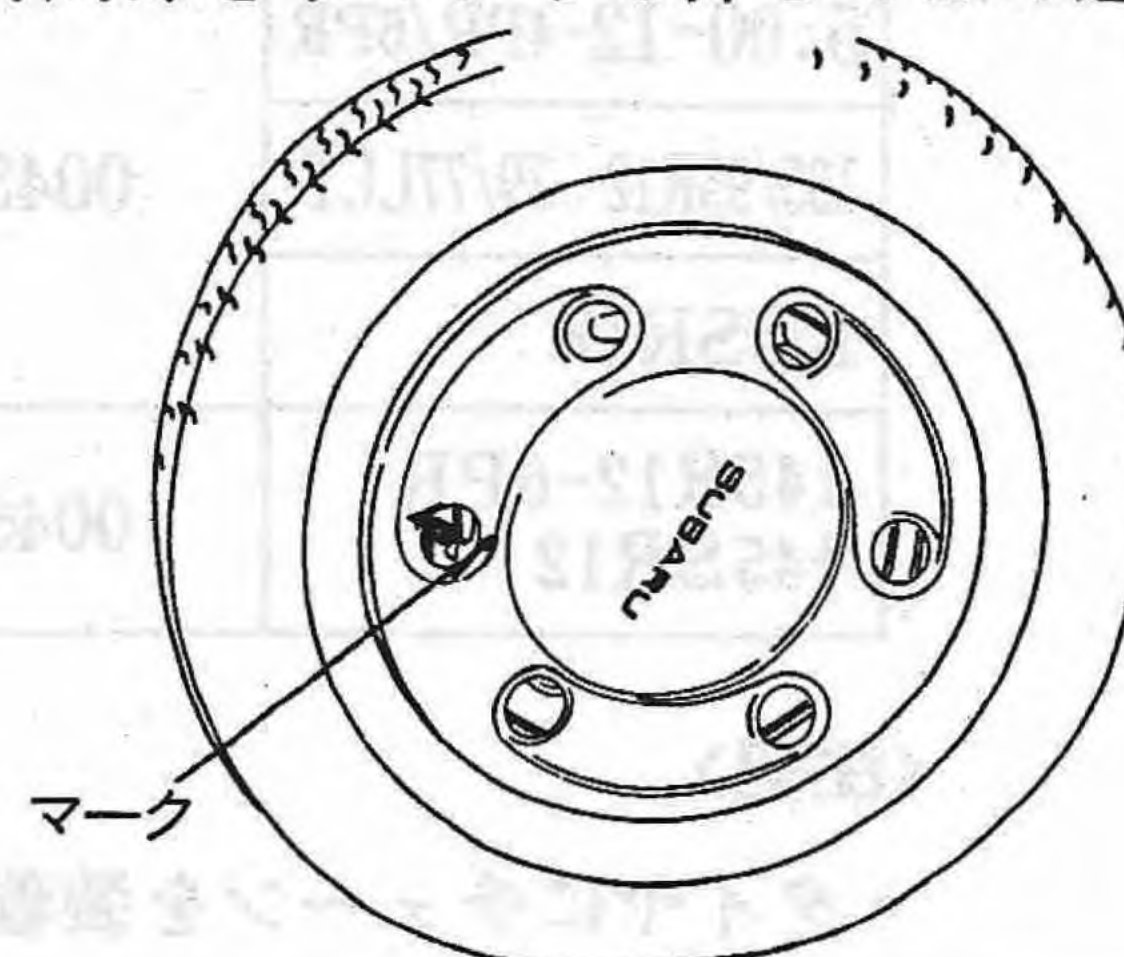
〈取外し〉

ホイールキャップ切欠部に⊖ドライバー等を差込み
キャップを浮かせるようにして外す。



〈取付け〉

ホイールキャップの▽マークのあるバルブ位置を合
せて、外周部を手のひらで押してはめ込む。



〔5〕スペアタイヤ

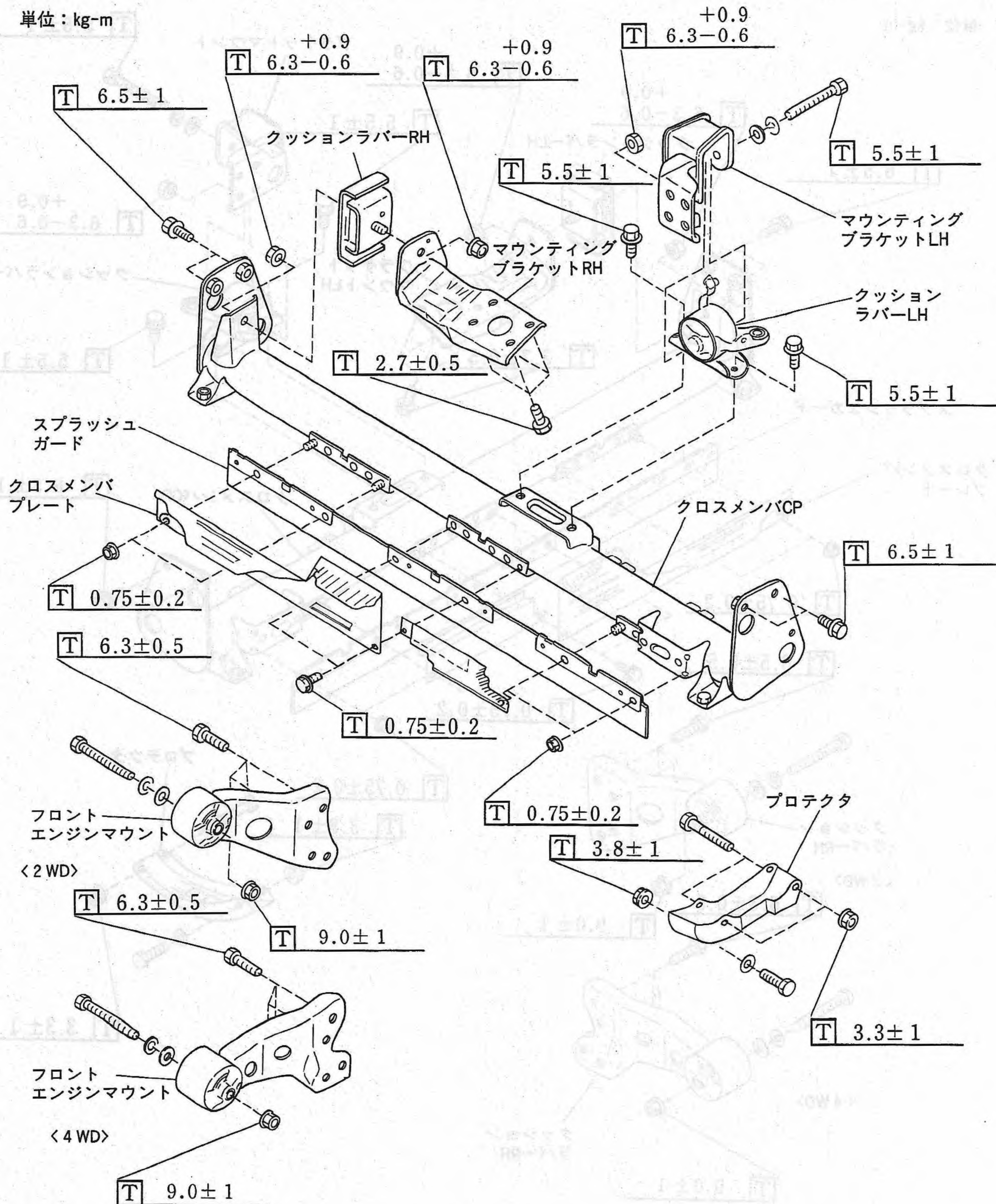
トラック、バンに標準装着タイヤと同サイズのスペアタイヤが装着されている。
但し、バンの5.00-12タイヤ装着車は6PRがスペアタイヤとして装着されている。

〈仕様および空気圧〉

トラック		バン				トライ	
350kg積車		350kg積車				200kg積車	
キャブレータ(NA)車		SC車		キャブレータ(NA)車		SC車	SC車
営農4WD	左記以外			ハイカスタム	左記以外		
145R12-6PR LT (3.0kg/cm ²) ランバスター付車 135/95R12 79/77LLT (3.0kg/cm ²)	5.00-12-4PR ULT (2.4kg/cm ²)	145R12-6PR LT (3.0kg/cm ²)	145R12-6PR LT (3.0kg/cm ²)	5.00-12-6PR (3.0kg/cm ²)	145R12-6PR LT (3.0kg/cm ²)	145SR12 (2.2kg/cm ²)	155SR12 (2.2kg/cm ²)

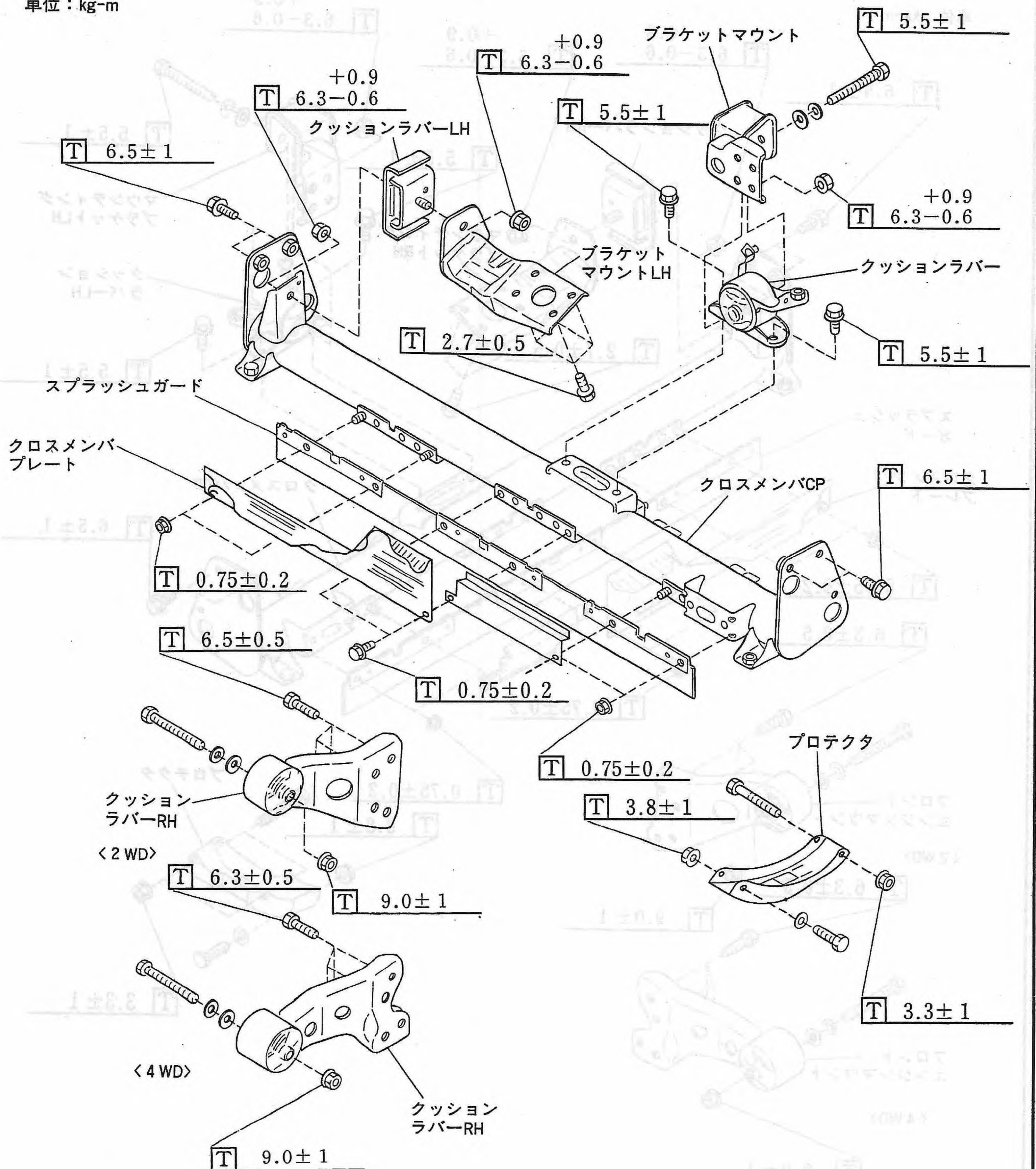
〔1〕 MT車

単位: kg-m



〔2〕 ECVT車

単位：kg-m



5 ボデー

■ 主要変更点 65

5-1 ボデー

〔1〕 ボデー マウント

- (1) トラック.....(注3 P.79)
- (2) バン, トライ.....(注3 P.80)

〔2〕 ドア

■ 準備品(注3 P.81)

■ 構成部品(注3 P.81)

■ 整備要領

- (1) ドア.....(注3 P.85)
- (2) トリムパネル.....(注3 P.90)
- (3) ドアガラス&レギュレータ.....(注3 P.91)
- (4) インナリモート&スライドドア
アウトハンドル.....(注3 P.94)
- (5) ドアラッチ&キャブドアアウトハンドル (注3 P.94)
- (6) センタアーム.....(注3 P.95)
- (7) センタレール.....(注3 P.95)
- (8) ウェザストリップ.....(注3 P.96)

〔3〕 集中ドアロック

■ 構成部品(注3 P.97)

■ トラブルシューティング.....(注3 P.97)

〔4〕 リヤゲート(バン, トライ)

■ 構成部品(注3 P.100)

■ 整備要領(注3 P.100)

〔5〕 ウインドガラス

■ 整備要領

- (1) フロントウインドガラス.....(注3 P.106)
- (2) リヤゲートガラス&リヤクォータ
ウインドガラス.....(注3 P.108)

〔6〕 ウェザストリップ

■ 整備要領(注3 P.109)

〔7〕 サンサンルーフ

■ 構成部品(注3 P.110)

■ トラブルシューティング.....(注3 P.111)

■ 整備要領

- (1) フロントサンルーフ.....(注3 P.112)
- (2) リヤ サンルーフ.....(注3 P.113)

5-2 ボデー外装

〔1〕 バンパ

■ 整備要領

- (1) フロントバンパ.....(注3 P.116)
- (2) リヤバンパ(バン系),
エンジンフード(トラック系) (注3 P.117)

〔2〕 マッドガード

■ 整備要領(注3 P.118)

〔3〕 アンダガード

■ 整備要領(注3 P.119)

〔4〕 マーク類

■ 整備要領(注3 P.120)

〔5〕 アウタミラー

■ 整備要領(注3 P.121)

〔6〕 アウタハンドルプロテクタ(トライ)

■ 整備要領(注3 P.122)

〔7〕 アウタパーツ

■ 整備要領(注3 P.123)

〔8〕 乗降用ステップ(トライ×V)

■ 整備要領(注3 P.125)

5-3 ボデー内装

〔1〕 インストルメントパネル

■ 構成部品 66

■ 整備要領 67

〔2〕 コンソールボックス

■ 整備要領(注3 P.128)

〔3〕 フロントシート

■ 整備要領

- (1) トラック..... 68
- (2) バン..... 70
- (3) トライ..... 72
- (4) 回転シート(トライ×V)..... 74

〔4〕 リヤシート

■ 整備要領

- (1) バン..... 76
- (2) トライ..... 77

〔5〕 シートベルト

■ 整備要領 78

〔6〕 デッキ

■ 整備要領 (注3 P.140)

〔7〕 トリム類

■ 整備要領

(1) インテリアトリム (注3 P.141)

(2) ルーフトリム (注3 P.142)

〔8〕 フロアマット

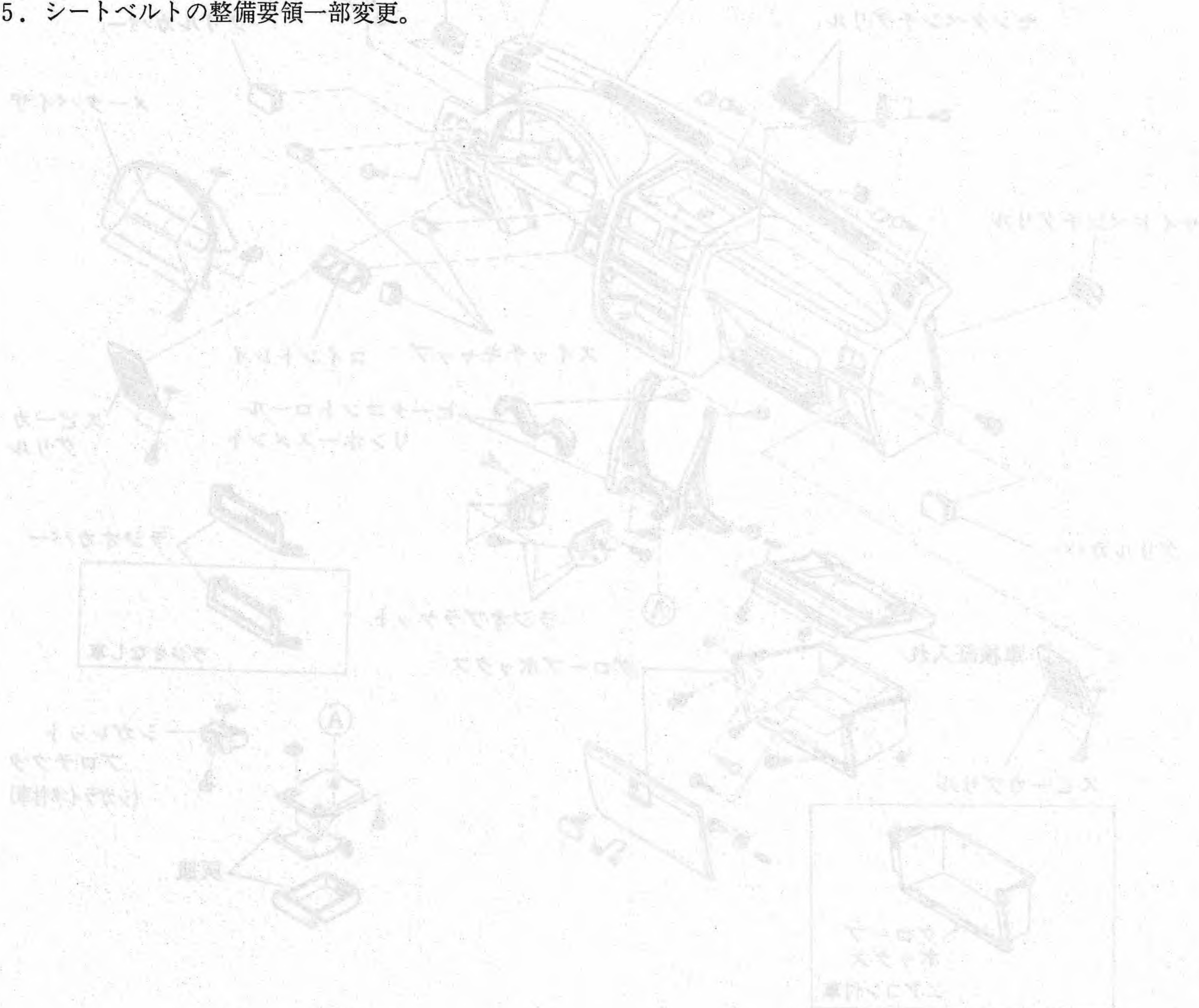
■ 整備要領 (注3 P.146)

〔9〕 インテリア アタッチメント

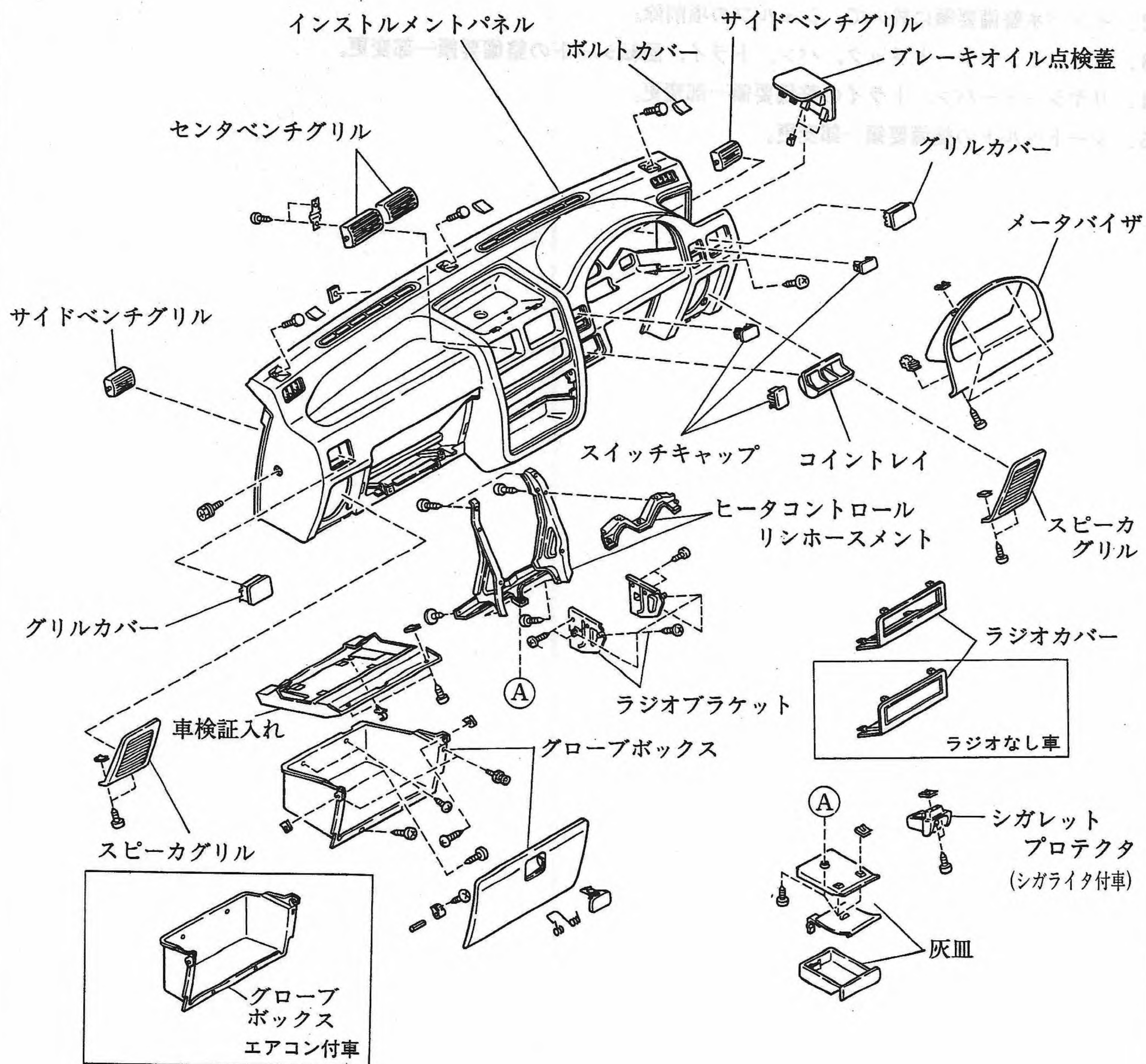
■ 整備要領 (注3 P.148)

■ 主要変更点

1. インstrumentパネル構成部品図に於いて、シェルフ廃止。
2. インパネ整備要領に於いて、シェルフの項削除。
3. フロントシートトラック、バン、トライ、回転シートの整備要領一部変更。
4. リヤシートバン、トライの整備要領一部変更。
5. シートベルトの整備要領一部変更。



〔1〕 インストルメントパネル ■ 構成部品

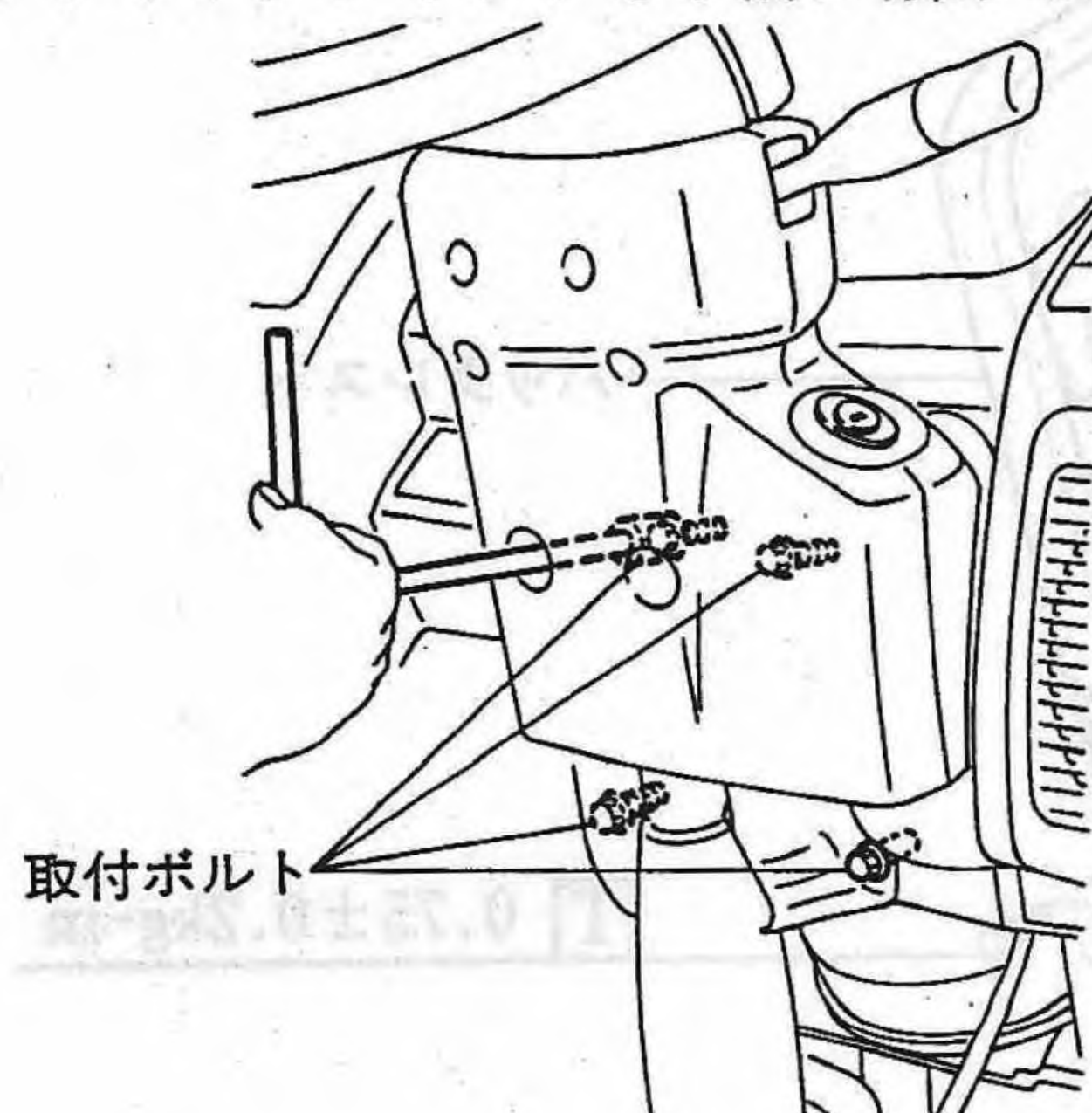


■ 整備要領

脱着

〈取外し〉

- (1) バッテリ(－)端子を外す。
- (2) ステアリングコラム取付ボルト(4本)を取外し、ステアリングシャフトを手前に傾けておく。



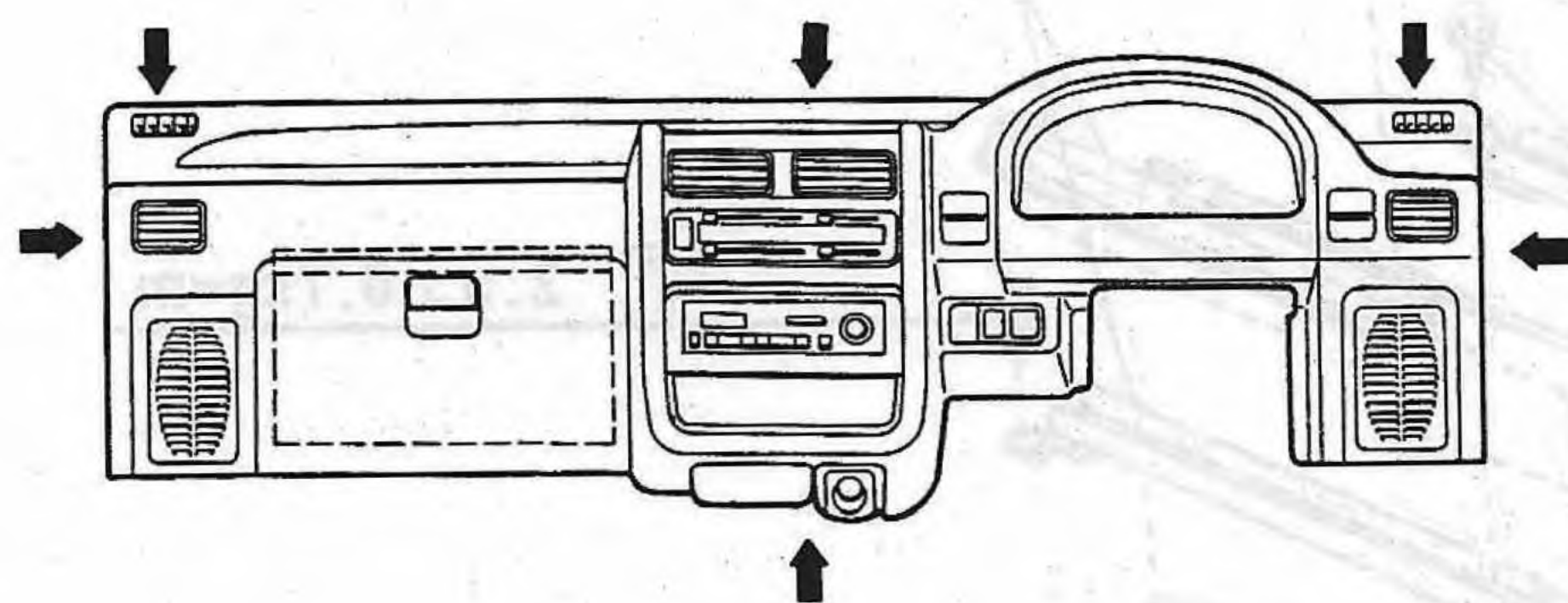
- (3) ブレーキオイル点検蓋を外し、リザーブタンクを取外す。(取付ボルト：2本)



- (4) ヒータユニットの各コントロールケーブルを外す。
コントロールケーブル：3本

温度コントロールケーブル	——	運転席側
内外気切換ケーブル	}	助手席側
吹出し(モード)切換ケーブル		

- (5) インストルメントパネル本体を取外す。
(取付ボルト(矢印)：6本)



〈取付け〉

取外しの逆順序で行なう。

注意

ヒータコントロールのケーブル類は、各コントロールレバーを調整しながら取付ける。

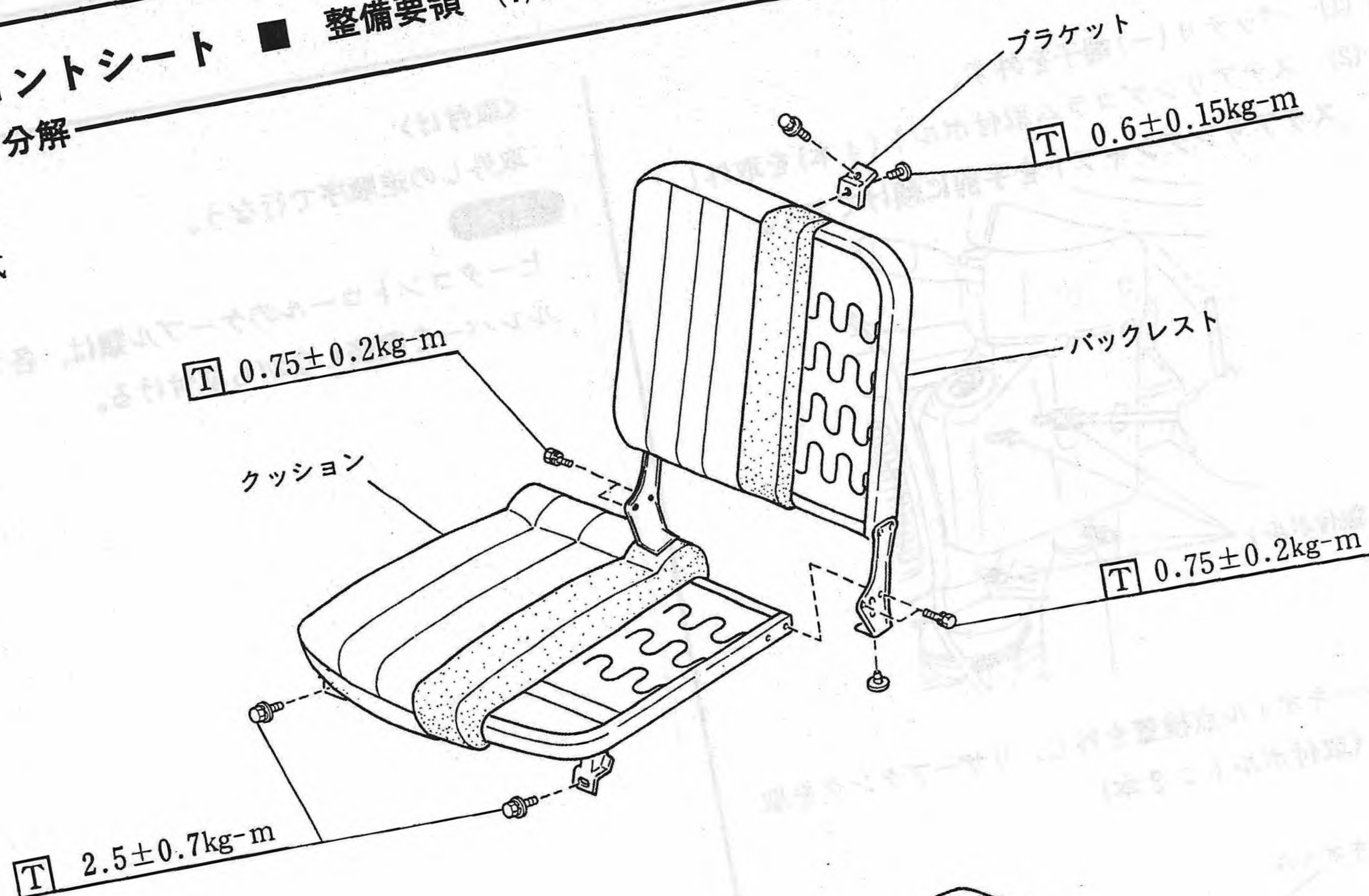
フロントシート—トラック

〔3〕フロントシート ■ 整備要領 (1)トラック

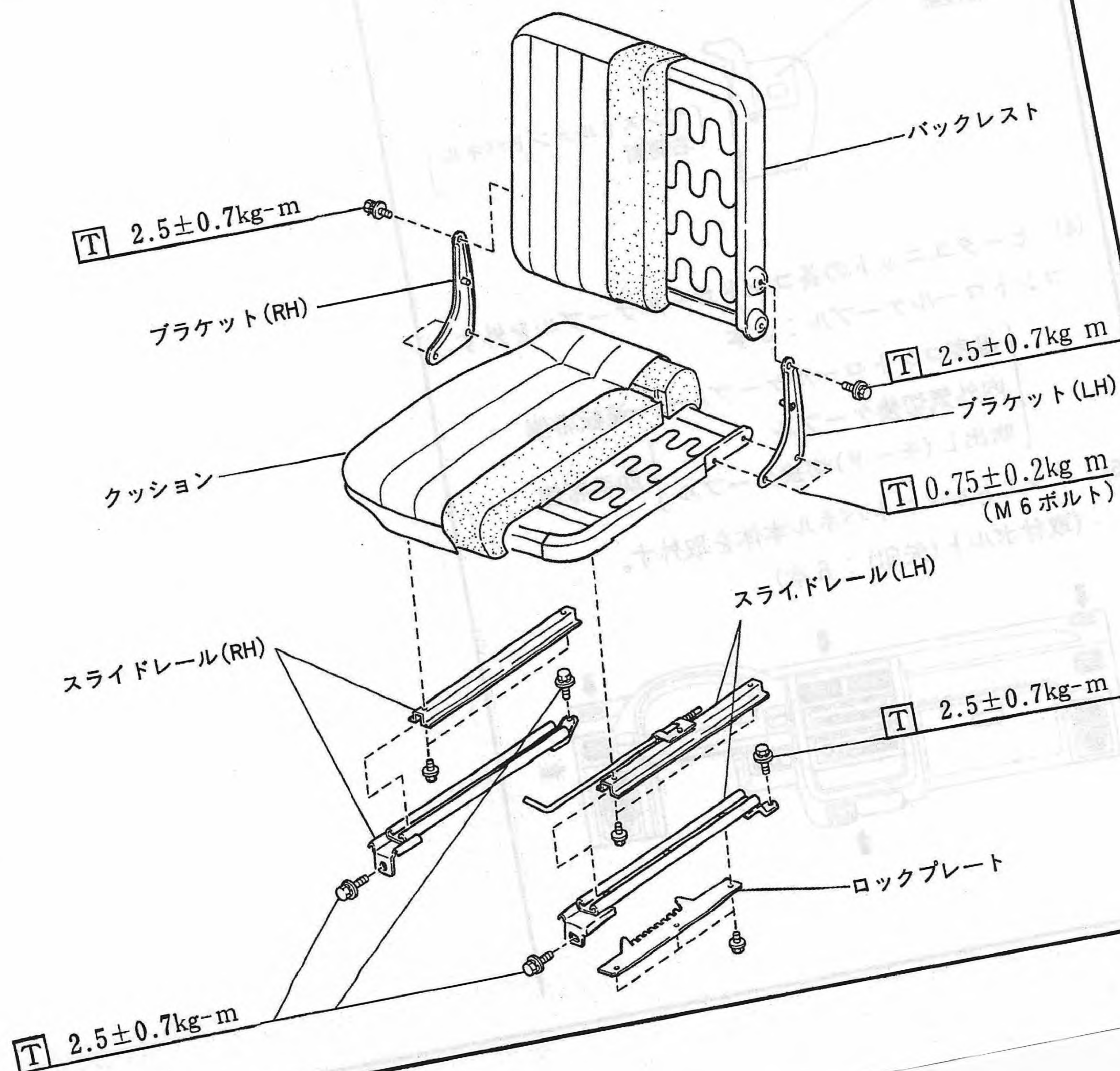
脱着・分解

〈運転席〉

・固定式

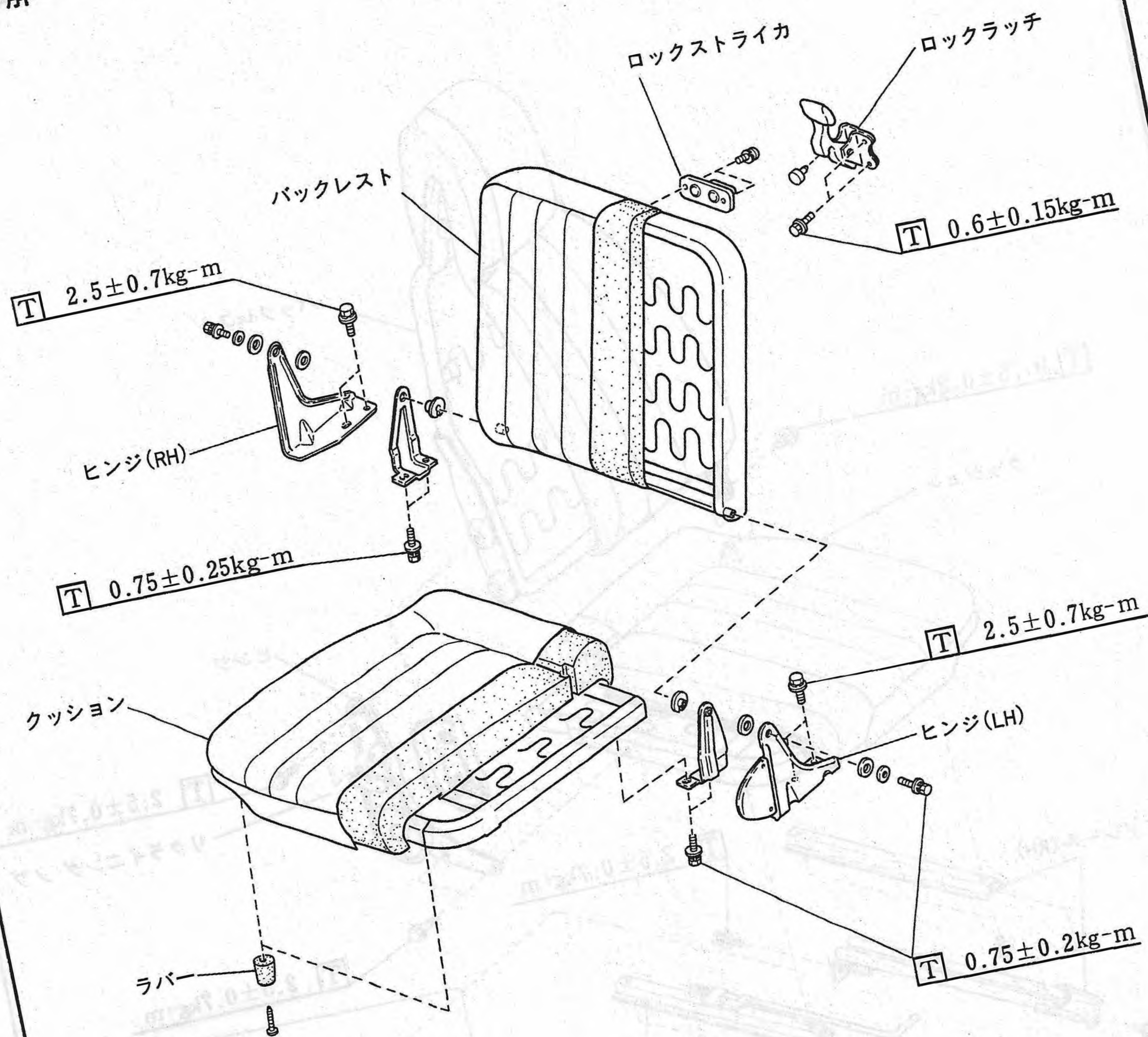


・スライド式



フロントシート—トラック

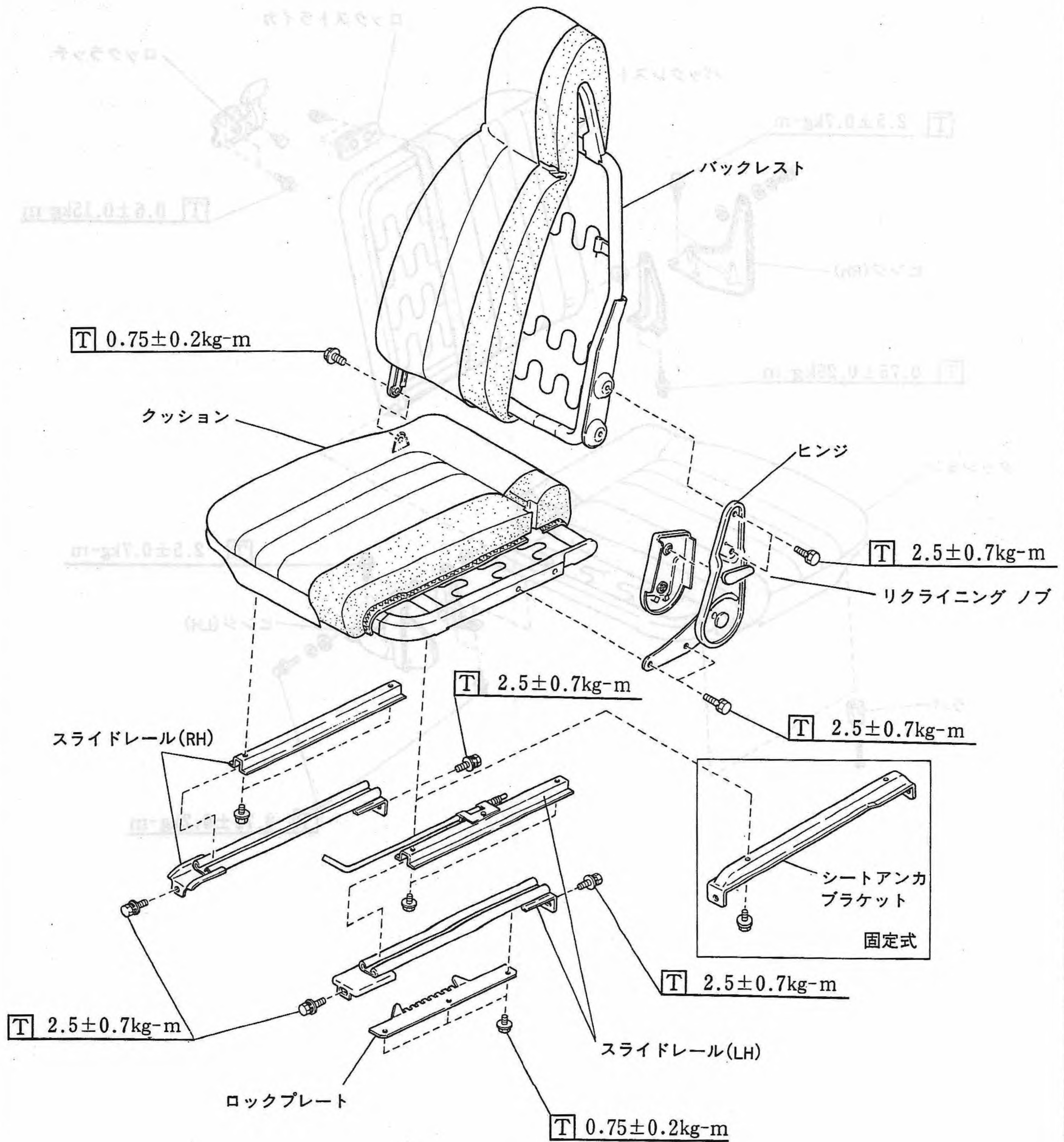
脱着・分解
〈助手席〉



(2) バン

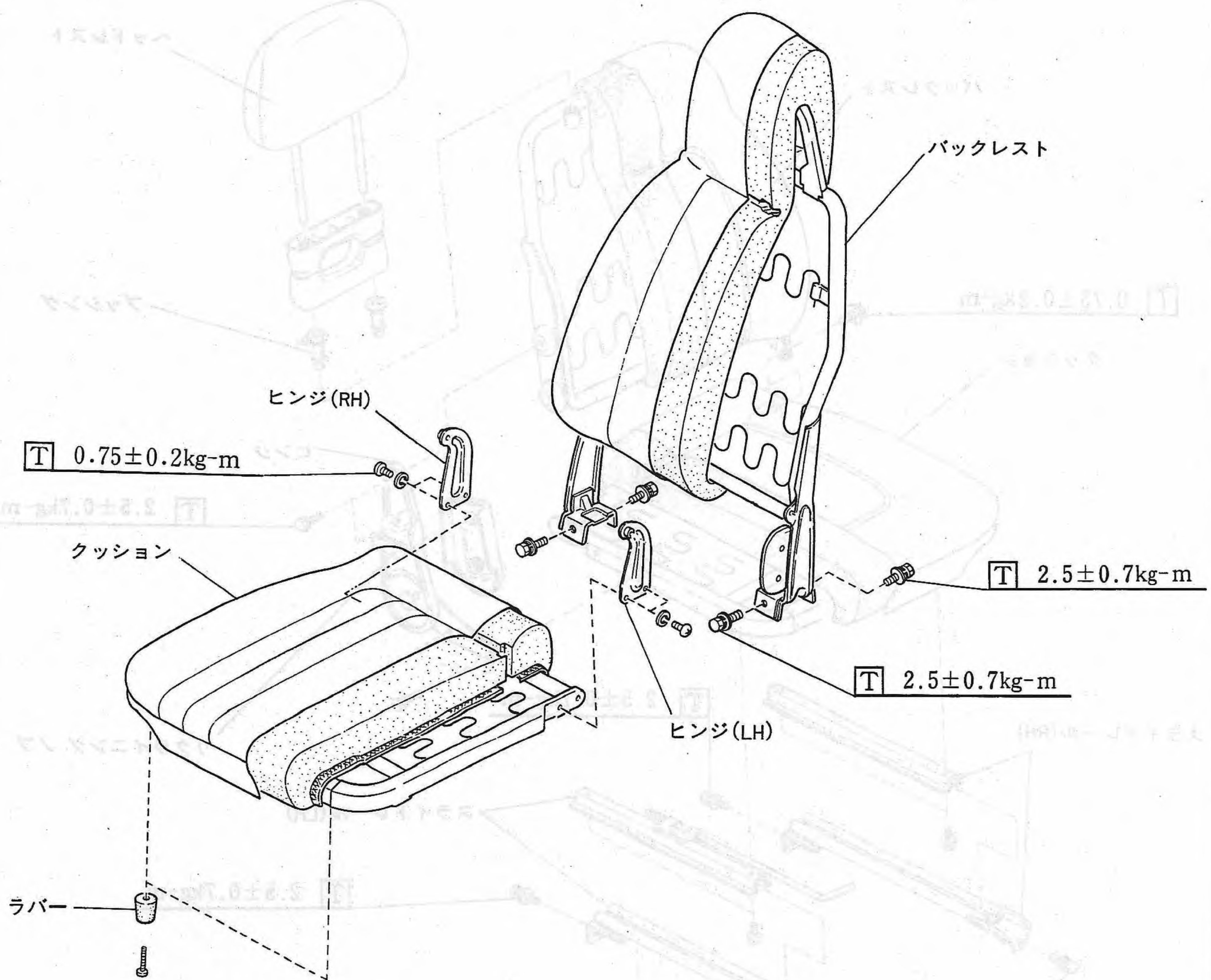
脱着・分解

〈運転席〉



脱着・分解

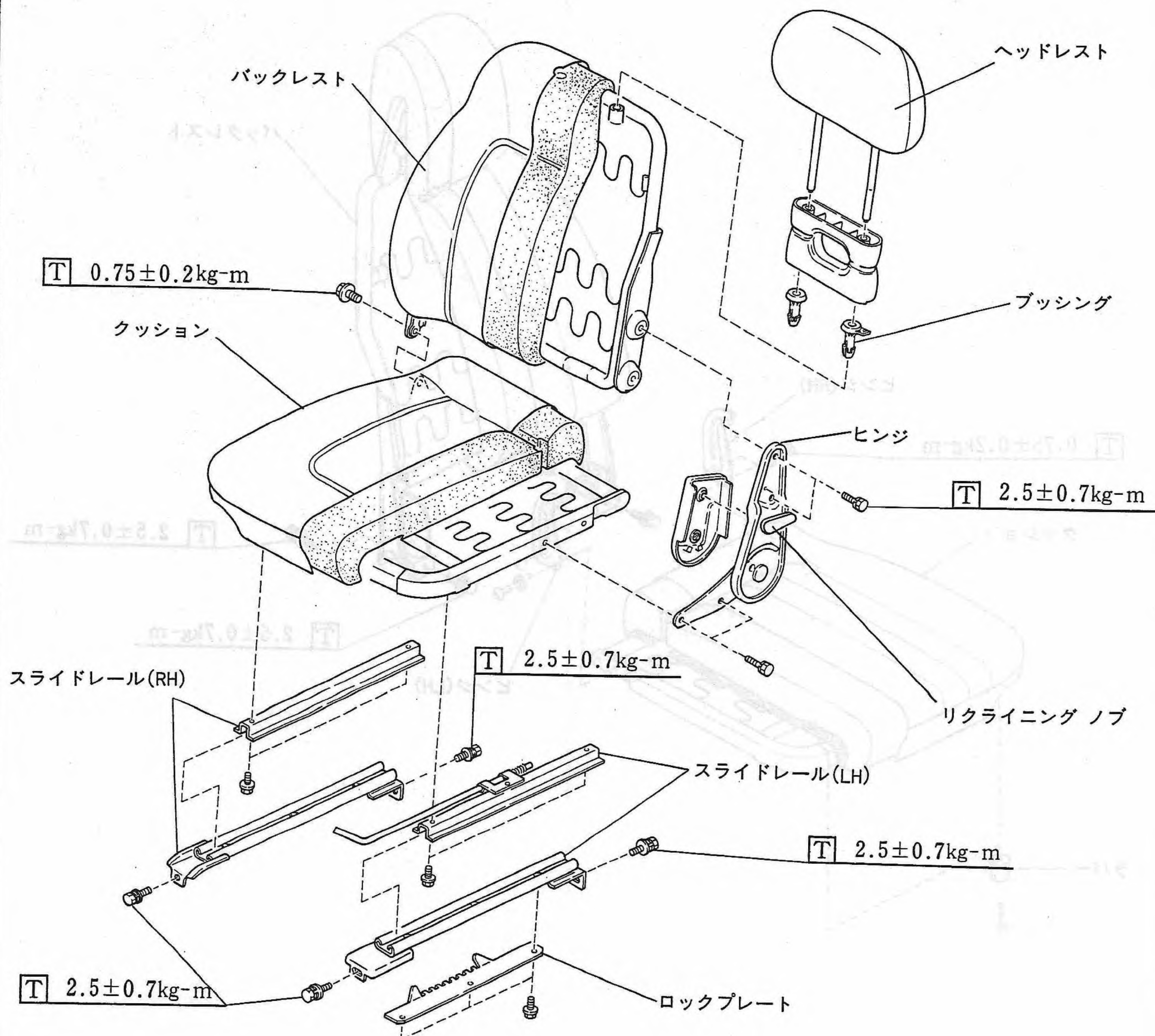
〈助手席〉



(3) トライ

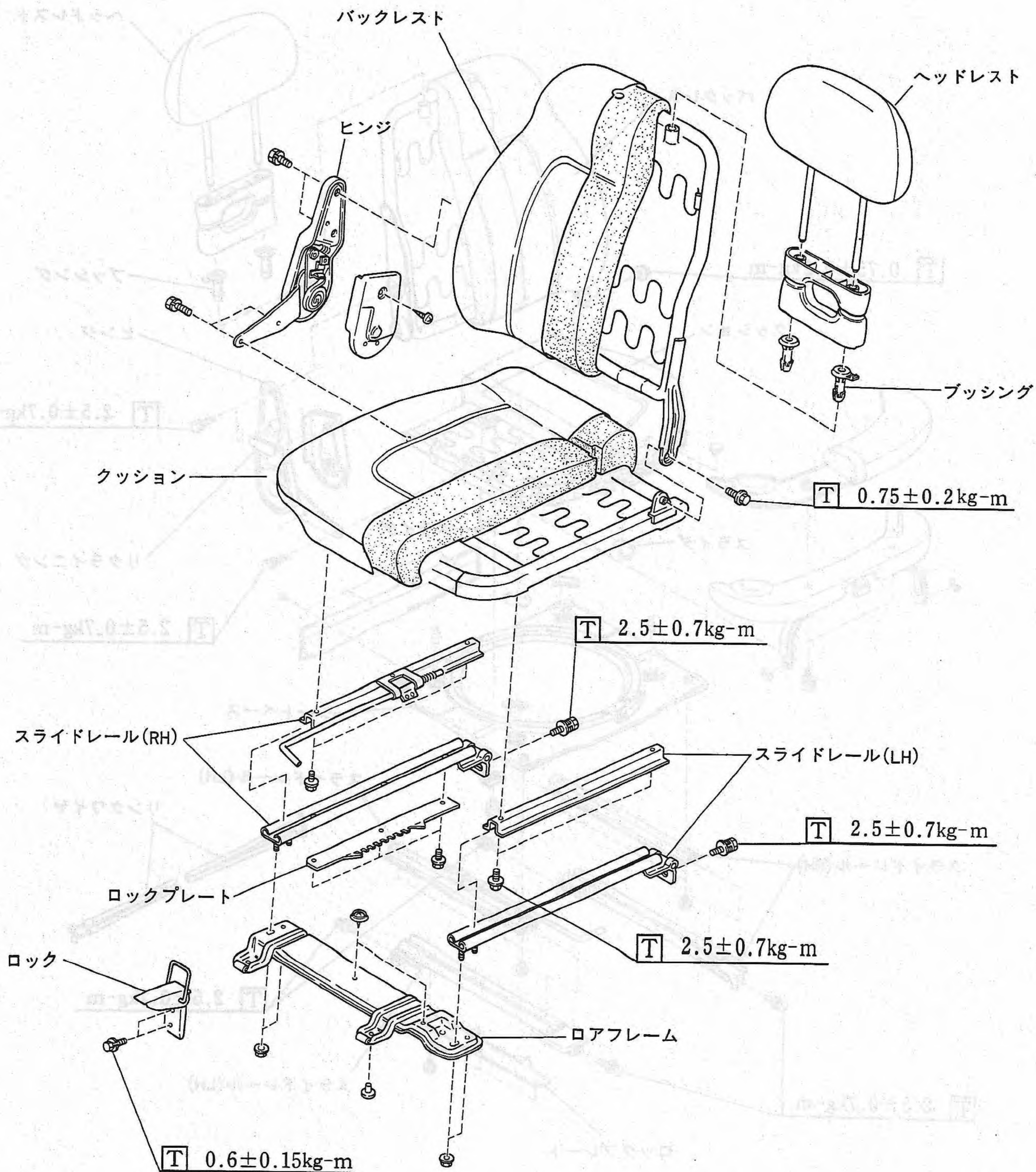
脱着・分解

〈運転席〉



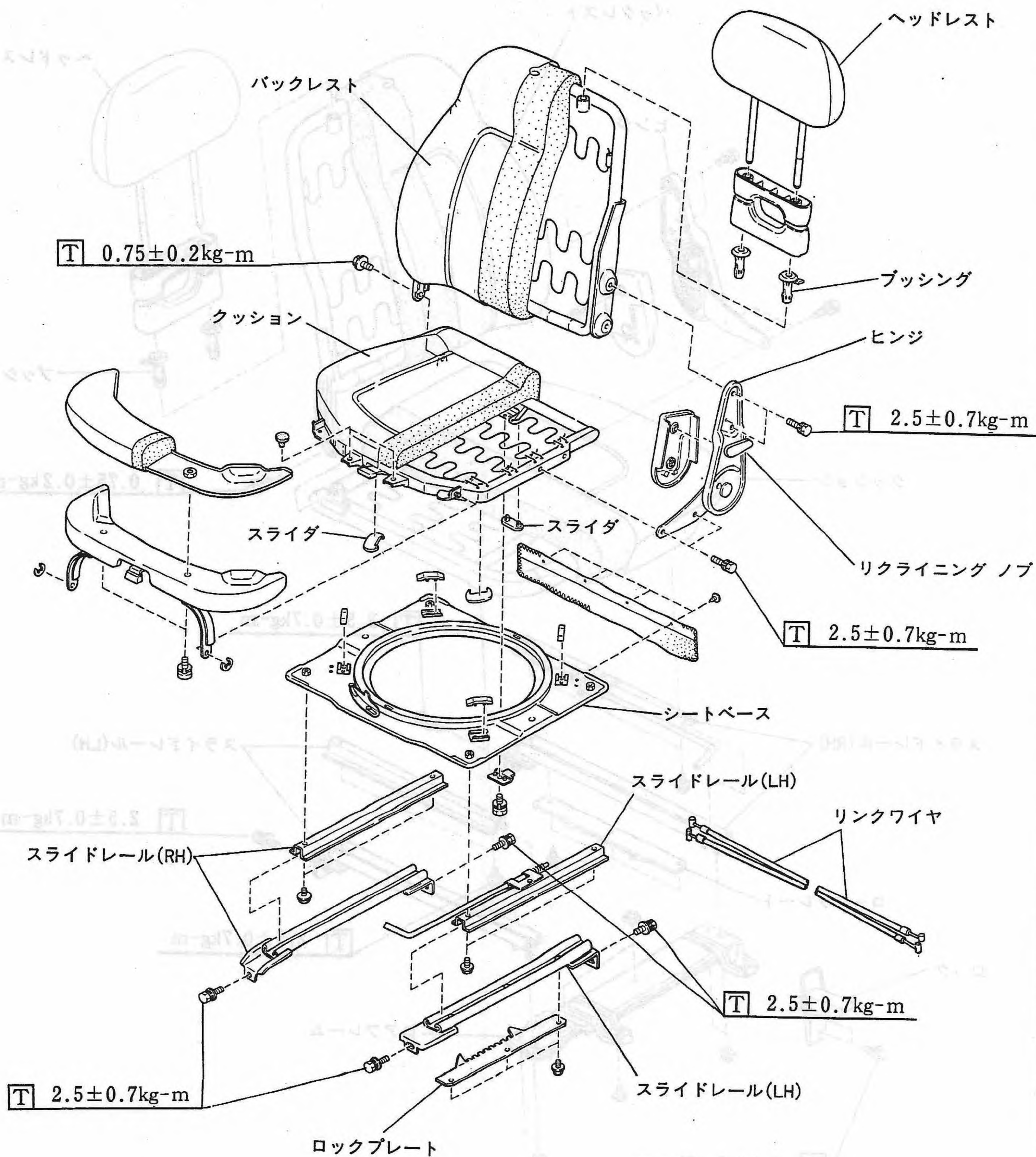
脱着・分解

〈助手席〉



(4) 回転シート (トライ XV)

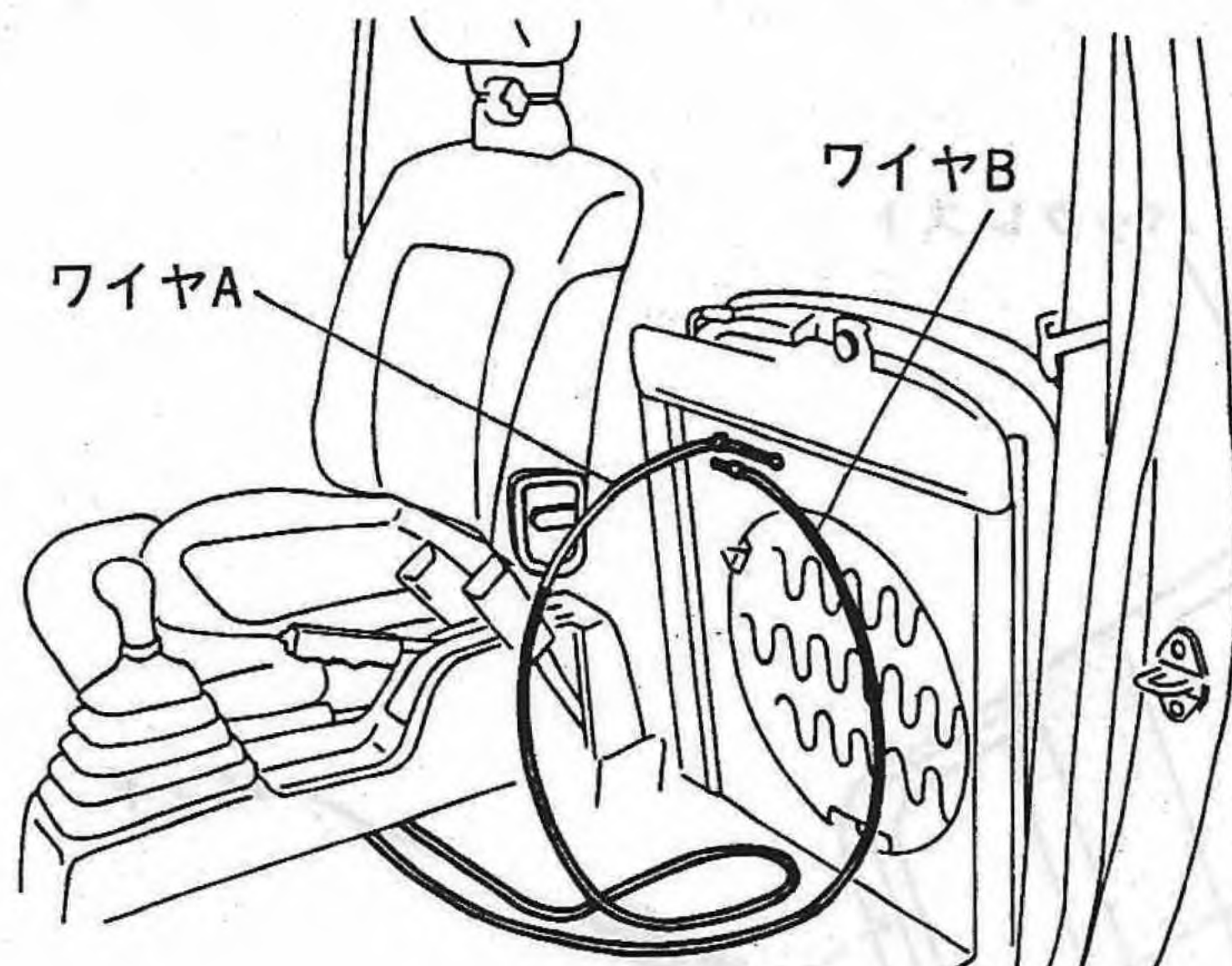
脱着・分解



脱着・分解

＜ワイヤの取外し＞

- 1) 助手席のロックを外し、シートを跳ね上げる。



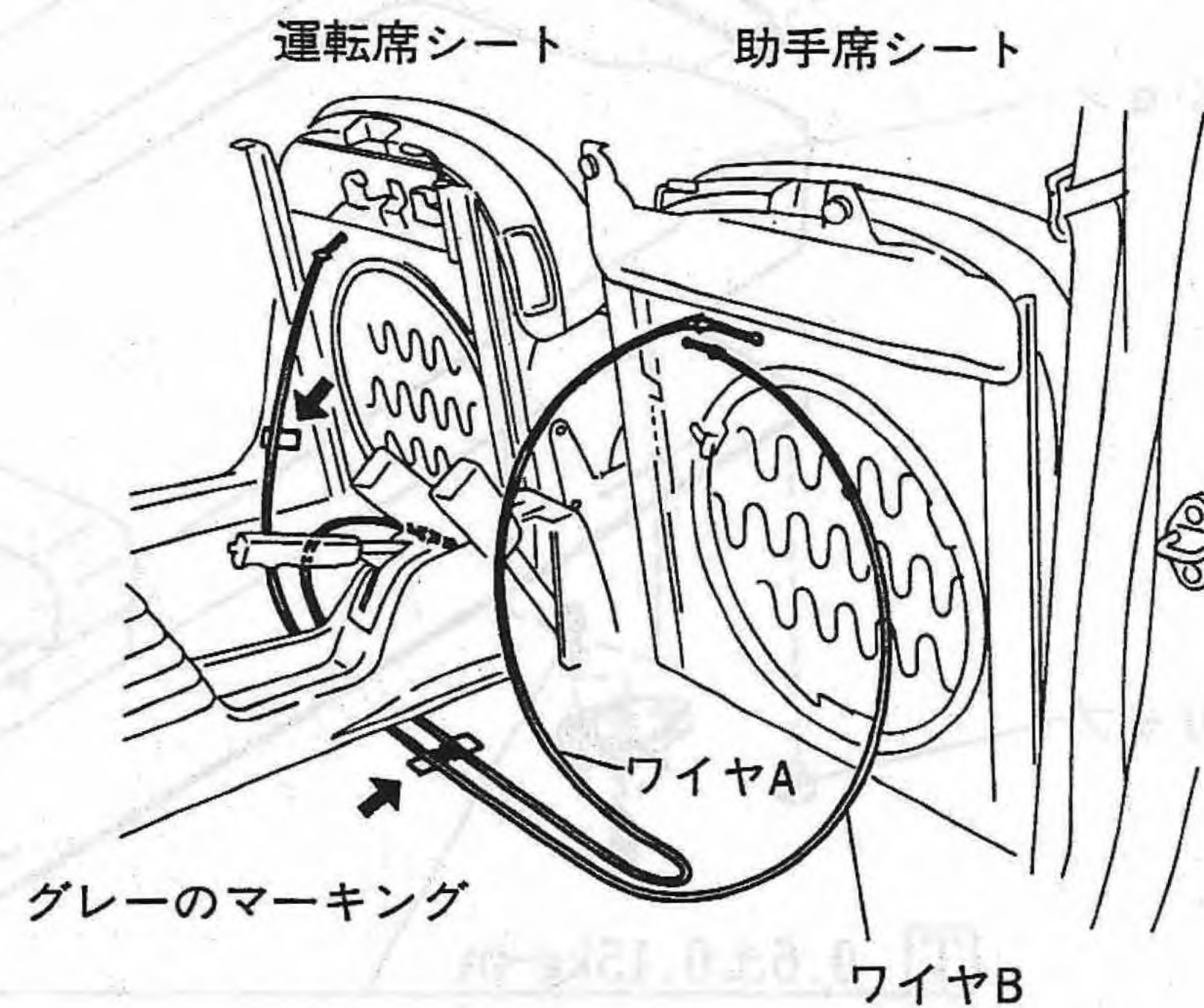
- 2) ワイヤA, Bを固定部から外す。
- 3) 運転席を取外し、ワイヤを外す。

＜ワイヤの取付け＞

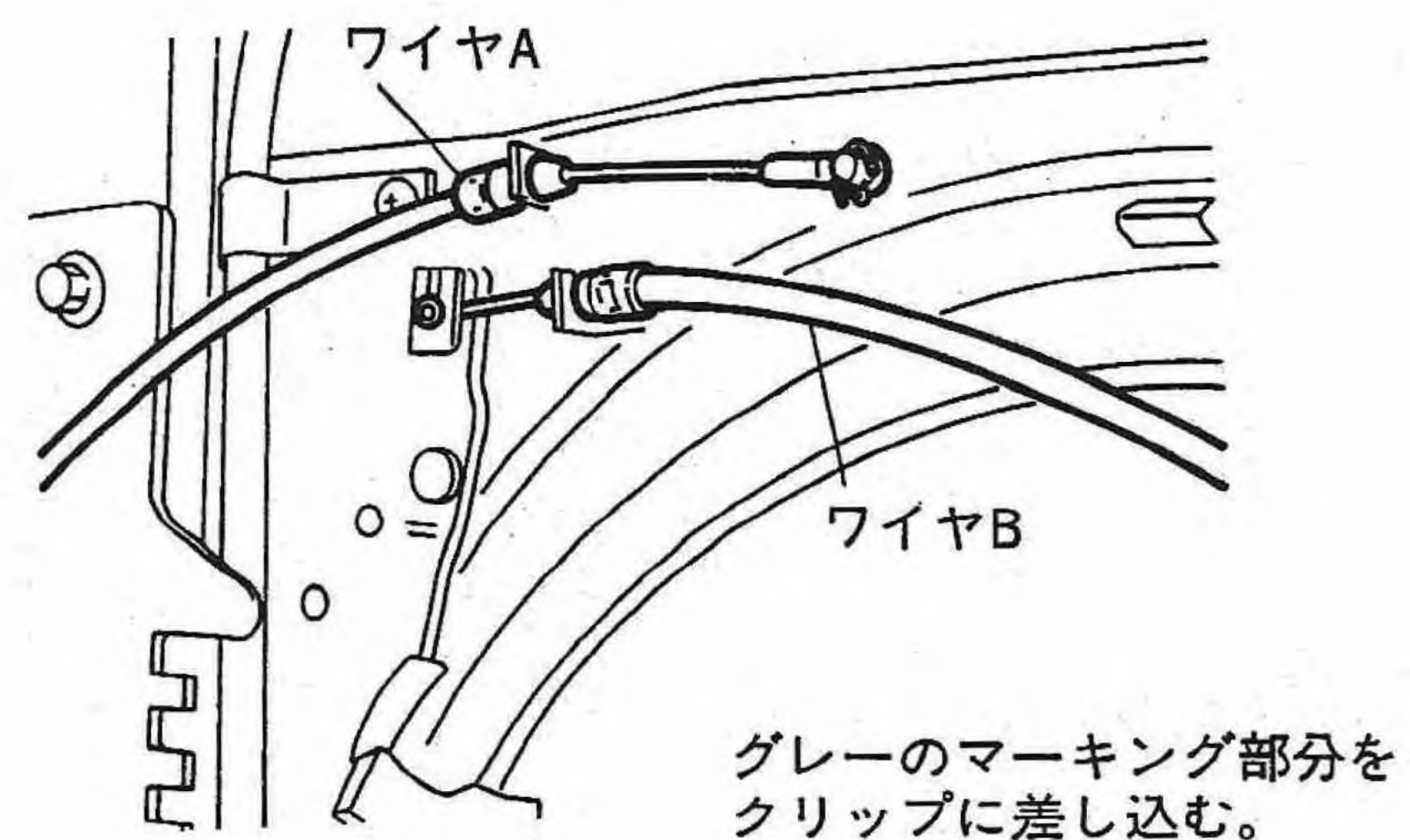
注意

- ・ワイヤを鋭角に折り曲げたり、過度に引っ張ったりしないこと。
- ・ワイヤの引き回し時やシート取付時、ハーネスやワイヤを損傷しないよう注意すること。

- 1) 運転席にワイヤを取付ける。
- 2) シートに取付けたワイヤ2本をまとめる。



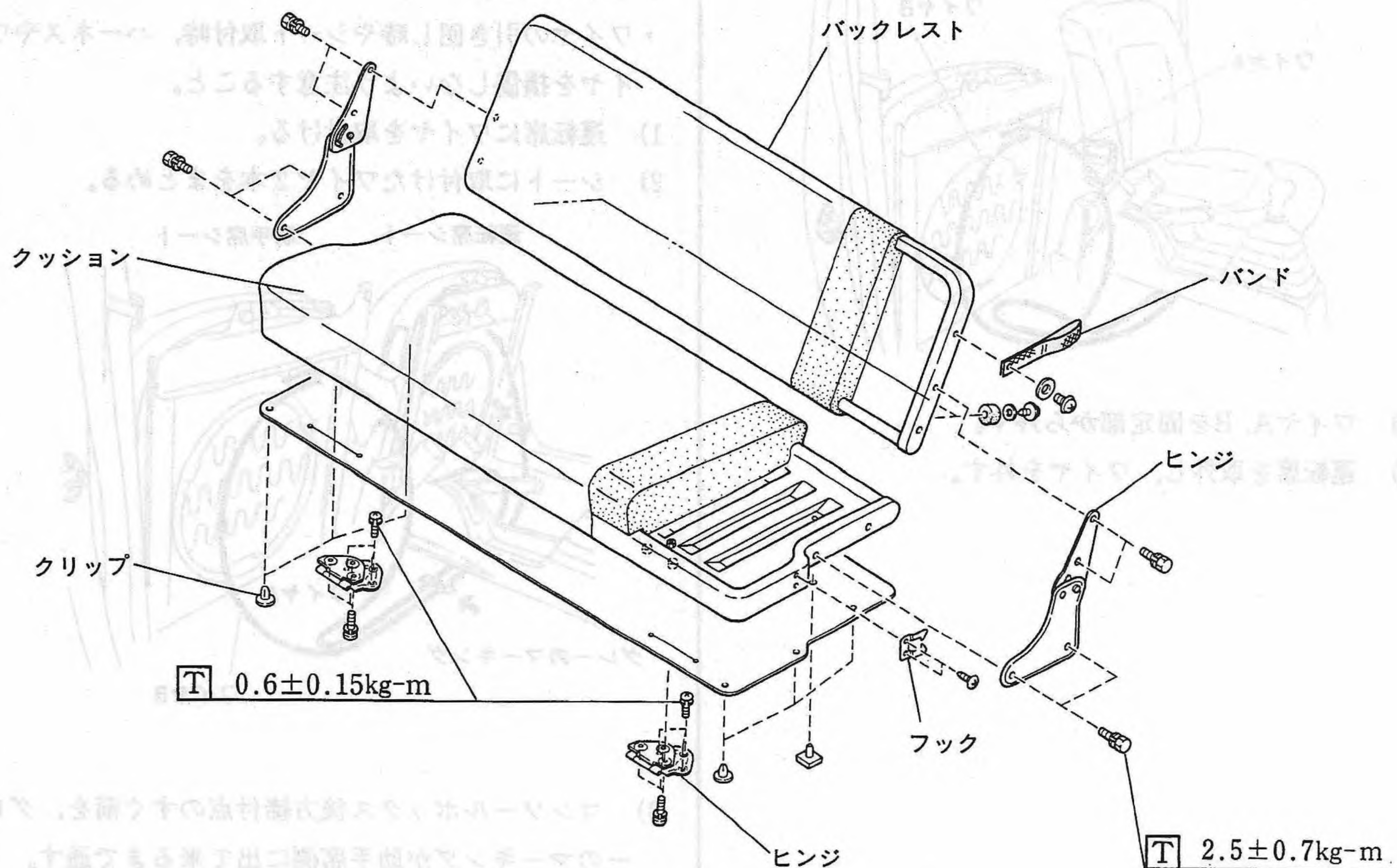
- 3) コンソールボックス後方締付点のすぐ前を、グレーのマーキングが助手席側に出て来るまで通す。
- 4) 運転席シートを取付ける。
- 5) ワイヤA, Bを助手席シートに取付ける。



- 6) 助手席シートを復元し、ロックを確実に掛ける。

〔4〕リヤシート ■ 整備要領 (1) バン

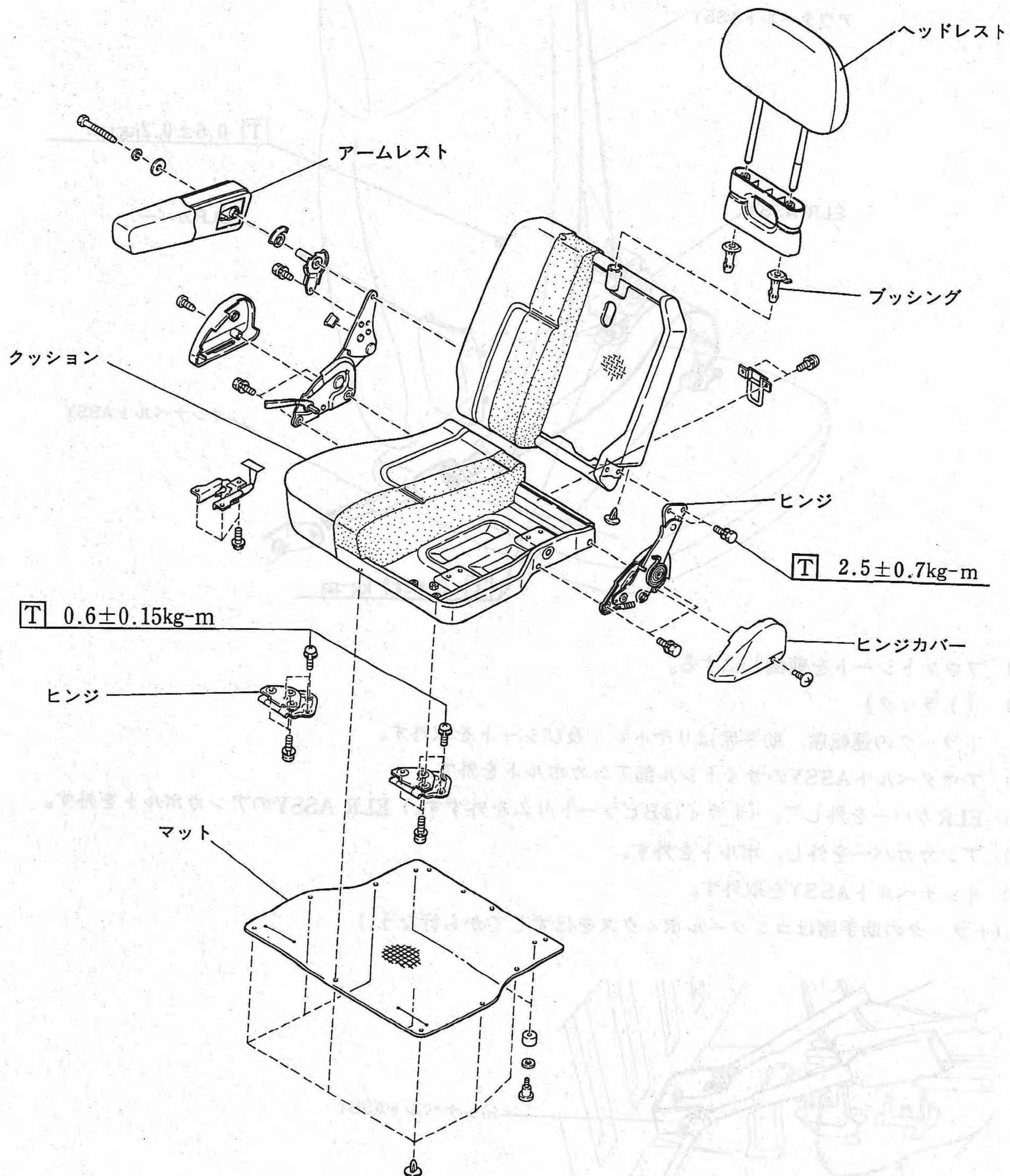
脱着



(2) ト ラ イ

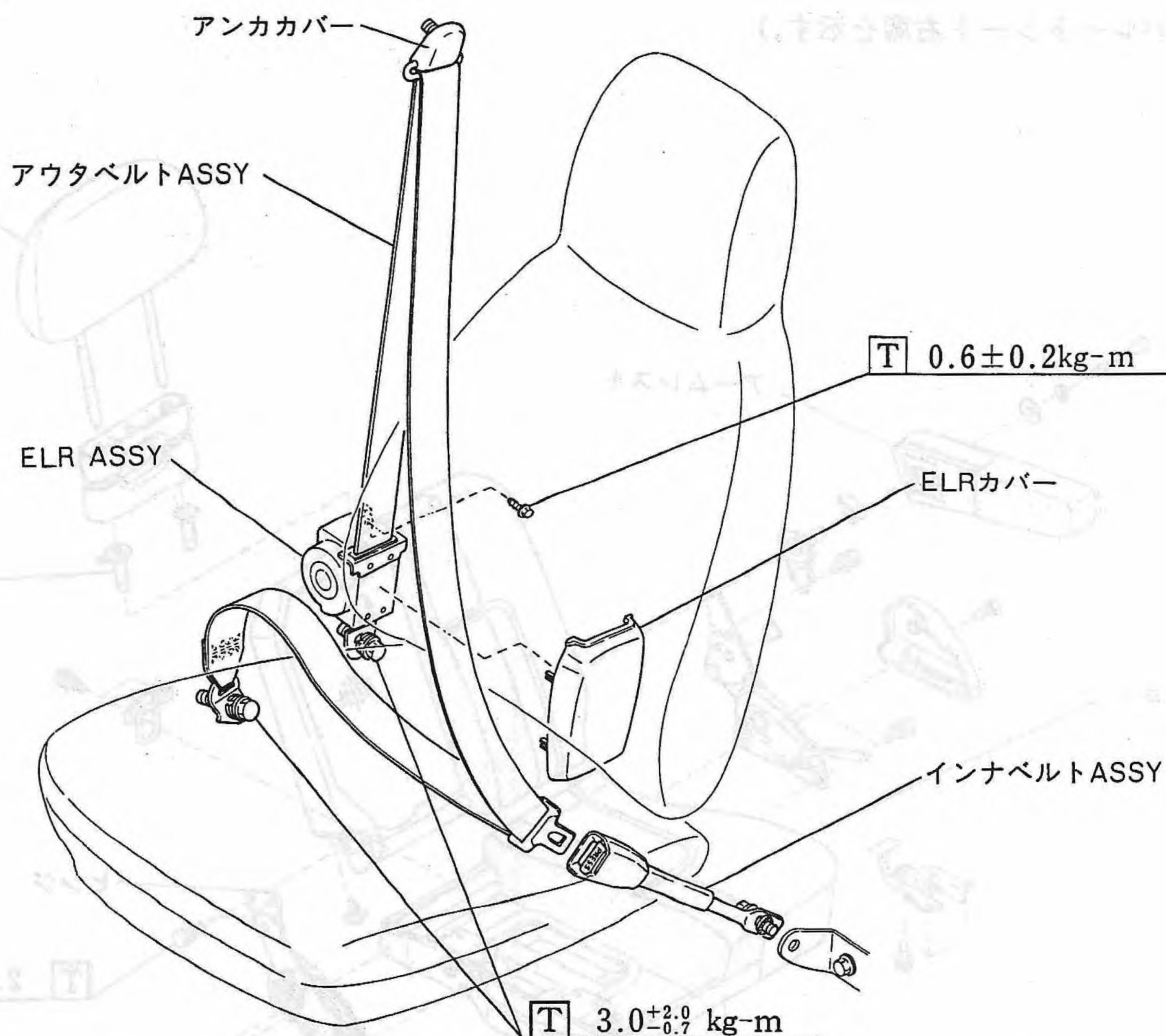
脱着・分解

(図はセパレートシート右席を示す。)

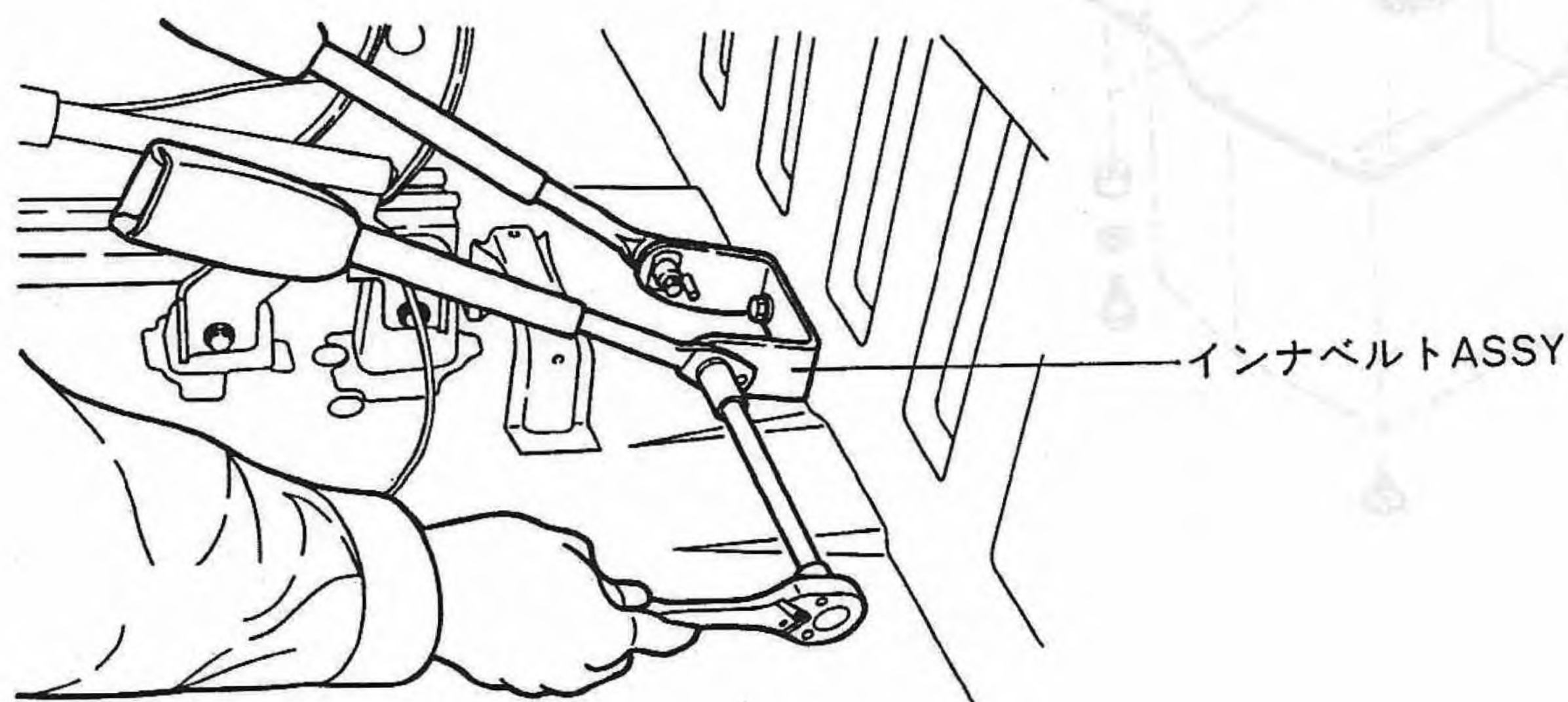


〔5〕 シートベルト ■ 整備要領

脱着



- (1) フロントシートを前倒しにする。
- (2) 〔トラック〕
トラックの運転席，助手席はリヤトレイ及びシートを取外す。
- (3) アウタベルトASSYのサイドシル部アンカボルトを外す。
- (4) ELRカバーを外して，（トライはBピラートリムを外す。）ELR ASSYのアンカボルトを外す。
- (5) アンカカバーを外し，ボルトを外す。
- (6) インナベルトASSYを取外す。
（トラックの助手席はコンソールボックスをはずしてから行なう。）



7 エレクトリカル

■ 主要変更点80

7-1 エンジンエレクトリカル

〔1〕 始動装置

- 準備品81
- 仕様81
- 構成部品(注3 P.237)
- トラブルシューティング(注3 P.238)
- 整備要領(注3 P.241)

〔2〕 充電装置

- 準備品82
- 仕様82
- 構成部品(注3 P.245)
- 整備要領(注3 P.246)

〔3〕 点火装置

- 準備品83
- 仕様83
- 構成部品83
- 整備要領
 - (1) イグニッションコイル(NA) ..(注3 P.249)
 - (2) イグニッションコイル(SC) ..(注3 P.249)
 - (3) ディストリビュータ84
 - (4) ハイテンションコード84
 - (5) スパークプラグ85

7-2 ボデーエレクトリカル

- 〔1〕 ワイヤリングハーネスレイアウト (注3 P.252)
- 〔2〕 ECU、リレーレイアウト(注3 P.252)
- 〔3〕 バッテリ(注3 P.255)
- 〔4〕 ヒューズ(注3 P.256)
- 〔5〕 イグニッションスイッチ

- 準備品(注3 P.257)
- 構成部品(注3 P.257)
- 整備要領(注3 P.258)

〔6〕 コンビネーションメータ

- 準備品(注3 P.259)
- 部品配置図(注3 P.259)
- 構成部品86
- 整備要領(注3 P.265)

〔7〕 ランプ

- 準備品(注3 P.267)
- 部品配置図(注3 P.267)
- 整備要領(注3 P.269)

- (1) ヘッドランプ(注3 P.269)

- (2) リヤコンビネーションランプ (注3 P.271)

〔8〕 ワイパ&ウォッシャ

- 準備品(注3 P.272)
- 部品配置図(注3 P.272)
- トラブルシューティング87
- 整備要領

- (1) フロントワイパモータ(注3 P.276)

- (2) リヤワイパモータ(注3 P.277)

- (3) フロントウォッシャノズル&タンク (注3 P.278)

- (4) リヤウォッシャノズル&タンク(注3 P.278)

〔9〕 コンビネーションスイッチ

- 準備品(注3 P.279)
- 部品配置図(注3 P.279)
- 整備要領(注3 P.280)

〔10〕 リヤウインドウデフォッガ

- 準備品(注3 P.281)
- 部品配置図(注3 P.281)
- トラブルシューティング(注3 P.282)
- 整備要領(注3 P.283)

〔11〕 オーディオ

- 準備品(注3 P.284)
- 部品配置図(注3 P.284)
- 整備要領

- (1) ラジオ(注3 P.285)

- (2) スピーカ(注3 P.285)

- (3) アンテナ(注3 P.286)

〔12〕 ホーン

- 準備品(注3 P.287)
- 部品配置図(注3 P.287)
- トラブルシューティング(注3 P.288)
- 整備要領(注3 P.288)

〔13〕 シガレットライタ

- 準備品(注3 P.289)
- 整備要領(注3 P.289)

〔14〕 エキゾート警報システム

- 準備品(注3 P.290)
- 部品配置図(注3 P.290)
- 整備要領(注3 P.291)

■ 主要変更点

1. NA・キャブレータ+ECVT用エンジンに0.7kWのスタータ（三菱電機製）を追加した。
2. NA・キャブレータ+ECVT車および電動パワステ車用に50A仕様のオルタネータ（三菱電機製）を追加した。
3. SC・EMPiエンジンのパワステ車用に55A仕様のオルタネータ（三菱電機製）を追加した。
4. NA・キャブレータ車のイグニッションコイルは外付低抗およびコンデンサ廃止。
5. SC・EMPi車のイグニッションコイルはゴムマウンドおよびコンデンサ廃止。
6. ハイテンションコードは全車NA・キャブレータ車用に統一した。
7. スパークプラグは2極沿面プラグを廃止し、レックスと共用化する。
8. ディストリビュータはポイント式を全廃し、フルトラ式を採用した。
9. リヤワイパリレー廃止に伴い、ワイパ回路変更。

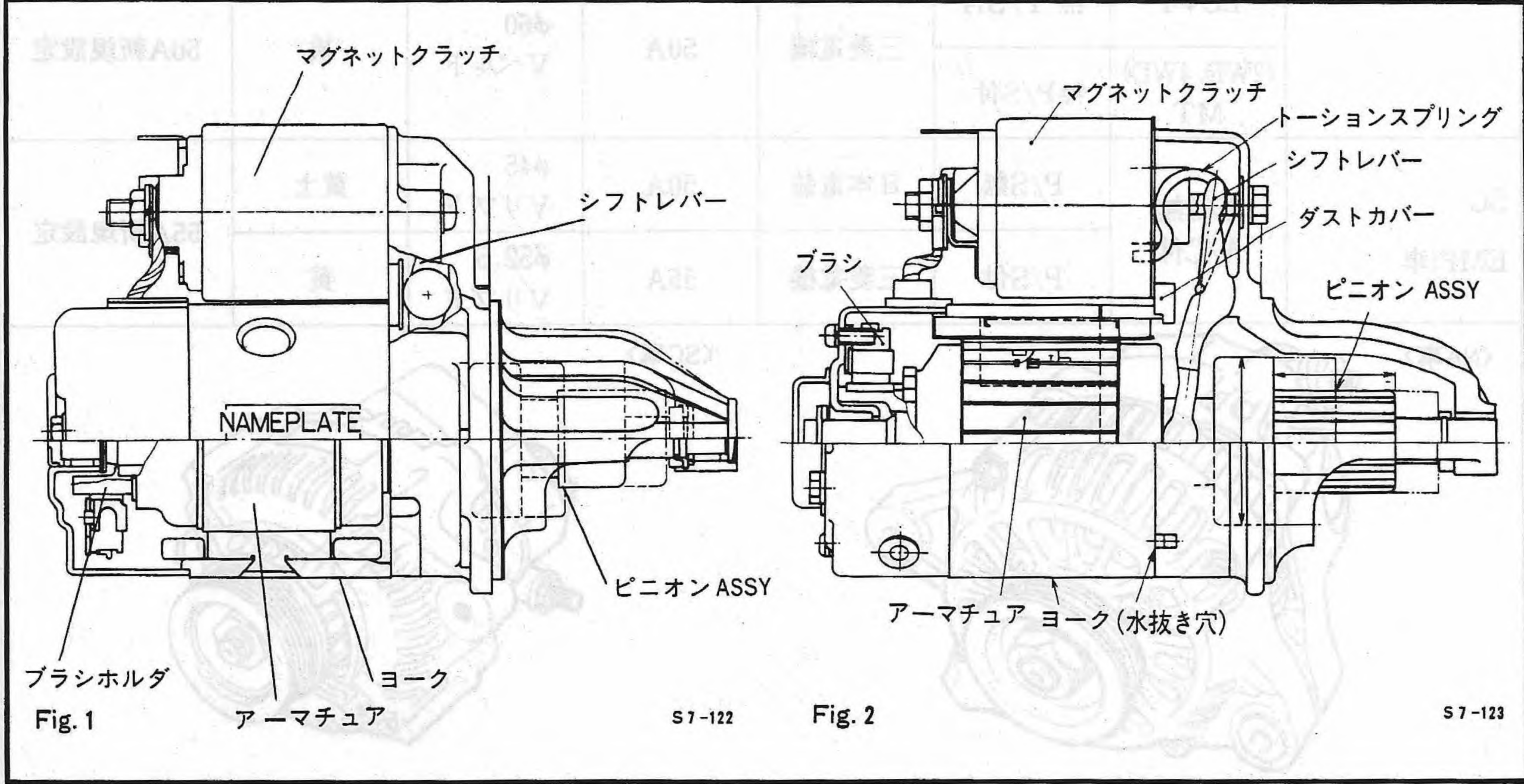
〔1〕 始動装置

■ 準備品

計器	—	サーキットテスタ	電圧, 導通のチェック
	—	ノギス	寸法の測定
	—	ダイヤルゲージ&マグネチック スタンド	振れ等のチェック
	—	ばねばかり	荷重の測定
油脂	—	グリース	摺動部の給油
その他	#500または#600	サンドペーパー	表面の仕上げ

■ 仕様

メーカ名		日立 製	三菱電機 製		
メーカー品番		S114-435	M ₂ T ₃ 7281	M002T42681	M ₂ T ₄ 2581
公称電圧		12V	12V	←	←
公称出力		0.65kW	0.65kW	0, 7kW	0.75kW
回転方向(ピニオン側から見て)		左	左	←	←
ピニオン歯数		8	8	←	←
全 長		211.5mm	204	←	209
ヨーク外径		φ79mm	φ90	—	φ90
無負荷時	電 圧	11.5V	←	←	←
	電 流	40A以下	53A以下	←	←
	回 転 数	5000rpm以下	7000rpm以上	←	6000rpm以上



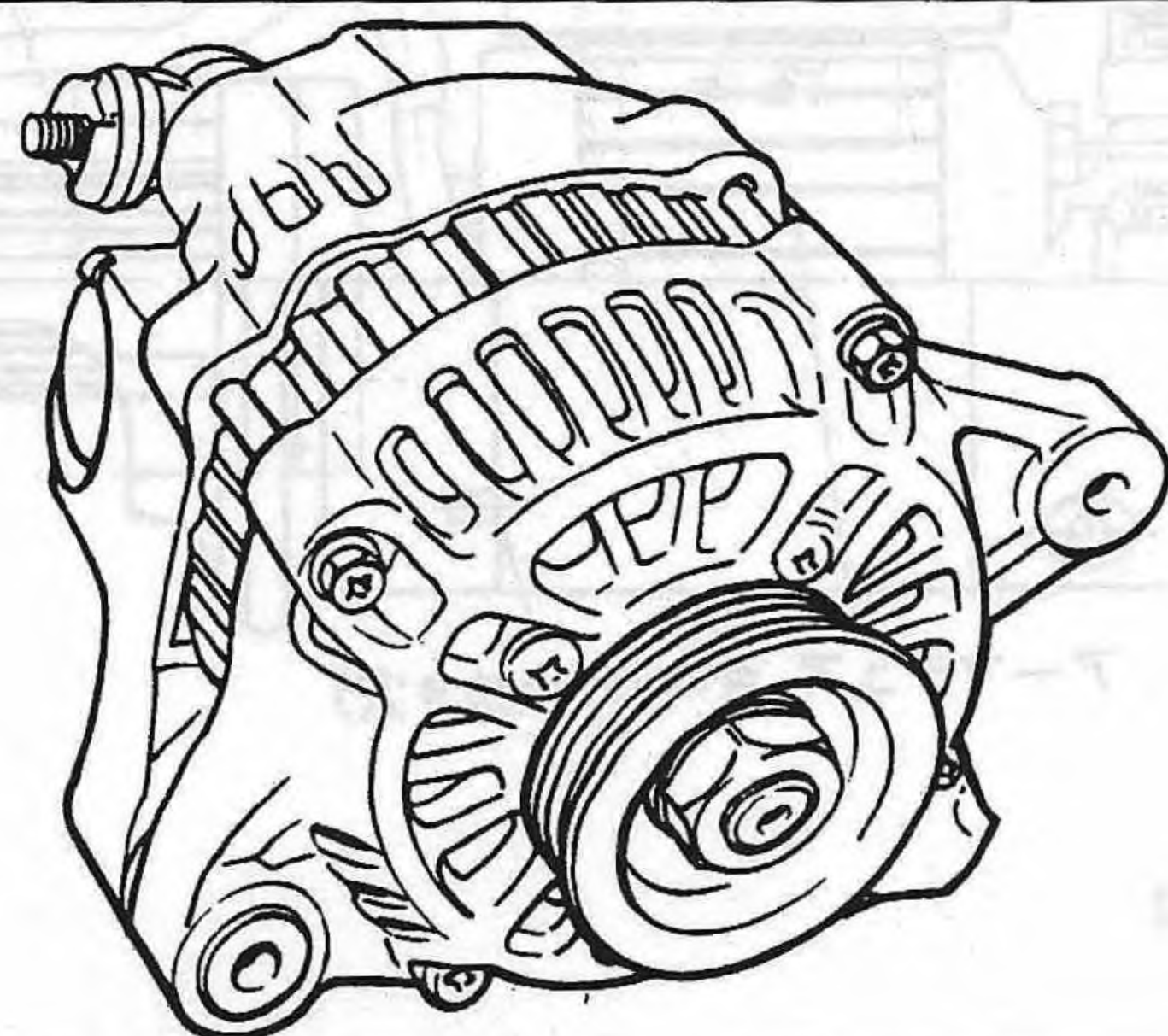
〔2〕 充電装置 ■ 準備品

工 具	—	はんだごて	ステータコイルとレクチファイヤの分離
	φ1.5～2×30～40mm	ピン	ロータ組付時のブラシ固定用
計 器	—	サーキットテスタ	電圧、導通のチェック
	—	ノギス	寸法の測定
	—	ばねばかり	荷重の測定
	—	ベルトテンションゲージ	ベルトの張力の点検
油 脂	—	グリース	摺動部の給油
その他	#500または#600	サンドペーパー	表面の仕上げ

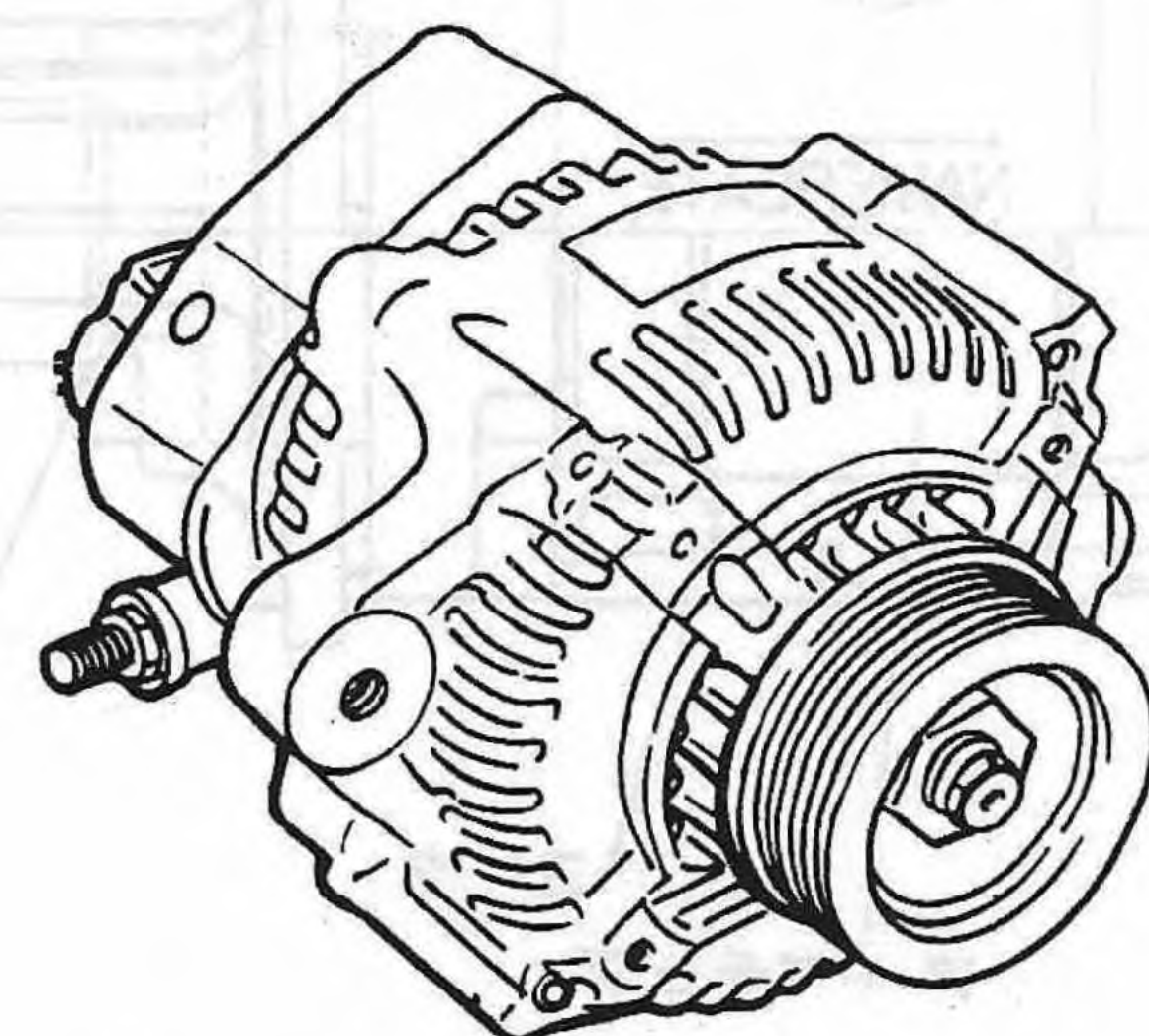
■ 仕様

	駆動方式	A/C有・無	メーカ	公称出力	プーリ径	識別ラベル	備 考
NA キャブレート車	2WD	無	三菱電機	45A	φ60 Vベルト	燈	
		A/C付	↑	↑	φ50 Vリブド	紫黒	
	4WD	無	日本電装	45A	φ60 Vベルト	黄緑	
		A/C付	↑	↑	φ50 Vリブド	紫	
	ECVT	無 P/S付	三菱電機	50A	φ60 Vベルト	桃	50A新規設定
	(2WD, 4WD) MT	無P/S付					
SC EMPi車	A/C無, A/C付	P/S無	日本電装	50A	φ45 Vリブド	黄土	55A新規設定
		P/S付	三菱電機	55A	φ52.5 Vリブド	黄	

〈NA車〉



〈SC車〉



〔 3 〕 点火装置 ■ 準備品

工具	2 面巾 : 16mm	スパークプラグ レンチ	スパークプラグの交換
計器	—	サーキットテスタ	導通, 電圧, 抵抗値のチェック

■ 仕様(イグニッションコイル)

〈NA車〉		〈SC車〉	
項 目	仕 様	項 目	仕 様
メーカ	ダイヤモンド電機	メーカ	日立製
型式	F-609-01R	型式	CMIT-221
バッテリー電圧	12V	バッテリー電圧	12V
一次コイル抵抗	$1.2\Omega \pm 10\%$	一次コイル抵抗	$0.9\Omega \pm 10\%$
二次コイル抵抗	$26.0K\Omega \pm 15\%$	二次コイル抵抗	$10K\Omega \pm 20\%$

■ 構成部品

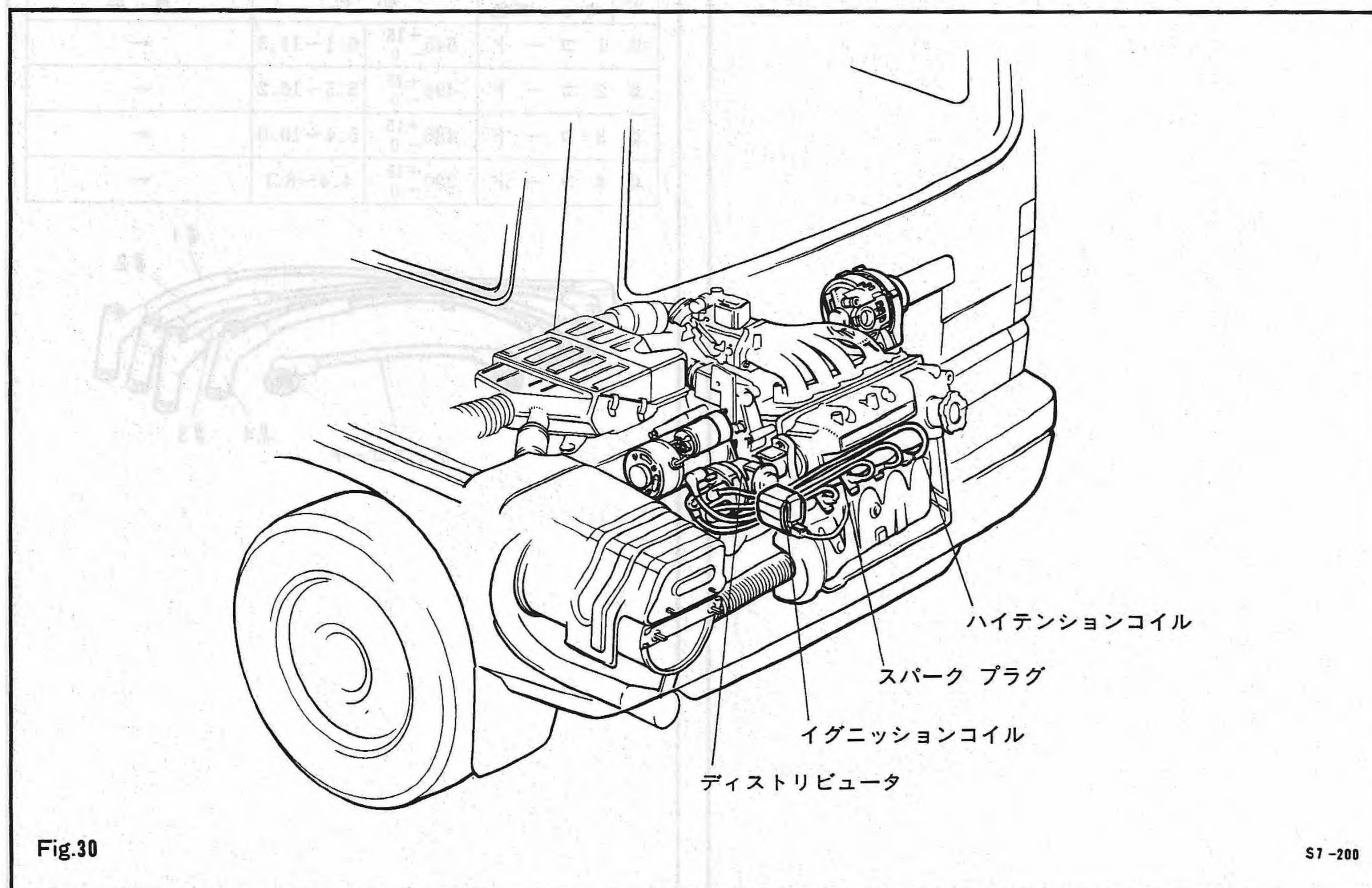


Fig.30

S7-200

(3) ディストリビュータ

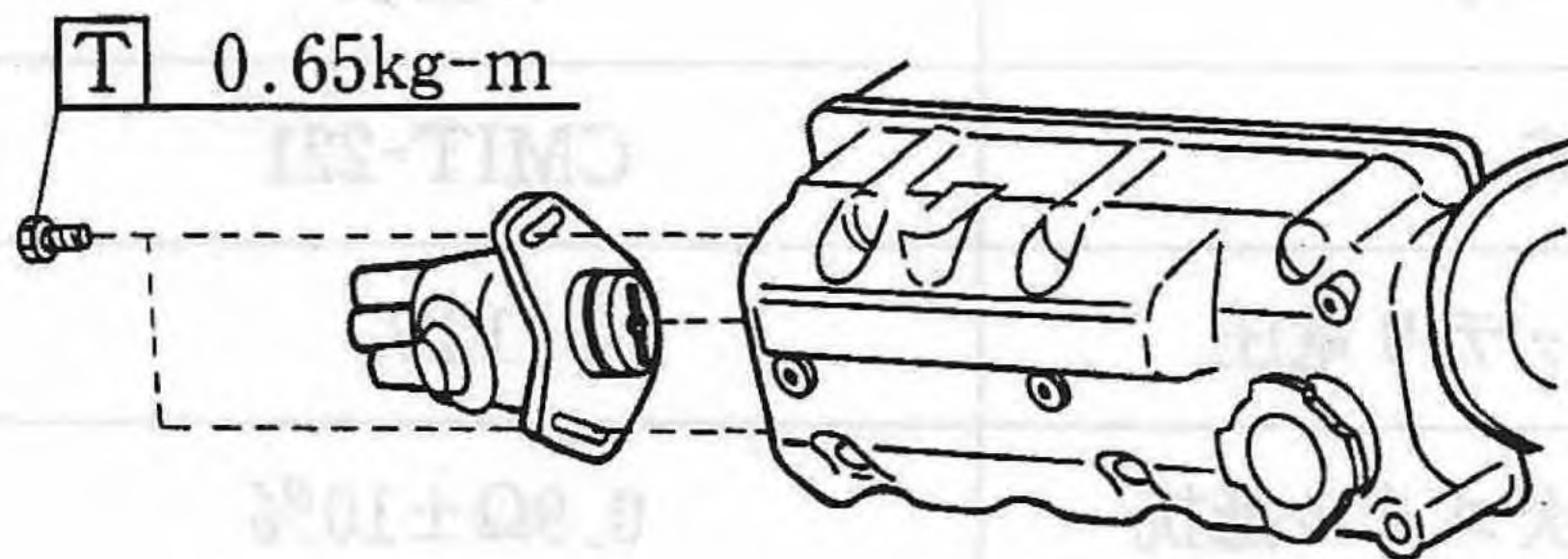
脱着

※全車フルトラ方式で、NAはバキューム進角、SCは電子進角である。

- (1) ハイテンションコード(5本)を抜く
- (2) バキュームホースを抜く。
- (3) ディストリビュータ本体の固定ボルトを外す
・取付けは取外しの逆順序で行う。

注意

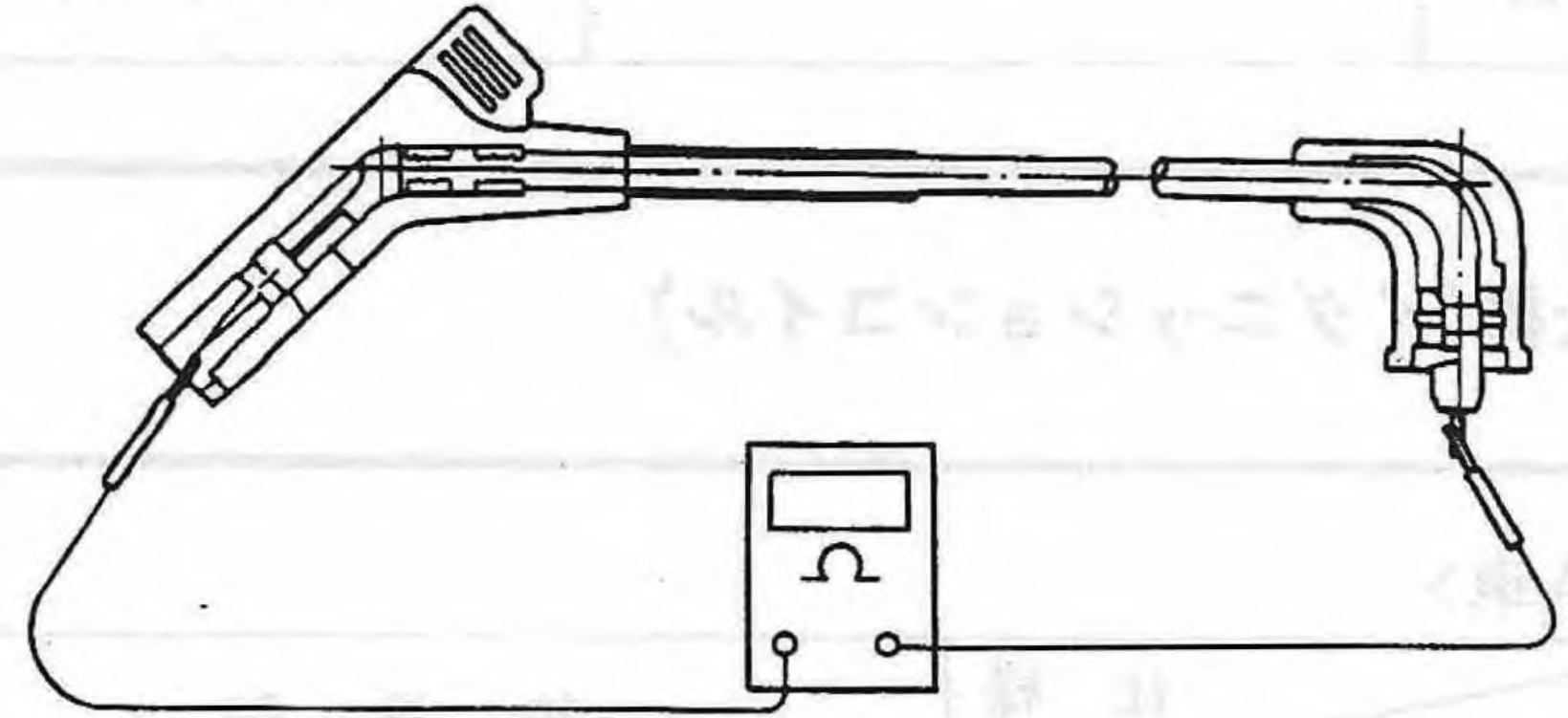
ディストリビュータ側シャフトとカムシャフトの切欠きを合せて、組付けること。



(4) ハイテンションコード

点検

- (1) 亀裂、ゆるみ、損傷等について各部を点検する
- (2) 各コードの抵抗値を測定する。

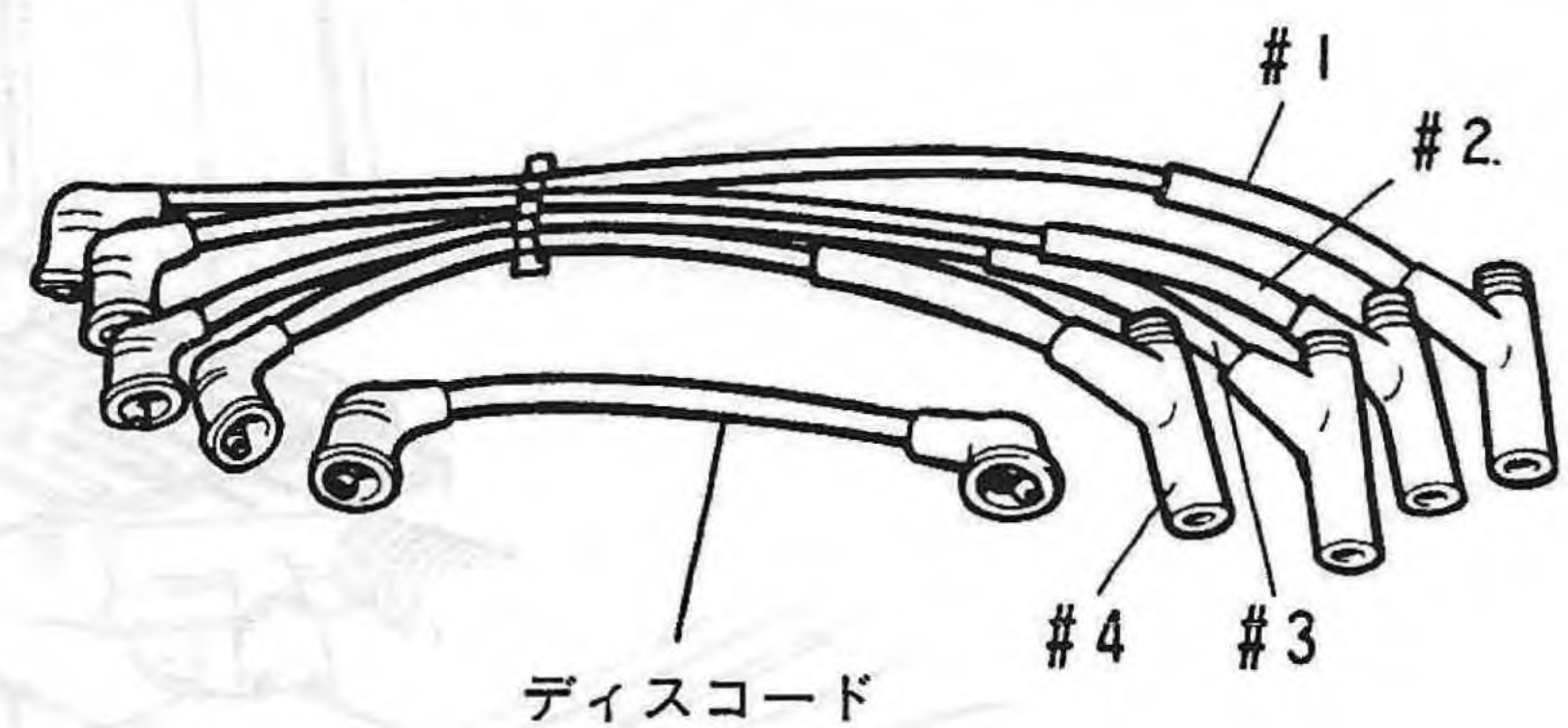


注意

周囲温度により抵抗値は異なる。

(温度20℃)

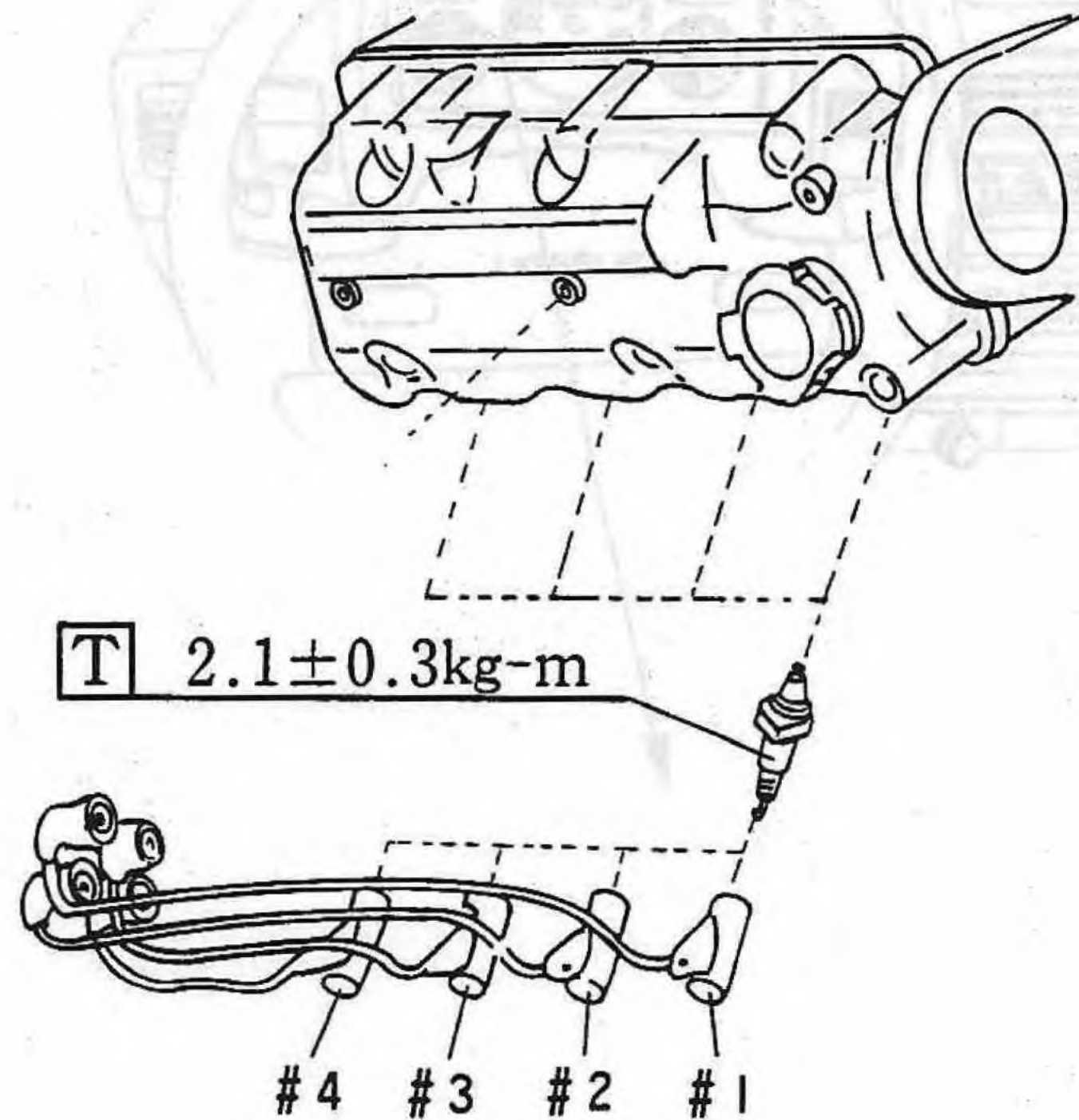
コード名		基準値		NA 車		SC 車	
		長さ(mm)	抵抗(KΩ)	長さ(mm)	抵抗(KΩ)	長さ(mm)	抵抗(KΩ)
ディストリビュータコード	バン, トライ	165 ⁺¹⁰ ₋₀	1.8~3.4	165 ⁺¹⁰ ₋₀	1.8~3.4	165 ⁺¹⁰ ₋₀	1.8~3.4
	トラック	215 ⁺¹⁰ ₋₀	2.4~4.5	210 ⁺¹⁰ ₋₀	2.4~4.4	210 ⁺¹⁰ ₋₀	2.4~4.4
	コイル側キャップ色		赤 色		青 色		
# 1 コード		545 ⁺¹⁵ ₋₀	6.1~11.3		←		
# 2 コード		490 ⁺¹⁵ ₋₀	5.5~10.2		←		
# 3 コード		480 ⁺¹⁵ ₋₀	5.4~10.0		←		
# 4 コード		390 ⁺¹⁵ ₋₀	4.4~8.1		←		



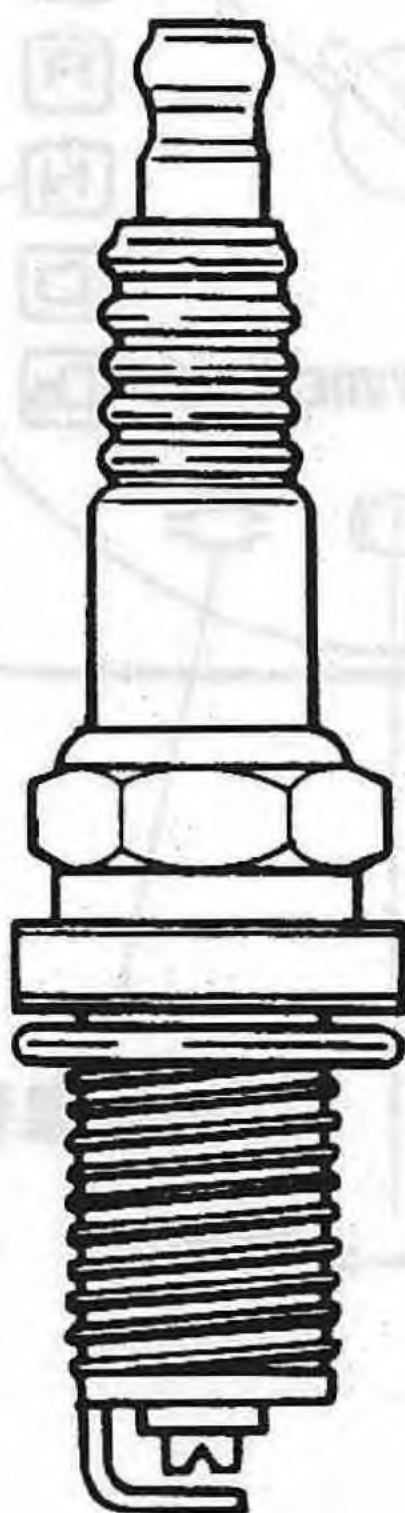
(5) スパークプラグ

脱着・点検

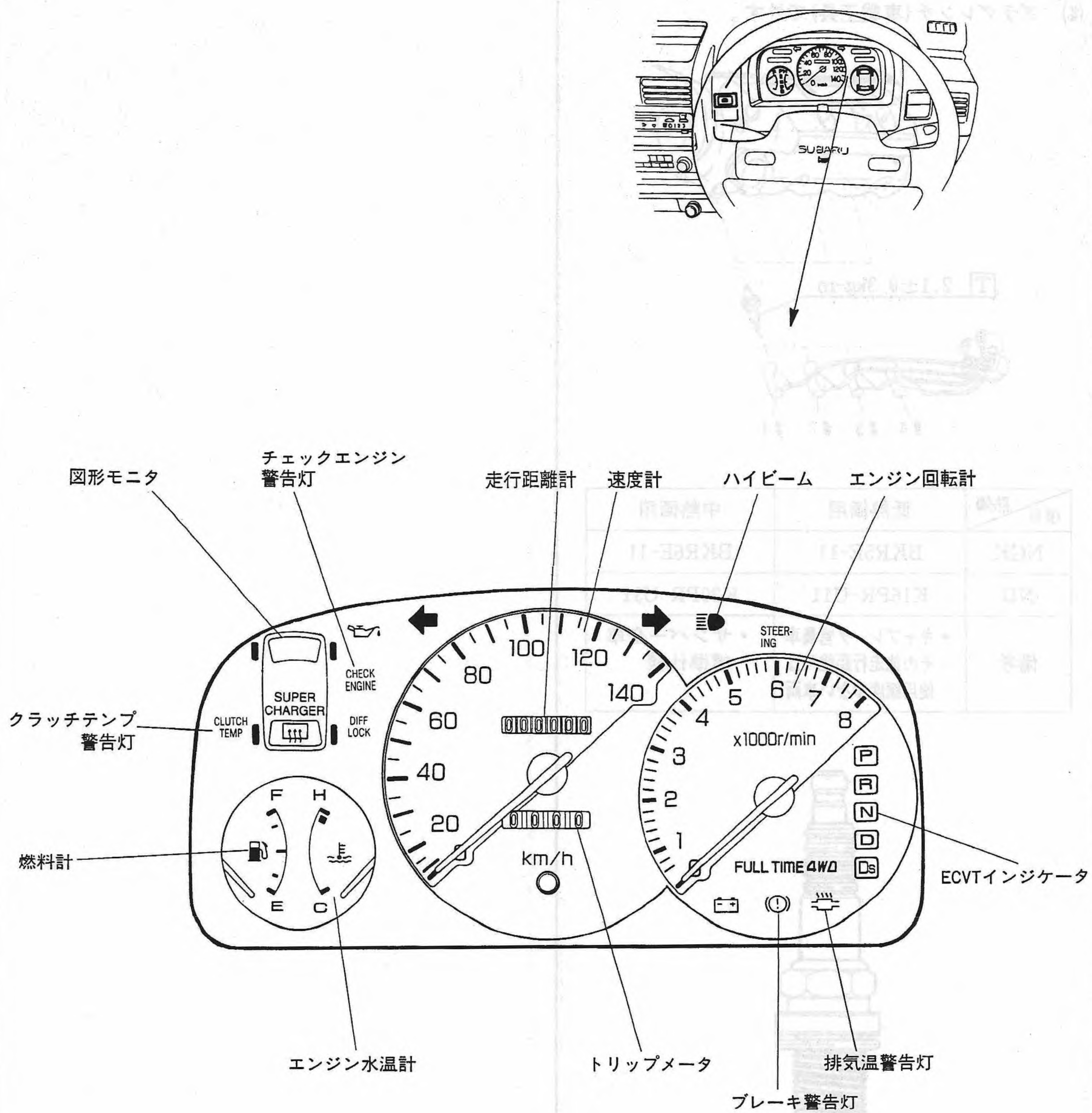
- (1) バッテリー⊖端子を外す。
- (2) リヤバンパを開ける。
- (3) ハイテンションコードを抜く。
- (4) プラグレンチ(車載工具)で外す。



項目	熱価	低熱価用	中熱価用
NGK		BKR5E-11	BKR6E-11
ND		K16PR-U11	K20PR-U11
備考		・キャブレータ営農車 ・その他走行距離又は使用頻度少ない車両	・サンバー全車標準仕様



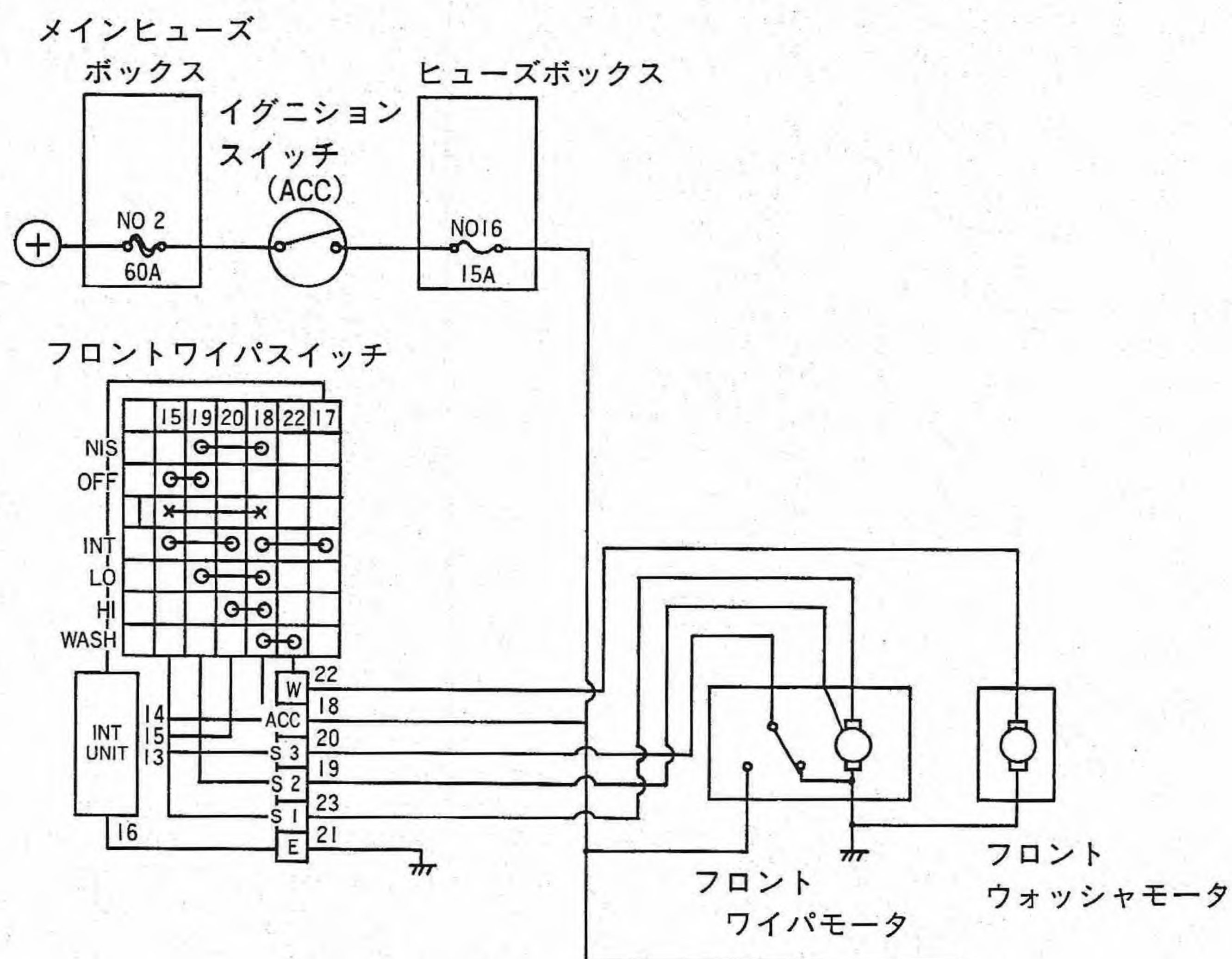
〔6〕コンビネーションメータ ■構成部品



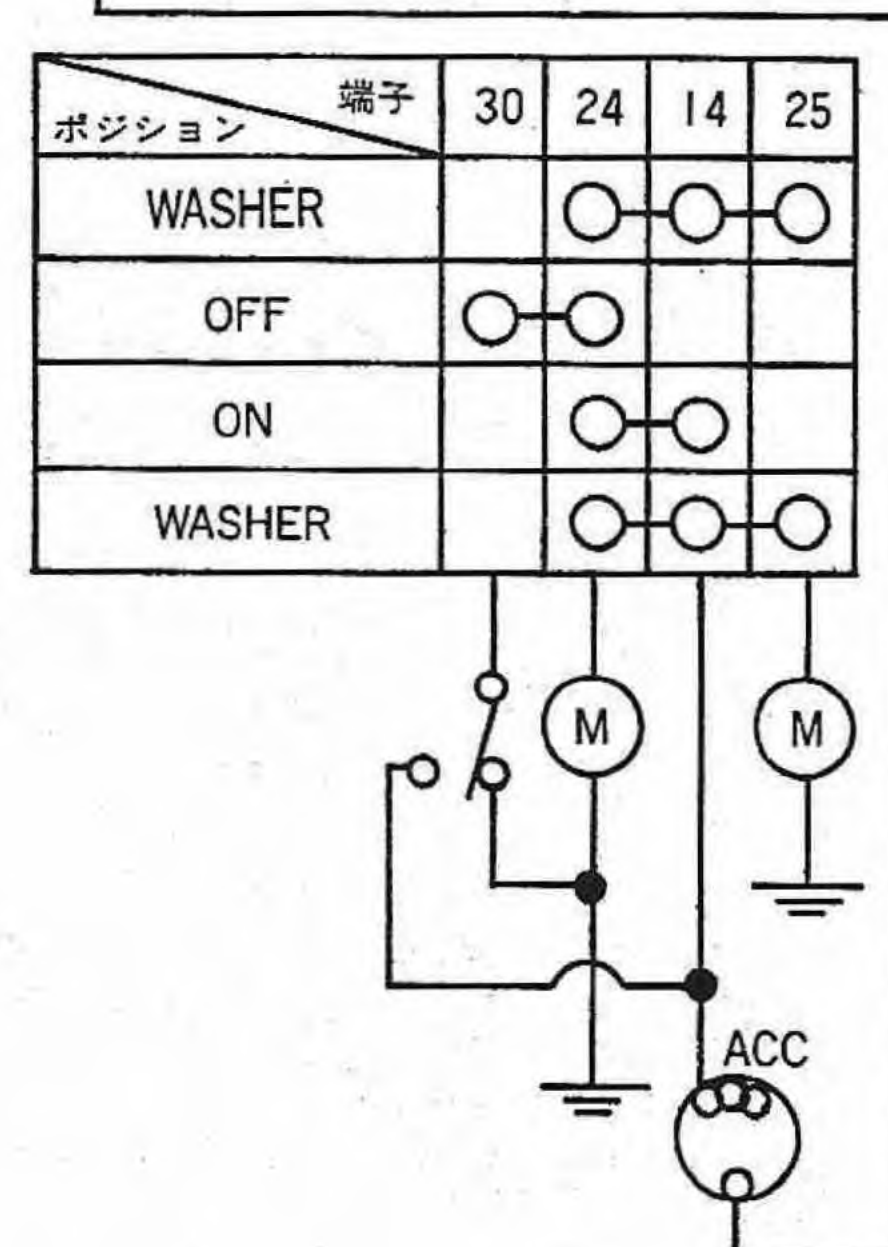
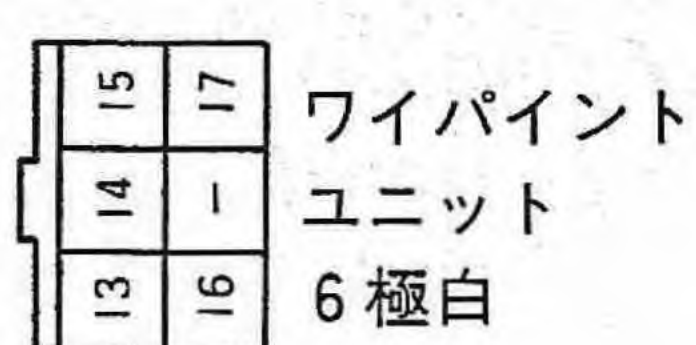
〔 8 〕 ワイパ&ウォッシャ ■ トラブルシューティング

——ワイパ回路——

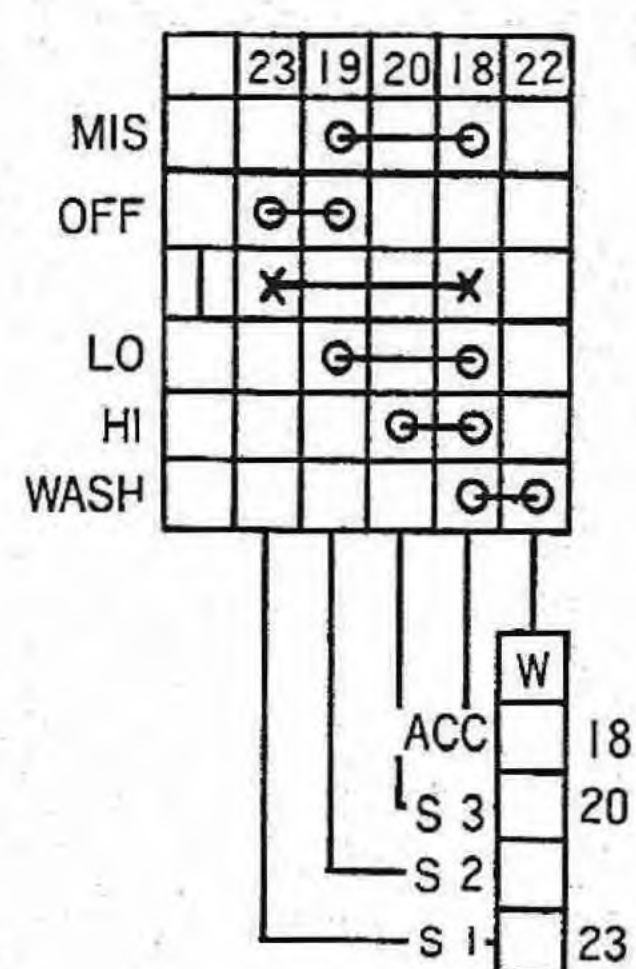
〈コンビネーションスイッチ(INT付)〉



〈コンビネーションスイッチコネクタ(コンビスイッチ側)〉



〈コンビネーションスイッチ(2速)〉



8-4 給油脂図 102

8

- 1) 運行前点検項目の判定基準は自動車使用者に周知徹底を図る。
- 2) 「●」印は法規で義務付けられた点検時期を示し、「○」印は富士重工業㈱で推奨することを示す。
- 3) 「☆」印は保安部品の定期交換を示す。その交換時期は一般走行する不特定多数の車を対象に定めてある。
従って著しく走行条件の異なるものは、これに準拠して交換する。
- 4) 「※」印は初期点検のみを示す。(※1は初期1カ月時、※3は初期3カ月又は5000km時点検を示す。)
- 5) 「高速走行」とは80km/h以上の速度で走行する場合をいう。

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準		備 考	
			運 行 前	自 家 用			事業用等						単 位 千 km
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎				
か じ り 装 置	ハ ン ド ル	遊び，緩み及びがた			●	●		●	●	※3	遊びは直進状態にてホイール 外周でM：0～25mm P：(エンジンON時)0～25mm		M：マニュアル P：パワステ を示す。
		操作具合			●	●		●	●	※3			
	ギ ヤ ・ ボ ッ ク ス	油漏れ				●		●	●				
		取付の緩み				●		●	●				
		軸受部のがた							●				
		ギヤのバックラッシュ							●				ラック・ ピニオン式
	ロ ッ ド 及 び ア ー ム 類	緩み，がた及び損傷			●	●		●	●				
		ボール・ジョイントのダスト・ブ ツの亀裂及び損傷			●	●		●	●				
		連結部の摩耗及び取付状態							●				
		ナックル・アームの亀裂及びナック ルとの取付状態							●				
	ナ ク ッ ル	連結部のがた			●		●	●					
	か じ 取 り 車 輪	ホ イ ー ル ・ ア ラ イ メ ン ト				●			●		トーイン	1 ± 3 mm	
											キャンバ	1° ± 45	
											キャスタ	3° 50' ± 1°	
		左 右 の 回 転 角 度				●			●		内 側	36° 25' + 1° 30' - 2° 30'	
											外 側	33° 10' + 1° 30' - 2° 30'	

点検整備方式

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考	
			運 行 前	自 家 用			事業用等					単 位 km
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎			
か じ 取 り 装 置	パ ワ ー ・ ス テ ア	取付けの緩み				●		●	●		電動式	
制 動	ブ レ ー キ ・ ペ ダ ル	遊び及び踏み込んだときの床板との すき間		●	●	●	●	●	●	※1	(1)遊び 1～3mm (2)踏力約20kgで踏込時 床板とのすき間110mm以上	
		踏みしろ及びきき具合	●									
		ブレーキのきき具合										
装	駐 車 ブ レ ー キ ・ レ バ ー	引きしろ	●	●	●	●	●	●	●	※1	操作力 20kgのとき 引きしろ 7～9ノッチ 全ストローク 17ノッチ	
		ブレーキのきき具合			●	●	●	●	●		制動力 車両重量の20%以上 操作力 50kg以下	
		ラチェット部の摩耗及び損傷							●			
置	ロ ケ ー ッ ト ブ ル 類	緩み、がた及び損傷				●		●	●			
	ホ イ ス プ ・ バ ン ク	漏れ、損傷及び取付状態		●	●	●	●	●	●	※1		
リ ザ ー ・ バ ン ク	液 量		●	●	●	●	●	●	●	※1	液面レベル MAXラインとMINラインの 間にあること	

点検整備方式

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考		
			運 行 前	自 家 用 事 業 用 等								単 位 千 km	
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎				
制 動 装 置	リンダ及びディスク・キャリパ マスタ・シリンダ・ホイール・シ	ホイール・シリンダ及びディスク キャリパの液漏れ			●	●							
		機能，摩耗及び損傷				●			●				
	倍 力 装 置	機能				●							
		油密及び気密							●				
	ブ レ ー キ ・ ド ラ ム 及 び ブ レ ー キ ・ シ ュ ー	ドラムとライニングとのすき間			●	●	●	●	●			自動調整式	
		シューの摺動部分及びライニングの 摩耗			●	●		●	●		標準厚さ 使用限度	4.4mm 1.7mm	
		ドラムの摩耗及び損傷				●			●		標 準 径 使用限度	180.0mm 182.0mm	
	バ ッ ク ・ プ レ ー ト	バック・プレートの状態							●				
	ブ レ ー キ ・ デ ィ ス ク 及 び パ ッ ド	ディスクとパッドとのすき間			●	●		●	●				
		パッドの摩耗			●	●		●	●	※3	標準厚さ 使用限度	9.0mm 1.5mm	
		ディスクの摩耗及び損傷				●			●		標準厚さ 使用限度	18.0mm 16.0mm	
	走 行 装 置	フ ロ ン ト	損傷及び変形							●			
リ ヤ ・ ハ ウ ジ ン グ		損傷及び変形							●				

点検整備方式

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考
			運 行 前	自 家 用			事業用等		単 位 千 km		
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎			
走行 											

点検整備方式

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考		
			運 行 前	自 家 用 事 業 用 等								単 位 千 km	
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎				
動 力 伝 達 装 置	ク ラ ッ チ	ペダルの遊び及び切れたときの床板とのすき間		●	●	●	●	●	●	※1	遊び 10～25mm 切れたときの床板とのすき間 90mm以上	MT車のみ	
		作 用				●	●	●	●	●	※1		※1は MT車のみ
	ト ラ ン ス ・ ミ ッ シ ヨ ン	油漏れ及び損傷				●	●	●	●	●	※1	MT車：フィラ・プラグ穴下 端から0～5mmの間 にあること ECVT車：レベルゲージの 上限～下限目印線 の間にあること	※1は漏れ のみ
		操作機構のがた					●				●		
	プ ロ ペ ラ ・ シ ャ フ ト	連結部の緩み					●		●	●	※1		
		自在継手部のダスト・ブーツの亀裂 及び損傷				●	●			●	●		
		スプライン部のがた					●				●		
		自在継手部のがた					●				●		
		プロペラ・シャフトの振れ									●	0.6mm以下	4WD車のみ
		アクスル・シャフトのねじれ及び亀裂									●		
デ ン フ ァ レ ル	油漏れ及び油量				●	●	●	●	●	※1	フィラ・プラグ穴下端から 0～5mmの間にあること	※1は漏れ のみ 4WD車のみ	
電 気 装 置	点 火	点火プラグの状態		●	●	●	●	●	●		プラグ・ギャップ1.0～1.1mm		
		点火時期		●	●	●	●	●	●	※1 ※3	(単位：BTDC° /rpm) スーパチャージャ車 4/800 NA パワステ無MT車 6/800 NA MTパワステ車 6/850 NA ECVT車 6/900	NAはキャ ブレータを 示す	
					●	●	●	●	●	※1 ※3	ポイントギャップ 0.4～0.55mm	接点式のみ	
					●	●		●	●				
					●	●		●	●				
	装	断熱器の状態				●	●	●	●	●	※1 ※3		
	置	ディストリビュータのキャップの状態				●	●		●	●			
	進角装置(遅角機構を含む。)の機能				●	●		●	●			キャブレ ータ車のみ	

点検整備方式

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考	
			運 行 前	自 家 用			事 業 用 等					単 位 千 km
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎			
電 気 装 置	バ ッ テ リ	液 量		●	●	●	●	●	●	液面レベル 上限～下限目印線の間にある こと		
		液の比重			●	●		●	●	液温20℃ のとき 比重 1.240～1.280		
		ターミナル部の接続状態			●	●		●	●			
	電 気 配 線	接続部の緩み及び損傷				●	●	●	●	※1 ※3		
原 動 機	本 体	かかり具合及び異音			●	●	●	●	●			
		低速及び加速の状態			●	●	●	●	●	●	アイドリング回転数(単位：rpm)	NAはキャ ブレータを 示す
											スーパチャージャ車 800	
											NA パワステ無MT車	
											NA MTパワステ車 850	
											NA ECVT車 900	
	排気の状態		●	●	●	●	●	●				
	エア・クリーナ・エレメントの状態			●	●	●	●	●				
	シリンダ・ヘッド及びマニホールド 各部の締付状態								●	締付けトルク シリンダ・ヘッド(冷間) 3.5～4.0kg・m マニホールド 吸気 1.5～1.7kg・m 排気 3.0～5.0kg・m		
	圧縮圧力									●	(単位：kg/cm ² -rpm)	()内は スーパチャ ージャ車を 示す
								圧縮圧力限界	各気筒間差			
								4CyL				
									●	9.8-300 (8.3-300)	1.0kg/cm ² 以内	
	弁すき間								●	※1 (冷間) 吸 気 0.15mm 排 気 0.20mm		
潤滑装置	油の汚れ及び量		●	●	●	●	●	●	●	レベル・ゲージのF～L間に あること		
	油漏れ			●	●	●	●	●	●	※1		
	オイルの量	●										

点検整備方式

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考	
			運 行 前	自 家 用			事 業 用 等					単 位 千 km
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎			
原 動 機	燃 料 装 置	燃料漏れ			●	●	●	●	●	※1		
		キャブレタのリンク機構の状態				●		●	●			キャブレ タ車のみ
		スロットル・バルブ及びチョーク・ バルブの状態				●		●	●			
		燃料の量	●									
機 装 置	冷 却 装 置	水 量	●	●	●	●	●	●	●		リザーバ・タンクのF～L間 にあること。	
		水漏れ	●		●	●		●	●	※1		
		ラジエータ・キャップの機能				●		●	●		開弁圧 0.8～1.0kg/cm ²	
ばい煙、悪臭のあるガス、有毒なガス等の発散防止装置	ガス還元装置・ バイパス装置	配管の損傷				●			●			
	排出抑制装置 燃料蒸発ガス	配管等の損傷				●			●			
		チャコール・キャニスタの詰まり及 び損傷				●			●			
		チェック・バルブの機能				●			●			
	一酸化炭素等 発散防止装置	触媒反応方式等排出ガス減少装置の 取付けの緩み及び損傷			●	●		●	●			
		配管の損傷及び取付状態			●	●		●	●			
熱害防 止装置	遮熱板の取付けの緩み及び損傷			●	●		●	●				
灯 火 方 向 装 置 指 示 器 及 び	作 用		●	●	●	●	●	●	※3			
	点滅具合、汚れ及び損傷	●										

点検整備方式

点 検 整 備 項 目		点 検 整 備 時 期							判 定 基 準	備 考	
		運 行 前	自 家 用			事業用等		単 位 千 km			
			6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎				12 か 月 毎
警告器、窓拭器、洗 浄液噴射装置、デフ ロス及び施錠装置	作 用			●	●			●	●		
後写鏡及び射鏡反	写影の状態	●									
反射器及び登録 自動車番号又は 車両番号標	汚れ及び損傷	●									
計 器	作 用			●	●			●	●		
エキゾースト及び パイプマフラス	取付けの緩み及び損傷			●	●			●	●		
	マフラの機能				●				●		
車枠及び車体	ドア・ロックの機能				●			●	●		
	緩み及び損傷				●			●	●		
座 席	座席ベルトの状態				●				●		
前日 の 運 行 に お い て 異 常 が 認 め ら れ た 箇 所	当該箇所に異常がない事を確認	●									
そ の 他	シャシ各部の給油脂状態			●	●	●		●	●		

点検整備方式

■ ㄨㄞㄞ推獎項目

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期								判 定 基 準	備 考	
			運	自	家	用	事	業	用	等			走
			行	6	12	24	1	3	12	走	の	時	
			前	か	か	か	か	か	か	行	整	換	
				月	月	月	月	月	月	キ	備	期	
				毎	毎	毎	毎	毎	毎	ロ	千	年	
										km	毎		
制 動 装 置	リ・ザ・タンバク	ブレーキ液の交換									2 (1)		()内は 事業用等
	保	マスタ・シリンダ, ホイール・シリンダ及びディスク・キャリパのゴム部品の交換									☆ 2 (1)		()内は 事業用等
	安	ブレーキ・ホースの交換									☆ 4 (2)		()内は 事業用等
	部	倍力装置ゴム部品の交換									☆ 4 (2)		()内は 事業用等
	品	倍力装置バキューム・ホースの交換									☆ 4 (2)		()内は 事業用等
動 力 伝 達 装 置	ト ミ ッ シ ヨ ン ・ シ フ ト	トランス・ミッション・オイルの交換								40			
	ス・シフト	カーボン・ブラシの摩耗				○			○			摩耗限界マークまで	ECVT 車のみ
	デ ン フ シ ャ ル	ギヤ・オイルの交換								40			4WD車の フロント・ デファレンシャルのみ

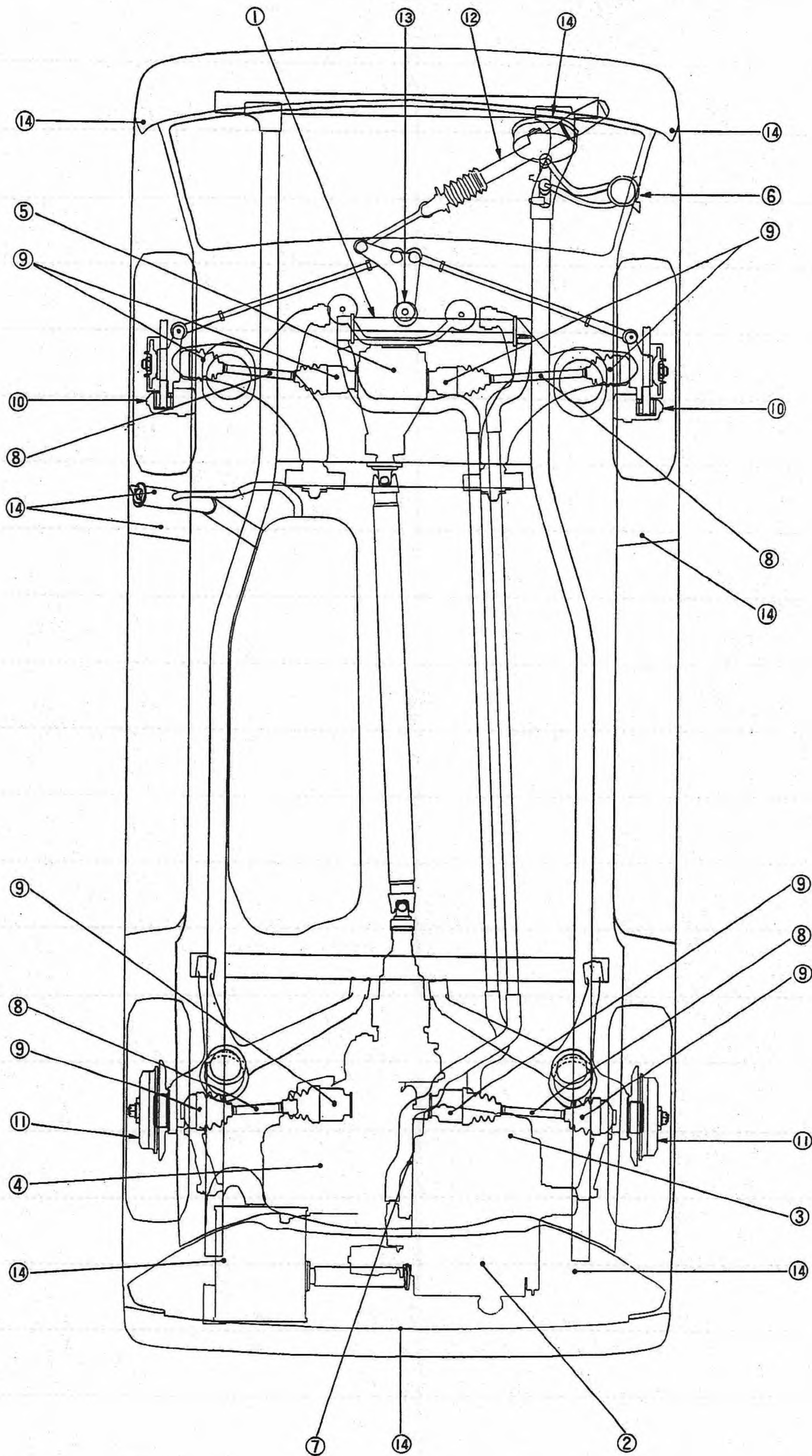
点検整備方式

点 検 整 備 項 目		点 検 整 備 時 期								判 定 基 準	備 考	
		運 行 前	自 家 用			事 業 用 等			走 行 の 整 備 千 km			交 換 期 年 毎
			6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎				
電 気 装 置	点火装置								10			
	充電発電機		○	○	○	○	○	○	※1	ベルトの中央部を約10kg の力で押したときのたわみ 11～13mm [7～9 mm] (5～7 mm) { 4～6 mm}	[]内は スーパーチャージャ エアコン無車を 示す ()内は NAエアコン車を 示す { }内は スーパーチャージャ エアコン車を示す	
原 動 機	本 体	エア・クリーナ・エレメントの交換							20	1		
		タイミング・ベルトの緩み			○	○			○	※1		
		タイミング・ベルトの交換									4	
		スーパーチャージャの油量点検				○			○			スーパーチャ ージャ車の み
		スーパーチャージャ・ベルトの緩み 及び損傷		○	○	○			○	○		ベルトの中央部を約10kg の力で押したときのたわ み 6～8 mm
	潤 滑 装 置	オイル・フィルタの交換								10		
		エンジン・オイルの交換								10 (5) [5]	0.5	()内は SC級オイル使用の場 合を示す []内はス ーパーチャ ージャ車を示 す
	燃 料 装 置	フューエル・フィルタの交換								20	1	
	冷 却 装 置	冷却液の交換								40	2	
	保 安 部 品	フューエル・ホースの交換									☆ 4 (2)	()内は事 業用等

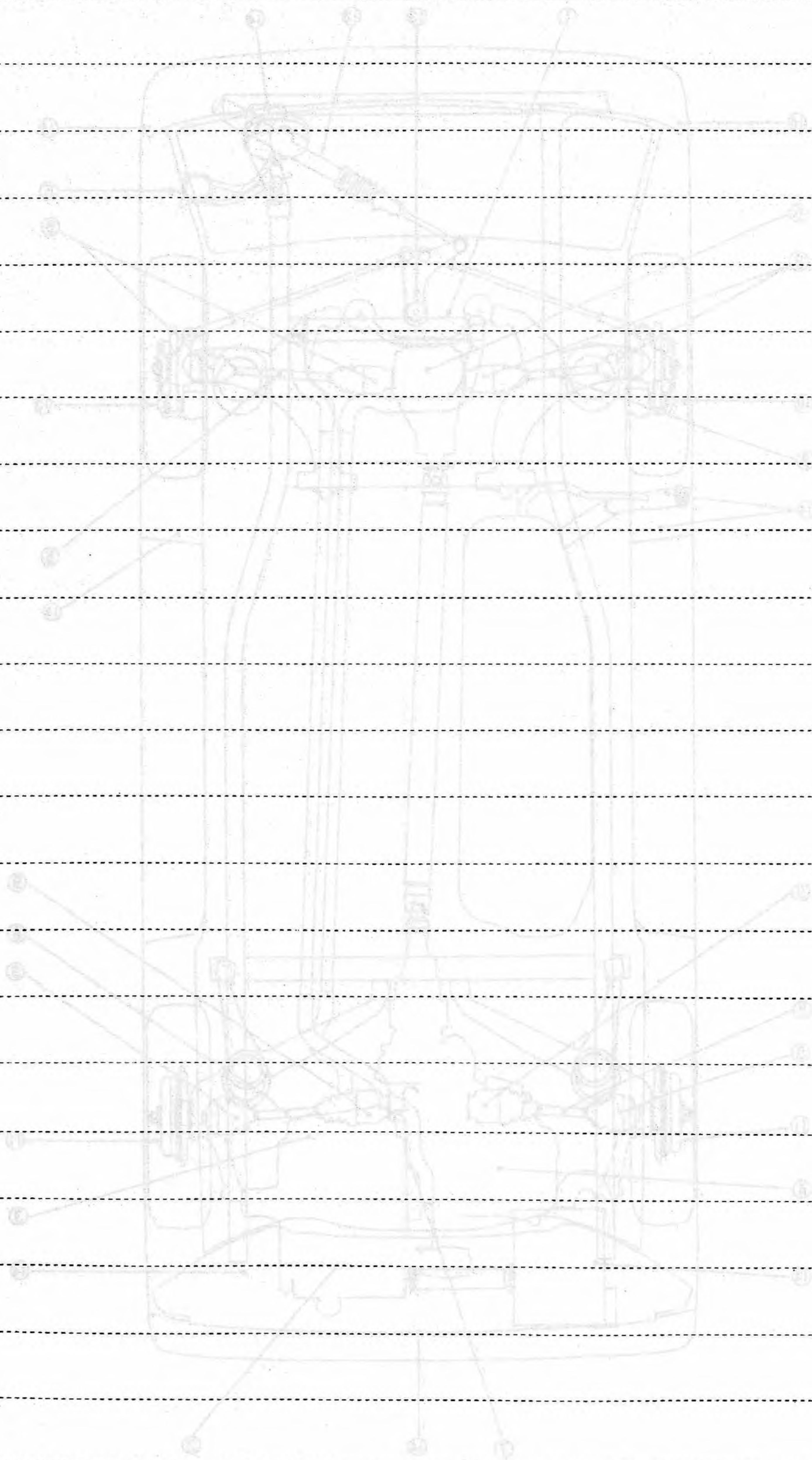
<エンジン>						キャブレータ (NA)	SC	
		キャブレータ (NA)	SC	オルタネータ	出 力	12V-45A	12V-50A	
					調整電圧	14.5V		
エンジン型式		ENO 7 C	ENO 7 Y	スタータ	出 力 (kW)	日本製 : 0.65 三菱製 : 0.65, 0.75		
排気量 cc	658			サーモスタット	開き初め温度℃	78		
内径×行程mm	56.0×66.8				開き終り温度℃	93		
最高出力PS/rpm (ネット)		40/6500	55/6200	エンジンオイル油量 ℓ		3.0(MT) 3.1(ECVT)		
最大トルクkg・m/rpm(ネット)		5.5/3500	7.1/3800	Vリブドベルト のゆるみ mm/10kg	ACG	9~11/10 (11~13/10)	7~8/10 (7~9/10)	
圧縮比		9.8	8.3		ACG+A/C	5~6/10 (5~7/10)	—	
圧縮圧力kg/cm ² /rpm		11.3/300	9.8/300		SC	—	6~8/10 (7~9/10)	
シリンダヘッド歪み限度 mm	0.05			アイドルCO濃度		1.5%以下	—	
シリンダヘッド研摩限度 mm	0.10			アイドルHC濃度		1000ppm以下	—	
シリンダブロック歪み限度 mm	0.05			<トランスミッション>				
シリンダブロック研摩限度 mm	0.15					2 WD	4 WD	
スパークプラグ	NGK : BKR6E-11, BKR5E-11 K20PR-U11, KI6PR-U11			ギヤオイル量 (トランスミッション)		1.8	セレクトティブ : 2.0 デフロック付 : 2.1 フルタイム : 2.2	
スパークプラグキャップmm	1.0~1.1			ギヤオイル量 (フロントデフ)		0.8 ℓ (フリーアクスル付 : 0.9 ℓ)		
イグニッション コイル	1次コイル抵抗	1.2Ω	0.9Ω	ECVTフルード量		2 WD : 2.7~3.0 ℓ 4 WD : 3.9~4.2 ℓ		
	2次コイル抵抗	26KΩ	10KΩ	<ボデー>				
	コンデンサ	0.25μF	0.47μF			2 WD	4 WD	
	外付抵抗	1.7Ω	—	フューエルタンク容量		40 ℓ		
点火時期BTDC° /rpm	6/800(MT, パワステ無) 6/850(MT, パワステ有) 6/900(ECVT車)		4° /800	フューエル ポンプ 吐出量 ℓ/h	NA	15	—	
バルブ クリアランス	インテーク	0.15(冷間)			ラジエータキャップ 開弁圧 kg/cm ²	正圧側	0.9±0.15	
	エキゾースト	0.20(冷間)				負圧側	—0.05以下	
ヘッドボルト 締付トルク(冷間)		3.0kg-mで締付後一旦ゆるめ 2.0kg-mにて締付後, 更に90° 締付ける。 [参考]この時締付トルクは3.5~4.0kg-mの範囲になる。			ブレーキ ペダル	遊び	1~3 mm	
マニホールド 締付トルク (冷間)	インテーク	1.6±0.1kg-m			クラッチ ペダル	床下とのすき間	110mm以上	
	エキゾースト	3.5±0.5kg-m(本文参照)				遊び	10~25mm	
						床下とのすき間	90mm以上	

		2 WD	4 WD
フロント ホイール アラメント	トーイン	IN 1 ± 3	
	キャンバ	1° ± 45'	
	キャスタ	3° 50' ± 1°	
リヤ ホイール アラメント	トーイン	IN 1 ± 3	
	キャンバ	0° 50' ± 45'	
アクスルナット締付トルク		18kg-m	
ホイールサイズ		12×4.00B	
ホイールナット締付トルク		8～10.0kg-m	
ハンドルの遊び		0～25mm	
舵 角	内 側	$36^{\circ} 25' + \frac{1^{\circ}}{2} - \frac{30'}{30'}$	
	外 側	$33^{\circ} 10' + \frac{1^{\circ}}{2} - \frac{30'}{30'}$	
フロントディスク の厚さ mm	標 準	18mm	
	限 度	15.5mm	
フロントブレーキ パッドの厚さ	標 準	9 mm	
	限 度	1.5mm	
ライニング厚さ	標 準	4.4mm	
	限 度	1.7mm	
ドラム内径		180mm	
ブレーキレバー	操作力	20kg	
	引き代	7～9ノッチ	
バッテリー型式()は 5時間率容量を示す	一 般	26A17R (12V-21Ah)	38B20R (12V-28Ah)
	寒冷地	38B20R (12V-28Ah)	

No.	給油個所名		油 脂 名		備 考
1	ラジエータ		冷却水	スバル純正クーラント	
2	エンジン		エンジンオイル	スバルモータオイル ◎HG(SE級) ◎4WD(SF級) ◎スーパー(SE級) ・レッド(SD級) ・ゴールド(SD級)	◎印：推奨オイルを示す
3	スーパーチャージャ			スーパーチャージャオイル	通常はオイル量点検
4	トランスミッション	MT	トランスミッションオイル	スバルギヤオイル エクストラ75/80	
		ECVT	トランスミッションフルード	スバルECVTフルード	
5	フロントデファレンシャル		フロントデファレンシャルオイル	トランスミッションオイル(MT)に同じ	
6	ブレーキ		ブレーキフルード	スバル純正ブレーキフルードS	
7	トランスミッション メインシャフトスプライン部		グリース	FX2200クラッチグリース	
8	アクスルシャフト ベアリング&オイルシール		グリース	シェル6459N	
9	BJ DOJ		グリース	モリレックスNo.2 またはサンライト TB2-A	
	TJ			SSG-6003	
10	ブレーキ	ホイール シリンダ	グリース	ニグループRX-2	ピストンブーツ内
		パッド	グリース	PBCグリース	パッドとサポートの摺動部 パッドとシムの接触面
11	ドラムブレーキ シューとバックプレートの接触面		グリース	ブレーキグリース (ダフコーニング：モリコート7439)	
12	ステアリングギヤボックス		グリース	バリエントグリースM2	
13	ギヤチェンジレバー摺動部		グリース	出光ダフニコロニクスNO.2	
14	その他 ペダル摺動部、リヤゲートヒンジ、 ドアヒンジ、ドアチェック、 エンジンフードロック部、フューエル フィラリッド		グリース	サンライト2号 オートレックスA コパコート	



MEMO



This image shows a single page of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

——関連資料——

SAMBAR	整備解説書 上巻	'90- 3	G7271A
SAMBAR	整備解説書 下巻	'90- 3	G7272A
SAMBAR	新型車解説書 概要編	'90- 3	U7272A
SAMBAR	新型車解説書	'90- 3	U7271A
SAMBAR	電子制御装置		
	トラブルシューティング マニュアル	'90- 3	P7271A
SAMBAR	電気配線図表	'90- 3	X7271A
SAMBAR	新型車解説書 整備		
	解説書(LPG車)	'90- 7	U7273A

A-4.0-106

1991年 9 月 発行 1 版

禁複製・転載

——実費890円——

(消費税は含まれておりません)

編 集・発 行 **富士重工業株式会社**

東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

問い合わせ先：国内営業本部国内サービス部
サービス教育課



富士重工業株式会社

G7281A